N-BOX

オーナーズマニュアル

はじめに

安全に関する表示について

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。

⚠危険

指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告

指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意

指示にしたがわないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示について

お車が故障や破損することを防ぐためのアドバイスや、取り扱いに注意いただきたいことを説明しています。

カスタマイズ可能な機能であることを示しています。

取扱説明書について

オーナーズガイド

車両に同梱されているオーナーズガイドは全ての情報を掲載した Web 取扱説明書から安全に関する情報、万一の場合に必要となる情報を抜粋しています。必要な時に確認ができるよう車内に保管してください。

Honda は環境負荷ゼロ社会を実現する為、取扱説明書の提供方法を見直しております。

車両にお乗りになる際には Web 取扱説明書を必ずお読みください。

Web 取扱説明書

全ての最新情報を掲載しています。Honda ホームページまたは QR コードでご覧ください。

https://www.honda.co.jp/ownersmanual/HondaMotor/auto/

QR コードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

取扱説明書は全てのタイプを対象としています。お客様のお車にはない装備や機能が記載されている場合があり、内容がお車と一致しない場合があります。

イラストは代表例です。実際のお車と必ずしも一致するものではありません。

仕様変更やシステムアップデートにより、お車の仕様と異なる場合があります。

Honda Total Care プレミアム

Honda CONNECT を搭載したクルマと緊急サポートセンターやスマートフォンがつながることで、お客様のカーライフがさらに安心・ストレスフリーになるコネクテッドサービスを受けることができます。ご利用になるにはお申込み・ご契約が必要です。HondaTotal Care プレミアムの詳しいサービスの内容、およびご契約については Honda Total Care プレミアムのホームページをご覧ください。

https://www.honda.co.jp/hondatotalcare/premium/

また、本書では、Honda Total Care プレミアムのサービスをご利用されるうえで、車両側の特有部分について説明があります。サービスをご利用になる際は、ホームページの詳細説明とともに本書の内容もご参照ください。

サービス内容並びに仕様について予告なく変更、または終了することがあります。

車両特有部分について

緊急通報

緊急通報 ►P.345

トラブルサポート

トラブルサポート ►P.346

お車についてのお問い合わせ

お車の取り扱い方法、故障、修理に関するご相談については、お買い上げいただきました Honda 販売店、または最寄り Honda 販売店にご相談ください。

販売店検索

クルマ Q&A

- お車についてのお問い合わせの際は、「自動車検査証（車検証）」をご用意ください。
- QR コードは、（株）デンソーウェーブの登録商標です。

車両データの記録について

この車には、車両の操作や制御、車両に搭載された各機能の作動履歴などに関するデータを記録する機能が装備されています。各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します（車内の映像や音声は記録しません）。

- 車両の状態（車速など）
- 運転状態（アクセル、ブレーキ、ステアリング等の操作状況）
- SRS エアバッグシステムの作動状況
- 衝突軽減ブレーキ作動時の前方カメラ画像
- 車両の故障診断情報

データの取り扱いについて

Honda および Honda が委託した第三者は、記録されたデータを、不具合解析のための技術的診断や、Honda の車両の研究開発、品質向上のために、取得し利用することがあります。Honda は、取得したデータを、以下の場合を除き、第三者に開示または提供することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車、レンタカーの場合は借主の同意）がある場合
- 警察、裁判所、政府機関等からの、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う等、所有者や使用者、お車が特定できないように加工したデータを、研究機関等に提供する場合

目次

1 運転の前に 15

ターボ車*について ▶**16** | 運転の前に確認していただきたいこと ▶**17** | お子さまの安全 ▶**23** |
エアバッグ ▶**39** | 衝突後ブレーキシステム ▶**47** | キー ▶**48** | 施錠/解錠 ▶**54** | ハンドル ▶**64** |
シート ▶**65** | シートベルト ▶**77** | ミラー ▶**88** | パワーウィンドー ▶**91** | テールゲート ▶**94** |
スライドドア ▶**97**

2 運転するときの操作 105

エンジンの始動・停止 ▶**106** | シフト操作 ▶**109** | ブレーキ ▶**112** | 発進・走行中 ▶**119** | 駐停車 ▶**121** |
リアワイドカメラ*▶**123** | マルチビューカメラシステム*▶**124** | 給油 ▶**132** |
ウィンカー/ライト ▶**136** | ワイパー・ウォッシャー ▶**143** | デフロスター（くもり止め）▶**146** |
走行に関する機能 ▶**148**

3 各部の操作 154

室内灯 ▶**155** | 室内装備品 ▶**158** | 車いすの乗せかた、降ろしかた*▶**175** | シートヒーター*▶**185** |
ステアリングヒーター*▶**186** | エアコン ▶**187** | オーディオ ▶**191**

4 安全運転支援システム 192

Honda SENSING▶**193** | 衝突軽減ブレーキ（CMBS）▶**200** | 踏み間違い衝突軽減システム ▶**207** |
急アクセル抑制機能*▶**211** | 路外逸脱抑制機能 ▶**214** | 歩行者事故低減ステアリング ▶**218** |
渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール（ACC）▶**222** | 車線維持支援システム（LKAS）▶**232** |
先行車発進お知らせ機能 ▶**236** | 標識認識機能 ▶**239** | パーキングセンサーシステム ▶**242**

5 メーターについて 247

警告灯と表示灯 ▶**248** | メーター ▶**255** | マルチインフォメーションディスプレイ ▶**259**

6 メンテナンス 269

メンテナンスの前に ▶**270** | オイルメンテナンス表示*▶**272** | ボンネット内のメンテナンス ▶**275** |
ワイパー ▶**281** | タイヤ ▶**285** | エアコンのお手入れ ▶**293** | 清掃 ▶**295** | 車いす固定装置*▶**299**

7 万一の場合には 300

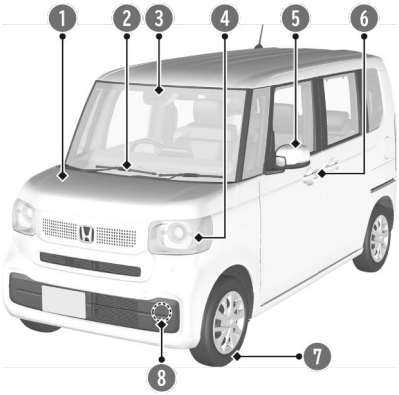
工具 ▶**301** | 電球が切れたとき ▶**304** | キーの電池が切れたとき ▶**308** | パンクしたとき ▶**311** |
ジャッキの取り扱い ▶**320** | エンジンが始動しない ▶**322** | 12V バッテリーがあがったとき ▶**325** |
シフトレバーが動かない ▶**328** | オーバーヒートしたとき ▶**329** | 異常がおきたとき ▶**331** |
ヒューズが切れたとき ▶**332** | けん引したいとき ▶**337** | フューエルリッドが解錠できないとき ▶**340** |
テールゲートが開かないとき ▶**341** | 緊急時や車両トラブルのとき ▶**345** |
ウインチベルト*が作動しないとき ▶**347**

8 車両情報 351

仕様：N-BOX▶**352** | 仕様：N-BOX CUSTOM▶**354** | 仕様：N-BOX JOY▶**356** |
オープンソースライセンス ▶**358**

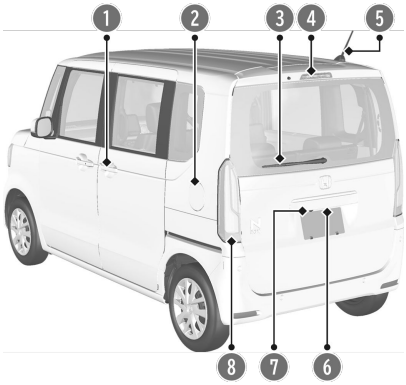
✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ビジュアル目次



❶	ボンネット内のメンテナンス	▶275
❷	ワイパー	▶143
		▶281
❸	フロントワイドビューカメラ	▶195
❹	ヘッドライト	▶136
	車幅灯	▶136
	デイタイムランニングライト	▶304
	ウィンカー	▶136
❺	ドアミラー	▶88
	ドアミラーウィンカー	▶136
	サイドアンダーミラー（助手席側）	▶90
❻	ドアの施錠/ 解錠	▶54
❼	タイヤ	▶285
		▶311
❽	フォグライト✤	▶138
		▶304

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

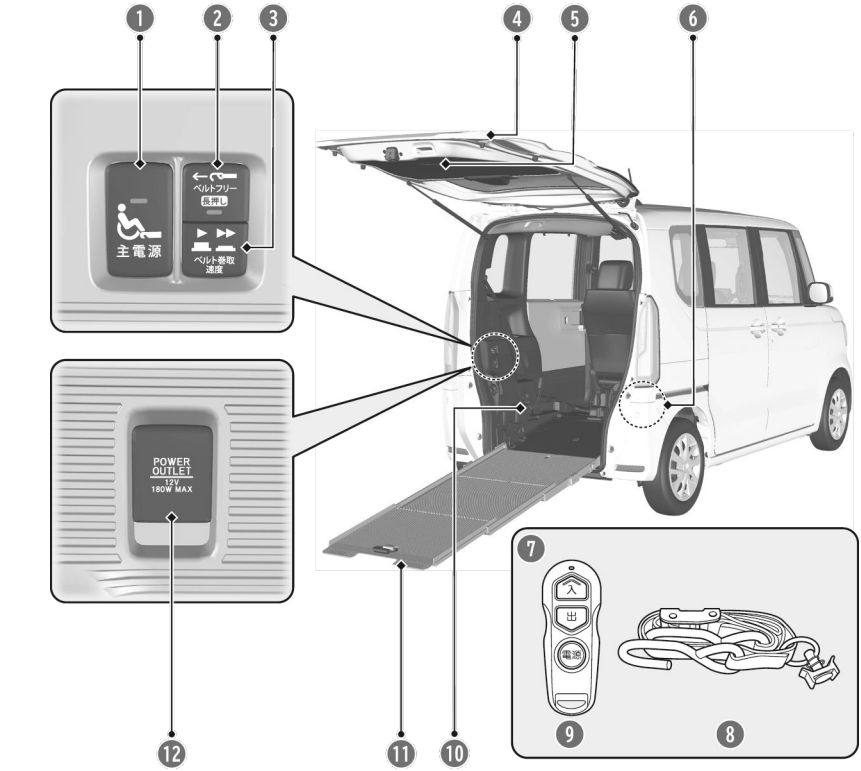


❶	スライドドアの開閉	►97	
❷	給油のしかた	►132	
❸	リヤワイパー	►144	
		►283	
❹	ハイマウントストップランプ	►304	
❺	アンテナ	►191	
❻	テールゲートの開閉	►94	
	番号灯	►304	
❼	リアワイドカメラシステム✤※	►123	
	マルチビューカメラシステム✤	►124	
❽	尾灯	►304	
	制動灯	►304	
	後退灯	►304	
	ウィンカー	►136	
		►304	

※：ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

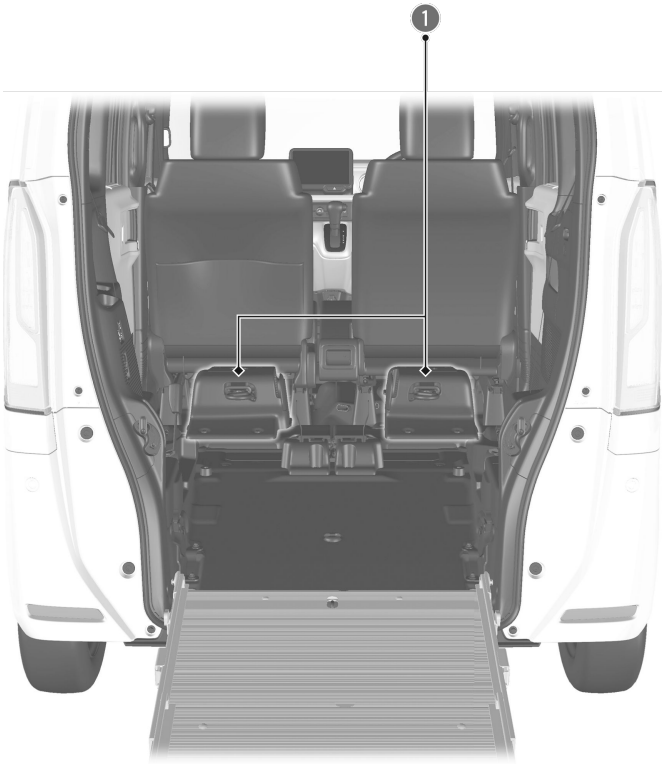
✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

▼スロープ装備車

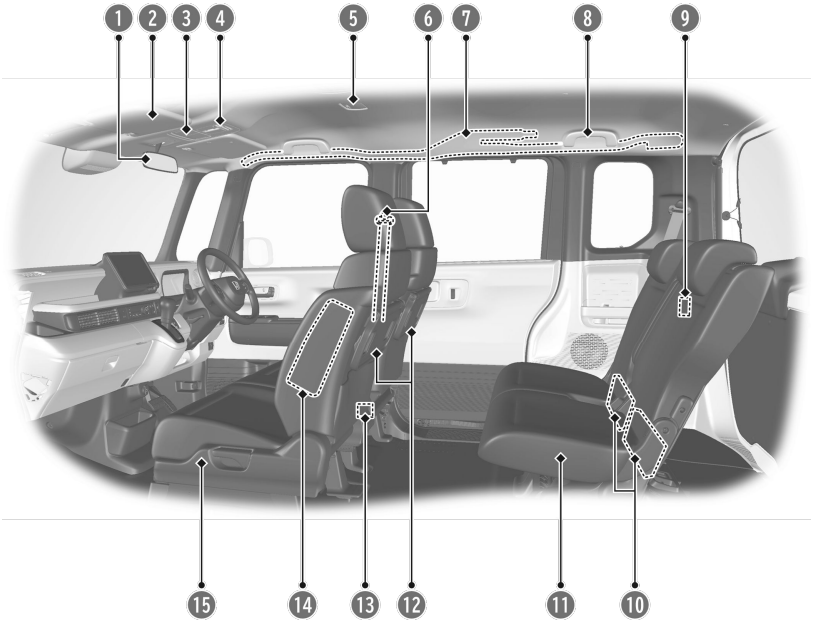


❶ 主電源スイッチ	▶175	
❷ ベルトフリースイッチ	▶175	
❸ ベルト巻取速度スイッチ	▶175	
❹ バックドア（テールゲート）		
❺ スロープライトスイッチ	▶157 ▶304	
❻ 車いす乗員用シートベルト（腰部のベルト）	▶82	
❼ 付属部品		
❽ 固定ベルト	▶169	
❾ リモコン	▶167	
❿ 車いす乗員用シートベルト（肩部のベルト）	▶84	
⓫ スロープ	▶170	
⓬ アクセサリーソケット	▶158	

▼スロープ装備車

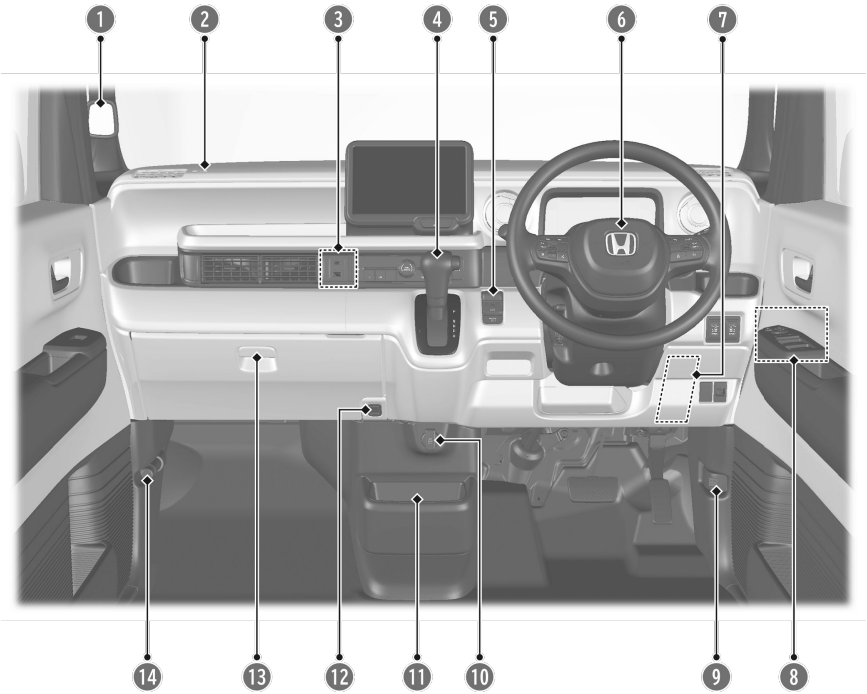


❶	電動ウインチユニット	▶175
	ウインチベルト	▶175



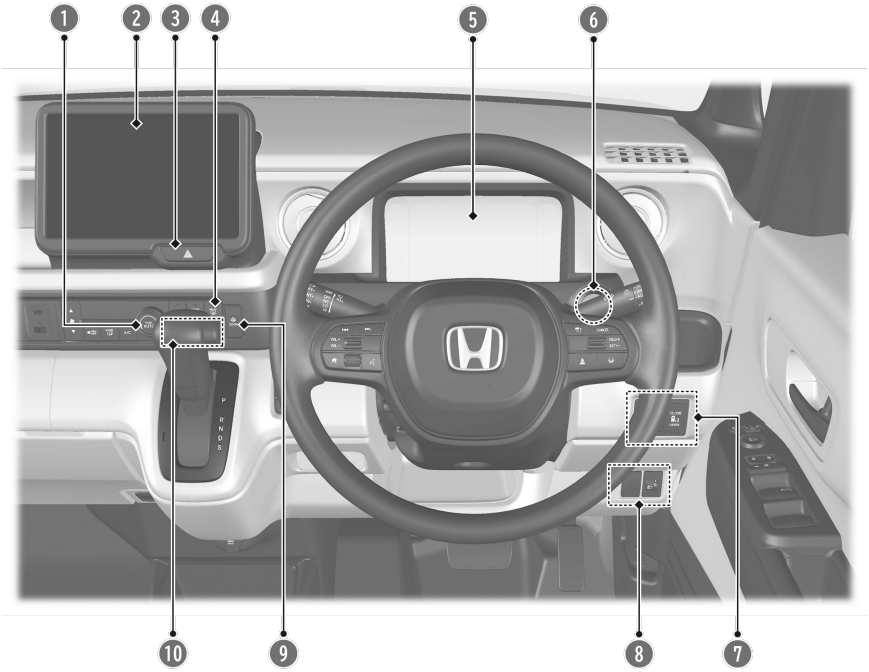
❶	ルームミラー	►88
❷	サンバイザー	
	バニティミラー	
❸	マップランプ	►156
❹	緊急通報ボタン	►345
	トラブルサポートボタン	►346
❺	室内灯	►155
❻	シートベルト	►77
❼	サイドカーテンエアバッグシステム	►44
❽	グラブレール	
❾	カーゴスペース照明灯✤	►156
❿	ISOFIX/i-Size 取付装置	►31
⓫	リヤシート	►69
⓬	シートバックテーブル✤/ コンビニフック✤	►162 ►161
⓭	充電専用 USB ジャック	►159
⓮	サイドエアバッグシステム	►41
⓯	フロントシート	►68

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。



❶ サイドビューサポートミラー	►89
❷ SRS エアバッグシステム（助手席用）	►40
❸ USB ジャック※	
充電専用 USB ジャック	►159
❹ シフトレバー	►109
❺ パーキングブレーキスイッチ	►112
オートマチックブレーキホールドスイッチ	►115
❻ SRS エアバッグシステム（運転席用）	►40
❼ 室内のヒューズボックス	►334
❽ ドアミラー調節スイッチ	►88
マスタードアロックスイッチ	►61
パワーウィンドースイッチ	►91
❾ ボンネット解除ノブ	►277
❿ アクセサリーソケット	►158
⓫ センターボックス	
⓬ コンビニフック	►161
⓭ グローブボックス	►158
⓮ 発炎筒	►302

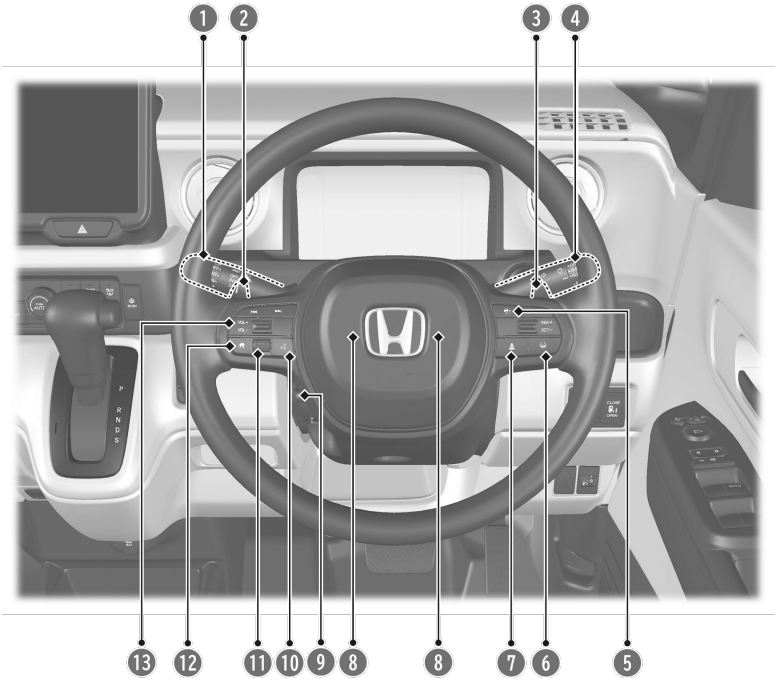
※：ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。



❶	オートエアコン	►187
❷	ナビゲーションまたはオーディオ✤※	
❸	非常点滅表示灯 (ハザードスイッチ)	
❹	リヤデフロスター/ヒーテッドドアミラー✤ スイッチ	►146
❺	メーター	►255
	警告灯/表示灯	►248
	マルチインフォメーションディスプレイ	►259
	時計	►257
	カレンダー	►264
❻	ENGINE START/STOP スイッチ	►106
❼	パワースライドドアスイッチ	►102
❽	ヘッドライトレベリングダイヤル	►139
	ステアリングヒータースイッチ✤	►186
❾	ECON スイッチ	►148
❿	フロントシートヒータースイッチ✤	►185

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

※：ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。



❶	ワイパー/ ウォッシャースイッチ	►143
	マルチビューカメラシステム✤	►124
❷	シフトスイッチ（シフトダウン）✤	►110
❸	シフトスイッチ（シフトアップ）✤	►110
❹	ライト/ 方向指示器（ウィンカー）スイッチ	►136
		►136
	フォグライトスイッチ✤	►138
❺	スイッチ	►223
❻	車線維持支援システム（LKAS）スイッチ	►233
❼	ディスタンススイッチ	►226
❽	ホーンスイッチ（周辺）	
❾	ハンドル位置調節レバー	►64
❿	発話スイッチ※	
⓫	レフトセレクターホイール	►259
⓬	スイッチ	►259
⓭	オーディオリモートコントロールスイッチ※	

※：ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

運転の前に

ターボ車*について
取り扱い…… 16

運転の前に確認していただきたいこと
運転の準備……17
運転時の注意事項……19
降車時の注意事項……20
排気ガスの危険性……20
改造とアクセサリー…… 21

お子さまの安全
お子さまの安全を守るために…… 23
乳幼児の安全…… 24
チャイルドシートの取り付けかた…… 31
大きなお子さまの安全…… 37

エアバッグ
エアバッグについて…… 39
SRS エアバッグ（フロントエアバッグ）…… 40
サイドエアバッグ……41
サイドカーテンエアバッグ…… 44
エアバッグシステム警告灯…… 45
エアバッグのお手入れ…… 46

衝突後ブレーキシステム
衝突後ブレーキシステムについて…… 47

キー
キーについて…… 48
内蔵キー…… 52
キーナンバータグ……53

施錠/解錠
キーレスエントリーシステムを使った施錠/解錠方法……54
Honda スマートキーを携帯した施錠/解錠方法……55
降車時オートドアロック機能を用いた施錠方法……58
予約ロック機能を用いた施錠方法…… 59
内蔵キーを使った施錠/解錠方法……59
Honda スマートキーを使わない施錠方法…… 60
車内の施錠/解錠方法…… 61
衝撃感知ドアロック解除システム…… 62
チャイルドプルーフ…… 62
こんなときは…… 63

ハンドル
ハンドルの調整方法…… 64

シート
シートの調整について…… 65
ヘッドレスト…… 74
リアシートリマインダー……76

シートベルト
シートベルトについて…… 77
正しい着用法…… 79
車いす乗員用シートベルト…… 81
シートベルトの点検方法……86
シートベルトのアンカーポイント…… 87

ミラー
ルームミラー…… 88
ドアミラー……88
サイドビューサポートミラー…… 89
サイドアンダーミラー…… 90

パワーウィンドー
パワーウィンドーの開閉方法…… 91

テールゲート
テールゲートの開閉時の注意…… 94
テールゲートの開閉方法……95

スライドドア
スライドドア開閉時の注意…… 97
スライドドアの開閉について…… 98
イージードアクローザー……104

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ターボ車✤について

取り扱い

ターボ装置は、排気ガスの圧力でタービンを回してエンジンに大量の空気を圧縮して送り込み、より大きな馬力を引き出す非常に精密に作られた装置です。ターボ装置の故障を防ぐため、必ず以下の点をお守りください。

- エンジン始動直後のエンジンが冷えているときは、空ぶかしや急加速はしない
- エンジンオイル、オイルフィルターの交換時期を必ず守る

≫タービンは超高速で回転し、超高温になります。その潤滑と冷却はエンジンオイルにより行われます。したがって、定められた距離または期間でエンジンオイル、オイルフィルターの交換を行わないと、劣化したエンジンオイルによりタービン軸受部の固着や異音の発生など、故障の原因になります。

エンジンオイル、オイルフィルターの交換時期は、メーターに表示されます。表示にしたがって交換を行ってください。

オイルメンテナンス情報の表示 ►P.272

高速走行や山道走行などの高負荷で走行したあと、エンジンを再始動するとメーターに「エンジン冷却水温上昇中　急発進・急加速・高速走行を避けてください」または、「エンジン冷却水高温　安全な場所に停車し運転を停止してください」と メッセージが表示されることがありますが、 機能的に問題はありません。
約 1 分間アイドリング運転を行うか、走行するとメッセージは消えます。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

運転の前に確認していただきたいこと

運転の準備

乗車前の確認事項

- 車の周囲に子供はいないか、車の周りに障害物はないか
  ≫運転席から見えない死角や、バックミラーでは確認できない死角がありますので、乗車する前に確認してください。
- タイヤは正常か
  ≫空気圧、亀裂、損傷や異常な摩耗がないかを確認してください。
  タイヤのメンテナンスについて ►P.285
- ボンネットは完全に閉まっているか
  ≫走行中にボンネットが開くと、視界がさえぎられて危険です。
- 窓やミラーの視界、灯火器類の光をさえぎるものがないか
  ≫霜、雪、氷が付着している場合は取り除いてください。
  ≫屋根に雪が積もっている場合は、走行時に滑り落ちて視界をさえぎる可能性があるため取り除いてください。氷結しているときは、氷が溶けてから取り除いてください。
  ≫足回りに氷塊が付着している場合は、部品を損傷しないよう注意しながら取り除いてください。
- ドアが凍結していないか
  ≫凍結している場合は、ドアを無理にはがさずお湯をかけて溶かしてください。お湯をかける際は、ドアのキー穴部にかからないようにしてください。 無理にはがすと、ドアまわりのゴムがはがれます。凍結防止のため、お湯をかけた後は水分をよくふき取ってください。
- ボンネット内に可燃物の置き忘れや、燃えやすいものがないか
  ≫車両を長期間使用しなかった場合や、メンテナンスの後は、特に注意してください。火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

> ❗ キーの電子部品の故障など、不具合が発生した場合は Honda 販売店にご相談ください。

乗車後の確認事項

- ドア、テールゲートは完全に閉まっているか
  ≫すべてのドア、テールゲートが施錠されていることを確認してください。
  車内の施錠/解錠方法 ►P.61

- ドアやテールゲートが開いていたり、完全に閉まっていないと警告表示がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。
  ≫ドア、テールゲートをもう一度正しく閉め直してください。警告表示は消灯し、正常な状態に戻ります。
  Q マルチインフォメーションディスプレイについて ►P.259
- 運転しやすい姿勢にシート位置を調節しているか
  ≫正しい運転姿勢がとれるよう、シート位置やヘッドレストの調節をしてください。
  Q シートの調整について ►P.65
  Q ヘッドレスト ►P.74
- 同乗者のシートも、安全が保たれていることを確認してください。
  Q シートの調整について ►P.65
- 乗員全員が正しくシートベルトを着用しているか
  ≫運転者と乗員が正しくシートベルトを着用していることを確認してください。
  Q 正しい着用法 ►P.79
- エアバッグシステム警告灯などが点灯していないか
  ≫エアバッグシステム警告灯が点灯状態のときは、Honda 販売店で点検を受けてください。
  Q エアバッグシステム警告灯 ►P.45
- お子さまの安全を守るために、チャイルドシートやシートベルトを着用しているか
  ≫お子さまが同乗する場合は、お子さまの年齢や身長・体重に応じてチャイルドシートやシートベルトなどで安全を確保するようにしてください。
  Q お子さまの安全を守るために ►P.23
- フロアマットは車に合ったものを適切に使用しているか
  ≫ペダルに引っかかっていたり、固定されていなかったり、重ねて使っているとブレーキやアクセルの操作の妨げとなり危険です。
- フロントシートの足元にものを置いていないか
  ≫ブレーキやアクセルの操作の妨げとなり危険です。
- 積み込んだ荷物が適切に固定されているか
  ≫不適切な荷物の積み込みは、タイヤに負担をかけたり走行中のバランスを維持できず危険です。
- 荷物はシートの高さを越えていないか
  ≫後方視界を妨げたり急ブレーキのときに荷物が飛び出したりするおそれがあり危険です。
- 正しい運転姿勢で座り、ルームミラー、ドアミラー、ハンドルを適切な位置に調節したか
  Q ルームミラー ►P.88
  Q ドアミラー ►P.88
  Q ハンドルの調整方法 ►P.64
- 動物を乗せるときは、動きまわらないようにしているか
  ≫運転の妨げになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- メーターに異常を示す警告灯などが点灯していないか
  ≫異常を示す警告灯の異常を解決してから走行します。
  警告灯と表示灯一覧 ►P.248

運転時の注意事項

霧が出た場合

視界が悪くなるため、昼間でもヘッドライトを下向きで点灯し、中央線、ガードレール、先行車のテールランプなどを目安にして、速度を落として走行してください。

風が強い場合

車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握り、速度を徐々に落として進路を立て直してください。トンネルの出口、橋、土手の上、山を削った切り通しの走行時や大型トラックの追い越し時などには、特に横風の影響を受けやすいため、十分に注意してください。

雨が降っている場合

路面が滑りやすくなっているため、急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け通常より注意深く運転してください。また、わだちなどの水のたまりやすい場所ではハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。

⚠注意

シフトダウンする際の車速には、十分注意する。 滑りやすい路面では、急激なエンジンブレーキがタイヤのスリップを招くことがあります。

❗ 冠水路などの深い水たまりは走行しないでください。
エンジンや駆動系の破損、電装品の故障につながるおそれがあります。

その他

走行中、床下に強い衝撃を受けたときは、思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してブレーキフルードや燃料の漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。

停車中や極低速のときハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけて保持すると、EPS（電動パワーステアリング）システムの温度が上昇し、システム保護がはたらきハンドル操作が徐々に重くなります。

≫システムの温度が下がると復帰します。

≫断続的にシステム保護がはたらくと、システム破損の原因となります。

降車時の注意事項

坂道で駐車する場合

- 坂道で駐車するときは、パーキングブレーキをかけ、P にしてください。さらにタイヤに輪留めをすると効果的です。

シフトポジションについて ►P.109

車から離れる場合

- 車から離れるときは、お子さまや介護を必要とされる方、ペットを車内に残したままにしないでください。
- 車内にライターや炭酸飲料缶を放置していないか

  ≫車内温度上昇によりライターなどの可燃物が自然発火したり、缶などは破裂したりするおそれがあります。

排気ガスの危険性

一酸化炭素について

この車の排気ガスには一酸化炭素が含まれています。車をきちんと保守していれば、一酸化炭素が車内に入ることはありません。以下の場合は、排気ガスのもれがないかHonda 販売店で点検を受けてください。

- 排気音に異常を感じたとき
- 車が衝突し、排気システムが損傷した可能性があるとき

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。

一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。

密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。

周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。

エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

ガレージのドアを閉めたままエンジンを始動しないでください。

ガレージなどの密閉された場所は、一酸化炭素が急に充満するおそれがあります。ドアが開いている場合でも、ガレージから車を出す直前にエンジンを始動してください。

改造とアクセサリー

改造について

- 車の改造はしないでください。
- Honda 純正部品以外の、車の性能や機能に適さない部品を使用しないでください。
  ≫Honda が国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違反になることがあります。
- 診断コネクターは、故障診断用の診断装置などの機器のみを接続するためのものです。
  ≫それ以外の機器を接続すると、車の電子機器に悪影響をおよぼしたり、12V バッテリーがあがるなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。
- 無線装置などの取り付けの際には、必ず Honda 販売店にご相談ください。
  ≫装置や取り付け方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼすことがあります。

⚠警告

不正改造、電装品の分解・改造は、絶対に行わないでください。

- 法律で禁止されています。
- 適正な性能や機能を発揮しない可能性があります。
- 故障や火災など思わぬ事故につながる可能性があります。

車の性能、品質を維持するために、Honda 車に最も適した Honda 純正部品をお使いください。

純正部品には下記のマークが付いています。

HONDA

GENUINE PARTS

お求め、装着に際しては、Honda 販売店にご相談ください。

アクセサリーの取り付け

アクセサリーを取り付ける場合は、下記の項目を確認してください。

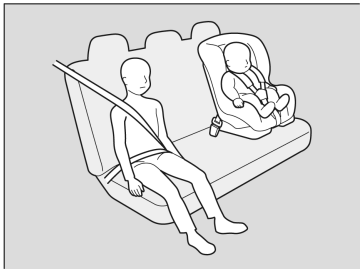
- アクセサリーをフロントガラスに取り付けていないか
  ≫アクセサリーの揺れる動きが車外の状況認識を遅らせることがあります。
  ≫吸盤がレンズのはたらきをして、火災につながるおそれがあります。
- エアバッグの作動や視界の妨げになる場所にアクセサリーを取り付けていないか

お子さまの安全

お子さまの安全を守るために

お子さまが乗車するときは、下記の注意点を確認し、お子さまの安全を確保してください。

- お子さまはリヤシートに乗せる
  ≫お子さまを助手席に乗せると、不意の動作が気になったり、スイッチ類をいたずらしたりするなど運転の妨げになるおそれがあります。また、SRS エアバッグが膨らむ際、強い衝撃があります。



- お子さまにも必ずシートベルトを着用させる
  ≫お子さまを抱えたり、ひざの上に乗せないでください。衝突したときに支えることができません。正しい着用方法でお子さまにもシートベルトをしてください。
- 乳幼児にはチャイルドシートを使用する
  ≫乳幼児を乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用します。
- 車外に手や顔、ものを出さない
  ≫走行中や一時停止時などに、お子さまが車外に手や顔、ものなどを出さないようにしてください。思わぬ障害物により事故のおそれがあります。
- ドア、ウィンドー、シートなどの操作は必ず大人が行う
  ≫思わぬけがの原因となりますので、お子さまにはドア、ウィンドー、シートなどの操作をさせないでください。
- 車を離れるときは、お子さまを連れて出る
  ≫お子さまだけを車内に残さないでください。特に、炎天下の車内は高温になります。また、お子さまのいたずらにより、車の発進、火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠警告

チャイルドシートは後席に設置する。

助手席に設置すると SRS エアバッグが作動したときの衝撃で、重大な傷害を受けたり、死亡するおそれがあります。

⚠警告



シート前方の作動可能なエアバッグで保護されたシートには、後ろ向きチャイルドシートを絶対に取り付けないでください。

お子さまが死亡、または重大な傷害を受けるおそれがあります。

お子さまを助手席に乗せることをおすすめしない理由は下記の通りです。

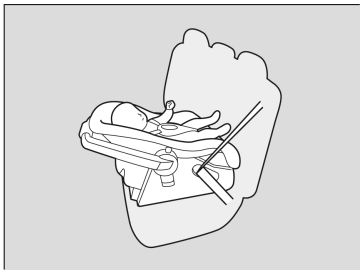
- お子さまが助手席のシートに正しく乗車できないと、エアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある
- お子さまの体の一部がエアバッグの作動範囲に入ると、エアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある

乳幼児の安全

乳児のチャイルドシート

首のすわっていない乳児は、乳児用のチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。

後ろ向きのチャイルドシートの設置場所



リヤシートに設置することができます。

≫推奨するのは、助手席の真後ろの席への設置です。その場合、助手席には人を乗せず助手席のシートをできるだけ前に出してください。

≫設置したチャイルドシートとフロントシートが接触していないことを確認してください。

⚠警告

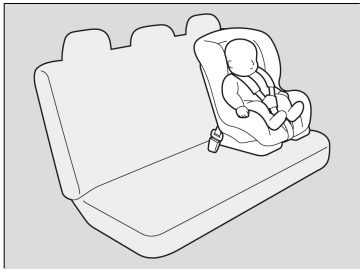
後ろ向きのチャイルドシートを前向きにして使わない。
前向きにして使うと前方から衝突したときに、乳児が重大な傷害を負うおそれがあります。

後ろ向きのチャイルドシートは助手席に設置しない。
助手席の SRS エアバッグが膨らんだときに、チャイルドシートの背面にエアバッグが当たり、乳児が重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

幼児のチャイルドシート

チャイルドシートメーカーが指定する範囲内の幼児は、前向きのチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。

前向きのチャイルドシートの設置場所



リヤシートへの設置を推奨します。

⚠警告

助手席に前向きのチャイルドシートを設置しない。
助手席に前向きのチャイルドシートを設置すると、助手席のシートが前に出すぎていたり、衝突したときに幼児の頭が前に投げ出されると SRS エアバッグで強い衝撃を受けるため、重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。やむをえず助手席に前向きのチャイルドシートを設置する場合は、助手席のシートをできるだけ後ろに下げて設置してください。

チャイルドシートの選びかた

チャイルドシートを購入するときは、シートベルト固定タイプチャイルドシートまたは ISOFIX/i-Size チャイルドシートをお選びください。

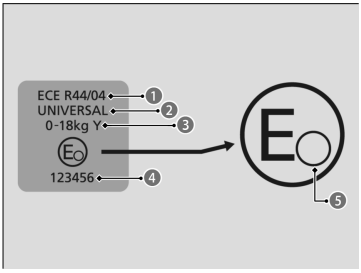
シートベルト固定タイプチャイルドシートは、シートベルトを用いて座席に固定します。
ISOFIX/i-Size チャイルドシートは、リヤシートに付属している下部取付金具とトッププテザー取付金具またはサポートレッグで固定します。

チャイルドシート選択の条件

- チャイルドシートが一覧表に案内されているお子さまに合ったタイプとサイズであること
- チャイルドシートが取り付ける車の座席にあったものであること
- チャイルドシートが安全基準に適合したものであること
  UN R44/R129 に適合したチャイルドシートをお勧めします。

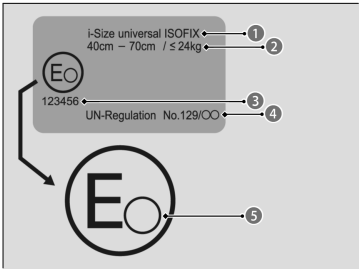
! UN 基準の認可を受けたチャイルドシートには、認可マークが表示されています。
チャイルドシートについている認可マークを確認してください。

UN R44 認可表示（例）



❶ 法規番号
❷ カテゴリー
❸ 体重範囲
❹ 認可番号
❺ 国番号

UN R129 認可表示（例）



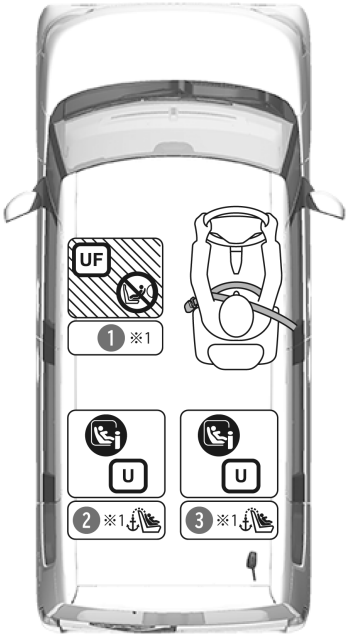
❶ カテゴリー
❷ 身長範囲/体重範囲
❸ 認可番号
❹ 法規番号
❺ 国番号

! Honda 純正のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用に際しては Honda 販売店にご相談ください。

チャイルドシートについて

▼ スロープ非装備車

シート位置別チャイルドシート情報



U	車両のシートベルトで固定するタイプの汎用（ユニバーサル）チャイルドシートに適している
UF	車両のシートベルトで固定するタイプの前向きに取り付ける汎用（ユニバーサル）チャイルドシートに適している
	i-Size および ISOFIX チャイルドシートに適している
	前向きチャイルドシートのみに適している
	後ろ向きのチャイルドシート取り付け禁止
	トップテザー取付金具を装備している座席

※1: チャイルドシートを取り付ける場合、シートスライドを最も後ろの位置に調節してください。

- サポートレッグ付きのチャイルドシートは、i-Size チャイルドシートが搭載可能ではない着座位置にも取り付けることができます。
- ジュニアシートが安定して固定できない場合は、シートバック角度をチャイルドシート背面と平行になるように調節してください。その時、チャイルドシートがシートベルトのショルダーアンカーより前方にあることを確認してください。ショルダーアンカーが前過ぎてチャイルドシートが安定しない場合シートバック角度やシートスライドを調節してください。

			シートの位置及びシート位置番号		
	サイズグループ 重量 身長		❶ 助手席※1, ※2	❷ 後席（左側）※1	❸ 後席（右側）※1
ベルト固定の汎用（ユニバーサル）チャイルドシートが搭載可能な着座位置（有/無）	グループ 0	10kg 以下	無	有	有
	グループ 0+	13kg 以下			
	グループⅠ	9−18kg	有	有	有
	グループⅡ	15−25kg			
	グループⅢ	22−36kg			
i-Size チャイルドシートが搭載可能な着座位置（有/無）	150cm 以下		無	有	有
推奨チャイルドシートが搭載可能な着座位置（有/無）※3	Honda 純正チャイルドシートリスト参照		有	有	有
搭載可能な横向きチャイルドシート固定具（L1/L2）	—		無	無	無
搭載可能な最大後ろ向きチャイルドシート固定具（R1/R2X/R2/R3）	グループ 0	10kg 以下	無	R3	R3
	グループ 0+	13kg 以下			
	グループⅠ	9−18kg			
搭載可能な最大の前向きチャイルドシート固定具（F2X/F2/F3）	グループⅠ	9−18kg	無	F3	F3
搭載可能な最大の前向きジュニアシート固定具（B2/B3）	150cm 以下		B3	B3	B3

※1: チャイルドシートを取り付ける場合、シートスライドを最も後ろの位置に調節してください。

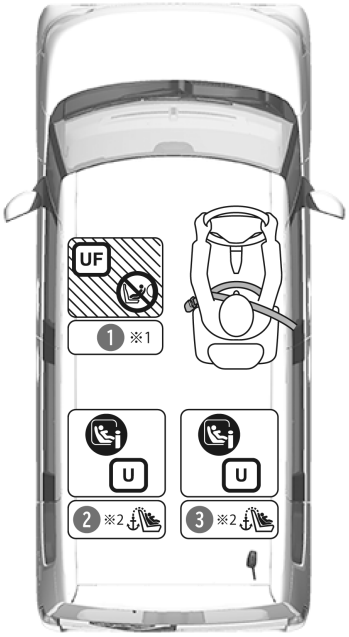
※2: 前向き取り付けのみ。

※3: 記載のチャイルドシートは車両販売時点の Honda 純正チャイルドシートです。最新の Honda 純正チャイルドシートについては販売店にお問い合わせください。
Honda 純正チャイルドシート以外にも取り付けることができる場合があります、チャイルドシートメーカーにお問い合わせください。

- サポートレッグ付きのチャイルドシートは、i-Size チャイルドシートが搭載可能ではない着座位置にも取り付けることができます。
- ジュニアシートが安定して固定できない場合は、シートバック角度をチャイルドシート背面と平行になるように調節してください。その時、チャイルドシートがシートベルトのショルダーアンカーより前方にあることを確認してください。ショルダーアンカーが前過ぎてチャイルドシートが安定しない場合シートバック角度やシートスライドを調節してください。

▼ スロープ装備車

シート位置別チャイルドシート情報



U	車両のシートベルトで固定するタイプの汎用（ユニバーサル）チャイルドシートに適している
UF	車両のシートベルトで固定するタイプの前向きに取り付ける汎用（ユニバーサル）チャイルドシートに適している
i-Size	i-Size および ISOFIX チャイルドシートに適している
	前向きチャイルドシートのみに適している
	後ろ向きのチャイルドシート取り付け禁止
	トップテザー取付金具を装備している座席

※1: チャイルドシートを取り付ける場合、シートスライドを最も後ろの位置に調節してください。

※2: R3 サイズの ISOFIX チャイルドシートを取り付けた時に前席の背面と干渉する場合、前席のシートバック位置を最前ロック位置に調節してください。

- サポートレッグ付きのチャイルドシートは、i-Size チャイルドシートが搭載可能ではない着座位置にも取り付けることができます。
- ジュニアシートが安定して固定できない場合は、シートバック角度をチャイルドシート背面と平行になるように調節してください。その時、チャイルドシートがシートベルトのショルダーアンカーより前方にあることを確認してください。ショルダーアンカーが前過ぎてチャイルドシートが安定しない場合シートバック角度やシートスライドを調節してください。

			シートの位置及びシート位置番号		
	サイズグループ 重量 身長		❶ 助手席※1, ※2	❷ 後席（左側）	❸ 後席（右側）
ベルト固定の汎用（ユニバーサル）チャイルドシートが搭載可能な着座位置（有/無）	グループ 0	10kg 以下	無	有	有
	グループ 0+	13kg 以下			
	グループⅠ	9−18kg	有	有	有
	グループⅡ	15−25kg			
	グループⅢ	22−36kg			
i-Size チャイルドシートが搭載可能な着座位置（有/無）	150cm 以下		無	有	有
推奨チャイルドシートが搭載可能な着座位置（有/無）※4	Honda 純正チャイルドシートリスト参照		有	有	有
搭載可能な横向きチャイルドシート固定具（L1/L2）	—		無	無	無
搭載可能な最大後ろ向きチャイルドシート固定具（R1/R2X/R2/R3）	グループ 0	10kg 以下	無	R3※3	R3※3
	グループ 0+	13kg 以下			
	グループⅠ	9−18kg			
搭載可能な最大の前向きチャイルドシート固定具（F2X/F2/F3）	グループⅠ	9−18kg	無	F3	F3
搭載可能な最大の前向きジュニアシート固定具（B2/B3）	150cm 以下		B3	B3	B3

※1: チャイルドシートを取り付ける場合、シートスライドを最も後ろの位置に調節してください。
※2: 前向き取り付けのみ。
※3: R3 サイズの ISOFIX チャイルドシートを取り付けた時に前席の背面と干渉する場合、前席のシートバック位置を最前ロック位置に調節してください。
※4: 記載のチャイルドシートは車両販売時点の Honda 純正チャイルドシートです。最新の Honda 純正チャイルドシートについては販売店にお問い合わせください。
Honda 純正チャイルドシート以外にも取り付けることができる場合があります、チャイルドシートメーカーにお問い合わせください。

- サポートレッグ付きのチャイルドシートは、i-Size チャイルドシートが搭載可能ではない着座位置にも取り付けることができます。
- ジュニアシートが安定して固定できない場合は、シートバック角度をチャイルドシート背面と平行になるように調節してください。その時、チャイルドシートがシートベルトのショルダーアンカーより前方にあることを確認してください。ショルダーアンカーが前過ぎてチャイルドシートが安定しない場合シートバック角度やシートスライドを調節してください。

推奨チャイルドシート

適用範囲	チャイルドシート	カテゴリー
身長 100cm 以下	Honda Baby & Kids i-Size	i-Size（後向き）
身長 71cm 以上かつ月齢 15 か月以上－身長 100cm 以下	Honda Baby & Kids i-Size	i-Size
身長 100cm 以上 150cm 以下	Honda Junior i-Size	i-Size Booster seat

推奨チャイルドシートのご購入は Honda 販売店にご相談ください。

固定具	お子さまの大きさ	使用の向き	形状、大きさ
ISO/L1 ISO/L2 ISO/R1	乳児 乳児 乳児	左 右 後ろ	寝台式 寝台式 ー
ISO/R2X ISO/R2 ISO/R3 ISO/F2X ISO/F2 ISO/F3	幼児 幼児 幼児 幼児 幼児 幼児	後ろ 後ろ 後ろ 前 前 前	小型 小型 大型 低型 低型 全高
ISO/B2 ISO/B3	学童 学童	前 前	狭幅 全幅

⚠警告

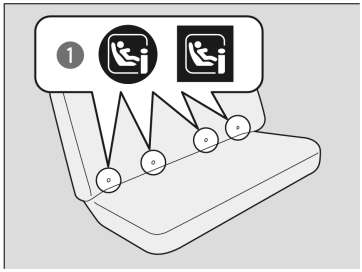
シートベルトは必ず正しく着用する。

シートベルトを正しく着用しないと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

チャイルドシートの取り付けかた

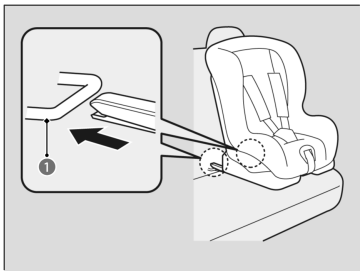
ISOFIX/i-Size チャイルドシートの取り付け

ISOFIX/i-Size チャイルドシートは、リヤシートに設置できます。チャイルドシートは、下部取付金具とトップテザー取付金具で固定します。



❶ マーク

［1］マークの下にあるシートの切れ目から下部取付金具を確認する。



❶ 下部取付金具

［2］チャイルドシートを座席に置き、チャイルドシートの取扱説明書にしたがって下部取付金具に取り付ける。

≫取り付けの際に、異物やシートベルトなどが下部取付金具にかみ込まないようにしてください。

≫チャイルドシートと座席背もたれのすき間ができるだけ小さくなるように設置してください。

トップテザーストラップ付きチャイルドシート

▼ スロープ非装備車



❶ トップテザー取付金具シンボル

▼ 共通操作

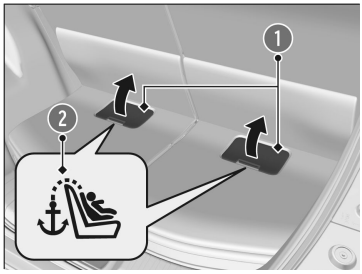
［3］ヘッドレストを調節して最上段で固定する。トップテザーストラップが 1 本タイプの場合はストラップをヘッドレストの下に通し、2 本タイプの場合はヘッドレストの外側に通す。

≫このときトップテザーストラップがねじれないように注意してください。

⚠注意

トップテザー取付金具シンボルが無いフックに、トップテザーストラップを使用しないでください。

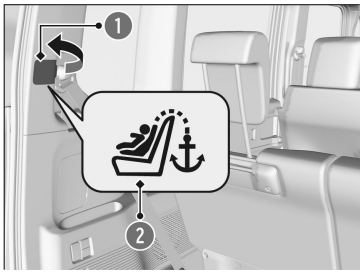
▼N-BOX JOY



❶ カバー
❷ トップテザー取付金具シンボル

［4］トップテザー取付金具のカバーを開ける。

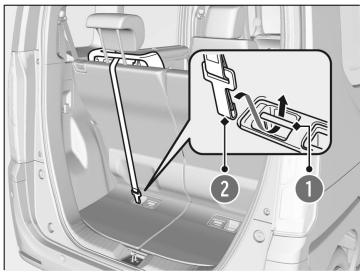
▼スロープ装備車



❶ カバー
❷ トップテザー取付金具シンボル

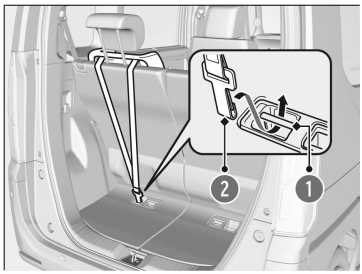
［4］トップテザー取付金具のカバーを取り外す。

▼スロープ非装備車 1 本タイプ



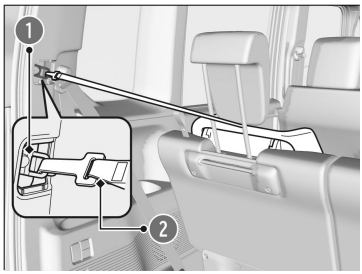
❶ トップテザー取付金具
❷ トップテザーストラップ

▼スロープ非装備車 2 本タイプ



❶ トップテザー取付金具
❷ トップテザーストラップ

▼スロープ装備車 1 本タイプ

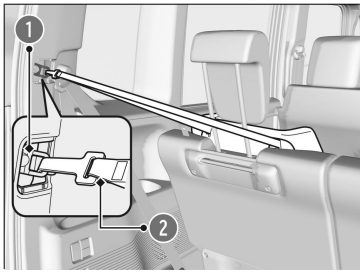


❶ トップテザー取付金具
❷ トップテザーストラップ

▼共通操作

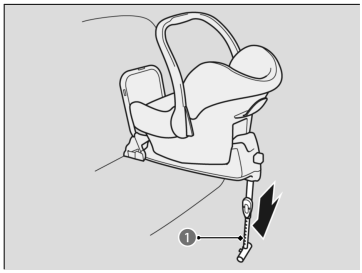
[5] トップテザーストラップをトップテザー取付金具に引っかけ、ストラップを締める。
[6] チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。

▼ スロープ装備車 2 本タイプ



❶ トップテザー取付金具
❷ トップテザーストラップ

サポートレッグ付きチャイルドシート



❶ サポートレッグ

[3] サポートレッグをチャイルドシートの取扱説明書にしたがってフロアにつくまで伸ばす。

▼ スロープ非装備車

≫サポートレッグを設置するフロア面は水平な面であることを確認してください。シートの前後位置によっては、サポートレッグの設置フロア面が水平ではなく安定しない場合があります。その場合は、シート前後位置を調整してください。

≫スライドレールやカバーにサポートレッグが接地しないことを確認してください。

▼ スロープ装備車

≫サポートレッグを設置するフロア面は水平な面であることを確認してください。サポートレッグの設置フロア面が水平ではない場合、安定しないことがあります。

▼ 共通操作

≫設置したチャイルドシートとフロントシートが接触していないことを確認してください。

[4] チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。

- ISOFIX/i-Size チャイルドシートは、シートベルトで固定する必要はありません。
- チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。

⚠注意

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。

確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

⚠注意

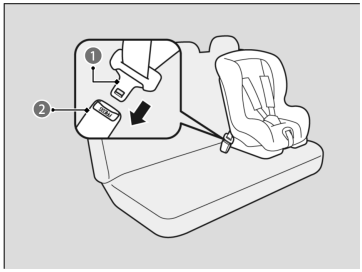
下部取付金具周辺に、異物やシートベルトのかみ込みがないか確認する。

異物やシートベルトをかみ込むとチャイルドシートが確実に固定されず、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

リヤシートおよびチャイルドシートが確実に固定されているか確認する。

確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにシートといっしょにチャイルドシートが動き、傷害を受けるおそれがあります。

シートベルトでの取り付け

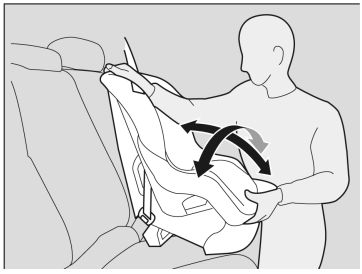


[1] チャイルドシートを座席に置く。

[2] シートベルトをチャイルドシートに通し、タングプレート（❶）をバックル（❷）に差し込む。

≫このとき、バックルが「カチッ」という音がするまできちんと差し込んでください。

≫チャイルドシートの種類によりシートベルトの固定に固定金具（ロッキングクリップ）が必要になります。



[3] チャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがって取り付ける。

[4] チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。

- チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。

⚠注意

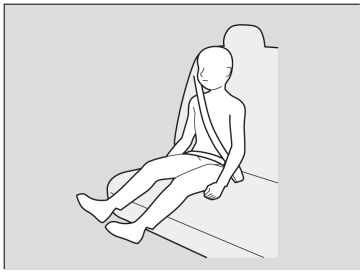
チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。
確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

大きなお子さまの安全

シートの使用について

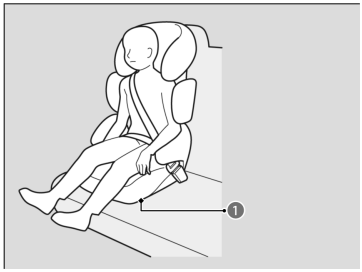
幼児用のチャイルドシートの使用条件を超えるお子さまは、リヤシートに乗せて三点式シートベルトを着用させてください。お子さまをシートに深くすわらせ、以下の確認項目でひとつでも適合しない場合、ジュニアシートの使用が必要です。

確認項目



- お子さまのひざがシートの前端で無理なく曲がっているか？
- 肩ベルトがお子さまの首と腕の間にかかっているか？
- 腰ベルトが低い位置にあり、お子さまの太ももに触れているか？
- 乗車中、無理なくすわっていられるか？

ジュニアシートに乗せる場合



三点式シートベルトを使用できず、ジュニアシートを用いる必要があるお子さまは、ジュニアシートをリヤシートに設置して使用してください。安全のため、お子さまがジュニアシートの使用に適した範囲に入っているか確認してください。

❶ ジュニアシート

- ジュニアシートの取り付けについては、ジュニアシートに付属の取扱説明書をよく読み、正しく取り付けてください。ジュニアシートには、座高の高いものと低いものがあります。お子さまが適切にシートベルトを着用できるものを選択してください。

やむをえず、お子さまを助手席に乗せる場合

正しい姿勢ですわる、走行中にシートベルトを着用するなどの規則をお子さまが守ることができ、お子さまを助手席に乗せても安全と判断した場合、下記の項目を守ってお子さまを乗車させてください。

- 取扱説明書をよく読み、シートベルトに関する指示と安全に関して十分に理解する
- 上体を起こし、シートに深く腰かけるように指示する
- お子さまのシートベルトが正しい位置で、しっかり固定されているか確認する
- 助手席を一番後ろまで下げる

⚠警告

お子さまは助手席に乗せない。

お子さまを助手席に乗せると、SRS エアバッグが膨らんだときに、重大な傷害を負うおそれがあります。やむをえず、助手席にお子さまを乗せる場合は、できるだけシートを後方に下げ、必要ならばジュニアシートを使用し、適切にシートベルトを着用してすわらせてください。

エアバッグ

エアバッグについて

エアバッグは、パワーモードが ON モードのときに車体が衝突による衝撃を受けると膨らみ、運転者および同乗者の受ける衝撃を緩和させます。 エアバッグには下記の種類があり、衝突の方向や条件などにより作動が一部異なります。

- SRS エアバッグ：フロントシートの前方向エアバッグ
- サイドエアバッグ：フロントシートの横方向エアバッグ
- サイドカーテンエアバッグ：窓側の天井部両側についたエアバッグ

この車にはイベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。
SRS エアバッグが作動したとき、もしくは一定以上 の衝突が発生した場合に車両データを記録します。
車両データの記録について ►P.3

⚠警告

エアバッグ装備車でもシートベルトは必ず使用する。
エアバッグは、衝撃を緩和するためのシステムで、シートベルトの補助拘束具です。エアバッグ装備車であっても、必ず正しくシートベルトを着用してください。シートベルトを着用しないと、衝突時にエアバッグの効果が十分に発揮されず、重大な傷害や死亡などの危険性が高くなります。

⚠注意

エアバッグが膨らんだ直後は、構成部品に触れない。
エアバッグの構成部品が熱くなっているため、やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

エアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

エアバッグは非常に速い速度で膨らみます。
エアバッグとの接触により、すり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。

エアバッグが膨らむときに、空中に粉が舞うことがあります。
この粉は無害ですが、場合によっては一時的に不快感をおぼえることがあります。安全を確認後、ただちに車外に出てください。

SRS エアバッグ（フロントエアバッグ）

SRS：サプリメンタルレストレイントシステム（Supplemental Restraint System）の略で、シートベルトの補助拘束の意味。
運転席と助手席についています。前方向からの衝突により、SRS エアバッグが膨らんで運転者と助手席の同乗者の頭と胸部への衝撃を緩和します。

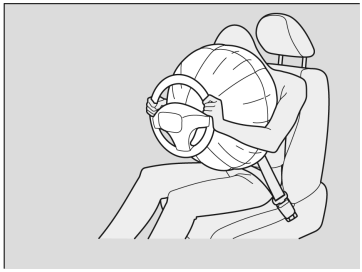
格納場所

運転席側はハンドルの中央、助手席側はダッシュボードに SRS エアバッグが格納されています。どちらも「SRS AIRBAG」と表示されています。

作動のしくみ

SRS エアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で前方向から衝突したときです。このとき、センサーが衝突による急激な減速を検知し、コントロールユニットのはたらきにより運転席と助手席の SRS エアバッグが膨らみます。

SRS エアバッグの作動



前方向から衝突すると、シートベルトが乗員の下半身と胴体を拘束し、SRS エアバッグが頭と胸部を保護します。運転者の視界を妨げたり、ハンドル操作の邪魔にならないように、SRS エアバッグは膨らんだ後すぐにしぼみます。

SRS エアバッグは、次のような場合に作動します。

- 20～30km/h 以上の速度で、きわめて厚い固定されたコンクリートの壁に真正面から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたとき
- 車両の前方左右約 30 度以内の方向から強い衝撃を受けたとき

衝撃を吸収できるもの（車やガードレールのように変形するもの）に衝突した場合、作動するときの車速は高くなります。

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、SRS エアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

次のような場合、SRS エアバッグが作動しないことがあります。

- 電柱、立ち木などへの衝突
- トラックなどへの潜り込み
- 部分的な衝突や斜め方向からの衝突

車体の部位によって衝撃の吸収度合いが異なりますので、損傷状態の大小と SRS エアバッグの作動は必ずしも一致しません。

シートベルトだけで乗員を保護できるような低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。
ただし事故の状況、形態によっては、SRS エアバッグが作動することがあります。

- 横方向からの衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

⚠警告

インストルメントパネルに手をついたり頭や胸を近づけた状態で乗車しない。

SRS エアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠注意

ハンドルやインストルメントパネル上面に、ステッカーを貼ったり、ものを置いたりしない。

SRS エアバッグが正常に機能しなくなったり、エアバッグが膨らんだときに置いたものが飛んで運転者や同乗者がけがをする原因になります。

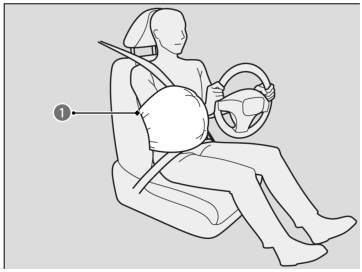
サイドエアバッグ

フロントシートの背もたれの外側にあるエアバッグです。
側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、運転者と助手席の同乗者の胸部への衝撃を緩和します。

格納場所

運転席、助手席ともにシートの背もたれ外側に格納されています。 どちらも「SIDE AIRBAG」と表示されています。

作動のしくみ



センサーが一定以上の衝撃で側面方向から衝突を検知し、コントロールユニットのはたらきにより検知した側のサイドエアバッグが膨らみます。

❶ サイドエアバッグ

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、サイドエアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

次のような場合、サイドエアバッグが作動しないことがあります。

- 乗員付近以外の側面への衝突

サイドエアバッグは乗員の受ける衝撃の大きさによって作動するようになっていますので、車両の損傷状態の大小とサイドエアバッグの作動は必ずしも一致しません。

低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。
ただし事故の状況、形態によっては、サイドエアバッグが作動することがあります。

- 正面衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

⚠注意

ドアやその周辺にアクセサリーなどを取り付けたり、ものを置いたりしない。

正常に作動しなかったり、作動時にこれらのものが飛ぶことがあります。

サイドエアバッグ格納部に衝撃や無理な力を加えない。

ドアに寄りかからない。

サイドエアバッグの格納部に手や顔を必要以上に近づけない。

後席の同乗者は、フロントシートの背もたれを抱えない。

サイドエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け傷害を受けるおそれがあります。

サイドエアバッグの分解、取り外しはしない。

不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

❗ サイドエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。

サイドエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

❗ サイドエアバッグがシートカバーによっては、正常に機能できなくなります。

フロントシートへのシートカバー装着にあたっては Honda 販売店にご相談ください。

❗ サイドエアバッグを制御するための圧力センサが、ドアに装備されています。

不適切なドアの修理や部品の変更により、サイドエアバッグが正常に作動しない可能性があります。ドアの修理については、Honda 販売店にご相談ください。

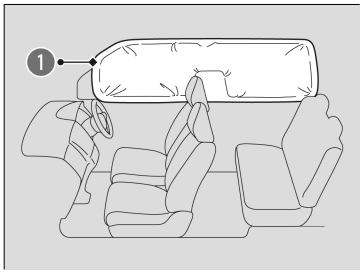
サイドカーテンエアバッグ

窓側の天井部にあるエアバッグです。側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、乗員の頭部への衝撃を緩和します。

格納場所

運転席側、助手席側ともに窓側の天井部に格納されています。 どちらも「SIDE CURTAIN AIRBAG」と表示されています。

作動のしくみ



サイドカーテンエアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で側面方向から衝突したときです。運転席側または助手席側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

❶ サイドカーテンエアバッグ

サイドカーテンエアバッグの作動条件は、サイドエアバッグと同じ条件です。
前方向から衝突したときのサイドカーテンエアバッグの作動について

- 前方向からの衝突時、横方向に一定以上の力がかかると、SRS エアバッグが膨らんだ後必要な側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

サイドカーテンエアバッグは側面からの衝突に対して作動するため、衝撃を受けた側のみ作動します。また、助手席側が衝撃を受けた場合は、助手席側に乗員がいないときでもサイドカーテンエアバッグが作動します。

⚠注意

サイドカーテンエアバッグが正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりすることがあるので、以下のことに注意する。

- フロントガラス、ドアガラス、フロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリーなどを取り付けない
- グラブレールにものをかけない

サイドカーテンエアバッグ収納部に衝撃を加えない。

収納部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、Honda 販売店で交換してください。

サイドカーテンエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。
サイドカーテンエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

エアバッグシステム警告灯

エアバッグやシートベルトプリテンショナーの異常などを、警告灯やマルチインフォメーションディスプレイで知らせます。

エアバッグシステム警告灯



- パワーモードを ON モードにしたとき

パワーモードを ON モードにすると、エアバッグシステム警告灯が数秒間点灯し、消灯すれば正常です。

- 異常が発生したとき

エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常があるときに点灯します。

⚠警告

エアバッグシステム警告灯を無視しない。
エアバッグシステム警告灯を無視すると、エアバッグシステム、プリテンショナーシステムが正しく機能せず、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。エアバッグシステム警告灯が点灯する場合は、ただちにHonda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグのお手入れ

エアバッグシステムは、メンテナンスを必要とせず、部品交換の必要もありません。ただし、以下の場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグが作動し、膨らんだとき

一度作動したエアバッグは、コントロールユニットやその他の関連部品とともに必ず交換する必要があります。
また、シートベルトプリテンショナーも同様に、一度作動した場合は新品と交換する必要があります。

❗ エアバッグ関連部品の再利用はしないでください。

衝突後ブレーキシステム

衝突後ブレーキシステムについて

エアバッグシステムが衝突を検知して作動したとき、衝突後ブレーキシステムがブレーキをかけるとともに駆動力を抑制させ、二次衝突による被害を軽減します。
このシステムの作動で必ずしも二次衝突の被害を軽減できるとは限りません。
事故の状況によって変わります。
衝突が発生した場合は、周囲の状況を確認し、適切に車両を操作して停車させてください。

衝突後ブレーキシステムの作動条件

走行中に前方向または横方向からの衝突により、エアバッグまたはシートベルトプリテンショナーが作動したときに衝突後ブレーキシステムが作動します。
ただし、システムを構成する部品が破損している場合は作動しません。

衝突後ブレーキシステムの解除条件

衝突後ブレーキシステムが作動したとき、次のいずれかの条件でシステムが解除されます。

- 車両が停車したとき
- アクセルペダルを離したあとに踏み込んだとき

キー

キーについて

エンジンの始動、停止のほかに、すべてのドア、テールゲート、フューエルリッドの施錠/解錠に使用できます。

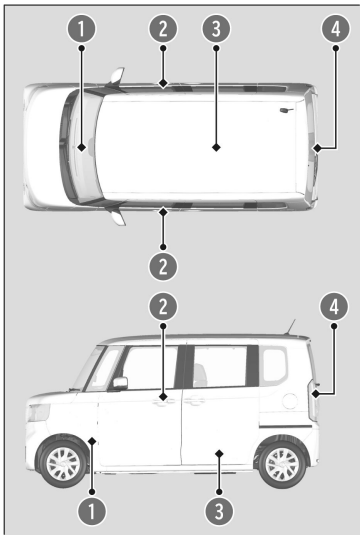
微弱電波

Honda スマートキーを使用して施錠/解錠操作をするときやエンジンを始動するとき、Honda スマートキーとの電子照合を行うために車両から電波が発信されます。そのため、次のような場合に正常に作動しなかったり、不安定な動作となったりすることがあります。

- 強い電磁波を発する機器や設備が近くにあるとき
- 携帯電話や無線機などの通信機器やノートパソコンと一緒に Honda スマートキーを携帯しているとき
- Honda スマートキーが金属物に触れていたり覆われていたりするとき

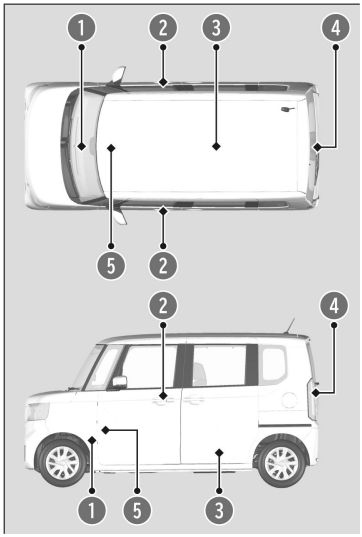
電池寿命は、使用状況により異なりますが約 2 年間です。Honda スマートキーは車両との通信のために常時受信動作をしているため、常に電池を消耗しています。

▼ スロープ非装備車



❶ 車室内発信機（インストルメントパネル内）
❷ 車室外発信機（ドアハンドル内）
❸ 車室内発信機（リヤフロア内部）
❹ 車室外発信機（テールゲート内）

▼スロープ装備車



❶ 車室内発信機（インストルメントパネル内）
❷ 車室外発信機（ドアハンドル内）
❸ 車室内発信機（リヤシート下）
❹ 車室外発信機（テールゲート内）
❺ 車室内発信機（インストルメントパネル内）

- 電波の受信動作を停止させ、電池の消耗を抑えることができます。Honda スマートキーの施錠ボタンと解錠ボタンを同時に約 3 秒長押しするとインジケーターが 2 回点滅し、電波の受信が停止します。Honda スマートキーのいずれかのボタンを 1 回押すと電波の受信が再開します。

⚠注意

植込み型心臓ペースメーカや植込み型除細動器などの医療機器を装着されているかたは、車両に搭載されている発信機から 22cm 以内に近づかない。

Honda スマートキーシステムで発信されている電波が、機器の作動に影響を与える可能性があります。医療用電子機器を使用しているかたは、医師や医療用機器製造者に影響を確認してからご使用ください。

キーの故障を防ぐため、下記の点をお守りください。
- 日本国内でのみ使用する。
- 直射日光が当たる場所、高温、多湿の場所に置かない
- キーを落としたり、重いものをのせない
- キーに液体をかけない
- 砂や埃を避ける
- 電池交換時以外は分解しない
スマートキーの電池交換方法 ▶P.308
- 改造をしない
- 火であぶらない
- テレビ、オーディオなど磁気を帯びた機器の近くに置いたりしない

Honda スマートキーは、特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けています。
キーの内部にある技術基準適合表示を故意に消去、改ざんしないでください。
分解・改造したものを使用することは法律で禁止されています。

Honda スマートキーは運転者が携帯し、車内に残したまま降車しないでください。 他の動作で施錠されると、キーの閉じ込めが起こるおそれがあります。

ドア、スライドドア✤、テールゲートが開いているときは、Honda スマートキーシステムで施錠できません。

強い電波を受信し続けると電池を著しく消耗することがあるため、テレビやパソコンなどの電化製品の近くには置かないでください。

Honda スマートキー持ち去り警告ブザー

パワーモードが ON のとき

Honda スマートキーを車外に持ち出しドアを閉めると、メーター内に警告を表示するとともに、車内警告ブザーと車外警告ブザーが鳴ります。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

パワーモードがアクセサリーモードのとき

Honda スマートキーを車外に持ち出しドアを閉めると、車外警告ブザーが鳴ります。

- Honda スマートキーを、インストルメントパネル、グローブボックスなどに置いた場合、電波状態により警告ブザーが鳴ることがあります。
- Honda スマートキーがエンジン始動の作動範囲内にあっても、周囲の環境や電波状態により警告ブザーが鳴ることがあります。
- Honda スマートキーを持ち出した状態で、パワーモードを OFF モードにすると、パワーモードの操作ができなくなります。
- パワーモードを操作するときは、Honda スマートキーを持っていることを確認してください。
- 窓からの受け渡しでは、Honda スマートキー持ち去り警告は作動しません。

警告ブザーの解除方法

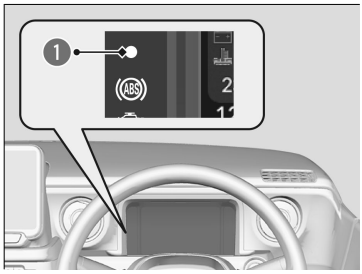
パワーモード ON の作動範囲内に Honda スマートキーを戻してドアを閉める。

≫警告状態が続くときは、Honda スマートキーの携帯位置を変更してください。

イモビライザーシステム

イモビライザーシステムとは、あらかじめ登録されたキーでないとエンジンの始動ができないようにしたシステムです。イモビライザーシステムでは、車両とキーの電子照合を行うときに微弱な電波を使用するため、下記の点に注意してください。

- **ENGINE START/STOP** の近くに強い電波を発するものを近づけない
- キーを金属に触れさせたり、覆ったりしない
- ほかの車両のイモビライザーシステムのキーを近づけない
- 磁気を帯びたキーホルダーなどをキーと一緒に取り付けない



❶ イモビライザーシステム表示灯

ENGINE START/STOP を押したとき、キーの情報を認識できないとメーター内のイモビライザーシステム表示灯が点滅します。

システムの改造や追加をしないでください。システムが故障するおそれがあります。

セキュリティアラームシステム

Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステムを使わずにドア等を開けると警報装置が作動するシステムです。作動時はホーンが断続的に鳴り、非常点滅表示灯が点滅します。システムを解除させるには解錠するか、エンジンを始動します。
警報装置はセキュリティアラームシステムを停止させるまで、約 5 分間作動します。ホーンおよび非常点滅表示灯は、1 回の作動につき約 30 秒間作動し、その警報作動が 10 回行われます。
状況によっては、5 分間以上作動することがあります。
車内に人が乗っているときやウィンドーが開いているときでも、セキュリティアラームシステムは作動します。警報装置の思わぬ作動を防ぐために、人が乗っていたりウィンドーが開いているときには、セキュリティアラームシステムをセットしないでください。
セキュリティアラームシステムをセットした後に 12V バッテリーがあがり、12V バッテリーの充電、交換をすると、警報装置が作動することがあります。
そのときは、解錠操作でセキュリティアラームシステムを解除してください。
システムの改造や追加をしないでください。システムが故障するおそれがあります。

セットするには

セキュリティアラームシステムは、以下の条件が整うと自動的にセットされます。

- パワーモードが OFF モードのとき
- ボンネットが閉まっているとき
- Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステムですべてのドアとテールゲートが施錠されているとき

セットされると

メーター内にある作動表示灯が点滅し、約 15 秒後に点滅間隔が長くなります。

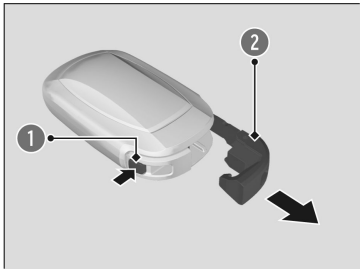
セットを解除するには

Honda スマートキーシステムまたはキーレスエントリーシステムで解錠するか、パワーモードを ON モードにすると解除されます。同時に作動表示灯が消灯します。

内蔵キー

Honda スマートキーの電池が切れたときや車の 12V バッテリーがあがったときは、内蔵キーを使用してください。

取り出し方法

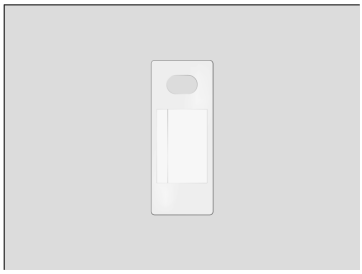


ボタンを押しながら取り出します。

≫収納するときは、「カチッ」と音がするまで差し込みます。

❶ ボタン
❷ 内蔵キー

キーナンバータグ



キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。

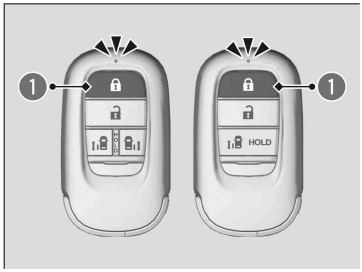
- キーを紛失したときや、追加購入したいときは、Honda 販売店に依頼してください。

> ❗ キーナンバータグは、キーとは別に車両以外の場所に大切に保管してください。

施錠/解錠

キーレスエントリーシステムを使った施錠/解錠方法

施錠



施錠ボタン（❶）を押す。

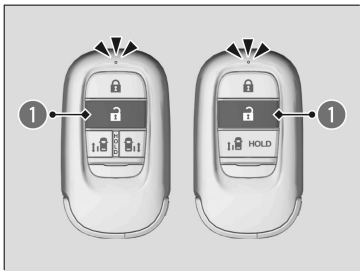
1 回目：

≫非常点滅表示灯が 1 回点滅し、すべてのドア、テールゲート、フューエルリッドが施錠されます。

2 回目（施錠ボタンを押して 5 秒以内）：

≫アンサーバック音が鳴りドア、テールゲートが施錠されたか確認できます。

解錠

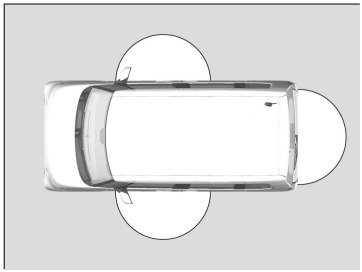


解錠ボタン（❶）を押す。

≫非常点滅表示灯が 2 回点滅し、すべてのドア、テールゲート、フューエルリッドが解錠されます。

キーレスエントリーシステムで解錠操作をした場合、30 秒以内にドア、テールゲートを開けないと、再び自動的に施錠されます。

Honda スマートキーを携帯した施錠/解錠方法



ロックボタン、ドアハンドル、テールゲートハンドルを操作することで、施錠/解錠します。

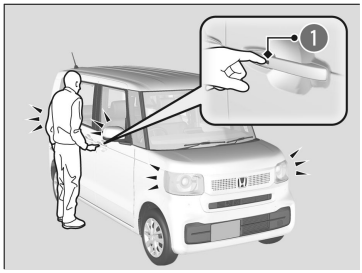
≫施錠/解錠の作動範囲は約 80cm 以内です。

作動範囲内に Honda スマートキーがあるときは、大雨や洗車などで大量の水がドアハンドルにかかると、 解錠されることがあります。

施錠/解錠時に鳴るアンサーバック音は、音量を変えたりブザーが鳴らないようにすることができます。

時計*/車両設定 ►P.266

施錠

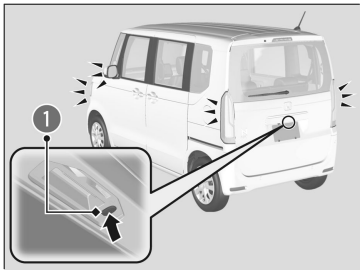


- 運転席ドア、助手席ドアまたはテールゲートのロックボタンを押します。

≫「ピッ」というアンサーバック音が鳴り非常点滅表示灯が 1 回点滅し、すべてのドア、テールゲート、フューエルリッドが施錠されます。

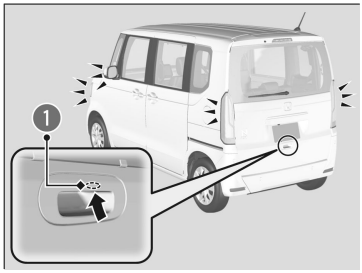
❶ ロックボタン

▼スロープ非装備車



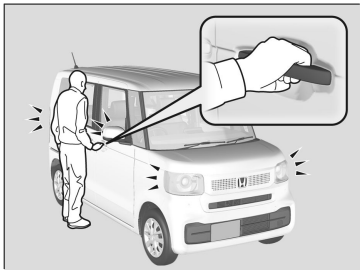
❶ ロックボタン

▼スロープ装備車



❶ ロックボタン

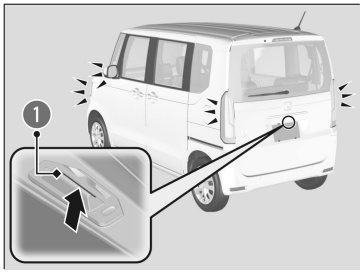
解錠



運転席または助手席ドアハンドルを握るか、テールゲートハンドルを押します。

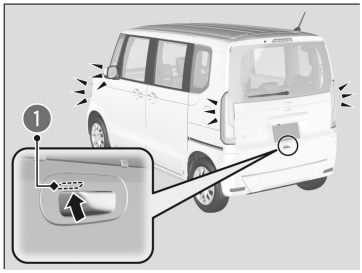
≫「ピピッ」というアンサーバック音が鳴り非常点滅表示灯が 2 回点滅し、すべてのドア、テールゲート、フューエルリッドが解錠されます。

▼ スロープ非装備車



❶ テールゲートハンドル

▼ スロープ装備車



❶ テールゲートハンドル

Honda スマートキーシステムで解錠してから、約 30 秒以内にドア、テールゲートを開けなかった場合は、自動的に再度施錠されます。
パワーモードが OFF モード以外のときは Honda スマートキーシステムによる施錠/解錠はできません。

施錠/解錠ができないとき

- 革製やスキー用の手袋などを着用しているとき
- 施錠後約 2 秒間
- ドアハンドルを握った直後
- テールゲートハンドルを押した直後
- Honda スマートキーが地面の近くや高い位置にあるとき
- ドアやドアガラス、テールゲートに近づきすぎているとき

降車時オートドアロック機能を用いた施錠方法

Honda スマートキーを携帯し、車から離れると、自動的に施錠します。

[1] ドアハンドル、テールゲートから約 1.5m 以内で待つ。

≫音が鳴り、乗降時オートロック機能が起動します。

[2] 約 1.5m 以上離れて、数秒待つ。

≫音が鳴り、非常点滅表示灯が点滅し施錠されます。

- 降車時オートロック機能起動後に、作動範囲内で約 30 秒待つ場合も施錠します。
- 降車時オートロック機能起動後に、正常に作動しなかった場合はオートロック作動中止警告ブザーが鳴ります。

≫オートロック機能が起動してからドアを開けた場合、オートロック機能は中断されます。

降車時オートドアロック機能を使用する時は、車内に残っている人がいないことを確認し、車から離れてください。
意図しないタイミングで降車時オートドアロック機能が作動した場合、車外にいるときは再度解錠してください。
乗車しているときは、**ENGINE START/STOP** スイッチを押し、車両を ON モードにしてください。

降車時オートドアロック機能の工場出荷時の設定は OFF になっています。ON にするときは、マルチインフォメーションディスプレイのカスタマイズ機能で設定を変更してください。

時計*/車両設定 ►P.266

一時的にオートロック機能を OFF にするとき

[1] パワーモードを OFF にして運転席ドアを開ける。

[2] マスタードアロックスイッチを施錠➔解錠➔施錠➔解錠の順番で押す。

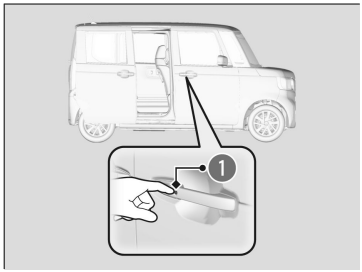
≫音が鳴り機能が OFF になります。

降車時オートロック機能を ON に戻すとき

以下のいずれかの操作をした場合、機能が ON に戻ります。

- すべてのドア、テールゲートを施錠する
- ドアを開ける
- パワーモードを ON にする
- Honda スマートキーを携帯したまま降車時オートドアロック機能の作動範囲内から離れる

予約ロック機能を用いた施錠方法



❶ ロックボタン

あらかじめ施錠操作をすることでパワースライドドアを閉めた後、自動で施錠する機能です。
パワースライドドア以外を閉めてから操作をしてください。

[1] 運転席ドアのロックボタンを押す、またはHonda スマートキーの施錠ボタンを押します。
≫通知音が鳴り、予約ロックが設定されます。

[2] パワースライドドアを閉める。
≫施錠が完了すると通知音と非常点滅表示灯の点滅で施錠を知らせます。

施錠が完了したことを確認してから車両から離れてください。

- 予約ロックによる施錠が完了する前に閉まっているドアまたはテールゲートを開くと予約ロックはキャンセルされます。

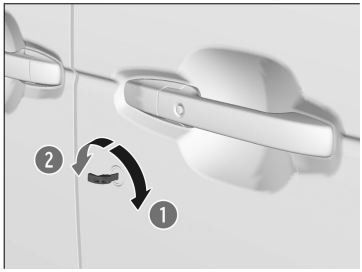
予約ロックの設定変更ができます。
時計*/車両設定 ►P.266

⚠警告

パワースライドドアに指などを挟みこまないように注意する。重大な傷害を負うおそれがあります。特にお子さまには気をつけてください。

内蔵キーを使った施錠/解錠方法

Honda スマートキーのボタンで施錠/解錠できない場合は内蔵キーを使用してください。
内蔵キー ►P.52



キーを差し込んで回す。

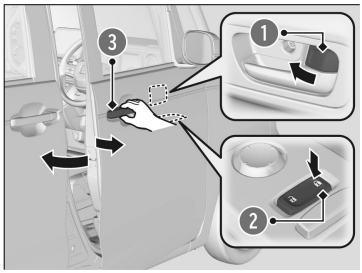
≫運転席ドアにキーを差し込んで施錠/解錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲート、フューエルリッドも同時に施錠/解錠されます。

❶ 施錠
❷ 解錠

Honda スマートキーを使わない施錠方法

Honda スマートキーが正常に作動しなくなったときや、内蔵キーを所持していないときに、Honda スマートキーや内蔵キーを使わずに施錠することができます。

運転席のドアの施錠方法



ノブ（❶）を押し込むか、マスタードアロックスイッチ（❷）を施錠のほうに押し、外側のドアハンドル（❸）を引いたままドアを閉める。

≫運転席ドアで施錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲート、フューエルリッドも同時に施錠されます。

運転席以外のドアの施錠方法

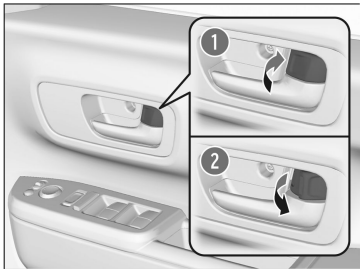
ノブを押し込み、ドアを閉める

キー閉じ込み防止装置

Honda スマートキーが車内の作動範囲内に置いてあると、施錠できません。

車内の施錠/解錠方法

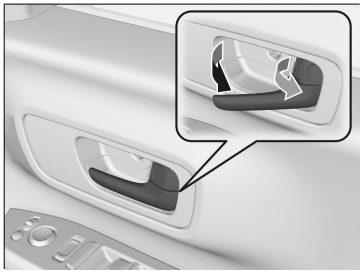
ノブを利用した施錠/解錠



施錠：ノブを押し込む
解錠：ノブを引き出す
≫運転席ドアのノブで施錠/解錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲート、フューエルリッドも同時に施錠/解錠されます。

❶ 施錠
❷ 解錠

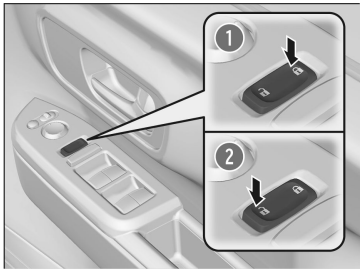
運転席ドアハンドルでの解錠



運転席ドアの内側のハンドルを引く。
≫施錠していてもドアが開きます。

❗ 走行中でも運転席の内側のハンドルを引くとドアが解錠するため、走行中はドアハンドルを操作しないでください。

マスタードアロックスイッチでの施錠/解錠



マスタードアロックスイッチを押す。
≫ほかのすべてのドア、テールゲート、フューエルリッドも同時に施錠/解錠されます。

❶ 施錠
❷ 解錠

衝撃感知ドアロック解除システム

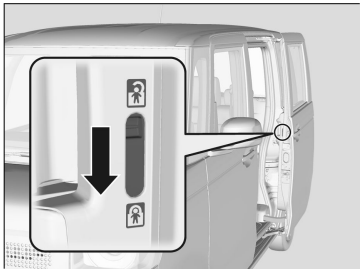
車両に衝撃が加わったときに、自動的に解錠するシステムです。
作動するのは以下の場合です。

- 正面からの衝撃：SRS エアバッグが作動したとき
- 側面からの衝撃：サイドエアバッグ/サイドカーテンエアバッグが作動したとき
- 後面からの衝撃：衝撃が大きいとき
  ≫いずれの場合も、安全性を考慮して衝撃を受けてから数十秒後に解錠します。
- 衝撃の加わりかたや大きさによっては解錠しない場合があります。

チャイルドプルーフ

走行中などにお子さまが車外に放り出されることを防止するため、後席ドアを車内から開けることができないようにします。
≫お子さまを後席に乗せるときにお使いください。

チャイルドプルーフのセット方法



後席ドアについているツマミを、施錠の位置にしてドアを閉めます。

- ドアを開ける場合は、外側のハンドルで開けてください。
- チャイルドプルーフセット時に車内から開けたい場合は、ノブを解錠状態にして後席ウィンドーを下げ、窓から手を出して外側のドアハンドルを引いてください。

こんなときは

後席ドアが車内から開けられないとき

チャイルドプルーフが施錠の位置になっていると思われます。後席ドアを外から開け、チャイルドプルーフのツマミを解錠の位置にしてください。

Q チャイルドプルーフ ►P.62

運転席ドアを開けるとブザーが鳴るとき

以下の場合に該当していることが想定されます。

- パワーモードが OFF モード以外になっている
- ライトを消し忘れている
- アイドリングストップ中に運転席ドアを開けている

ドアを閉めた後、車から離れるとブザーが鳴るとき

ドアが閉まりきる前に降車時オートドアロックの作動範囲から離れている可能性があります。

Q 降車時オートドアロック機能を用いた施錠方法 ►P.58

Honda スマートキーの作動が安定しないとき

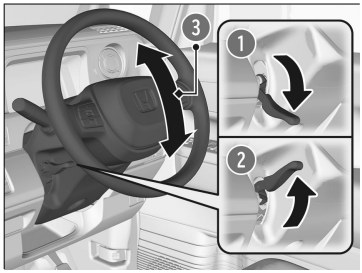
作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。
ボタンを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。

Q スマートキーの電池交換方法 ►P.308

ハンドル

ハンドルの調整方法

適切な運転姿勢でハンドルを握れるように位置を調節することができます。



❶ 解除
❷ 固定
❸ 調整

［1］ハンドル位置調節レバーを解除の方向へ動かす。
［2］ハンドルの位置を調節する。
≫調節した位置で、メーターや表示灯が見えることを確認してください。
［3］ハンドル位置調節レバーを固定の方向へ動かす。
≫ハンドルが固定されます。
≫位置調節後、ハンドルに上下前後方向の力を加え、ハンドルがしっかり固定されていることを確認してください。

⚠警告

走行中にハンドル位置を調節しない。
走行中に調節すると、ハンドル位置が動き、正確なハンドル操作ができないことがあり、衝突して重大な傷害を負うおそれがあります。ハンドルの調節は、必ず停車中に行ってください。

シート

シートの調整について

⚠警告

SRS エアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げる。
ハンドルやダッシュボードに近づきすぎると、フロントエアバッグが膨らむ際に重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

背もたれを必要以上に倒さない。
背もたれを必要以上に倒すと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

シートベルト着用時にアームレスト*に引っかけない。
万一のときにシートベルトの機能が発揮できず、重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠注意

背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。
正しい運転姿勢がとれません。また、シートベルトなどの効果が十分に発揮されません。

走行中にシートの調節はしない。
走行中に調節すると思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行ってください。

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

シートの下に物を置かない。
物がはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

⚠注意

座面をはね上げたときや戻したときは、座面を前後にゆすって確実に固定されていることを確認する。

固定されていないと、座面が前に倒れるおそれがあります。

座面を戻すときは、以下のことを確認する。

- ガイド周辺に異物がないか
- フロアマットがズレて、ガイドに乗り上げていないか
- 座面の下にものやシートベルトを置いていないか

異物をかみ込んだり、フットがガイドにきちんと入っていないと座面が確実に固定されず、走行中に座面がはね上がり思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

エンジンをかけた状態でシートを操作するときは、排気管の後方に立たない。

やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

▼ スロープ非装備車

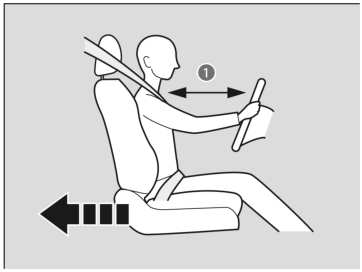
⚠注意

スライドボードは、リヤシートと連動してスライドします。

スライドボードで指や手をはさまないようにご注意ください。
荷物が倒れたり、はさまれたりすることがあるのでご注意ください。

正しい姿勢

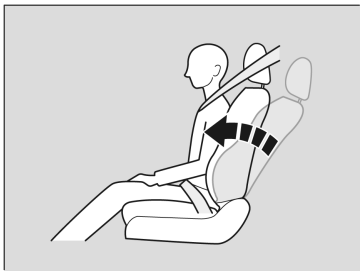
正しい姿勢がとれるようにシートを調節します。正しい運転姿勢とは、シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分に踏み込め、ハンドル操作が楽にできる姿勢をいいます。同乗者の正しい姿勢とは、シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背が離れていない姿勢をいいます。



❶ 十分な距離をとる

シート位置の調整

運転者とハンドルとの間に十分な距離をとれるように、シートをできるだけ後ろに下げます。
助手席の同乗者のシートも同様に、ダッシュボードの SRS エアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げます。
シートの位置を調節したら、シートを前後に揺すり、固定されていることを確認します。



背もたれ角度の調節

シートに深く腰かけ、楽な姿勢ですわれるように背もたれを起こし調節します。
助手席の同乗者のシートも同様に、楽な姿勢ですわれるように背もたれ角度を調節します。

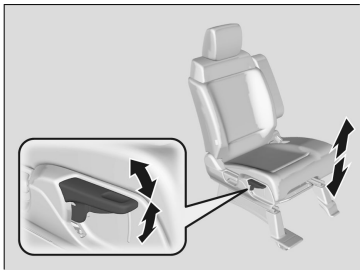
リヤシートに乗車するときは、走行する前にヘッドレストを引き上げて、確実に固定します。

フロントシートに純正以外のシートカバーを取り付けないでください。
サイドエアバッグがシートカバーによっては、正常に機能できなくなります。
フロントシートへのシートカバー装着にあたっては Honda 販売店にご相談ください。

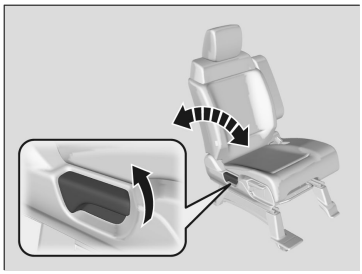
アームレスト✤に腰をかけたり荷物を載せるなどの大きな力を加えない。
アームレストが破損するおそれがあります。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

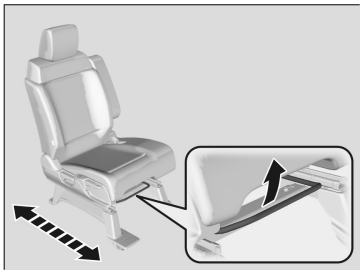
フロントシートの調整方法



高さの調節（運転席）
レバーを繰り返し引き上げ/引き下げる。

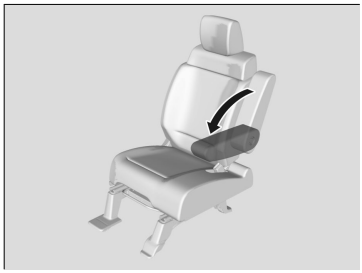


背もたれの角度調節
レバーを引き上げる。



前後位置の調節
レバーを引き上げる。

フロントシートアームレスト✤



前に倒す。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

リヤシートの調整方法（スロープ非装備車）

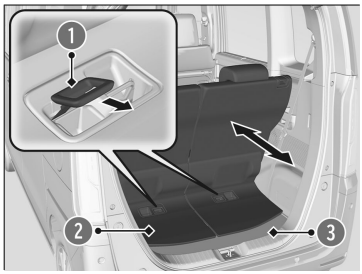


❶ストラップ

シート位置の調節

前から調節する場合：
リヤシートの外側にあるストラップを引く。

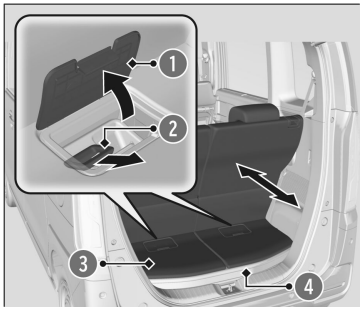
▼N-BOX、N-BOX CUSTOM



❶ストラップ
❷スライドボード
❸カーゴリッド

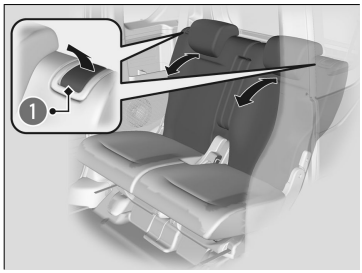
後ろから調節する場合：
カーゴスペースの床にあるストラップを引く。
≫スライドボードは、リヤシートと連動してスライドします。

▼N-BOX JOY



後ろから調節する場合：
カーゴスペースの床にあるカバーを開いて、奥にあるストラップを引く。
≫スライドボードは、リヤシートと連動してスライドします。

❶ カバー
❷ ストラップ
❸ スライドボード
❹ カーゴリッド

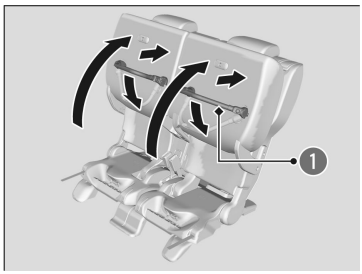


背もたれの角度調節
背もたれのレバーを引き上げる。

❶ レバー

座面をはね上げて固定する（チップアップ）

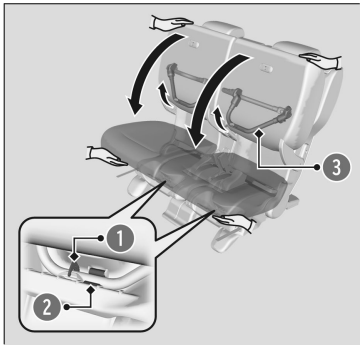
座面は、左右別々にはね上げることができます。



座面のはね上げかた
[1] ヘッドレストを下げる。
[2] アームレスト✤を起こす。
[3] 座面を引き上げる。
[4] フットを格納する。
[5] 座面を背もたれに押しつけ、固定する。

❶ フット

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。



戻しかた

[1] 座面を手で押さえながら、フットをいっぱいに開く。

≫座面が前に倒れ込むので必ず手を添えて操作してください。

[2] 座面に手を添えて静かに前方に倒して、フットをガイドに入れる。

≫座面を勢いよく倒すと、ガイドやフックが破損するおそれがあります。

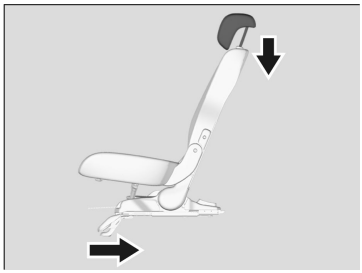
≫ガイドからフックが出ていることを確認してください。

❶ フック
❷ ガイド
❸ フット

フットを格納した状態で座面を倒さないでください。

背もたれの倒しかた

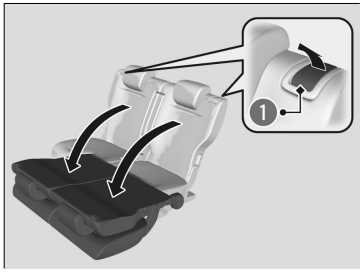
リヤシートを倒してカーゴスペースを広くできます。片側ずつ独立して行えます。



ヘッドレストがフロントシートに当たるときは、ヘッドレストを外してください。

倒しかた

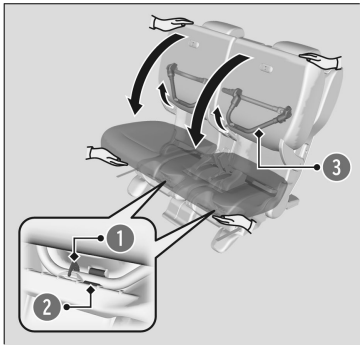
[1] ヘッドレストを下げる。
[2] アームレスト✤を収納する。
[3] リヤシートを後方いっぱいに動かす。
[4] フロントシートのシートバックテーブル✤をたたむ。



[5] 背もたれのレバーを引き、前方に倒す。

❶ レバー

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。



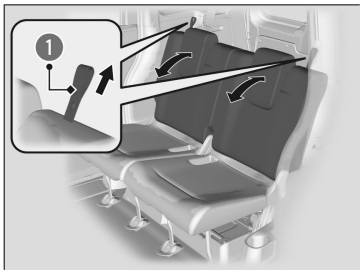
❶ フック
❷ ガイド
❸ フット

戻しかた

[1] 背もたれを起こして固定する。
[2] 座面を手で押さえながら、フットをいっぱいに開く。
≫座面が前に倒れ込むので必ず手を添えて操作してください。
[3] 座面に手を添えて静かに前方に倒して、フットをガイドに入れる。
≫座面を勢いよく倒すと、ガイドやフックが破損するおそれがあります。
≫ガイドからフックが出ていることを確認してください。

シートを元に戻したら、シートを前後にゆすり、固定されていることを確認します。

リヤシートの調整方法（スロープ装備車）



❶ ストラップ

背もたれの角度調節

背もたれのストラップを引き上げる。

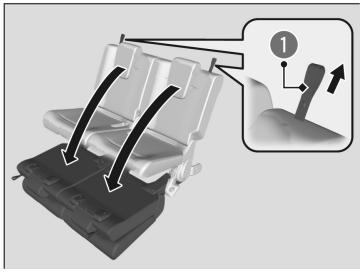
背もたれの倒しかた

リヤシートを倒してカーゴスペースを広くできます。片側ずつ独立して行えます。



倒しかた

[1] ヘッドレストを下げる。



［2］背もたれのストラップを引き、前方に倒す。

戻しかた

［1］背もたれを起こして固定する。

シートを元に戻したら、シートを前後にゆすり、固定されていることを確認します。

❶ ストラップ

> ! 背もたれを起こすときは、シートベルトを背もたれではさみ込まないように注意してください。

> ! 以下のような場合、リヤシートのヘッドレストがシートバックポケットに引っかかりやすいので注意してください。
> - フロントシートの背もたれを後ろに倒したとき
> - シートバックポケットにものが入ったままリヤシートを格納するとき

> ! シートを格納する前にシートの周りを確認してください。
> シートの上にものやシートベルトやバックルを置いたまま操作しないでください。シートベルトやバックルが破損することがあります。

> ! 背もたれを倒すときは、カーゴスペースの荷物等を固定してください。
> 急停止のときなどに飛び出すおそれがあります。

リヤシートアームレスト✤



前に倒す。

ヘッドレスト

⚠警告

ヘッドレストは必ず正しい位置に調節する。

ヘッドレストの高さが適切でないと、ヘッドレストの効果が低くなり、衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠警告

ヘッドレストを外した状態で走行しない。

衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠警告

リヤシートのヘッドレストを下げた状態で走行しない。

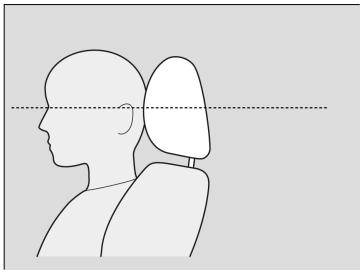
衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

▼ スロープ装備車



✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

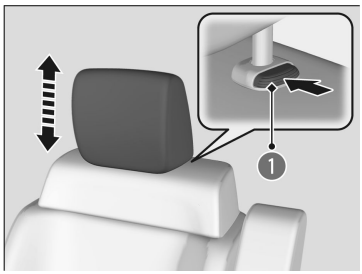
ヘッドレストの正しい位置



後頭部の中心が、ヘッドレストの中心に来るようにヘッドレストの高さを調節します。

ヘッドレストの調整・取り外し

フロントシートヘッドレスト



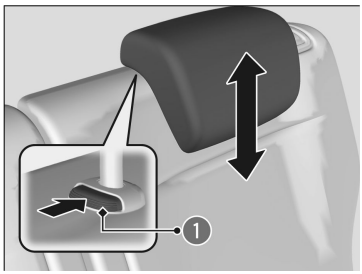
ヘッドレストの調節

- 高くするときは、引き上げる
- 低くするときは、ノブを押しながら下げる
- 取り外すときは、ノブを押しながら引き上げる
- 取り付けるときは、ヘッドレストの脚を元の位置に差し込む
  ≫ヘッドレストを軽く上下させ、確実に固定する

❶ ノブ

リヤシートヘッドレスト

▼スロープ非装備車

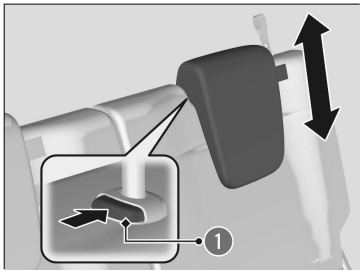


ヘッドレストの調節

- 高くするときは、引き上げる
- 低くするときは、ノブを押しながら下げる
- 取り外すときは、ノブを押しながら引き上げる
- 取り付けるときは、ヘッドレストの脚を元の位置に差し込む
  ≫ヘッドレストを軽く上下させ、確実に固定する

❶ ノブ

▼スロープ装備車



ヘッドレストの調節

- 高くするときは、引き上げる
- 低くするときは、ノブを押しながら下げる
  ≫ヘッドレストは取り外しできません。

❶ ノブ

リアシートリマインダー

後席への同乗者や荷物の置き去りがないようにお知らせする機能です。この機能は、パワーモードを ON モードにする直前または直後に、後席ドアを開けた場合に作動します。



作動後、パワーモードを OFF モードにしたとき、マルチインフォメーションディスプレイにお知らせが表示され、音が鳴ります。

- パワーモードを OFF モードにしたとき、お知らせが行われ機能が終了します。
- 後席ドアを開けた後、10 分以内にパワーモードを ON モードにしなかった場合は作動しません。
- このシステムは後席の同乗者や荷物をセンサーで検出するのではなく、後席ドアの開閉の記録から後席に同乗者や荷物がある可能性をお知らせします。

お知らせ機能が作動しないように設定することができます。
時計*/車両設定 ▶P.266

シートベルト

シートベルトについて

シートベルトは、シートに体を固定することで安全を確保するための安全装置です。体の動きに合わせて伸縮し、強い衝撃を受けるとベルトが自動的にロックします。すべての席に三点式シートベルトが装備されています。

⚠警告

シートベルトは乗員全員が必ず正しく着用する。

シートベルトを正しく着用しないと、エアバッグが装備されていても、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

乗車中は正しい姿勢を保つ。

正しい姿勢ですわらないと、衝突したときに傷害を受ける危険性が高くなります。

シートベルトの着用にあたっては、以下の点に注意してください。

- 運転者は正しい運転姿勢で、シートベルトを必ず着用
- 同乗者にも必ずシートベルトを着用
- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用
- 1 本のシートベルトを 2 人以上で使用しない
- ベルトにはクリップや洗たくばさみなどでたるみをつけない

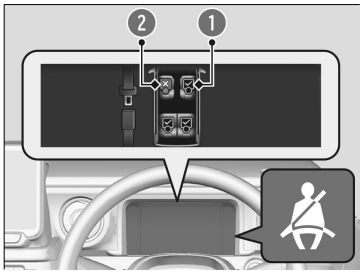
シートベルトがロックしたとき

一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ベルトをゆっくり引き出してください。

シートベルトがスムーズに巻き取られないとき

ベルトが汚れていないことを確認してください。
ベルトが汚れているとスムーズに巻き取られない場合があります。
ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

シートベルトリマインダー



シートベルトリマインダーは乗員のシートベルトの未着用をお知らせします。シートベルトを着用すると警告は消えます。

❶ シートベルト着用
❷ シートベルト未着用

シートベルトを着用せずに走行した場合、停車したときや一定時間経過したときは、ブザーが停止します。

≫助手席に人がいないときでも、荷物を置くと反応することがあります。

≫助手席にお子さまや小柄な方を乗せたり、クッションを使用しているときは、反応しないことがあります。

シートベルトプリテンショナー

シートベルトプリテンショナーは、フロントシートおよびリヤシート✤に装備しています。一定以上の前方向や側面からの衝撃を受けると自動的にシートベルトを引き込み、拘束します。

シートベルトプリテンショナーは、一度作動すると使用できません。

衝突によりシートベルトプリテンショナーが作動するとエアバッグシステム警告灯が点灯します。

衝突したときは、Honda 販売店で点検を受け、作動済みの場合は交換してください。

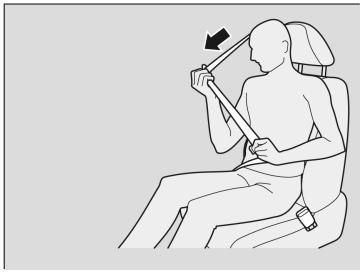
⚠注意

シートベルト引き込み装置の取り外し、分解などはしない。

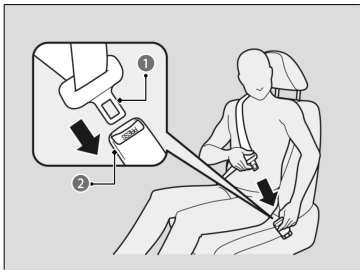
誤作動や故障の原因となります。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

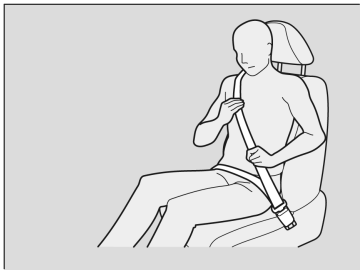
正しい着用法



[1] 正しい姿勢でシートにすわる。
[2] シートベルトをゆっくり引き出す。



[3] タングプレート（❶）をバックル（❷）に差し込む。
≫ベルトにねじれや引っかかりがないようにしてください。



[4] シートベルトが正しく着用できているか確認する。
≫肩ベルトは鎖骨の中心を通るように合わせ、首やあごに当たらないようにしてください。
≫腰ベルトは腰骨のできるだけ低い位置に合わせてください。
≫ベルトにたるみやねじれがないようにしてください。
[5] ベルトを引っ張り、バックルが固定されていることを確認する。

- シートベルトを外すには、バックルの赤色の **PRESS** を押してください。そのとき、ベルトが完全に収納されるようベルトに手を添えてください。

⚠警告

シートベルト着用時にアームレスト*に引っかけない。
万一のときにシートベルトの機能が発揮できず、重大な傷害を負うおそれがあります。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

⚠注意

肩ベルトは腕の下に通したり、首の後ろに回さない。

シートベルトを正しく着用しないと、本来の機能を果たさず衝突時などに、けがをするおそれがあります。

シートベルトが完全に引き込まれた位置でロックされた場合、一度シートベルトをしっかりと引っ張り、そしてもう一度巻き取らせることでロックが解除できます。

シートベルトロックを解除することが出来ない場合、そのシートに着座しないでください。

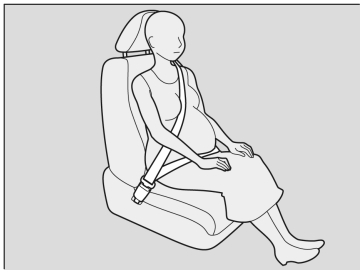
シートベルトについて ►P.77

シートベルトを十分に機能させるため、バックルおよび自動巻き取り装置の内部に異物を入れないようにしてください。

シートベルトの分解、改造はしないでください。正常に作動しないおそれがあります。

シートベルトを着用した状態で事故にあったときは、Honda 販売店で点検を受け、ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

妊娠中のかたの着用法



肩ベルトは腹部を避け胸部にかかるように着用する。

腰ベルトは腹部を避けて、必ず腰骨のできるだけ低い位置にぴったり着用する。

⚠注意

妊娠中のシートベルト着用は、医師に確認する。

万一のとき、腹部、胸部、肩部などに圧迫を受けることがあります。

妊娠中のかたが運転または同乗するときは、ご自身と赤ちゃんを守るために、常に三点式シートベルトを着用してください。

妊娠中のかたは以下の点を注意してください。
万一の衝突時にフロントエアバッグによって、ご自身と赤ちゃんが傷害を受ける危険性が軽減されます。

- 運転するときは上体を起こして、運転に支障のない範囲でシートをなるべく後ろに下げる
- 助手席にすわる場合も、シートはできるだけ後ろに下げる

▼ スロープ装備車

車いす乗員用シートベルト

スロープ装備車は、車いすに座っている人専用のシートベルトを装備しています。

⚠警告

シートベルトは、以下のことに注意し、必ず正しく着用する。

- 腰部のベルトと肩部のベルトを両方着用する
- 腰部のベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置にぴったり着用する
- 肩部のベルトはベルトがくび、あご、顔などに当たらないように着用する

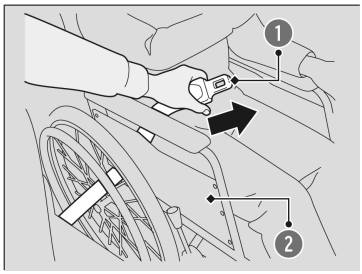
正しく着用していないと、衝突したときなどに重大な傷害を受けたり死亡することがあります。

車いすの種類によってシートベルトの通しかたが異なります。イラストを参考にして、ベルトを通してください。

腰部のベルト

着用するとき

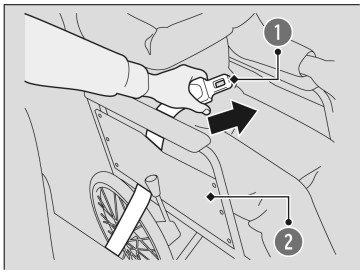
▼自走式の車いす



❶ タングプレート
❷ サイドパネル

［1］タングプレートをつかみ、車いすの主車輪のスポークの間を通してからサイドパネルの下を通す。

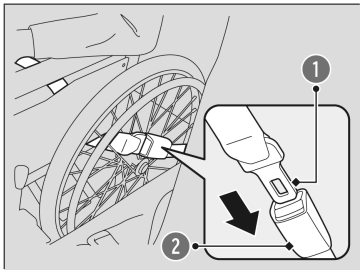
▼介護式の車いす



❶ タングプレート
❷ サイドパネル

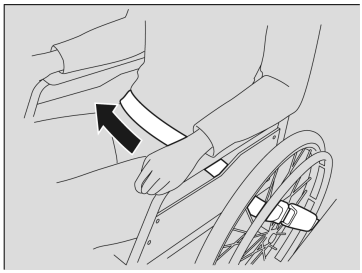
［1］タングプレートをつかみ、サイドパネルの下から通す。

▼ 共通操作



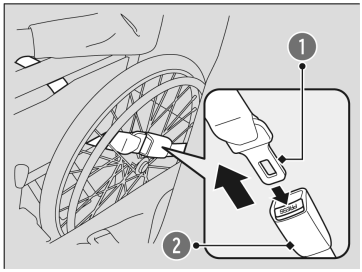
❶ タングプレート
❷ バックル

[2] ベルトにねじれがないようにし、タングプレートをバックルの中に「カチリ」と音がするまで差し込む。



[3] ベルトを腰骨のできるだけ低い位置にかかるように戻し方向へ引き、たるみがないように身体に密着させる。

▌外すとき



❶ タングプレート
❷ バックル

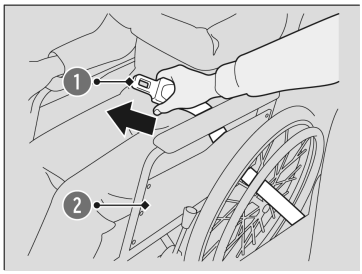
バックルの赤色の **PRESS** を押して外す。

- ベルトが自動的に巻き取られますので、タングプレートに手を添えてゆっくり巻き取らせてください。
- シートベルトを使い終わったらバックルを格納してください。

肩部のベルト

着用するとき

▼自走式の車いす

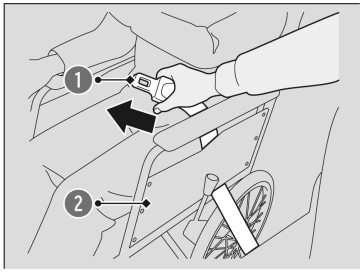


❶ タングプレート
❷ サイドパネル

［1］タングプレートをつかみ、車いすの主車輪のスポークの間を通してからサイドパネルの下を通す。

≫ベルトがくび、あご、顔などに当たらないようにしてください。

▼介護式の車いす

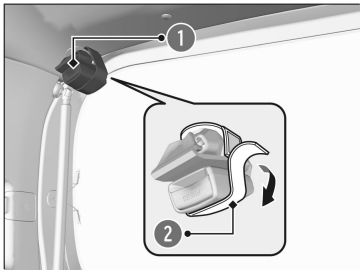


❶ タングプレート
❷ サイドパネル

［1］タングプレートをつかみ、サイドパネルの下から通す。

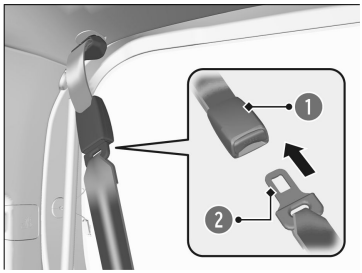
≫ベルトがくび、あご、顔などに当たらないようにしてください。

▼共通操作



❶ バックル
❷ マジックテープ

[2] マジックテープをはがし、バックルを取り外す。



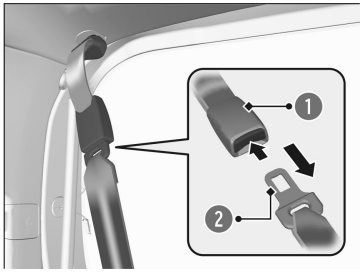
❶ バックル
❷ タングプレート

[3] ベルトにねじれがないようにし、タングプレートをバックルの中に「カチリ」と音がするまで差し込む。
[4] ベルトにねじれ、たるみ、引っかかりがないかを確認する。

⚠注意

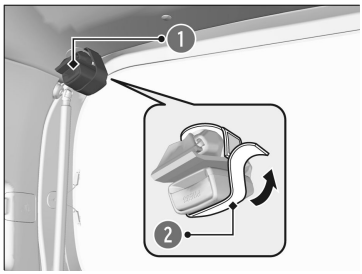
肩部のベルトは腕の下に通したり、首の後ろに回さない。
シートベルトを正しく着用しないと、本来の機能を果たさず、衝突のときなどにけがをするおそれがあります。

外すとき



［1］バックルの赤色の PRESS を押して外す。

❶ バックル
❷ タングプレート



［2］バックルをマジックテープで固定する。

❶ バックル
❷ マジックテープ

- ベルトが自動的に巻き取られますので、タングプレートに手を添えてゆっくり巻き取らせてください。

シートベルトの点検方法

シートベルトを安全にお使いいただくために、以下の点検を定期的に行ってください。異常がある場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

- すべてのベルトをいっぱいまで引き出し、ほつれ、破れ、焼けこげ、すり切れがないか
- バックルが確実に固定されているか
- ベルトがスムーズに巻き取られるか

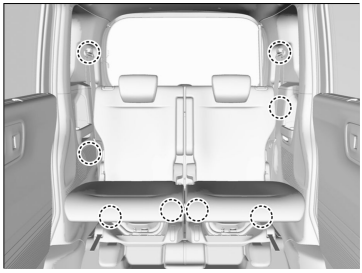
シートベルトのアンカーポイント

シートベルトを交換する場合、図の中で示されるアンカーポイントを使用してください。

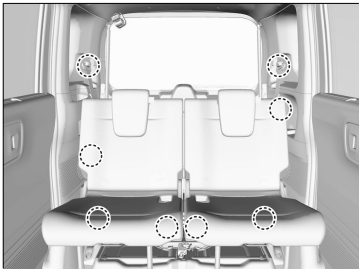
フロントシート



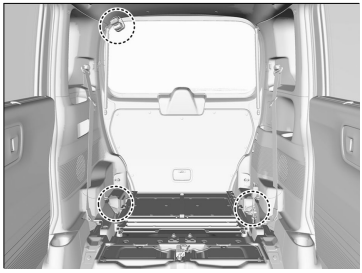
リヤシート（スロープ非装備車）



リヤシート（スロープ装備車）

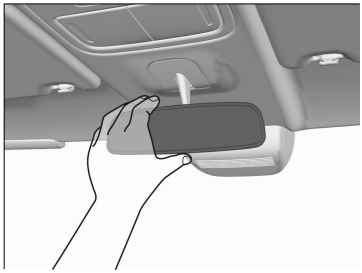


リヤ（スロープ装備車）



ミラー

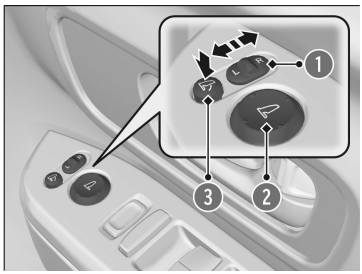
ルームミラー



ルームミラーの角度は、正しい運転姿勢ですわった位置で走行前に調節してください。

ドアミラー

ドアミラーの操作は、パワーモードが ON モードのときに作動します。



❶ 左右切り換えスイッチ：
右か左を選択するスイッチです。角度調節後、中央の位置に戻します。

❷ 角度調節スイッチ：
上下左右に鏡面を動かすスイッチです。

❸ 格納スイッチ：
ドアミラーの格納ができます。もう一度押すと、元の位置に戻ります。

オートリトラミラー*

キーレスエントリーシステムや Honda スマートキーシステムでのドアの施錠や解錠に連動して、パワーモードが OFF モードの状態でも、ドアミラーの格納や元の状態への復帰が行えます。

格納するときの操作方法

- Honda スマートキーの施錠ボタンを押す
- Honda スマートキーを携帯し、ドアハンドルやテールゲートのロックボタンを押す

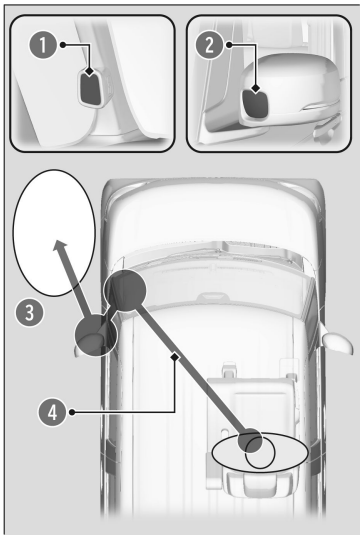
*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

元の位置に戻すときの操作方法

- Honda スマートキーの解錠ボタンを押す
- Honda スマートキーを携帯し、運転席または助手席ドアハンドルを握るか、テールゲートハンドルを押す
- パワーモードを ON モードにする
- 格納スイッチを押してドアミラーを格納した場合、オートリトラミラー機能ではドアミラーを元の位置に戻せません。

オートリトラミラーの設定を変更することができます。
時計*/車両設定 ▶P.266

サイドビューサポートミラー



車両左側前方の様子が車外側ミラーに映り、車内側ミラーに反射して見えます。
停車時や発進時、対向車とのすれ違いや路肩に寄せるときなど、車両左側前方を確認するときに役立ちます。

❶ 助手席側フロントピラー下部にあるミラー（車内側ミラー）
❷ 助手席側ドアミラー前面のミラー（車外側ミラー）
❸ 見える範囲
❹ 運転者の目線

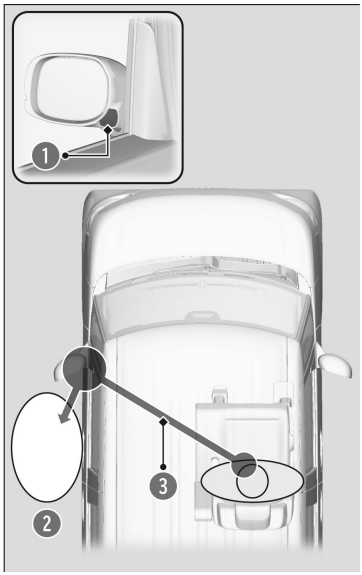
ミラー表面の傷付きや曇りによる視界の妨げを防止するために次のことをお守りください。

- ミラー表面に撥水剤やワックスを付着させない

- 車外側ミラー表面が凍結しているときは解氷剤やプラスチックの板を使用せずに、温水や水道水を使って溶かす
- 砂の付いた布や油膜取り剤（コンパウンドなど）でミラー表面をこすらない

サイドビューサポートミラーの角度調節はできません。

サイドアンダーミラー



助手席側ドアミラーの下部についています。
停車時や発進前などに車両左側下部を確認するときに役立ちます。

❶ サイドアンダーミラー
❷ 見える範囲
❸ 運転者の目線

ミラー表面の傷付きや曇りによる視界の妨げを防止するために次のことをお守りください。

- ミラー表面に撥水剤やワックスを付着させない
- ミラー表面が凍結しているときは解氷剤やプラスチックの板を使用せずに、温水や水道水を使って溶かす
- 砂の付いた布や油膜取り剤（コンパウンドなど）でミラー表面をこすらない

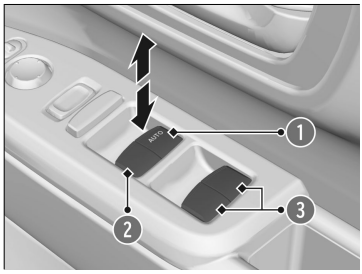
サイドアンダーミラーの角度調節はできません。

パワーウィンドー

パワーウィンドーの開閉方法

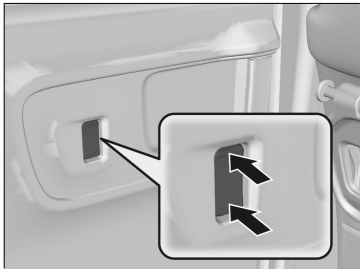
パワーモードが ON モードのときに、パワーウィンドーの開閉操作を行うことができます。開閉はそれぞれのドアにあるスイッチで行います。
運転席のスイッチでは、すべてのウィンドーの開閉操作を行うことができます。運転席以外のウィンドーの開閉は、運転席のパワーウィンドーロックボタンを OFF にしてから行います。パワーウィンドーロックボタンを OFF にすると、ボタンにある表示灯が消灯します。
パワーウィンドーロックボタンを ON にしておくと、運転席以外のウィンドーは作動しません。お子さまを乗せているときなどは、パワーウィンドーロックボタンを ON にしておいてください。

運転席側スイッチ



❶ 運転席用スイッチ
❷ 助手席用スイッチ
❸ 後席用スイッチ

後席側スイッチ



手動開閉

希望の位置で手を放すことで、窓の開閉を調節します。

▼ 運転席側および助手席側スイッチ

開けるとき：スイッチを軽く押す
閉めるとき：スイッチを軽く引き上げる

▼後席側スイッチ

開けるとき：スイッチの下側を押す
閉めるとき：スイッチの上側を押す

自動開閉（運転席用スイッチのみ）

自動的に全開/全閉します。途中で止めるには、スイッチを反対側に軽く上げ/下げします。
開けるとき：スイッチを強く押す
閉めるとき：スイッチを強く引き上げる

- パワーモードを OFF モードにしても、数分間は自動開閉機能付きのパワーウィンドーを開閉できます。ただし、運転席のドアを開閉すると、ウィンドーの開閉はできなくなります。
- はさみ込み防止のため、障害物を検知するとウィンドーが少し開いて止まります。
- 故障や路面、走行条件による衝撃などではさみ込み防止機構が作動し、自動でウィンドーを閉めることができなくなったときは、スイッチを軽く引き上げ続けると閉めることができます。

⚠警告

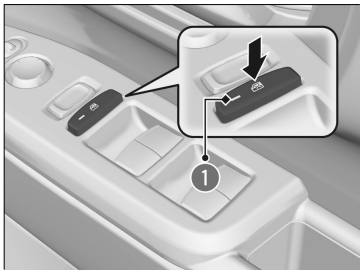
パワーウィンドーを閉めるときは、同乗者が窓から手や顔などを出していないことを確認する。
手や顔などをパワーウィンドーにはさむと、重大な傷害を負うおそれがあります。特にお子さまには気をつけてください。

⚠注意

指などをはさみ込まないように注意する。
確実に閉めるため、閉め切る直前の部分に、はさみ込みを検知しないエリアがあります。

❗ お子さまだけを車内に残さない。ドアをロックしてお子さまと一緒に車外に出てください。

パワーウィンドーロックボタン



パワーウィンドーロックボタンを ON（表示灯点灯）にしておくと、運転席以外のウィンドーは作動しません。

❶ 表示灯

> ❗ お子さまを乗せているときなどは、パワーウィンドーロックボタンを ON にしておいてください。

テールゲート

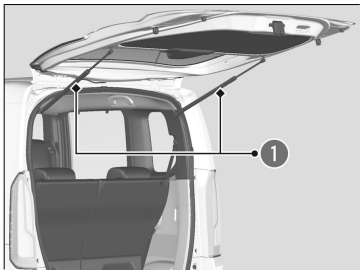
テールゲートの開閉時の注意

テールゲートを開閉する前に、必ず人や物がテールゲートから離れていることを確認してください。

- テールゲートは上までしっかりと開ける。
  ≫途中までしか開けていないと、自重で閉まることがあり、手などをはさむおそれがあります。
- 風にあおられてテールゲートが閉まらないようにする。
  ≫テールゲートにはさまれて、けがをするおそれがあります。

お子さまだけを車内に残さない。お子さまと一緒に車外に出て必ずドアをロックしてください。

- テールゲートを開けたまま走行しない。
  ≫テールゲートが破損するおそれがあります。
  ≫車内に排気ガスが侵入し、有毒な一酸化炭素などを吸い込むおそれがあります。
  Q 一酸化炭素について ►P.20
- Honda スマートキーは運転者が携帯してください。
- 作動範囲内に Honda スマートキーがある場合、携帯していない人がテールゲートを解錠できます。



テールゲートオープンステイに荷物などが接触しないように注意してください。

❶ テールゲートオープンステイ

⚠警告

テールゲートを閉めるときは、頭をぶつけたり手をはさまないようにする。

重大な傷害を負うおそれがあります。特にお子さまには気をつけてください。

⚠注意

エンジンをかけた状態で手荷物を出し入れするときは、排気管の後方に立たないようにする。

やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

カーゴスペース内に、人を乗せない。

ブレーキや加速、衝突のときにけがをするおそれがあります。

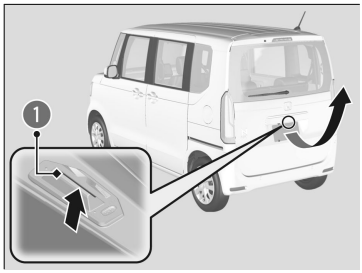
テールゲートの開閉方法

テールゲートハンドルを使った開閉方法

開ける場合の操作方法

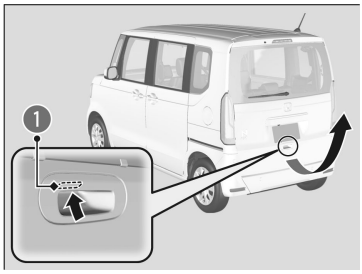
▼スロープ非装備車

ドアを解錠し、テールゲートハンドルを押して引き上げる。



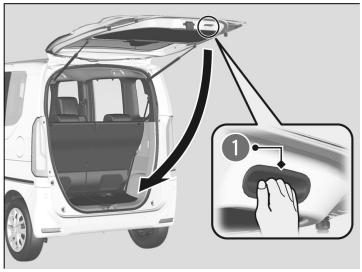
❶ テールゲートハンドル

▼スロープ装備車



❶ テールゲートハンドル

閉める場合の操作方法



テールゲートのインナーハンドルを持って引き下げ、外側より押して閉めます。

❶ インナーハンドル

スライドドア

スライドドア開閉時の注意

- スライドドアはストッパーで固定されるまでしっかりと開ける
  ≫途中までしか開けていないと、自重で閉まることがあります。
- Honda スマートキーを、車内に置き忘れないようにする。

⚠注意

スライドドアを開閉するときはドアの内側と外側の安全を十分に確認し、手、足、顔などをはさまないよう注意する。
特にお子さまには気をつけてください。

傾斜地ではスライドドアを開けたままにしない。

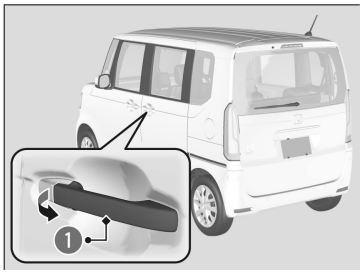
ドアハンドルをしっかり持って開閉する。
けがをするおそれがあります。

ドアのアームやレールなどには、手、足をかけない。

❗ 小さなお子さまが同乗しているときは、お子さまがスライドドアを誤って操作しないように、チャイルドプルーフをセットしてください。
Q チャイルドプルーフ ►P.62

スライドドアの開閉について

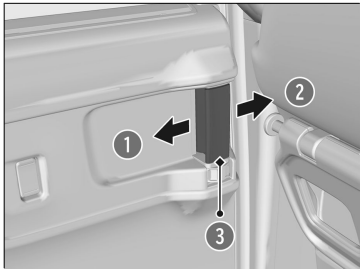
車外から開閉するとき



開けるとき： ドアハンドルを引き後方へスライドさせる。
閉めるとき： ドアハンドルを引き前方へスライドさせる。

❶ ドアハンドル

車内から開閉するとき

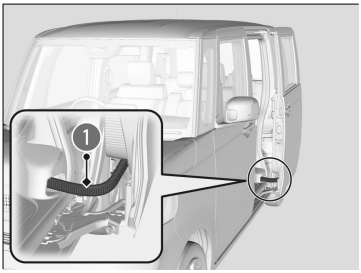


開けるとき： ハンドルを持ち後方へ引いてスライドさせる。
閉めるとき： ハンドルを持ち前方へ押してスライドさせる

❶ 開
❷ 閉
❸ ハンドル

フューエルリッドが開いているとストッパーが作動して途中で止まります。

スライドドアの内側にあるカバーおよび内部の電線が傷つくと、作動不良の原因となります。踏まないように注意してください。



❶ カバー

パワースライドドアの開閉操作

キーレスエントリーシステム、パワースライドドアスイッチやドアハンドルを使って自動で開閉することができます。

自動で開閉するときの条件

- メインスイッチが ON のとき
- パワースライドドアが解錠されているとき
- パワーモードが OFF モードのとき（キーレスエントリーシステムで開閉する場合）

坂道でパワースライドドアを途中停止させたままにすると、約 30 分後自動で傾斜方向に作動します。
パワースライドドアを自動開閉中に障害物を検知すると、はさみ込み防止機構によりパワースライドドアが反対側に動きます。このとき、ブザーが「ピーピーピー」と鳴ります。

作動しないとき

- パワースライドドアが作動中のときに、シフトポジションを P 以外の位置でブレーキペダルから足を離したり、パーキングブレーキを解除すると、ブザーが鳴ります。
- フューエルリッド側のスライドドアはフューエルリッドが開いている状態でパワースライドドアの操作を行うとブザーが鳴り作動しません。
- パワーモードが ON モードのときに、シフトポジションが P 以外の位置で、内側または外側のハンドル操作するとパワースライドドアはブザーが鳴り作動しません。

⚠警告

パワースライドドアを開閉するときは、ドアの内側と外側の安全を十分確認する。

ドアが動いているときは触ったり、近づいたりしないでください。ドアにはさまれて重大な傷害を受けるおそれがあります。 特にお子さまには気をつけてください。

⚠警告

ドアを開閉する前に、ドア付近に障害物がないことを必ず確認する。

はさみ込み防止機能は、万一のときに、障害物を検知して、ドアにはさまれてしまうことを防ぐためのものです。ドアにはさまれると重大な傷害を受けるおそれがあります。 特にお子さまには気をつけてください。

⚠注意

後輪タイヤを交換するときは、メインスイッチを OFF にする。

ON のままだと、誤ってメインスイッチに触れたりしてドアが開き、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

車両が完全に停止した状態でパワースライドドアを開閉する。

また乗り降りのときも車両が動き出さないように、確実にブレーキをかける。

パワースライドドアの開閉中や乗り降りのときに車両が動き出すと、思わぬ事故を起こすことがあります。

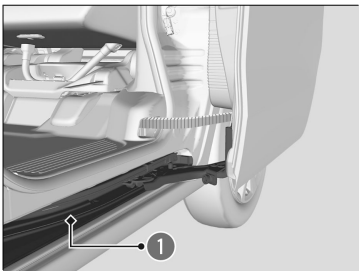
⚠注意

パワースライドドアに指などをはさみ込まないように注意する。

パワースライドドアを確実に閉め切るため、閉め切る直前の部分にはさみ込みを検知しないエリアがあります。

パワースライドドアのローラーの滑走面に石などの異物があると、作動不良になる場合があります。

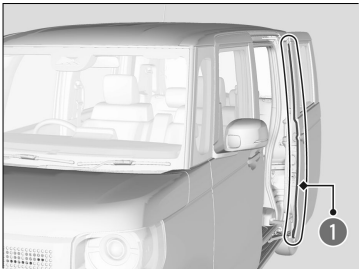
異物を取り除く場合は、水平な場所で必ずメインスイッチを OFF にして行ってください。



❶ ローラーの滑走面

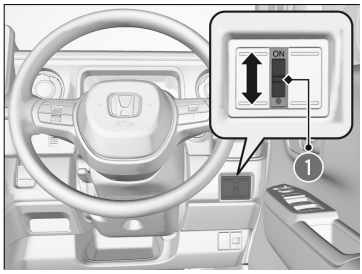
パワースライドドア前端にあるセンサーに触れない。

センサーに触れるとパワースライドドアが閉まりません。また、センサーを鋭利なものなどで傷つけないでください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。



❶ センサー部

自動開閉と手動開閉の切り換え

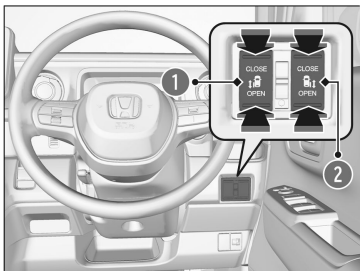


自動開閉： メインスイッチを ON にする
手動開閉： メインスイッチを OFF にする
スライドドアの開閉について ▶P.98

❶ メインスイッチ

> **!** 坂道などでドアを開閉中にメインスイッチを OFF にしないでください。
> 落下防止機構が作動し、ブザーが鳴り、スライドドアはゆっくりと傾斜方向へ移動します。
>
> **!** 落下防止機構が作動中は、再度メインスイッチを ON にして、ドアを自動で閉めてください。
> ドアハンドルを操作したり、メインスイッチの切り替えを繰り返した場合、落下防止機構が解除され、ドアが自動で動くことがあるので注意してください。

パワースライドドアスイッチで開閉する

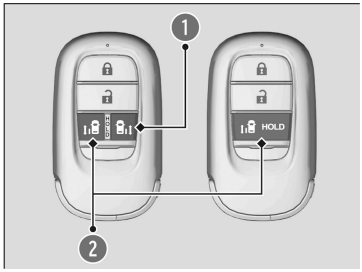


OPEN 側を押すと開き、**CLOSE** 側を押すと閉まります。
開閉中に動かしているドア側のパワースライドドアスイッチを押すと、ブザー音が鳴り、パワースライドドアは途中で止まります。
再度ドアの開閉をするには、同様の操作をします。

❶ 助手席側
❷ 運転席側✤

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

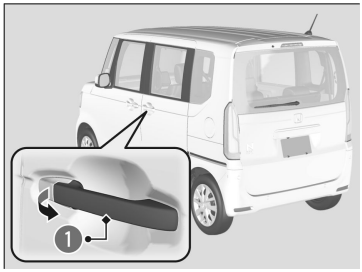
キーレスエントリーシステムで開閉する



❶ 運転席側パワースライドドアボタン✤
❷ 助手席側パワースライドドアボタン

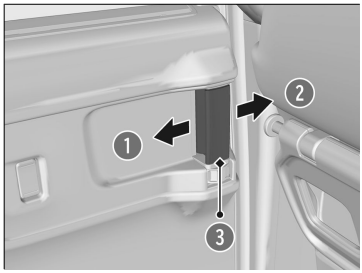
パワースライドドアボタンを約 1 秒以上押すと、自動で開閉することができます。
開閉中に動かしているドア側のパワースライドドアボタンを押すと、ブザーが鳴り、パワースライドドアは途中で止まります。再度ボタンを押すと反対側に動きます。

ドアハンドルで開閉する



❶ ドアハンドル

外側のハンドル
ハンドルを引くと自動で開閉することができます。
施錠されていても、Honda スマートキーを携帯してハンドルを引き、戻すと、自動的にすべてのドア、テールゲートが解錠されパワースライドドアが開きます。
開閉中にハンドルを操作するとブザーが鳴り、途中で止まります。
再度ハンドルを引くと反対側に動きます。



❶ 開
❷ 閉
❸ ハンドル

内側のハンドル
ハンドルを後ろ側に引くと自動で開き、前側に押すと自動で閉じます。
開閉中にハンドルを操作すると、ブザーが鳴り、途中で止まります。
再度ドアの開閉をするには、同様の操作をします。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

イージードアクローザー

スライドドアを半ドア状態の位置まで閉めると、自動的に閉まります。
パワースライドドアのメインスイッチの位置に関係なくイージードアクローザーが作動します。

- イージードアクローザー作動中にスライドドアのハンドルを引くと、作動が止まり半ドア状態のままになります。また、スライドドアのハンドルを引いたままドアを閉めると、イージードアクローザーは作動しません。

> ❗ 半ドア状態の位置からドアが自動的に閉まるため、手などをはさまないように注意してください。

> ❗ 故障の原因になるので、イージードアクローザーが作動しているときは、無理な力をかけないでください。

運転するときの操作

エンジンの始動・停止
ENGINE START/STOP スイッチ…… 106
エンジンの始動…… 107
エンジンの停止…… 108
こんなときは……108

シフト操作
シフトポジションについて……109

ブレーキ
フットブレーキ…… 112
パーキングブレーキ……112
オートマチックブレーキホールド…… 115
ABS（アンチロックブレーキシステム）……117
エマージェンシーストップシグナル…… 118

発進・走行中
発進時の操作……119

駐停車
駐停車の操作……121

リアワイドカメラ✤
リアワイドカメラについて……123

マルチビューカメラシステム✤
マルチビューカメラシステムについて……124
マルチビューカメラの使いかた……127

給油
指定燃料とタンク容量…… 132
給油のしかた……132

ウィンカー/ライト
ウィンカー（方向指示器）の操作方法……136
ヘッドライト・車幅灯…… 136

ワイパー・ウォッシャー
フロントワイパー・ウォッシャーの操作方法‥143
リヤワイパー・ウォッシャーの操作方法…… 144
こんなときは……144

デフロスター（くもり止め）
デフロスターの使用方法……146
こんなときは……147

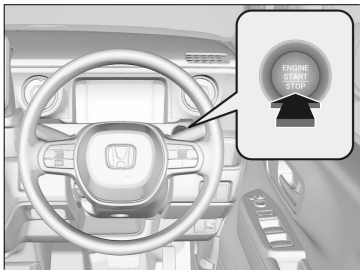
走行に関する機能
ECON モード……148
アイドリングストップシステム……148
VSA（ビークルスタビリティアシスト）…… 151
アジャイルハンドリングアシスト…… 153
4WD（四輪駆動機構）✤…… 153

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

エンジンの始動・停止

ENGINE START/STOP スイッチ

パワーモードの切り替え一覧



Honda スマートキーを携帯し、パワーボタンを押すごとにモードが切り替わります。

OFF モード（消灯）
すべての電源が OFF になる

アクセサリーモード
オーディオシステムなどのアクセサリーが使用できる

ON モード
すべてのアクセサリーが使用できる

- パワーモードが OFF モードからアクセサリーモードに切り換わらないときは、ハンドルロックを解除します。
  ≫ハンドルを左右に回しながら、**ENGINE START/STOP** を押してください。ハンドルロックが解除されます。

小物入れなど車両との通信に影響がある場所に Honda スマートキーが置かれている場合、パワーモードが切り換わらないことあります。

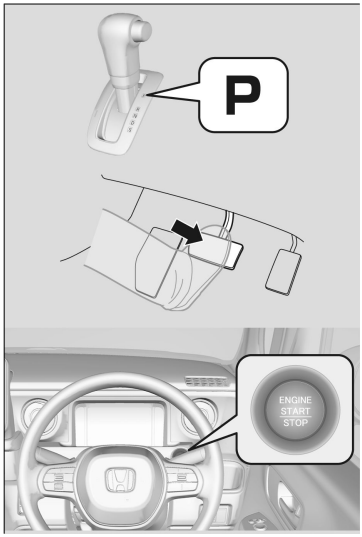
パワーモードオートオフ機能

シフトポジションが **P** でパワーモードがアクセサリーモードのときに数十分経過すると、12V バッテリー保護のため自動的にパワーモードが OFF モードになります。このときはハンドルはロックされません。またキーレスエントリーシステムおよび Honda スマートキーシステムによる施錠/解錠ができなくなります。**ENGINE START/STOP** を押してパワーモードを再度 OFF モードに切り換えてください。

パワーモード警告ブザー

パワーモードがアクセサリーモードの状態で、運転席ドアを開けた場合、警告ブザーが鳴ります。

エンジンの始動



［1］パーキングブレーキを確実にかける。
パーキングブレーキ ►P.112

［2］シフトポジションが P の状態でブレーキペダルを踏み、ENGINE START/STOP を押す。

- 寒いときのエンジンの始動は、12V バッテリーの消耗を防ぐためにライト、空調などの電気アクセサリーを OFF にしてください。
- Honda スマートキーが強い電波を受けていると、エンジンが始動しないことがあります。
- 緊急時を除き、ENGINE START/STOP を押し続けないでください。始動しない場合は、30 秒以上待ってから再度操作してください。
- エンジン冷却水の温度が低いときはメーター内の 低水温表示灯が点灯します。暖機を十分にした状態で、表示灯が点灯したままのときは、温度センサーなどの異常が考えられます。Honda 販売店で点検を受けてください。

⚠警告

12V バッテリー液が不足しているときは、エンジンを始動しない。
12V バッテリーが破裂するおそれがあります。

⚠注意

エンジンを始動するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。

❗ 思わぬ事故を防ぐため、始動時にアクセルペダルを踏まないでください。

エンジンの停止

車が完全に停車した状態でシフトポジションを P にし、 ENGINE START/STOP を押す。

こんなときは

Honda スマートキーの電池が切れているとき

起動するには、キーを ENGINE START/STOP にかざして直接認識させる必要があります。

スマートキーの電池が切れたときの始動方法 ►P.323

Honda スマートキーの電池は早めの交換をお勧めします。

スマートキーの電池交換方法 ►P.308

エンジンが始動しないとき

あらかじめ登録されたキーが必要です。

イモビライザーシステム ►P.51

Honda スマートキーをインストルメントパネル上、カーゴスペースやグローブボックス、ドアポケットなどの各種小物入れに置いた場合、電波状態によってはパワーモードの ON 機能が作動しないことがあります。

排気音が変わったり、車内でガソリンや排気ガスのにおいが消えないとき

排気系や燃料系の異常が考えられます。販売店で点検を受けてください。

ボンネット内からモーター音が聞こえたとき

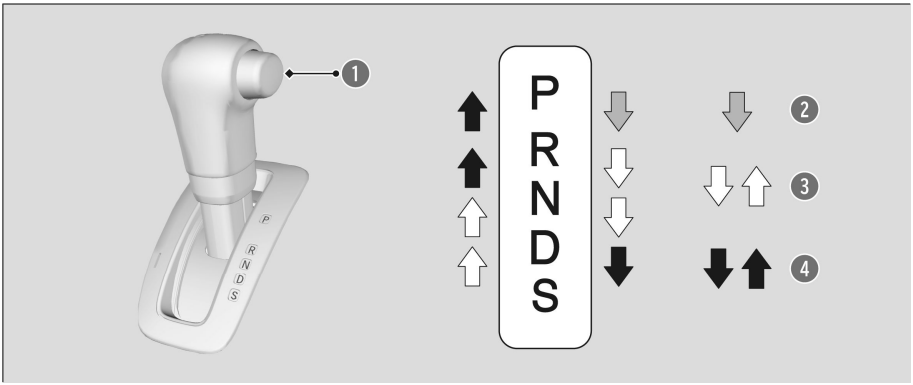
エンジンの始動直後や走行中にシステムチェックのため、ボンネット下からモーター音が聞こえることがあります。

ENGINE START/STOP を押しても電源が OFF にならないとき

シフトポジションを P にしてください。

シフト操作

シフトポジションについて



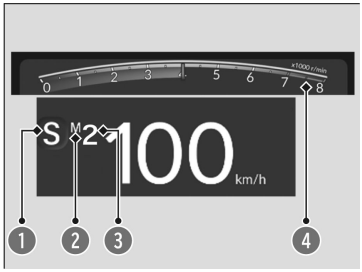
❶ シフトレバーボタン
❷ ブレーキペダルを右足で踏み、シフトレバーボタンを押して操作
❸ シフトレバーボタンを押さず、そのまま操作
❹ シフトレバーボタンを押して操作

P **パーキング：**駐車またはエンジン始動時に使用
R **リバース：**車を後退させるときに使用
N **ニュートラル：**駆動力を伝達させないときに使用
D **ドライブ：**通常走行時に使用
≫一時的に 7 速マニュアルシフトモード✤にするとき

S **ドライブ（S）：**上り坂や下り坂を走行時に使用
≫エンジンブレーキが強くなります。
≫7 速マニュアルシフトモード✤にするとき

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

メーターの表示



❶ シフトポジション表示灯/トランスミッション警告灯
❷ M（7 速マニュアルシフトモード）表示灯✤
❸ シフトインジケーター✤
❹ タコメーターのレッドゾーン

- シフト操作の前後に、シフトポジション表示灯とシフト操作表示を確認してください。
- 誤ってタコメーターのレッドゾーン（エンジンの限界回転数）以上で運転した場合、エンジン保護装置により燃料供給が停止されます。そのとき、軽い衝撃を感じることがあります。
- シフトレバーボタンを押したままブレーキペダルを踏んだ場合、レバーの操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでください。
- 外気温がマイナス 30 度以下とき、シフトポジションの表示が少し遅れることがあります。

⚠注意

シフトダウンする際の車速には、十分注意する。滑りやすい路面では、急激なエンジンブレーキがタイヤのスリップを招くことがあります。

トランスミッション警告灯が点滅しているときは、トランスミッションに異常があります。急加速を避け、Honda 販売店で点検を受けてください。

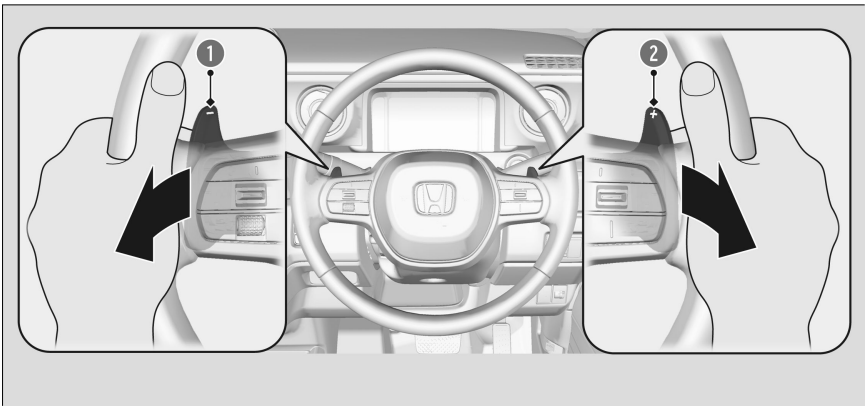
7 速マニュアルシフトモード✤

ハンドルにあるパドルで 1〜7 速まで変速することができます。走行中にパドルを引くと、7 速マニュアルシフトモードへ切り換わります。エンジンブレーキが必要なときにも、使用してください。

7 速マニュアルシフトモードの操作

1 回のパドル操作で 1 段変速します。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。



❶ −パドル：シフトダウン（低速段に変速）
❷ ＋パドル：シフトアップ（高速段に変速）

- 状況によりエンジンやトランスミッションを保護するために自動的にシフトアップやシフトダウンすることがあります。
- 運転状態によっては、7 速マニュアルシフトモードから通常走行に戻る場合があります。
- パドルを操作したとき操作後のエンジン回転数が許容範囲外になる場合は、エンジンやトランスミッションを保護するために変速せず表示灯が点滅します。

シフトポジションが D のとき

一時的に 7 速マニュアルシフトモードとなり、シフトインジケーターが点灯します。
定速走行になるとシフトインジケーターが消灯して、7 速マニュアルシフトモードが解除されます。また、＋パドルを数秒間引き続けても解除されます。
カーブの手前など、一時的に減速したいときに便利です。

シフトポジションが S のとき

7 速マニュアルシフトモードとなり、**M** 表示灯とシフトインジケーターが点灯します。

≫パドルを操作せずに車速が下がると低速段に自動的にシフトダウンし、停止すると 1 速にシフトダウンします。

≫車速が上がりエンジン回転数が限界回転数（レッドゾーン）に近づくと、自動的に 1 段シフトアップします。

発進は 1 速でのみ行うことができます。
シフトポジションを S から D に切り替えるとモードが解除され、**M** 表示灯とシフトインジケーターが消灯します。

ブレーキ

フットブレーキ

車の減速や停止をするためのブレーキで、ブレーキペダルで操作します。

水たまりを走行したときは、ブレーキの効き具合を確認してください。
効きが悪いときは、効き具合が戻るまでブレーキペダルを何回か軽く踏んでください。

ブレーキを踏んでいる間、絶えず金属的な摩擦音が聞こえる場合はブレーキパッドを交換が必要です。Honda 販売店で点検を受けてください。

下り坂ではブレーキペダルを踏み続けないでください。
ブレーキが過熱してブレーキの効きが低下する可能性があるため、エンジンブレーキを使用してください。

電子制御ブレーキアシスト

緊急制動時に、より大きな力を発生させ運転者のブレーキ操作を補助する装置です。ブレーキペダルを強く踏み込んだときに、ブレーキがより強く効くようになります。

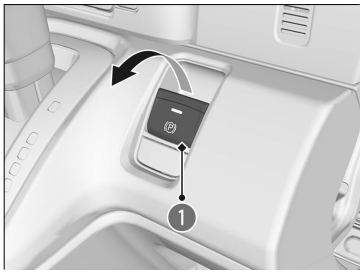
≫ブレーキアシストが作動すると、ペダルが小刻みに動いたり、作動音が聞こえたりすることがあります。

パーキングブレーキ

停車中や駐車時に使用するブレーキです。

- パーキングブレーキを操作すると作動音が聞こえます。
- パーキングブレーキを操作するとブレーキペダルが動くことがあります。
- 12V バッテリーがあがっているときは、パーキングブレーキは操作できません。
Q ジャンプスタートの方法 ►P.325
- 走行中にパーキングブレーキスイッチを引き続けると、その間はパーキングブレーキがかかります。

手動でパーキングブレーキをかける



パーキングブレーキスイッチ（❶）を引き上げる。

≫パーキングブレーキが作動すると、スイッチのインジケーターとブレーキ警告灯（レッド）が点灯します。

手動でパーキングブレーキを解除する

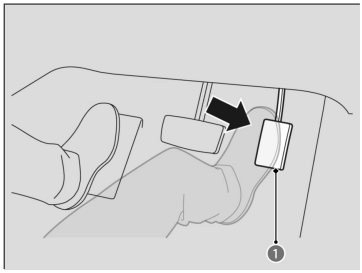


右足でブレーキペダルをしっかりと踏んだ状態で、パーキングブレーキスイッチ（❶）を押す。

≫スイッチのインジケーターとメーター内のブレーキ警告灯（レッド）が消灯します。

- パワーモードが ON モードのときに操作してください。
- 急な下り坂の発進時などに利用するとスムーズな発進を行うことができます。

自動でパーキングブレーキを解除する



アクセルペダル（❶）をゆっくりと踏み、車両を発進させる。

≫ブレーキ警告灯（レッド）が消灯します。

次の警告灯が点灯しているときは、自動解除できないことがあります。

- PGM-FI 警告灯
- トランスミッション警告灯
- ブレーキシステム警告灯（オレンジ）
- VSA 警告灯

- ABS 警告灯
- エアバッグシステム警告灯

> ❗ 運転席シートベルトを装着していない場合はパーキングブレーキは自動で解除されません。

自動パーキングブレーキ作動機能

パワーモードを OFF モードにすると自動でパーキングブレーキがかかります。
≫この機能は工場出荷時 OFF になっています。

自動作動機能の ON/OFF

パワーモードが ON モードのときに、以下の操作で ON と OFF が切り替わります。

[1] シフトポジションを P にする。
[2] ブレーキペダルを踏まずにパーキングブレーキスイッチを引き上げたままにする。
[3] 音が鳴り始めたら手を離し、3 秒以内に再びパーキングブレーキスイッチを引き上げる。
[4] 操作完了音が聞こえたらスイッチから手を離す。
≫ON:「ピーッ ピーッ」と鳴ります。
≫OFF:「ピー」と鳴ります。
≫パーキングブレーキの作動状態は、ブレーキ警告灯（レッド）で確認してください。

以下の状態のときは、パーキングブレーキが自動で作動します。

- 渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール（ACC）またはブレーキホールドシステムにより 10 分以上停車したとき
- 渋滞追従機能付 ACC またはブレーキホールドシステムによる停車中に運転席のシートベルトを外したとき
- 渋滞追従機能付 ACC またはブレーキホールドシステムによる停車中にパワーモードを OFF にしたとき
- ブレーキホールドシステム作動中にシステムに問題が発生したとき

> ❗ 寒冷時は、自動パーキングブレーキ作動機能を OFF にし、石などで輪留めをしてください。パーキングブレーキをかけると、凍結するおそれがあります。また、自車をけん引するなど、必要に応じて機能を OFF にしてください。

自動作動機能の一時 OFF

下記操作を行うと自動作動が一時的に OFF になります。

[1] ブレーキペダルを踏んで停車する。

[2] パワーモードを OFF モードにした後、2 秒以内にパーキングブレーキスイッチを押す。

≫自動作動機能の ON/OFF 設定は変わりません。

≫渋滞追従機能付 ACC、オートマチックブレーキホールドシステムが OFF の状態で行ってください。

≫パーキングブレーキの作動状態は、ブレーキ警告灯（レッド）で確認してください。

オートマチックブレーキホールド

停車中に、ブレーキペダルを踏み続けなくてもブレーキを保持する機能です。保持中にアクセルペダルを踏むと、自動でブレーキが解除されます。信号待ちや渋滞などの一時的な停車に適しています。

⚠警告

急な坂道やすべりやすい路面の場所では、ブレーキペダルから足を離さない。

急な坂道やすべりやすい路面の場所では、オートマチックブレーキホールドが作動していても、ブレーキペダルから足を離したときに車が動くことがあります。

不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

駐車をする目的でオートマチックブレーキホールドを作動させない。

不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

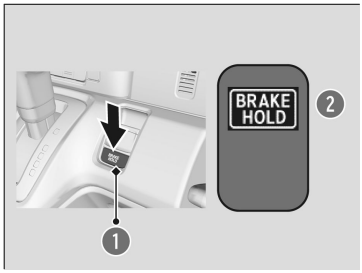
オートマチックブレーキホールドシステム作動中は絶対に車から離れないでください。駐車する際はシフトポジションを P にしてパーキングブレーキをかけてください。

オートマチックブレーキホールドを使用する際は、オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯するまでブレーキペダルから足を離さない。

不意に車が動くことにより衝突の原因となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

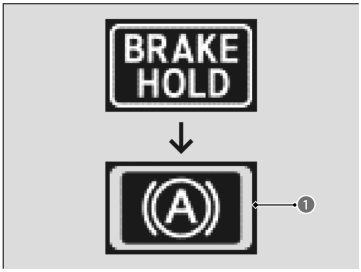
オートマチックブレーキホールド表示灯が点灯した後にブレーキペダルから足を離してください。

作動方法



［1］シートベルトを着用し、エンジンを始動してからオートマチックブレーキホールドスイッチ（❶）を押す。

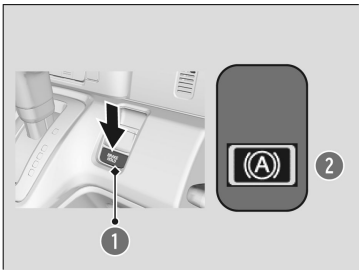
≫オートマチックブレーキホールドシステム表示灯（❷）が点灯し、システムが待機状態になります。



[2] シフトポジションが D、S、Nの状態で、ブレーキペダルを踏んで停車する。
≫オートマチックブレーキホールド表示灯（❶）が点灯し、ブレーキホールド機能が作動します。ブレーキペダルから足を離してください。
≫ブレーキホールド機能は、10 分間作動します。

❗ 自動洗車機を使用するときは、システムが OFF になっていることを確認してください。

システムの OFF



❶ を押すと、システムが OFF になります。
❷ が点灯しているときは、ブレーキペダルを踏みながら OFF にしてください。

ブレーキホールド機能が自動的に解除されるとき

- パーキングブレーキスイッチを引いたとき
- シフトポジションが P もしくは R で、ブレーキペダルを踏んでいるとき

以下のとき、ブレーキホールド機能が自動的に解除されてパーキングブレーキが作動します。

- 10 分以上ブレーキを保持したとき
- 運転席のシートベルトを外したとき
- パワーモードを OFF モードにしたとき
- オートマチックブレーキホールドシステムに問題が発生したとき

ABS（アンチロックブレーキシステム）

10km/h 以上で走行時に急制動したり、滑りやすい路面、未舗装路で制動するとき、車輪のロックを防止することで車両の姿勢を安定させ、ハンドルの効きを確保しようとするための装置です。

- ブレーキペダルを踏んだとき、ABS の作動によりブレーキペダルが小刻みに動いたり、車体が振動することがあります。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。
- ABS は、制動距離を短くするためのものではありません。路面が滑りやすいほど長い制動距離が必要になります。

> ABS を正常に機能させるために、タイヤは必ず指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

> 運転中に ABS 警告灯が点灯するときは、ABS が作動しない可能性があります。通常のブレーキ操作には支障はありませんが、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

エマージェンシーストップシグナル

60km/h 以上で走行中に急ブレーキをかけると非常点滅表示灯が高速で点滅し、後続車に急ブレーキを知らせます。
以下の場合、エマージェンシーストップシグナルが停止します。

- ブレーキペダルを離したとき
- ABS が停止したとき
- 急減速でなくなったとき
- ハザードスイッチを ON にしたとき

> エマージェンシーストップシグナルは、追突されるおそれを低減するシステムであり、追突を完全に防ぐものではありません。運転するときは不必要な急ブレーキを避け、安全運転を心がけてください。

発進・走行中

発進時の操作

ブレーキペダルを踏みながらシフトポジションを選択し、ブレーキペダルを徐々に離して、アクセルペダルをゆっくりと踏んで発進してください。

≫パーキングブレーキは自動で解除されます。パーキングブレーキスイッチの操作でも解除することができます。

パーキングブレーキ ►P.112

⚠注意

アクセルペダルを踏んだまま、シフトポジションを操作しない。

急発進して思わぬ事故の原因となります。

走行中はシフトポジションを N にしないでください。エンジンブレーキが効かず、思わぬ事故の原因となります。

走行中はエンジンを停止しないでください。下記の状態になり危険です。

- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効きが悪くなる
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる

1,000km 走行するまでは、エンジンや駆動系の保護のため急発進、急加速を避け、控えめな運転をしてください。

滑りやすい路面やカーブでは、アクセルペダルは特に慎重に操作してください。

ヒルスタートアシストシステム

ヒルスタートアシストは、ブレーキペダルからアクセルペダルに足を移す際に車両が傾斜で後退するのを防ぐため、一時的にブレーキを保持します。

≫非常に急な坂では車両が後退することがあります。また緩やかな傾斜では作動しません。

クリープ現象

シフトポジションがD、S、またはRのときは、アクセルペダルを踏まなくても車がゆっくり動き出します。

≫停車時はブレーキペダルをしっかりと踏むか、オートマチックブレーキホールドが作動していることを確認してください。

オートマチックブレーキホールド ►P.115

キックダウン

シフトポジションがD、Sで走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、低い変速比になり力強く加速します。

≫滑りやすい路面やカーブに注意し、アクセルペダルは慎重に操作してください。

駐停車

駐停車の操作

[1] ブレーキペダルをしっかり踏んで車両が停止したことを確認する。
[2] ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキスイッチをゆっくりと確実に引き上げる。
[3] シフトポジションを P にし、エンジンを停止する。

⚠警告

駐車時はエンジンを停止する。
万一、シフトポジションが P ・ N 以外に入っていた場合、クリープ現象により車が動き出したり、乗り込む際に誤ってアクセルペダルを踏み、急発進するおそれがあります。

⚠注意

停車中は不必要にアクセルペダルを踏み込まない。
万一、シフトポジションが P ・ N 以外の場合、思わぬ急発進のもとになります。

坂道に駐車をするときは、かならずパーキングブレーキをかけてください。

以下を行うと、駆動系が損傷する原因となります。
- アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏む
- 車が完全に止まらないうちに P に入れる
- 上り坂で、アクセルを調節しながら車を停車させる

燃えやすいものがあるところには駐停車しないでください。排気管や排気ガスの熱により、着火するおそれがあります。

寒冷時は、パーキングブレーキをかけずに、輪留めをしてください。
路面の凍結によって車が動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

リアワイドカメラ✤

リアワイドカメラについて

取り扱いについては、ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

マルチビューカメラシステム✤

マルチビューカメラシステムについて

運転席から死角となる部分を、画面に映る画像で確認することができます。このシステムを補助的に使用することで、次のような場合に運転者の負担を軽減します。

- 見通しの悪い交差点で左右を確認する
  前方を確認するには ►P.127
- 狭い道でのすれ違いや路肩への幅寄せ、車庫入れなどで前方の障害物を確認する
  前方を確認するには ►P.127
  前方側面を確認するには ►P.128
- 後方の障害物を確認する
  後退時に後方を確認するには ►P.129

⚠警告

周囲の安全は、マルチビューカメラシステムの画像だけに頼らず、目視やミラーなどで直接確かめてください。

このシステムは運転者の操作をサポートするためのものであり、事故や衝突を防止するためのシステムではありません。

運転操作時は、必ず目視やミラーなどで後方および周囲の安全を直接確認して運転してください。

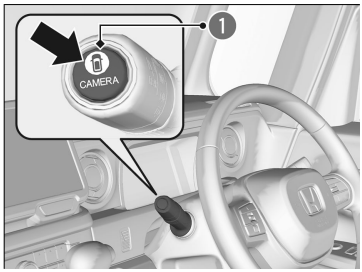
状況によっては、表示できない可能性があるため、画面の表示のみを頼って操作すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

事故防止のため、周囲の安全を確かめてご使用ください。

❗ シフトポジションを R に入れたときに後方の映像が表示されない場合は、システムの故障が考えられます。ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

カメラ画像の表示のしかた



前方表示：シフトポジションが R 以外のときに CAMERA スイッチ（1）を押します。

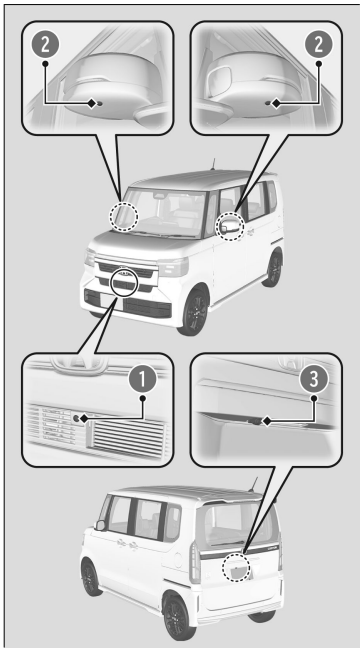
後方表示：停車中にシフトポジションを R にします。

- パーキングセンサーが障害物を検知するとインジケーターが表示されます。

パーキングセンサーシステムについて ►P.242

表示設定はカスタマイズできます。ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

カメラの設置場所について



カメラは特殊なレンズを使用しています。そのため、画面上の距離と実際の距離が異なって見えたり、対象物が変形して表示されることがあります。車両から離れるほど、その傾向は強くなります。また、死角になる部分は黒く表示されます。

- レンズに汚れ、氷、霜などが付いたときは、水や中性洗剤などを使用して柔らかい布でふき取ってください。またカメラのレンズには、撥水剤やワックスなどの有機溶剤を付着させないようにしてください。

❶ フロントカメラ
❷ サイドカメラ
❸ リアカメラ

目安ガイド線と予測ガイド線表示

システムが起動しているとき、以下のガイド線が表示されます。

- 目安ガイド線：車両からの距離を表示することができます。
- 予測ガイド線：ハンドル操作に応じて、車両の動く方向を表示することができます。

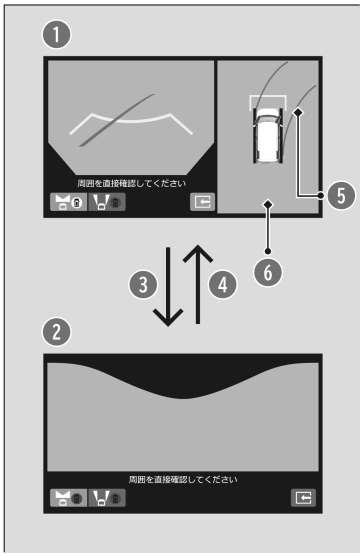
> ❗ 目安ガイド線と予測ガイド線は、あくまでも参考としてお使いください。
> 目安ガイド線、予測ガイド線とカメラ画像が示す距離は、車高の変化や路面の状態の影響などにより、実際の距離と異なることがあります。

⚙ 目安ガイド線および予測ガイド線はカスタマイズにより表示/非表示を切り換えることができます。ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

マルチビューカメラの使いかた

前方を確認するには

CAMERA スイッチを押すと前方画面が表示できます。

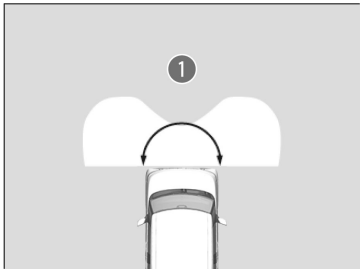


❶ フロントビュー+グラウンドビュー
❷ フロントブラインドビュー
❸ 、または
❹ 、または
❺ 予測ガイド線：ハンドルを 90 度以上きったとき、車両の外側から約 35cm の位置に表示されます。
❻ グラウンドビュー画面：車両の周囲を表示します。4 台のカメラでとらえた合成画像で、車両を真上から見たイメージで表現されます。

、、または CAMERA スイッチで前方側面の画面表示に切り替わります。

- 車速が 25km/h を超えると前方画面は自動的に表示が切り替わります。
- ドアミラーを格納してもグラウンドビューは表示されますが表示エリア、死角が異なります。

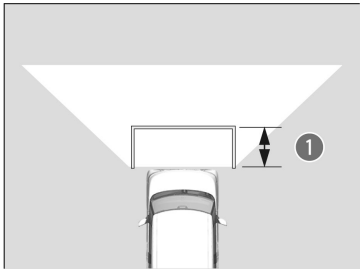
カメラの表示範囲



フロントブラインドビュー画面の表示範囲（❶）は、約 180 度です。
車両前方の左右を表示して、見通しの悪い交差点の左右を確認できます。

≫広い範囲を映すため、画像は大きくゆがんで表示されます。また障害物との距離が実際より近くまたは遠くに見えることがあります。

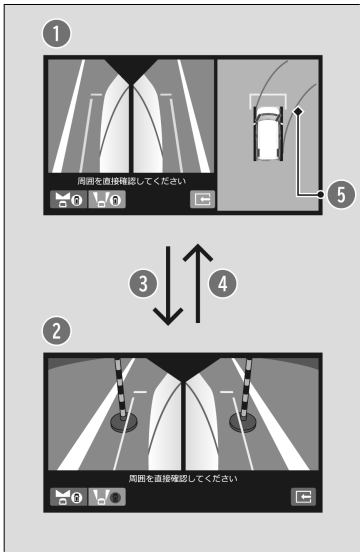
ガイド線の距離



ガイド線の距離（❶）は、約 1.0m です。

前方側面を確認するには

前方画面の表示中に、、、または スイッチで前方側面の表示に切り替えます。

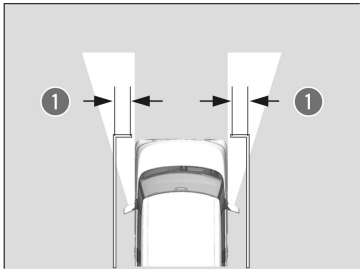


❶ サイドビュー+グラウンドビュー
❷ サイドビュー
❸ 、または
❹ 、または
❺ 予測ガイド線：ハンドルを 90 度以上きったとき、車両の外側から約 30cm の位置に表示されます。

、または で前方の画面表示に切り替わります。

- 車速が 25km/h を超えるとサイドビュー画面は自動的に表示が切り替わります。
- ドアミラーを格納してもグラウンドビューは表示されますが表示エリア、死角が異なります。
- サイドビューは、ドアミラーを格納しているときは表示されません。

ガイド線の距離

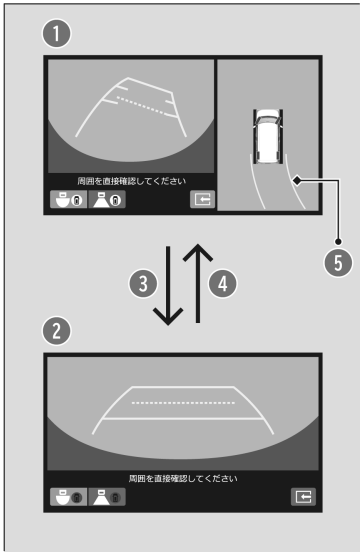


サイドカメラの画像で車両の前方側面を表示します。
ガイド線の距離（❶）は、車両外側から約 30cm です。

後退時に後方を確認するには

シフトポジションを R にすると、後方画面表示に切り換わります。
≫シフトポジションを R に切り換えたときに、後方画面表示が遅れて切り換わることがあります。

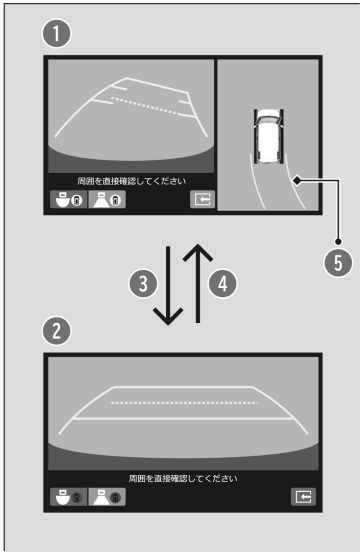
リアワイドビュー



❶ リアワイドビュー+グラウンドビュー
❷ リアワイドビュー
❸ 、または
❹ 、または
❺ 予測ガイド線：ハンドルを 90 度以上きったとき、車両の外側から約 35cm の位置に表示されます。

、、または スイッチで、後方の画面表示（リアビュー）に切り替わります。

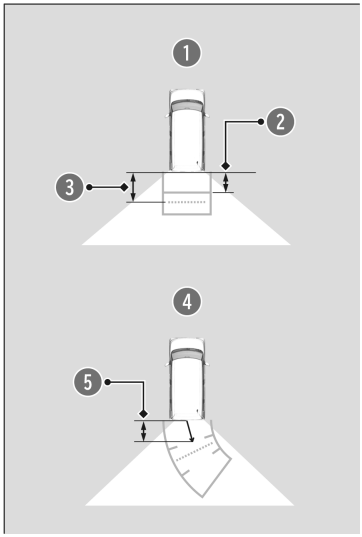
リアビュー



❶ リアビュー+グラウンドビュー
❷ リアビュー
❸ 、または
❹ 、または
❺ 予測ガイド線：ハンドルを 90 度以上きったとき、車両の外側から約 35cm の位置に表示されます。

、、または スイッチで、後方の画面表示（リアワイドビュー）に切り替わります。

ガイド線の距離



❶ 目安ガイド線の距離
❷ 約 0.6m
❸ 約 1.4m（テールゲートを開いたときの目安距離）
❹ 予測ガイド線の距離
❺ 約 1.1m

画面の調整

画面の明るさ調整については、ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

マルチビューカメラシステムの制限

以下の条件でカメラ画像が不鮮明になることがあります。 その場合は目視やミラーで直接周囲を確認してください。

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき、または周囲が暗いとき
- カメラが高温になったとき
- トンネルの出入り口などで明るさが変化したとき
- 夜明けや夕暮れ時に太陽に向かって走行するとき

以下の場合は、Honda 販売店にご相談ください。

- 予測ガイド線が不正確な状態になったとき
- カメラのレンズに傷がついたとき
- カメラもしくはその周囲に強い衝撃が加わったとき
- マルチビューカメラシステムを使用中に画面にエラーメッセージが表示されたとき
- カメラの映像が画面に表示されないとき

給油

指定燃料とタンク容量

指定燃料

- **無鉛レギュラーガソリン**
- **レギュラーバイオ混合ガソリン（E10/ETBE22）**

> ❗ 指定燃料以外の燃料（粗悪ガソリン、軽油、灯油等）を補給したり、不適切な燃料添加剤を使用しないでください。触媒装置、エンジンや燃料系などの損傷や悪影響を与えるおそれがあります。
> プレミアムガソリンも使用できますが、本来のエンジン性能が大きく変わることはありません。

タンク容量

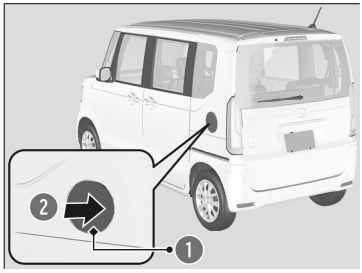
▼ 2WD 車

- 27 リットル

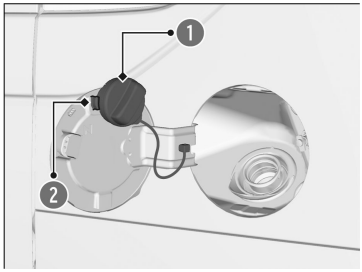
▼ 4WD 車

- 25 リットル

給油のしかた



[1] 助手席側に給油機がくるように停車する。
[2] パワーモードを OFF にし、運転席ドアを解錠する。
≫フューエルリッド（❶）が解錠されます。
[3] フューエルリッドの端（❷）を音がするまで押し、手を離すとリッドが少し浮き上がります。



[4] ツマミをゆっくり回し、フューエルキャップ（❶）を開ける。
[5] キャップをホルダー（❷）にかける。

[6] 給油ノズルを奥まで差し込み、給油する。
[7] 給油後、「カチッ」という音が 1 回以上するまでキャップを締め、フューエルリッドを閉める。

⚠警告

燃料補給時は火気厳禁。

燃料や燃料蒸気は引火しやすいため火災や爆発のおそれがあります。燃料を扱っているときは下記の項目を厳守してください。

- エンジンは常に停止させる
- 炎、火花を近づけない
- たばこを吸わない
- 燃料の取り扱いは屋外で行う
- こぼれた燃料はすみやかに拭き取る

燃料補給作業は、フューエルキャップを開ける前に車体などの金属に触れて身体の静電気を除去してから行う。

静電気の放電による火花により気化したガソリンに引火し、やけどを負うおそれがあります。

⚠注意

キャップはゆっくり開ける。
急激に開けると燃料補給口より吹き返しが発生し、火災になるおそれがあります。

給油ノズルの自動停止後は、追加補給しない。
気温などの変化により燃料があふれ、火災になるおそれがあります。

キャップが確実に閉まっていることを確認する。
閉まっていないと燃料がもれ、火災になるおそれがあります。

気温などの変化により燃料があふれないように、タンク容量に達すると燃料タンクに空間を残して給油ノズルの自動停止がはたらくようになっています。
自動停止後に追加補給をすると、燃料が満タン容量以上に入ることがあります。

ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。

「シュー」という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。

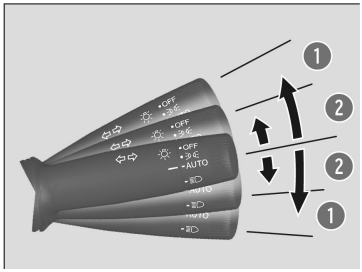
燃料補給は、静電気を放電した人のみで行ってください。
燃料補給中に車内に戻ると、再び帯電することがあります。再度、静電気を放電してください。

燃料蒸気を吸わないでください。有害物質を含んでいる場合があります。

Honda 純正以外のキャップを使わないでください。
純正品を使用しないと、火災などを起こすおそれがあります。

ウィンカー/ライト

ウィンカー（方向指示器）の操作方法



方向指示器（1）

ウィンカースイッチを上下に操作します。

≫メーター内の ◀▶ 方向指示器表示灯が点滅します。

ワンタッチターンシグナル（2）

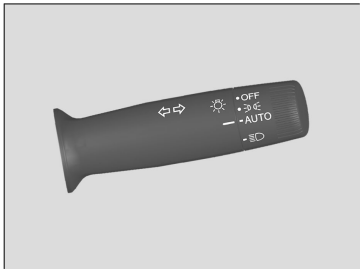
レバーを軽く押し下げ/押し上げて放すと、方向指示器が 3 回点滅します。

≫点滅中にレバーを反対方向に軽く押して放すと点滅が停止します。

ワンタッチターンシグナルの ON/OFF 設定を変更することができます。

時計*/車両設定 ►P.266

ヘッドライト・車幅灯



車外の明るさに応じて自動で点灯します。手動で点灯/消灯させることもできます。

≫メーター内の ≡D◇ ライト点灯表示灯が点灯します。

手動点灯/消灯

ヘッドライト・車幅灯：

ライトスイッチを ≡D にします。

車幅灯の点灯：

車幅灯が点灯するまでライトスイッチを ≡D◇ にして放します。

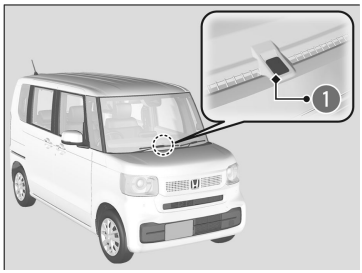
≫ヘッドライトは車外の明るさに応じて自動点灯します。
≫停車中にライトスイッチを [ ] に切り替えるとヘッドライトは消灯します。走行を開始するとヘッドライトの自動点灯が再開します。
≫車幅灯の自動点灯を再開するにはスイッチを [ ] にしたあと、[AUTO] にします。

車幅灯が点灯しているときはアクセサリーランプ✤、尾灯、番号灯も点灯します。

ヘッドライト・車幅灯の消灯：

シフトポジションが [P] もしくはパーキングブレーキをかけて停車しているとき、消灯するまでライトスイッチを [OFF] にして放します。

≫発進すると車幅灯の自動点灯が再開します。低速でしばらく走行するか一定以上の車速で走行するとヘッドライトの自動点灯が再開します。



照度感知センサーは、図の位置にあります。

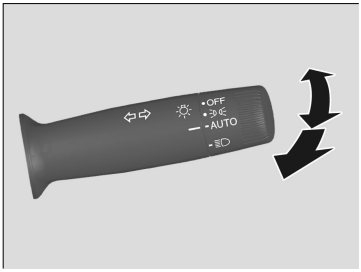
❶ 照度感知センサー

> ❗ エンジンが停止しているときにライト類を点灯したままにしないでください。
> • 運転席のドアを開けたときにライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。
> • 12V バッテリーあがりの原因となります。

> ❗ ヘッドライト光軸の異常を感じたときは Honda 販売店で点検を受けてください。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ハイビーム



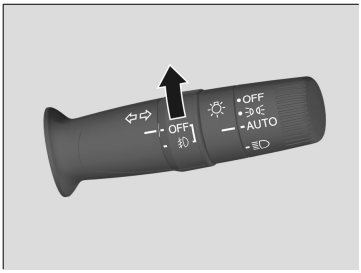
ヘッドライトが点灯しているとき、レバーを前方に押すとハイビームに切り換わります。手前に引くとロービームに戻ります。
ハイビームが点灯しているときは、メーター内の ハイビーム表示灯が点灯します。
- パッシングレバーを手前に引き、離します。

ヘッドライトオートオフ機能

パワーモードを OFF モードにして、Honda スマートキーシステムおよびキーレスエントリーシステムですべてのドア、テールゲートを施錠すると、ヘッドライト、車幅灯、アクセサリーランプ✤、尾灯、番号灯やインストルメントパネルの照明が消灯します。

≫運転席ドアを開けると再び点灯し、ライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。ライトスイッチを AUTO にしているときはパワーモードを OFF モードにすると消灯します。

フォグライト✤



メーター内の インジケーターが点灯しているときに、フォグライトスイッチを回すと点灯します。
メーター内の フォグライト点灯表示灯が点灯します。

デイタイムランニングライト

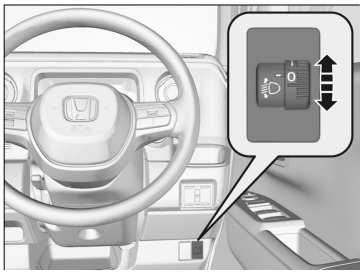
デイタイムランニングライトは以下の条件をすべて満たしたときに点灯します。
- パワーモードが ON モード
- 車両の周囲が明るい
- ヘッドライトが消灯している

消灯するには、停車しているときに消灯するまでライトスイッチを OFF にして手を放します。
車両を発進させると再び点灯します。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

デイタイムランニングライトが点灯しているときは尾灯、アクセサリーランプ✤も点灯します。

ヘッドライトレベリングダイヤル



車幅灯が点灯しているとき、ヘッドライトの照らす方向（光軸）を下向きに調節することができます。光軸の調節はダイヤルを回して行います。ダイヤルの数字が大きいほど光軸は下向きになります。

ダイヤル位置の目安

乗員の人数や荷物の量に応じて、下記を目安にダイヤル位置を選択してください。
0: 運転席のみ乗車時/運転席と助手席に乗車時
1: 4 名乗車時/3 名乗車時（車いす利用者を含む）※1
2: 4 名乗車時でカーゴスペース満載時
3: 運転席のみ乗車でカーゴスペース満載時
車検などで光軸調節をするときは、ダイヤルを**0**の位置に戻してから行ってください。

※1: スロープ装備車

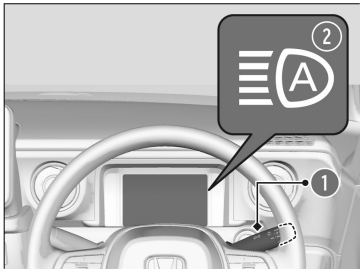
オートハイビーム

夜間走行時にフロントワイドビューカメラで前方車両のライトや街灯などを検知し、状況に応じてヘッドライトのハイビームとロービームを自動で切り換えるシステムです。

オートハイビームの使いかた

システムの作動
以下の条件をすべて満たすとオートハイビーム表示灯が点灯し、オートハイビームが作動します。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。



- パワーモードが ON モード
- ライトスイッチが AUTO の位置
- レバーがロービームの位置
- ヘッドライトが自動で点灯している
- 車両の周囲が暗い

❶ ライトスイッチ
❷ オートハイビーム表示灯

上記の条件を満たしていてもオートハイビーム表示灯が点灯しないときは、続けて以下のいずれかの操作を行うことで、オートハイビーム表示灯が点灯します。

- レバーを手前（パッシングの位置）に引いた後すぐに手を放す
- ライトスイッチを ≡D に回したあと、AUTO に戻す

> ❗ オートハイビームはあらゆる状況で作動する機能ではありません。あくまでも運転者をアシストするための機能です。常に周囲の状況を確認し、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切り換えてください。

カメラが認識できる範囲や距離は周囲の状況により変化します。
フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

フロントワイドビューカメラ ►P.195

オートハイビームを正しく動作させるために次のことをお守りください。

- インストルメントパネルの上に光を反射するものを置かない
- カメラ付近のガラスはきれいにしておく
- フロントガラスのお手入れのときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにする
- カメラ付近のガラスにアクセサリー、ステッカーやフィルムを取り付けない
- カメラのレンズに触れない

> ❗ **カメラに強い衝撃が加わったときやカメラ周辺の修理を行うときは Honda 販売店にご相談ください。**

⚙ オートハイビームの ON/OFF 設定を変更することができます。

時計✥/車両設定 ►P.266

次のような場合、ヘッドライトの切り換えタイミングが変化したり適切に切り換えが行われない場合があります。運転者の感覚に合わない場合は手動で切り換えを行ってください。

- 対向車や先行車のランプが明るい場合や暗い場合、片側点灯や無灯火の場合
- 天候の状況（雨、雪、霧、フロントガラスの霜など）
- 周囲にある街灯、電光掲示、信号機などの光源が明るいとき
- 周囲の明るさが連続的に変わるとき
- カーブが多い道、起伏の激しい道路を走行しているとき
- 前方の車両が突然現れたり、適切な方向を向いていないとき
- 車両後部に重い荷物を積んで車が傾いているとき
- 車両前方に標識やミラーなどの光を強く反射するものがあるとき
- 中央分離帯、街路樹などで対向車が見え隠れするとき
- 対向車や先行車が二輪車、自転車などのとき

フロントワイパーが高速（HI）作動しているとき、または、フロントワイドビューカメラが濃霧と判断しているときは、ロービームが継続します。

ハイビーム/ロービームの自動切り換え

オートハイビーム表示灯が点灯しているとき、以下の条件によりハイビームとロービームが自動で切り換わります。

ハイビーム

以下の条件をすべて満たすとハイビームに切り換わります。

- 車速が 30km/h 以上
- 前方にライトを点灯した車両がいない
- 前方に街灯などの光が少ない

ロービーム

以下の条件のいずれかを満たすとロービームに切り換わります。

- 車速が 24km/h 以下
- 前方にライトを点灯した車両がいる
- 前方に街灯などの光が多い

ハイビーム/ロービームの手動切り換え

ハイビームとロービームを手動で切り換えたい場合は、以下のいずれかの操作を行ってください。このとき、オートハイビーム表示灯が消灯し、オートハイビームが停止します。

レバーによる操作：

レバーを手前（パッシングの位置）に引いた後すぐに手を放す。

≫オートハイビームを復帰させる場合は、以下のいずれかの操作を行ってください。

- レバーを手前（パッシングの位置）に引いた後すぐに手を放す
- レバーがロービームの位置のときにライトスイッチを ≡D に回した後、 AUTO に戻す

このとき、オートハイビーム表示灯が点灯します。

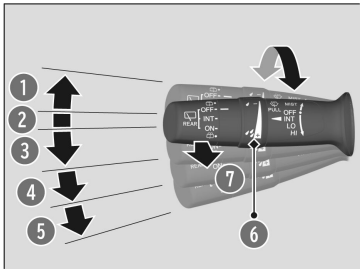
ライトスイッチによる操作：

ライトスイッチを [≡D] に回す。

≫オートハイビームを復帰させる場合は、レバーがロービームの位置のときにライトスイッチを [AUTO] に戻してください。このとき、オートハイビーム表示灯が点灯します。

ワイパー・ウォッシャー

フロントワイパー・ウォッシャーの操作方法



❶ MIST
レバーを押し上げている間、高速で作動します。霧や小雨のときに使用します。

❷ ワイパースイッチ OFF（停止）
❸ ワイパースイッチ INT（間欠）
雨量が少ないときに使用します。

❹ ワイパースイッチ LO（低速）
普通の雨量のときに使用します。

❺ ワイパースイッチ HI（高速）
雨量が多いときに使用します。

❻ 間欠時間の調節
リングを回して、ワイパーの間欠時間を調節します。
[-]：間欠時間が長い
[+]：間欠時間が短い

❼ ウォッシャー
レバーを手前に引くと、ウォッシャー液が噴射します。レバーを 1 秒以上引くとワイパーが作動します。レバーを放すと数回ワイパーが作動して止まります。

⚠注意

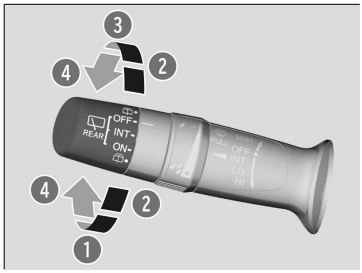
寒冷時はフロントガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射させない。
ウォッシャー液が凍りついて視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- 間欠作動中は、車速が速くなると間隔が停止時より数秒短くなります。 間欠時間を短いほうにいっぱいに回っている状態で車速が速くなると、ワイパーが間欠から低速作動に切り換わります。

ワイパーを乾拭きさせないでください。
ガラスが傷付いたりブレードラバーを傷めたりします。

ウォッシャー液が出ないときは、スイッチを切ってください。
ポンプ故障の原因となります。

リヤワイパー・ウォッシャーの操作方法



❶ リヤワイパースイッチ **OFF**（停止）
❷ リヤワイパースイッチ **INT**（間欠作動）
❸ リヤワイパースイッチ **ON**（低速作動）
❹ ウォッシャー

スイッチを まで回すと、ウォッシャー液が噴射します。スイッチを回している間はワイパーが作動し、スイッチを放すと数回ワイパーが作動して止まります。

- フロントワイパー作動中にシフトポジションを R にするとリヤワイパーが連動します。

こんなときは

ワイパーが動かないとき

ワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。ワイパーモーターの負荷が大きい状態が続いたときなどは、ブレーカーが作動し一時的にワイパーが停止することがあります。数分経過すると、ブレーカーが復帰し、通常通り使用できるようになります。

寒冷時、凍結によりワイパーブレードがガラスに張りつくとき

デフロスターでフロントガラスを暖めてから、ワイパーを作動させてください。
デフロスターの使用方法 ►P.146

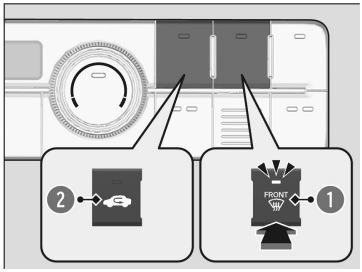
ワイパーに雪がたまっているとき

雪などがたまりワイパーが停止したときは、安全な場所に停車してください。ワイパースイッチを OFF、パワーモードをアクセサリーモードまたは OFF モードにしてから、ワイパーが作動できるように障害物を取り除いてください。

デフロスター（くもり止め）

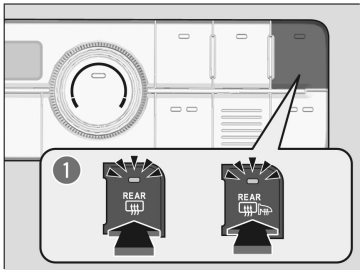
デフロスターの使用方法

フロント・サイドガラスのくもりを取りたい場合



フロント・サイドガラスのくもりを取りたい場合スイッチ（❶）を押すとエアコンが作動し、自動的に外気導入（❷の表示灯が消灯）に切り換わります。
スイッチ（❶）をもう一度押すとくもり止めが停止し、前の状態に戻ります。

リヤデフロスター/ヒーテッドドアミラー✤



スイッチ（❶）を押すと、リヤガラスとドアミラー✤を暖め、くもりをとることができます。

- 外気温に応じて約 10～30 分経過すると、システムは自動的に停止します。ただし、外気温が 0℃以下のときは自動的に停止しません。
- アイドリングストップ中に FRONT を押すと、エンジンが自動的に再始動します。

> ❗ 安全のため、運転する前に視界が確保されていることを確認してください。

> ❗ 霜が取れたら、ただちに外気導入に切り換えてください。
> 内気循環で使い続けると車内の湿気で窓ガラスがくもり、視界の妨げになります。

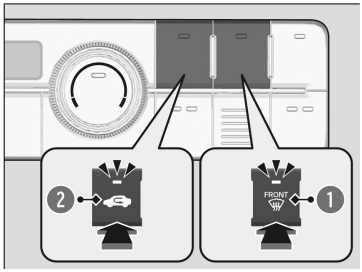
✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

設定温度を最大冷房付近にしないでください。
冷風が前面ガラスに当たると、ガラスの外側がくもることがあります。

消費電力が大きいため、曇りが取れたら OFF にしてください。12V バッテリー容量が低下し、エンジン始動に影響することがあります。

こんなときは

急速に霜を取りたいとき



［1］スイッチ（❶）を押す。
［2］スイッチ（❷）を押す。

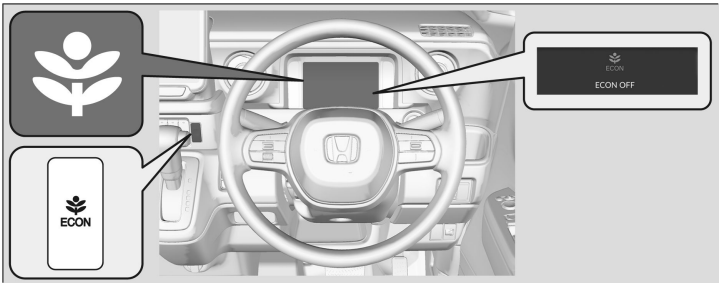
側面ガラスがくもったとき

吹き出し風が側面ガラスに当たるよう、側面吹き出し口を調節してください。

走行に関する機能

ECON モード

ECON モードは、省燃費運転をしやすくなるように制御します。
≫パワーモードを ON モードにしたときは、常に ECON モードが ON になります。
≫ECON モードの ON と OFF を切り替えるには、ECON スイッチを押します。

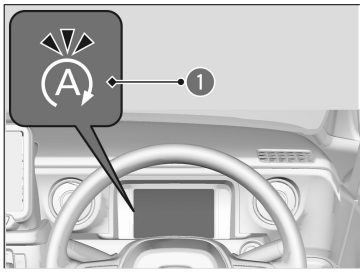


- ECON モードにするとエアコンの効きが弱くなり加速の応答性が低くなります。
- ECON スイッチを押すと、アイドリングストップシステムの作動が停止し、メーター内の ECON 表示灯が消灯します。
- アイドリングストップ中に、スイッチを押すとエンジンが再始動し、アイドリングストップシステムは作動停止状態になります。このときアイドリングストップシステム表示灯（グリーン）は消灯します。
- 運転状況などによってはモードの変更ができない場合があります。また、車両に異常があるときなどもモードの変更ができません。

アイドリングストップシステム

燃費向上やアイドリング騒音低減のために、環境や車両の状態によりエンジンが自動的に停止します。
停車する直前もしくは停車時にブレーキペダルを踏んでいるとアイドリングストップします。

≫オートマチックブレーキホールドシステムが ON のときは、ブレーキペダルをしっかり踏んで車両を停止させるとアイドリングストップします。
≫オートマチックブレーキホールドによるブレーキ保持中は、ブレーキペダルを離してもアイドリングストップが継続します。
≫アイドリングストップ中にシフトポジションを素早く P にした場合、ブレーキペダルを離してもアイドリングストップは継続します。ブレーキペダルを踏むと、エンジンが自動的に再始動します。
≫停車直前でアイドリングストップしたとき、ブレーキペダルの踏み具合によってはエンジンが再始動します。 ブレーキペダルを踏みこむと再びアイドリングストップすることがあります。



アイドリングストップ中は、アイドリングストップ表示灯（グリーン）（❶）が点灯します。
発進操作などでエンジンが再始動すると表示灯（グリーン）が消灯します。
エンジンの自動再始動 ►P.150
表示灯（グリーン）が点灯しているときに運転席ドアを開けるとブザーがなり、アイドリングストップしていることを知らせます。

- メーターにアイドリングストップ状態のメッセージが表示されます。
- アイドリングストップシステム装備車に適合したバッテリーを使用しています。
  ≫指定されたバッテリー以外を使用すると、バッテリーの早期劣化やアイドリングストップが作動しにくくなる可能性があります。交換時は指定されたバッテリーを使用してください。詳しくは Honda 販売店にご相談ください。
- 渋滞追従機能付 ACC によりブレーキを操作せずに停車したとき、アイドリングストップする場合があります。このとき、シフトポジションを D 以外にするとエンジンが再始動します。

システムの ON/OFF

ECON モードを OFF にすると、アイドリングストップシステムも OFF になります。
ECON モード ►P.148

- システムを OFF にしても、パワーモードを ON にするたびにシステムは自動的に ON になります。

アイドリングストップしないとき

- ECON モードが OFF のとき
- 運転者がシートベルトを着用していないとき
- エンジンが十分に暖まっていないとき、または冷却水の水温が高いとき
- トランスミッションフルードの油温が低いとき、または高いとき
- エンジン始動後、5km/h に達しないまま停車したとき
- 急な坂道で停車するとき

- シフトポジションを D 以外にしているとき
- ボンネットが開いている状態でエンジンを始動したとき
  ≫ボンネットを閉めてからエンジンを再始動してください。
- バッテリーの充電量が少ないとき
- バッテリーの内部温度が 5℃以下のとき
- 外気温が－20℃以下または 40℃以上で、エアコンを使用しているとき
- エアコンの設定温度が Hi または Lo で、エアコンを使用しているとき
- FRONT が ON のとき

アイドリングストップしないことがあるとき

- 急ブレーキをかけて停止したとき
- ハンドルを動かしているとき
- 標高が高いとき
- 低車速で、加減速が繰り返されるとき
- エアコン風量が多いとき
- エアコンを使用中で設定温度と車内の温度差が大きいとき

エンジンの自動再始動

以下の操作をするとエンジンが自動的に再始動します。

- オートマチックブレーキホールドシステムが OFF の状態でブレーキペダルを離したとき
- オートマチックブレーキホールドシステムが ON で停止しているときに、アクセルペダルを踏んだとき
- 坂道でシフトポジションを D または N から P に操作したとき

以下の場合は、ブレーキペダル、またはオートマチックブレーキホールドシステムによる停止中でも、エンジンが自動的に再始動します。

- ECON スイッチを押したとき
- ハンドルを動かしたとき
- シフトポジションを R、S にしたとき、または N から D に操作したとき
  ≫アイドリングストップ中にシフトポジションを P にした場合、アイドリングストップは継続します。この場合、ブレーキペダルを踏むとエンジンは再始動します。
- 坂道で停車中に、ブレーキをゆるめて車が動いたとき
- ブレーキを繰り返し踏み込んだりゆるめたりしたとき
- バッテリーの放電量が多いとき
- アクセルペダルを踏んだとき
- 運転者がシートベルトを外したとき
- FRONT が ON のとき
- エアコン使用中で設定温度と車内の温度差が大きくなったとき
- 渋滞追従機能付 ACC の機能で自動停止後、追従走行または定速走行を再開させたとき

- オートマチックブレーキホールドシステムを OFF にしたとき
- オートマチックブレーキホールドシステムに問題が発生したとき

エンジンが再始動するとき、使用している電子機器によっては電源が一時的にオフになることがあります。

エンジンが自動的に再始動しないとき

次の場合、エンジンは自動的に再始動しません。通常通りエンジンを始動してください。

エンジンの始動 ►P.107

- アイドリングストップ中にボンネットを開けたとき
- アイドリングストップ中に **ENGINE START/STOP** を押したとき

VSA（ビークルスタビリティアシスト）

VSA は、ABS、TCS（トラクションコントロールシステム）、横滑り抑制機能を総合的に制御し、急激な車両の挙動変化を抑制するために作動します。

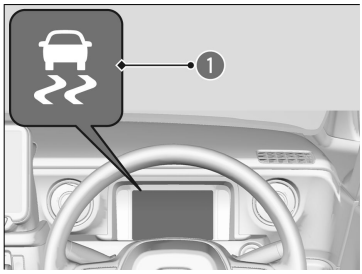
≫TCS は、滑りやすい路面などで駆動輪の空転を抑制して駆動力、操舵力を確保しようとする機能です。

≫横滑り抑制機能は、急激なハンドル操作や滑りやすい路面などでの旋回時に、車両の安定性を確保しようとする機能です。

> VSA が作動した状態でも車両の安定性の確保には限界があるため、カーブ手前では十分に速度を落とし、雪道、凍結路はスノータイヤ、またはタイヤチェーンを装着し控えめな速度で運転してください。

> VSA を正常に機能させるために、タイヤは必ず指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

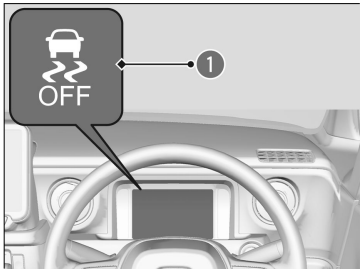
VSA の作動



TCS 機能または横滑り抑制機能作動中は、VSA 警告灯（❶）が点滅します。

> ❗ VSA 警告灯が運転中に点灯するときや、パワーモードを ON モードにしたときに点灯しない場合は、システムの異常が考えられます。通常の運転には支障はありませんが、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

VSA の ON と OFF



メーターで VSA 機能を部分的に停止（OFF）状態にすることができます。
TCS 機能が制限され、低速で駆動輪が回転しやすくなります。

🔍 表示の切り換えかた ►P.259
🔍 VSA モード設定 ►P.265

❶ VSA OFF 警告灯

システムを OFF にしても、パワーモードを ON にするたびにシステムは自動的に ON になります。

> ❗ VSA を OFF にしたままでの走行はお勧めしません。
> 新雪やぬかるみから脱出したいときに、VSA を OFF にすると脱出に効果的な場合があります。脱出後はすみやかに VSA を ON にしてください。

アジャイルハンドリングアシスト

ハンドル操作したとき必要に応じて軽いブレーキをかけ、滑らかで安定感のあるコーナリングになるよう補助します。

- VSA 警告灯が点灯しているときは、アジャイルハンドリングアシストは作動しません。
- アジャイルハンドリングアシストが作動している間、作動音が聞こえることがあります。

> ❗ カーブ走行時は、状況に応じた適正な速度で十分に車間距離をとって走行してください。
> アジャイルハンドリングアシストは、すべての走行条件で安定性を向上させる機能ではありません。

4WD（四輪駆動機構）✤

4WD は走行状況に応じて前輪後輪を駆動し、走行が安定するように補助します。滑りやすい路面では十分に車間距離をとって走行してください。

> ❗ 4WD を正常に機能させるために、タイヤは必ず指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

各部の操作

室内灯

室内灯スイッチ…… 155
マップランプ……156
カーゴスペース照明灯…… 156
スロープライトスイッチ……157

室内装備品

グローブボックス……158
アクセサリーソケット…… 158
USB ジャック……159
コンビニフック…… 161
シートバックテーブル✤……162
カーゴフロアボックス…… 163
タイダウンフック……163
スライドドアウィンドウサンシェード……164
ドリンクホルダー……165
電動ウインチのリモコン……167
固定ベルト……169
スロープ…… 170

車いすの乗せかた、降ろしかた✤

車いすの乗せかた、降ろしかたについて…… 175
車いすの乗せかた……175
車いすの降ろしかた……181

シートヒーター✤

シートヒーターの操作方法……185

ステアリングヒーター✤

ステアリングヒーターの操作方法…… 186

エアコン

エアコンについて……187
オートエアコンの使用方法……189

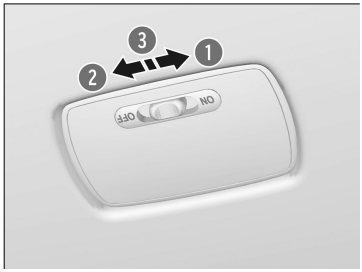
オーディオ

アンテナ…… 191
その他装備について……191

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

室内灯

室内灯スイッチ



❶ ON
ドア、テールゲートの開閉に関係なく室内灯が点灯。

❷ OFF
ドア、テールゲートの開閉に関係なく室内灯が消灯。

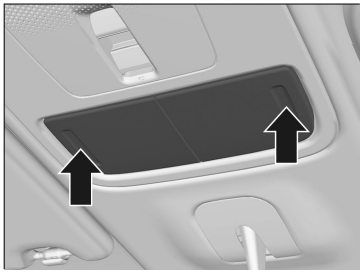
❸ ドア連動
以下のときに室内灯が点灯。
- いずれかのドア、テールゲートを開けたとき
- 運転席ドアを解錠したとき
- パワーモードを OFF モードにしたとき

- ドア連動で室内灯が点灯している場合は、ドアを閉めると約 30 秒後に消灯します。また、運転席ドアの解錠や車両のパワーモード OFF 時に室内灯が点灯したときにドアを開けない場合、約 30 秒後に消灯します。
- パワーモードが OFF モードのときに、いずれかのドアを開けたままにすると、約 15 分後に室内灯は消灯します。

室内灯の消灯する時間を変更することができます。
時計*/車両設定 ►P.266

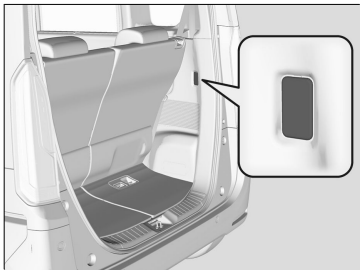
12V バッテリーがあがるおそれがあるため、エンジンを停止しているときは、室内灯を長時間点灯させないでください。

マップランプ



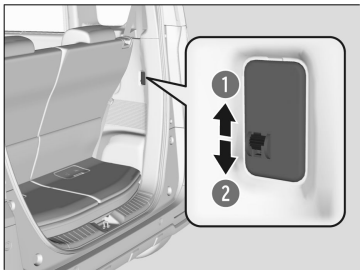
夜間、車を停めて地図を見るときなどに使用するライトです。
レンズを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。

▼ スロープ非装備車
カーゴスペース照明灯



▼ カーゴスペース照明灯スイッチ非装備車

テールゲートを開けると点灯します。



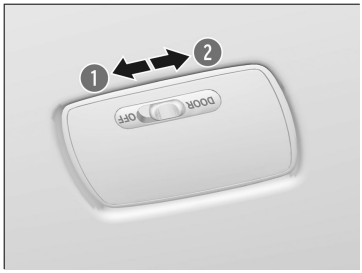
▼ カーゴスペース照明灯スイッチ装備車

❶ OFF
テールゲートの開閉に関係なく消灯。

❷ ドア連動
テールゲートを開けると点灯。

▼ スロープ装備車

スロープライトスイッチ

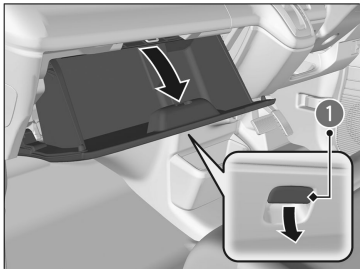


❶ OFF
バックドア（テールゲート）の開閉に関係なく消灯。

❷ ドア連動
バックドア（テールゲート）を開けると点灯。

室内装備品

グローブボックス



ノブ（❶）を引くと開きます。

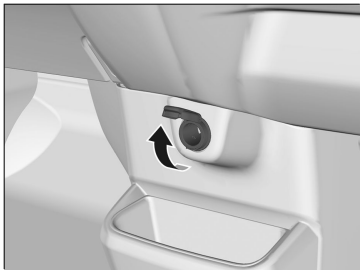
⚠警告

走行中は必ずグローブボックスを閉める。
グローブボックスが開いていると、衝突したときに同乗者が重大な傷害を負うおそれがあります。

アクセサリーソケット

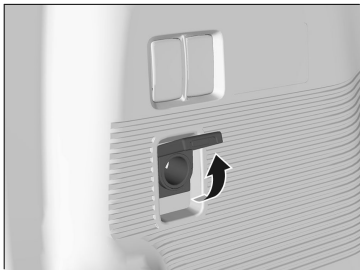
パワーモードがアクセサリーモードまたは ON モードのときに使用できます。カバーを開けて使います。
消費電力 180W（15A）以下のアクセサリーに、直流 12V の電源を供給します。

フロントコンソール



▼ スロープ装備車

カーゴスペース



シガレットライターは差し込まないでください。
発熱するおそれがあります。

12V バッテリーの消耗を防ぐため、エンジンが作動している状態で使用してください。

使用しないときは異物の侵入を防ぐためカバーを閉めてください。

アクセサリーソケットや USB ジャックなどの電装品に液体がかかったり、異物が入ったりしないように注意する。
電装品に水がかかったり、ゴミやほこりなどの異物が入ったりすると故障の原因となったり車両火災につながったりするおそれがあります。

USB ジャック

充電専用 USB ジャック

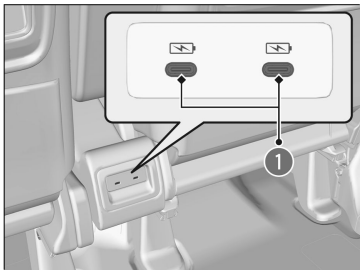
USB ジャック（3.0A）は充電専用です。
≫ミュージックプレーヤー等を接続しても、音楽やビデオの再生はできません。

フロントシート用



❶ USB ジャック

リヤシート用



❶ USB ジャック

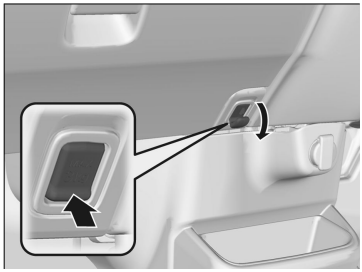
- 接続した機器の種類によっては充電できない場合があります。
- 充電器が高温になった場合、充電停止する場合があります。
- データ破損のおそれがあるため、ファイルのバックアップをおすすめします。
- 充電中に前席または後席シートを操作するときは接触しないよう注意してください。

> ❗ 接続した機器を車内に放置しないでください。
> 直射日光や車内の高温により、破損するおそれがあります。

> ❗ ハードディスクやカードリーダー、メモリーリーダーは機器およびデータが破損することがあるため、使用しないでください。
> 誤って接続した場合はパワーモードを OFF モードにしてから取り外してください。

コンビニフック

センターコンソール



フックを手前に倒して使います。
軽い荷物をかけておくのに便利です。

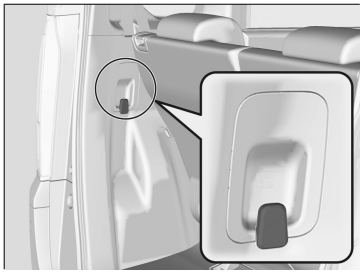
助手席側✤



フックを手前に倒して使います。
軽い荷物をかけておくのに便利です。

▼ スロープ非装備車

カーゴスペース

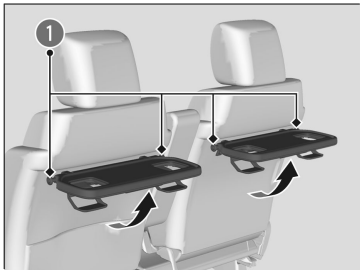


軽い荷物をかけておくのに便利です。

> ❗ コンビニフックが破損するおそれがありますので、重いもの（約 3kg 以上）や大きいものをかけないでください。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

シートバックテーブル✤



手前に引き上げて使用します。
使用後は、テーブル先端の中央部を押し下げてもとの位置にもどします。

❶ コンビニフック

⚠警告

走行中は必ずシートバックテーブルを閉める。
シートバックテーブルが開いていると、衝突したときに同乗者が重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠注意

使用するときは、確実に固定されているか確認してください。
使用中は、テーブルに手を突いたり、もたれかかったりしないでください。急にテーブルが倒れ、思わぬけがのおそれがあります。

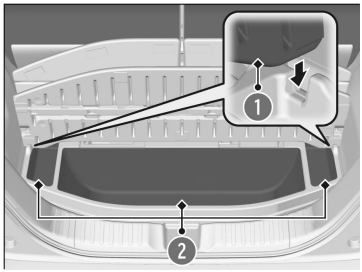
❗ シートバックテーブルには重いもの（約 2kg 以上）を置かないでください。重いものを置くと、シートバックテーブルが格納されて、思わぬけがをするおそれがあります。

❗ コンビニフックが破損するおそれがありますので、重いもの（約 1kg 以上）や大きなものをかけないでください。

❗ テーブルが起こされている状態でフロントシートの調節を行うと、テーブルが破損したり、テーブルの上に置いているものが落ちたりするなど、思わぬけがをするおそれがありますので十分注意してください。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

▼N-BOX JOY
カーゴフロアボックス



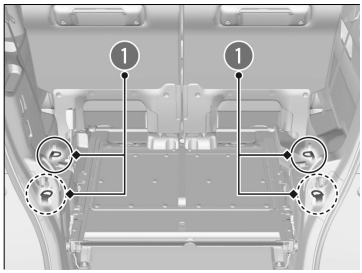
カーゴリッド（❶）の下にカーゴフロアボックス（❷）があります。

⚠注意

走行中は荷物の出し入れをしない。

急ブレーキなどのときに思わぬ事故につながるおそれがあります。

▼ スロープ装備車
タイダウンフック



フック（❶）を起こして使います。
荷物を固定するときに使います。

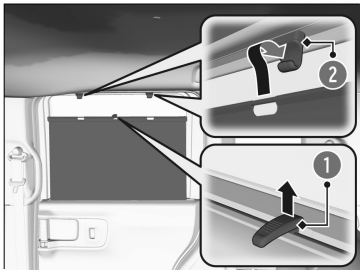
- 重い荷物はできるだけ前に積んでください。荷物を積むとき、荷重が 1 か所に集中しないように配置してください。

⚠注意

走行中は荷物の出し入れをしない。

急ブレーキなどのときに思わぬ事故につながるおそれがあります。

スライドドアウィンドウサンシェード



使用するときはノブ（❶）を持って引き上げます。
サンシェードをフック（❷）にかけます。

以下の場合、サンシェードが破損するおそれがあります。

- 斜めに収納したり、勢いよく収納する
- フックにかけたままスクリーン部分をめくる

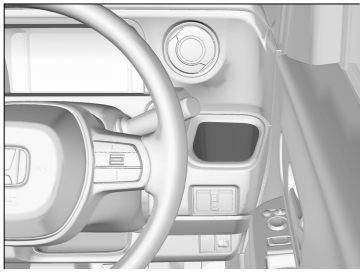
⚠注意

フックにはサンシェード以外のものをかけたりしない。

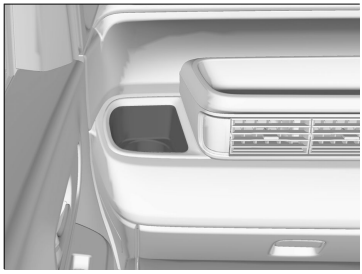
サイドカーテンエアバッグが正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりしてけがをするおそれがあります。
また、走行中は窓を閉めてください。風にあおられてサンシェードがフックから外れるおそれがあります。

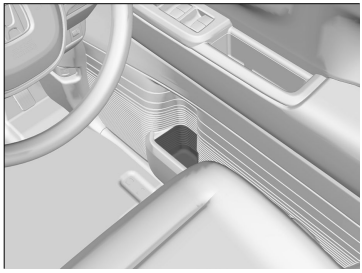
ドリンクホルダー

フロントシート用



フロントパネルのドリンクホルダーは、運転席側と助手席側にあります。





ドアのドリンクホルダーは、運転席側と助手席側にあります。

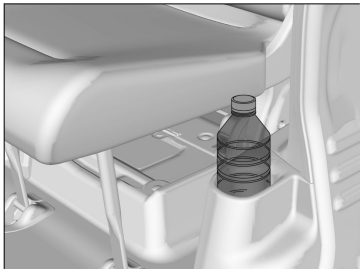
リヤシート用

▼スロープ非装備車

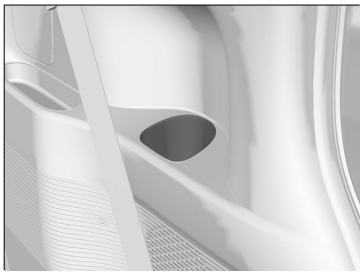


リヤシートのドリンクホルダーは、運転席側と助手席側にあります。

▼スロープ装備車



リヤシート/車いす利用者用✤



リヤシート/車いす利用者のドリンクホルダーは、助手席側にあります。

⚠注意

飲み物などを電装品にこぼさないように注意する。

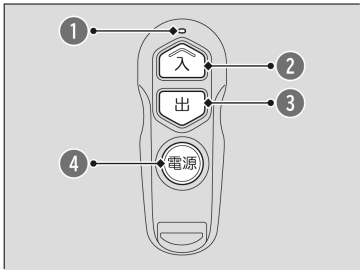
スイッチなどの電装品に飲み物がかかると故障の原因となったり車両火災につながったりするおそれがあります。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

▼ スロープ装備車

電動ウインチのリモコン

電動ウインチのリモコンの使いかた



❶ インジケーター
❷ 乗車スイッチ（入スイッチ）
❸ 降車スイッチ（出スイッチ）
❹ 電源スイッチ

電源スイッチ

電源スイッチを押すとリモコンの電源が入ります。

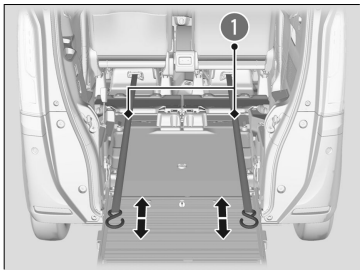
≫インジケーターが赤く点灯します。

リモコンの電源スイッチを押してから約 6 秒以内に入スイッチまたは出スイッチを押さないと、自動的にリモコンの電源が切れます。

乗車スイッチ（入スイッチ）

入スイッチを押している間、電動ウインチが作動し、ウインチベルトが巻き取られます。

≫インジケーターが緑に点滅します。



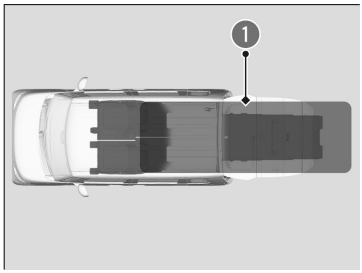
❶ ウインチベルト

降車スイッチ（出スイッチ）

出スイッチを押している間、電動ウインチが作動し、ウインチベルトが引き出されます。

≫インジケーターが緑に点滅します。

入スイッチや出スイッチを押している間は電動ウインチが作動します。停止したい場合は入スイッチや出スイッチから指を離してください。



❶ リモコンの作動範囲

- 操作中にリモコンのスイッチから指を離すと「ピッピッ」と音がします。

- 作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。
  電源スイッチを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。
  電動ウインチリモコンの電池交換方法 ►P.309
- リモコンは微弱電波を使用しているため、周囲の状況により作動範囲が変化することがあります。また、周囲の電波状態により出または入スイッチを押しても電動ウインチが作動しない場合があります。そのときはリモコンの電源スイッチを押し直した後、再度出または入スイッチを押して動かしてください。
- リモコンは、リモコンカバーのバンドで車いすのハンドル等に固定することができます。

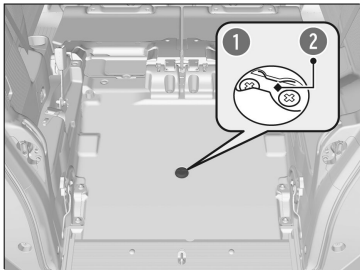
> **!** リモコンは、特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けています。
> 以下のことをお守りください。
> - 日本国内でのみ使用する
> - 分解しない
> - 改造しない
> - リモコンに印字されている技術基準適合表示を故意に消去、改ざんしない

> **!** 分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

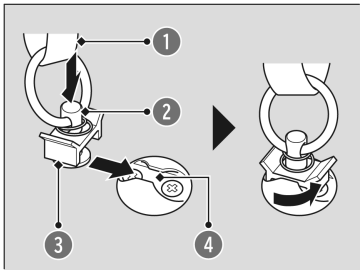
> **!** リモコンの故障を防ぐため、下記の点をお守りください。
> - 直射日光が当たる場所、高温、多湿の場所に置かない
> - リモコンを落としたり、重いものをのせない
> - リモコンに液体をかけない
> - 砂や埃を避ける
> - 分解をしない
> - 火であぶらない
> - テレビ、オーディオなど磁気を帯びた機器の近くに置いたりしない

▼ スロープ装備車
固定ベルト

固定ベルトの取り付けかた



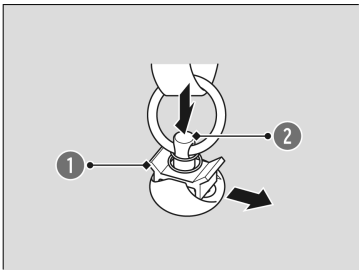
❶ ホルダープレート
❷ 固定溝



❶ 固定ベルト
❷ ボタン
❸ 固定金具
❹ 固定溝

[1] 固定金具を持ち、ボタンを押しながら固定溝にスライドさせる。
[2] 固定金具を「カチッ」と音がするまで回し、ホルダープレートに確実に固定されていることを確認する。

固定ベルトの取り外しかた



固定金具を持ち、ボタンを押しながらスライドさせて固定溝から取り外す。

❶ 固定金具
❷ ボタン

- 車いすを乗せないときは、固定ベルトを外してください。

▼ スロープ装備車

スロープ

スロープの扱いかた

⚠注意

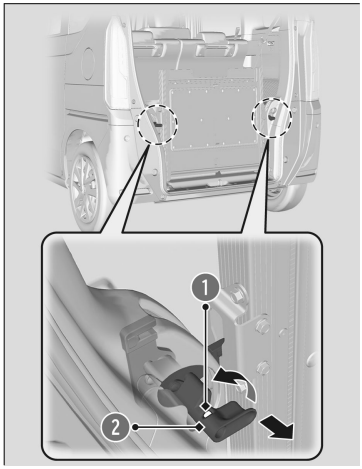
スロープを操作するときは、以下のことに注意する。

- 傾斜のない平らな所で行う
- 手などをはさまないように十分注意する
- スロープは最後まで引き出し、完全に接地した状態で使用する
- スロープを引き出した状態で車を走行しない
- 降雨時または積雪時はスロープが滑りやすくなるので注意する

❗ スロープの上では 1 か所に重さが集中しないようにしてください。
傷や破損の原因となります。

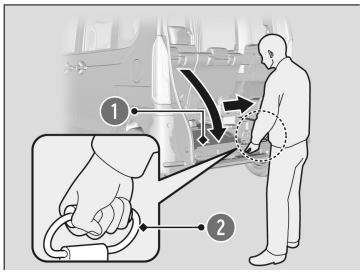
❗ スロープの耐荷重を超えないようにしてください。
スロープの耐荷重（200kg：車いすを含む）を超えないようにしてください。
スロープを損傷するおそれがあります。

直立位置に格納されたスロープを降ろす



❶穴
❷ノブ

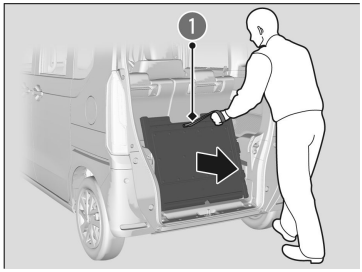
［1］バックドアを開ける。
［2］スロープを手で押さえながら、ノブを引いて左右のスロープロックを回転させて解除する。
≫解除後のスロープロックは垂直の向きで確実に固定してください。
≫ノブの穴が赤くなっていないことを確認してください。



❶スロープ
❷操作グリップ

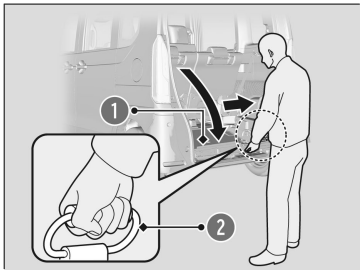
［3］操作グリップを持って手前に倒し、スライド式のスロープを引き出し地面に降ろす。
≫スロープが地面に接地していることを確認するまでは手を放さないでください。

室内側に格納されたスロープを降ろす



[1] バックドアを開ける。
[2] ストラップでスロープを引き上げ、倒れないように支えながら操作グリップに持ち替える。

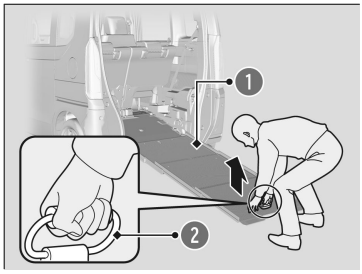
❶ ストラップ



[3] 操作グリップを持って手前に倒し、スライド式のスロープを引き出し地面に降ろす。
≫スロープが地面に接地していることを確認するまでは手を放さないでください。

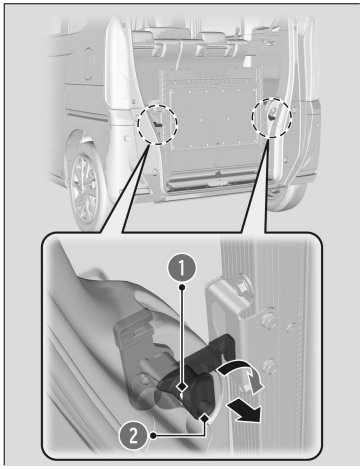
❶ スロープ
❷ 操作グリップ

直立位置にスロープを格納する



[1] 操作グリップを持って、スロープを持ち上げ、スライドさせて起こす。

❶ スロープ
❷ 操作グリップ



❶穴
❷ノブ

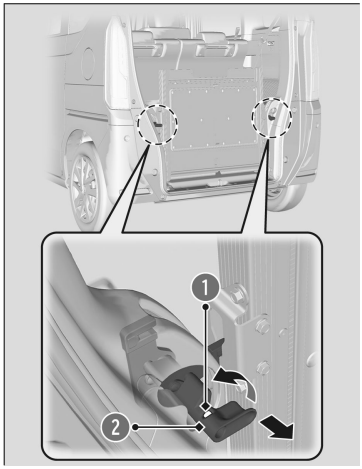
［2］スロープを手で押さえながら、ノブを引いて左右のスロープロックを回転させて固定する。
≫スロープは確実に固定してください。
≫ノブの穴が赤くなっていないことを確認してください。

> ❗ スロープロックが確実に固定されていない状態でバックドアを閉めるとノブが当たりスロープロック及びバックドアの損傷の原因になります。

> ❗ 引き出したスロープが確実に収納されているか確認してください。

室内側にスロープを格納する

スロープを室内側に倒して格納することが可能です。

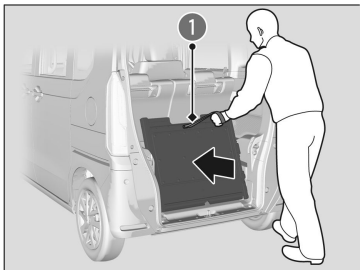


❶穴
❷ノブ

［1］スロープを手で押さえながら、ノブを引いて左右のスロープロックを回転させて解除する。

≫解除後のスロープロックは垂直の向きで確実に固定してください。

≫ノブの穴が赤くなっていないことを確認してください。



❶ストラップ

［2］ストラップを持ち、ゆっくりと室内側に倒す。

! スロープの損傷の原因になりますので、室内側にスロープを格納する際は、以下のことを確認してください。

- 固定ベルトは必ず外し、車内のポケットなどに収納してください。
- スロープの下に物がないことを確認してください。

! 引き出したスロープが確実に収納されているか確認してください。

車いすの乗せかた、降ろしかた✤

車いすの乗せかた、降ろしかたについて

車いすの乗降や固定操作は平坦な場所で、周囲の安全を十分確認してから行ってください。車いすの乗降をするときに介護する人はスロープの途中で車いすから手を離さないでください。

⚠警告

車いすは必ず車いす固定装置で固定する。
確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどに車いすが動いたり、倒れたりして重大な傷害を受けたり死亡することがあります。

⚠注意

車いすの乗降や固定操作をするときは、必ずエンジンを止める。
不意に車が動き出したりして、思わぬけがをすることがあります。

車いすの乗降や固定操作は介護する人が行う。
車いすに座っている人が自力でスロープを走行したり、固定操作を行うと、スロープから落ちたり、体の一部をはさんだりしてけがをするおそれがあります。

車いす乗車後にフロントシートを後方にスライドさせるときは、後ろに十分注意してスライドしてください。

車いすの乗せかた

車いすを乗せる前に

[1] パーキングブレーキがかけてあることと、シフトポジションが P に入っていることを確認する。
パーキングブレーキ ►P.112
シフトポジションについて ►P.109

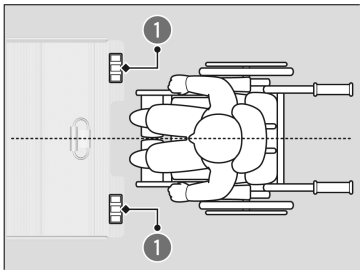
[2] リヤシートの背もたれを倒す。
リヤシートの調整方法（スロープ装備車） ►P.72

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

[3] スロープを降ろす。

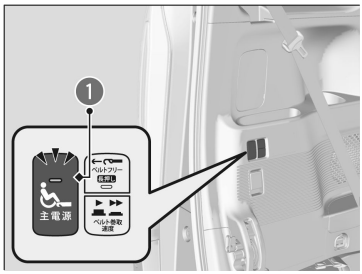
スロープの扱いかた ►P.170

車いすを乗せる



❶ 目印

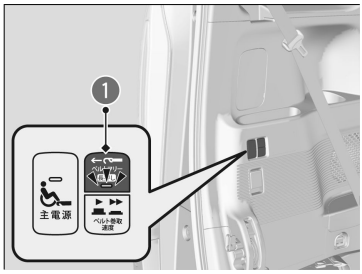
[1] 車いすをスロープの目印を目安にスロープ中央に停車させ、車いすのブレーキをかける。



❶ **主電源**スイッチ（表示灯点灯）

[2] **主電源**スイッチを押してシステムを「ON」にする。

≫「ピッ」と音がして表示灯が点灯します。

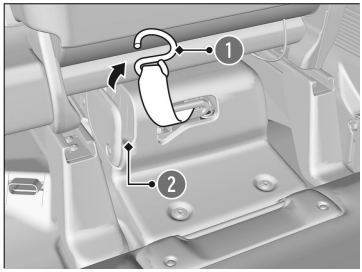


❶ **ベルトフリー**スイッチ（表示灯点灯）

[3] **ベルトフリー**スイッチを 1 秒間押す。

≫「ピーッ」と音がして表示灯が点灯します。

≫ベルトフリー作動中は「ピッピッ・・・ピッピッ・・・」と音が続きます。

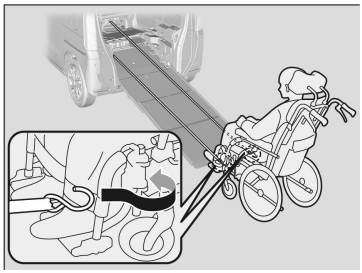


❶ ウインチベルトのフック
❷ ホルダー

[4] フロントシートの下にあるウインチベルトのフックをホルダーから取り出す。

≫フックを取り出す際は、フロントシートを前にスライドさせてください。

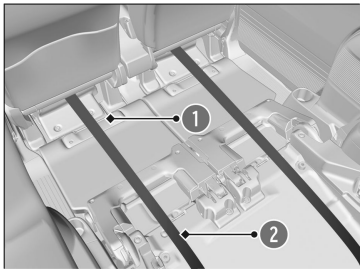
フロントシートの調整方法 ►P.68



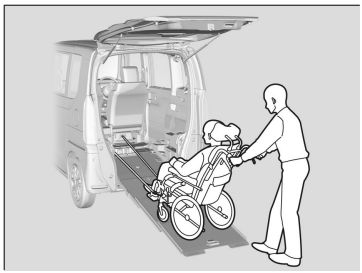
[5] ウインチベルトのフックを引き出して、ベルトがねじれないように車いすの前輪側のフレームやフックにかける。

≫ウインチベルトは、イラストを参考にして通してください。

ベルトフリースイッチを押してもベルトが引き出せないとき ►P.349



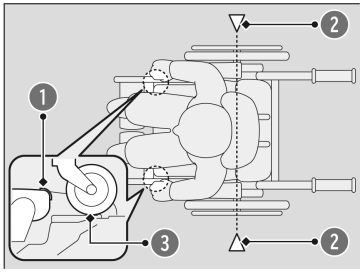
❶ リヤシート背面ロッドの上
❷ ウインチベルト



[6] 車いすのブレーキを解除する。

[7] リモコンの**電源**スイッチを押しインジケーターが点灯後、**入**スイッチを押しながら介護する人が車いすをしっかりと支えて車内に乗せる。

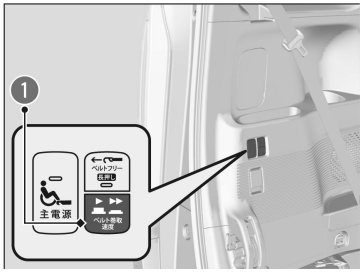
電動ウインチのリモコンの使いかた ►P.167



[8] 車いすの前輪が車輪止め付近にくるまでゆっくり前進する。後輪中央を床面のマークを目安として停車してください。
≫リヤシート下部が車輪止めになります。

❶ リヤシート下部
❷ マーク
❸ 前輪

- **主電源**スイッチを押してから約 1 分間、ベルトフリーなどのスイッチ操作が無い場合は自動的に主電源が切れます。(表示灯消灯)
- 電動ウインチは車いすの乗降を補助するもので、自動で乗降する装置ではありません。
- ベルトフリー作動中にウインチベルトが引き出せないとき、または表示灯が点滅したときは、**ベルトフリー**スイッチを押してもベルトを引き出すことができません。
ベルトフリースイッチを押してもベルトが引き出せないとき ▶P.349
- 電動ウインチ停止中に**ベルト巻取速度**スイッチを押すことで車いすの乗車速度の変更ができます。
スイッチを押し込むとベルトを巻き取る速度が速くなります。
通常の速度に戻す場合は再度スイッチを押してください。



❶ **ベルト巻取速度**スイッチ

⚠注意

ウインチベルトの操作は、電動ウインチ付近に人がいないことを確認して行う。

ウインチベルトを急に離すといきおいよく巻き取られるので、フックを持ってゆっくりと巻き取らせる。

ウインチベルトを床面に放置しない。
乗員がつまずいてけがをしたり、ベルトを傷めるおそれがあります。所定の場所に収納してください。

車いすを車の所定の位置に乗せるときは、座っている人の頭や手足の位置を確認しながら行い、車両にぶつかったり、車いすとの間にはさまれないように十分注意する。

介護する人が車両に頭をぶつけないように十分注意する。

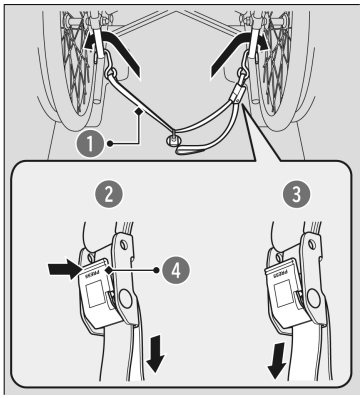
電動ウインチで車いす以外のものを引き上げない。
電動ウインチの故障やベルトの損傷につながったり、思わぬ事故の原因になるおそれがあります。

❗ 電動ウインチユニットに飲み物などをこぼさないでください。
ウインチが作動しなくなるおそれがあります。

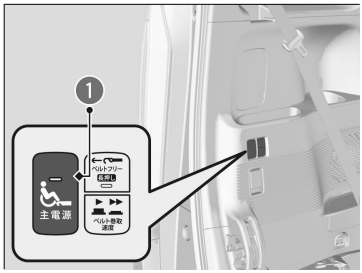
❗ リヤシートに乗車する場合は、電動ウインチユニットを踏まないでください。
ウインチが作動しなくなるおそれがあります。

❗ 車輪止めを越えないようにゆっくり乗車させてください。
電動ウインチに当たり、損傷するおそれがあります。

車いすを固定する



❶ 固定ベルト
❷ ゆるめる
❸ たるみをとる
❹ バックルのレバー



❶ **主電源**スイッチ（表示灯消灯）

[1] 固定ベルトを取り付ける。
固定ベルトの取り付けかた ►P.169
[2] 固定ベルトのバックルのレバーを押し、ベルトをゆるめる。
[3] 固定ベルトのフックを車いす後側（後部）のフレームやフックにかける。
[4] 調整側のベルトを引っ張り、たるみをなくす。
≫フックを軽くゆさぶり、ベルトにたるみがないことを確認してください。
[5] リモコンの**電源**スイッチを押しインジケーターが点灯後、**入**スイッチを「ピーピーピー」と音がするまで押し続けた後、車いすをゆすり確実に固定されていることを確認する。
電動ウインチのリモコンの使いかた ►P.167
[6] 車いすのブレーキをかけ車輪をロックする。
[7] **主電源**スイッチを押してシステムを「OFF」にする。
[8] シートベルトを着用する。
車いす乗員用シートベルト ►P.81

⚠警告

車いす本体のブレーキを必ずかける。
確実にかかっていないと、ブレーキや衝突のときなどに車いすが動いたり、倒れたりして重大な傷害を受けたり死亡することがあります。

⚠注意

走行する前に、車いすが確実に固定されていることを確認する。
確実に固定されていないとブレーキや衝突のときなどに車いすが動いたり、倒れたりして傷害を受けるおそれがあります。

走行する前に、主電源スイッチを押して「OFF」にする。

スロープを格納する

[1] 直立位置にスロープを格納する。
Q スロープの扱いかた ►P.170

[2] バックドアを閉める。

⚠警告

バックドアを閉めるときは、車いすに座っている人の頭にぶつけないように十分注意する。

⚠注意

車いす乗車スペース内には車いすに座った人以外の人を乗せない。
ブレーキや加速、衝突のときなどにけがをするおそれがあります。

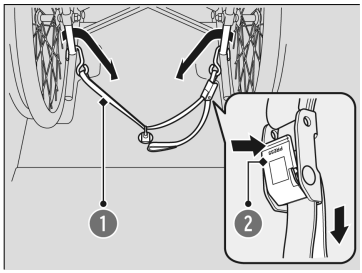
車いすの降ろしかた

車いすを降ろす前に

[1] パーキングブレーキがかけてあることと、シフトポジションがPになっていることを確認する。
Q パーキングブレーキ ►P.112
Q シフトポジションについて ►P.109

[2] スロープを降ろす。
Q スロープの扱いかた ►P.170

車いすの固定を解除する

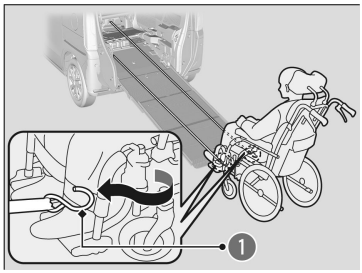


❶ 固定ベルト
❷ バックルのレバー

[1] シートベルトを外す。
車いす乗員用シートベルト ►P.81
[2] 固定ベルトのバックルのレバーを押し、ベルトをゆるめてフックを車いすから取り外す。
[3] 固定ベルトを取り外す。
固定ベルトの取り外しかた ►P.170

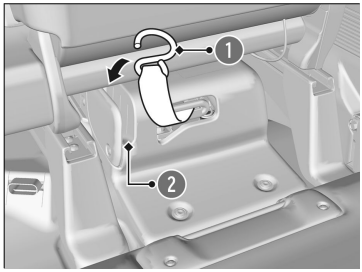
車いすを降ろす

[1] 主電源スイッチを押してシステムを「ON」にする。
[2] 車いすの車輪のブレーキを解除する。
[3] リモコンの電源スイッチを押しインジケーターが点灯後、出スイッチを押しながら介護する人がゆっくりと車いすを引き、車外へ降ろす。
≫出スイッチを押してもベルトがゆるまない場合は、車いすを押しながら出スイッチを押してください。
電動ウインチのリモコンの使いかた ►P.167
リモコンの操作途中でウインチが止まったとき ►P.348
[4] 車いすがスロープから完全に降りていることを確認し、車いすのブレーキを両輪ともかける。
≫車いすの前輪がスロープ後端から 10cm 程度の距離で停めてください。



❶ フック

[5] リモコンの電源スイッチを押しインジケーターが点灯後、出スイッチを押しながら、フックを持ち車いすから取り外す。
[6] フックを持ち、リモコンを使わずに、ウインチベルトがねじれないようにゆっくりと巻き取らせます。



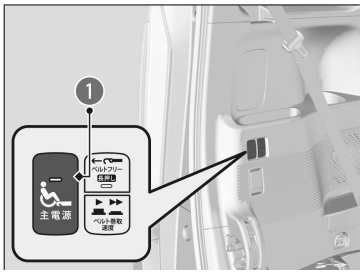
❶ ウインチベルトのフック
❷ ホルダー

[7] フックをホルダーに収納できる長さまでウインチベルトを巻き取らせて、ベルトを手で押さえながらホルダーに収納する。

≫フックを収納する際は、フロントシートを前にスライドさせてください。

フロントシートの調整方法 ►P.68

≫ウインチベルトのフックがホルダーに届かなくなった場合は、**ベルトフリー**スイッチを押すと収納しやすくなります。



❶ **主電源**スイッチ（表示灯消灯）

[8] **主電源**スイッチを押してシステムを「OFF」にする。

- ウインチベルトを収納するときは、リモコンを使わずに収納してください。リモコンを使うと、電動ウインチシステムが、車いすが乗っていると認識し、落下防止の状態となります。そのため、**ベルトフリー**スイッチを押してもベルトが引き出せなくなります。

ベルトフリースイッチを押してもベルトが引き出せないとき ►P.349

⚠注意

車いすを車から降ろすときは、座っている人の頭や手足の位置を確認しながら行い、車両にぶつかったり、車いすとの間にはさまれないように十分注意する。

介護する人が車両に頭をぶつけないように十分注意する。

介護する人はスロープの途中で車いすから手を離さない。

ウインチベルトの操作は、電動ウインチ付近に人がいないことを確認して行う。

ウインチベルトを床面に放置しない。
乗員がつまずいてけがをしたり、ベルトを傷めるおそれがあります。所定の場所に収納してください。

スロープを格納する

[1] スロープを格納する。
スロープの扱いかた ►P.170

[2] バックドアを閉める。

シートヒーター✤

シートヒーターの操作方法

シートヒーターは、パワーモードが ON モードのときに使用できます。



スイッチを押すたびに設定が切り換わります。
1 回目- 高：インジケーターが 2 個点灯
2 回目- 低：インジケーターが 1 個点灯
3 回目- OFF ：インジケーターが消灯

❶ 助手席用スイッチ
❷ 運転席用スイッチ

- パワーモードを一度 OFF してから再度 ON にしても、シートヒーターは前回と同じ設定で復帰します。

⚠警告

低温やけどに注意する。

毛布などの保温性の高いものをかけて使用すると低温やけどをすることがあります。

次のようなかたは、低温やけどに十分注意してください。

- 乳幼児、お年寄り、体の不自由なかた
- 皮膚の弱いかた
- 疲労の激しいかた

❗ この装置は消費電力が大きいので、エンジンをかけた状態で使用してください。
12V バッテリー容量が低下し、エンジン始動に影響することがあります。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ステアリングヒーター✤

ステアリングヒーターの操作方法



パワーモードが ON モードのときに使用できます。
スイッチを押すと表示灯が点灯し、ハンドルを暖めることができます。停止するときは、再度スイッチを押し、表示灯を消します。

⚠注意

低温やけどに注意する。

次のようなかたは、低温やけどに十分注意してください。

- 乳幼児、お年寄り、体の不自由なかた
- 皮膚の弱いかた
- 疲労の激しいかた

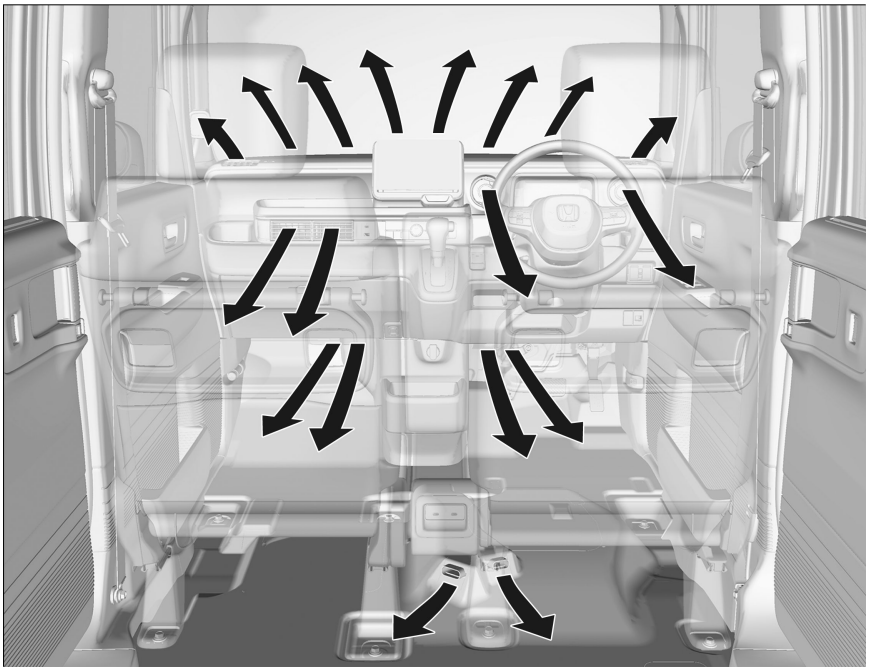
❗ この装置は消費電力が大きいので、エンジンをかけた状態で使用してください。
12V バッテリー容量が低下し、エンジン始動に影響することがあります。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

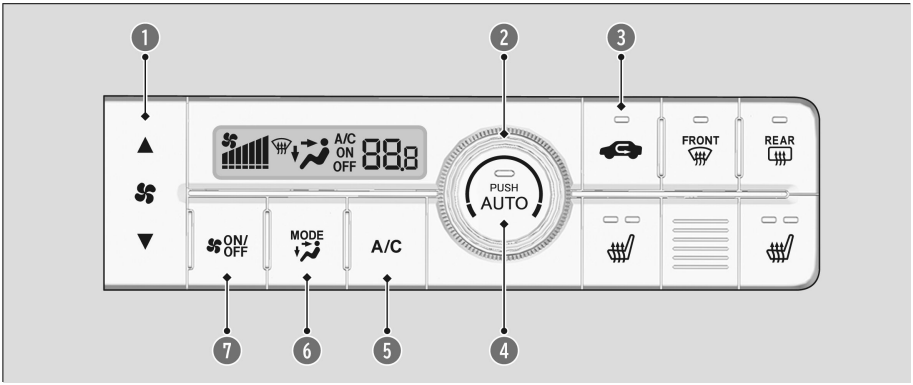
エアコン

エアコンについて

エアコンの吹き出し口



スイッチの説明



❶ ファンスピード切り換えスイッチ
風量を切り替えます。

❷ 温度調節ダイヤル
設定温度表示で「Lo」は最大冷房を、「Hi」は最大暖房を示します。

❸ スイッチ
状況に合わせてスイッチを押して、内気/外気を切り換えます。
- 内気（表示灯点灯）：トンネルや渋滞などで、汚れた空気を車内に入れたくない場合
- 外気（表示灯消灯）：換気を行う場合

❹ AUTO スイッチ
自動制御に切り替えます。冷房・暖房の切り替え、吹き出し口、風量、内気・外気切り換えを自動調節して設定した温度に保ちます。

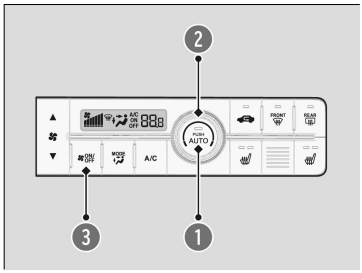
❺ A/C スイッチ
冷房・除湿機能の ON/OFF を切り替えます。暖房中に A/C を押すと、除湿暖房となります。

❻ MODE スイッチ
吹き出し口を切り替えます。
- 上半身送風
- 足元送風、上半身送風
- 足元送風
- 足元送風、窓ガラスの曇り取り

❼ ON/OFF スイッチ
エアコンの ON/OFF を切り替えます。

≫ ON すると OFF する前の状態に戻ります。

オートエアコンの使用方法



エンジンを始動してから使用します。
[1] AUTO スイッチ（❶）を押す。
[2] 温度調節ダイヤル（❷）で温度を調節する。
[3] 停止するときは、ON/OFF スイッチ（❸）を押す。

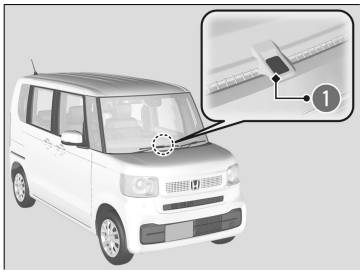
- パワーモードを ON モードにしたときには、前回と同じ設定になります。また、HONDA スマートキーに刻印されている番号ごとにエアコンの設定を記憶します。
- オート（AUTO）で使用中いずれかのスイッチを押すと、押したスイッチの機能が優先されます。 このとき AUTO の表示は消灯しますが、押したスイッチ以外の機能は自動制御されます。
- 急な上り坂などでは、走行性能を優先するため、エアコンが作動しないことがあります。
- アイドリングストップ中は、冷暖房機能が停止し、送風機能のみが作動します。冷暖房機能を停止させたくないときは、ECON スイッチを押して ECON モードを OFF にしてください。アイドリングストップ機能が OFF になります。
アイドリングストップシステム ►P.148
- ECON モードのときは、走行中にエアコンの効きが弱くなる場合があります。
- 外気温が低いときは、冷風の吹き出しを防ぐため、 AUTO を押してもすぐにファンが回転しないことがあります。

除湿暖房

オート（AUTO）で使用中、自動で除湿暖房となります。
オート（AUTO）でないとき、暖房中に A/C スイッチを押して A/C を ON にすると除湿暖房となります。

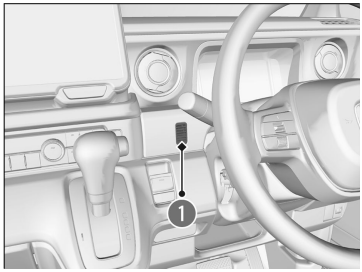
> ❗ 炎天下に駐車していたときは、窓を開けて熱気を追い出しながら、冷房を開始してください。

オートエアコンセンサー



オートエアコンには、センサーが付いています。センサーの上にものを置いたり、水をかけたりしないでください。

❶ センサー



❶ センサー

オーディオ

アンテナ

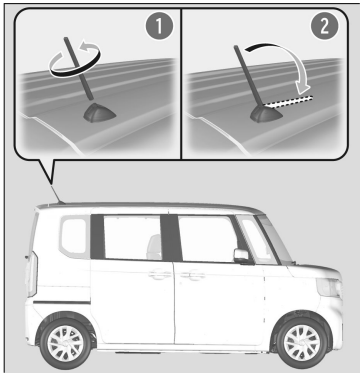
マイクロアンテナ

ラジオを受信するときは、アンテナを節度感のあるところまで立ててください。
アンテナは取り外し、格納ができます。

≫自動洗車機を使用するときは、破損防止のためアンテナを取り外してください。取り外したアンテナは紛失しないようにしてください。

≫以下のような場合は、破損防止のためアンテナを格納してください。

- 駐車場の天井などにアンテナが当たるとき
- ボディーカバーをかけるとき



❶ 取り外す
❷ 格納する

その他装備について

ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

安全運転支援システム

Honda SENSING
Honda SENSING とは…… 193
各機能を作動させるための装備と表示……194
フロントワイドビューカメラ…… 195
ソナーセンサー…… 197

衝突軽減ブレーキ（CMBS）
衝突軽減ブレーキ（CMBS）について……200
システムの作動…… 200
作動条件…… 201
システムの ON/OFF…… 202
システムの制限…… 202

踏み間違い衝突軽減システム
踏み間違い衝突軽減システムについて……207
システムの作動…… 207
システムの ON/OFF…… 209
システムの制限…… 209

急アクセル抑制機能✤
急アクセル抑制機能について…… 211
システムを作動させるには……211
システムの作動…… 212
システムの制限…… 212

路外逸脱抑制機能
路外逸脱抑制機能について……214
システムの作動…… 214
作動条件…… 215
システムの ON/OFF…… 216
システムの制限…… 216

歩行者事故低減ステアリング
歩行者事故低減ステアリングについて……218
作動条件…… 219
システムの ON/OFF…… 219
システムの制限…… 219

渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール（ACC）
渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール（ACC）について……222
渋滞追従機能付 ACC の作動方法…… 223
クルーズモードへの切換え……228
システムの制限…… 229

車線維持支援システム（LKAS）
車線維持支援システム（LKAS）について…… 232
作動条件…… 233
システムの作動方法……233
システムの制限…… 234

先行車発進お知らせ機能
先行車発進お知らせ機能について…… 236
作動条件…… 236
システムの制限…… 236

標識認識機能
標識認識機能について…… 239
システムの作動…… 239
システムの制限…… 240

パーキングセンサーシステム
パーキングセンサーシステムについて……242
システムの ON/OFF…… 242
画面操作…… 243
障害物を検知したときの作動…… 243
システムの制限…… 246

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

Honda SENSING

Honda SENSING とは

衝突被害の軽減、衝突事故の回避、運転者の負担を軽減するために、運転者のアクセル・ブレーキ・ハンドル操作などを支援します。
Honda SENSING には、次の機能があります。

- 衝突軽減ブレーキ（CMBS）について ►P.200
- 踏み間違い衝突軽減システムについて ►P.207
- 急アクセル抑制機能について ►P.211
- 路外逸脱抑制機能について ►P.214
- 歩行者事故低減ステアリングについて ►P.218
- 渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール（ACC）について ►P.222
- 車線維持支援システム（LKAS）について ►P.232
- 先行車発進お知らせ機能について ►P.236
- 標識認識機能について ►P.239
- オートハイビーム ►P.139
- パーキングセンサーシステムについて ►P.242

- フロントワイドビューカメラにより作動する機能は、パワーモードを ON にしてから約 15 秒経過すると作動します。

⚠警告

Honda SENSING は、補助システムとして使用してください。
自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

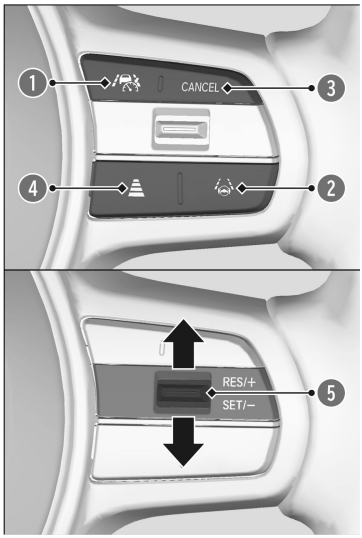
各機能の能力（認識能力・制御能力）には限界があります。
機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。常に周囲の状況を確認し、十分な車間距離を保ち安全運転を心がけ走行してください。

❗ 駐車場のターンテーブル上など、車両が動いているときにパワーモードを ON モードにしないでください、各機能が作動しない場合があります。

システムを正常に作動させるために、以下をお守りください。
- タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤを使う
- サスペンションの改造はしない

各機能を作動させるための装備と表示

ステアリングスイッチ



❶ スイッチ
渋滞追従機能付 ACC、LKAS の待機状態の設定を行います。

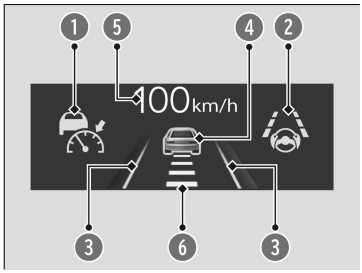
❷ スイッチ
渋滞追従機能付 ACC 作動中に LKAS の作動と解除の設定を行います。

❸ CANCEL スイッチ
渋滞追従機能付 ACC、LKAS の解除を行います。

❹ ディスタンススイッチ
渋滞追従機能付 ACC の車間距離設定を行います。

❺ RES/+/SET/− スイッチ
渋滞追従機能付 ACC の車速のセットと復帰、設定車速の調整を行います。
LKAS の作動と復帰を行います。

メーターの表示



各機能の現在の状態を表示します。

❶ 渋滞追従機能付 ACC の作動状態
グリーン、ホワイト/グリーン：作動中
≫先行車を検知していないとき、ホワイト/グリーンで表示
ホワイト：待機中
オレンジ：システムが異常のとき

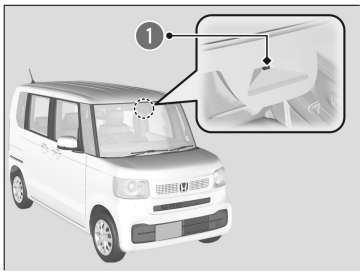
❷ LKAS の作動状態
グリーン：作動中
ホワイト：待機中
オレンジ：システムが異常のとき

❸ LKAS の ON と OFF の状態と制御状態
グリーン：作動中
ホワイト：車線を検知した状態
オレンジ：点灯した側の車線逸脱を検知

❹ 渋滞追従機能付 ACC の先行車検知状態
❺ 渋滞追従機能付 ACC の設定車速
ホワイト：設定車速
グレー：解除前の設定車速

❻ 渋滞追従機能付 ACC の設定車間

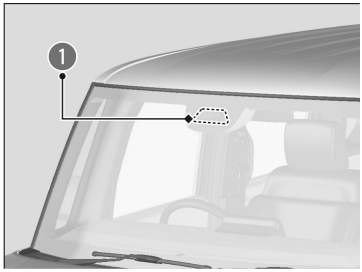
フロントワイドビューカメラ



カメラ（❶）はフロントガラス上部に設置されています。

カメラの取り扱い

- カメラ機能の一時停止を防ぐため、室内温度が高温になることを避ける
  ≫駐車時は、太陽光を避けて日陰に駐車することをおすすめします。
- カメラへの熱の集中を避けるため、反射サンシェード使用時はカメラを覆わない
- フロントガラスにフィルムを貼ったり、カメラの視野を遮るものを取り付けない



❶ ステッカー貼り付け不可範囲

- カメラのレンズ、フロントガラスを汚したり傷つけたりしない
  ≫カメラの視野内に傷、打痕、損傷があると、システムが正常に作動しなくなることがあるため、フロントガラスの交換をお勧めします。Honda 純正品以外のフロントガラスを使用するとシステムが正常に作動しなくなる場合がありますので、修理や交換の際は Honda 販売店にご相談ください。
- インストルメントパネル上部に物を置かない
  ≫物がフロントガラスに反射して車線等を的確に検知できない場合があります。
- システムが正常に作動しなくなる場合があるため、カメラを取り外さない
- 必要に応じてデフロスターを使用し、フロントガラスを曇らせない
- ボンネットやフロントグリルの上にカメラの視野を妨げるものを装着しない

メーターに「運転支援システムの一部が使用できません　カメラの温度が下がるまでお待ちください」が表示されたとき：

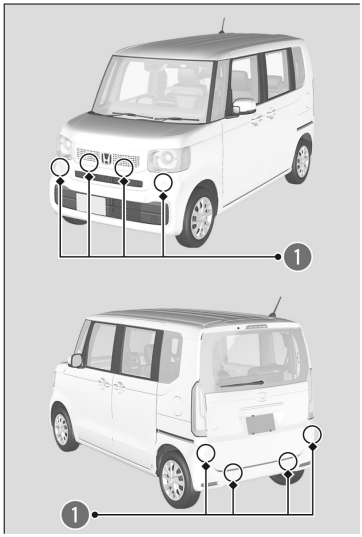
- エアコンを使用して車内の温度を下げてください。必要に応じてデフロスターを使用し、カメラに向けて送風してください。
- 車両を走行させ、フロントガラスとカメラ周辺の温度を下げてください。

メーターに「運転支援システムの一部が使用できません　カメラ視界不良のため認識できません」が表示されたとき：

- 安全な場所に駐車してフロントガラスが汚れていないか確認してください。汚れている場合は、清掃してください。
- 雨、霧、雪などの悪天候や、夜間やトンネル内、夜明け、夕暮れなど周囲が暗いときなどのカメラ視界不良のときも表示されます。

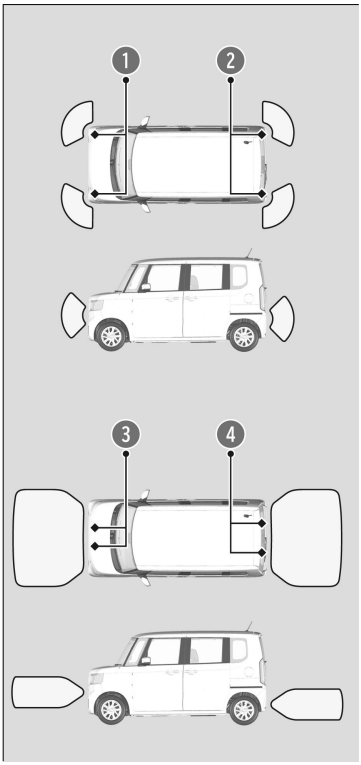
> ❗ 対処した後、しばらくしてもメッセージが消えない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

ソナーセンサー



ソナーセンサー（❶）はフロントバンパー、フロントグリル、およびリヤバンパーに設置されています。

検知範囲



❶ フロントコーナーセンサー
❷ リヤコーナーセンサー
❸ フロントセンターセンサー
❹ リヤセンターセンサー

ソナーセンサーの取り扱い

- センサーの周囲に強い衝撃を与えない
- センサーやその周囲にステッカーなどを貼らない
- 分解は行わない
- センサーの近くにアクセサリーを取り付けない

メーターに「踏み間違い衝突軽減システムが作動しません　ソナーの汚れを取り除いてください」が表示されたとき：

- 安全な場所に駐車してソナーセンサーやその周囲の汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。

対処した後、しばらくしてもメッセージが消えない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

以下のときはソナーセンサーが正常に作動しなくなる場合があるため、Honda 販売店で点検を受けてください。

- ソナーセンサーに衝撃が加わったとき
- ソナーセンサー周辺の修理を行うとき
- フロントバンパー、フロントグリル、およびリヤバンパーが段差、縁石、輪留め、盛り土などに接触したとき
- 深い水たまりに進入したとき
- 車両の前方、または後方が衝突、接触したとき

衝突軽減ブレーキ（CMBS）

衝突軽減ブレーキ（CMBS）について

車両（二輪車含む）や歩行者、自転車との衝突回避や衝突被害を軽減するため、運転者のブレーキ操作を支援します。

⚠警告

衝突軽減ブレーキ（CMBS）は、運転者の運転を支援するためのシステムであり、あらゆる状況で衝突を回避したり、衝突による被害を軽減できるものではありません。システムに頼った運転をすると、衝突など思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。常に周囲の状況を確認し、十分な車間距離を保ち安全運転を心がけて走行してください。

❗ 車両の整備や検査の際に、シャシーダイナモやフリーローラーを使用するときは CMBS を OFF にしてください。

❗ 頻繁に警報が作動するなど、異常を感じたときは Honda 販売店で点検を受けてください。

システムの作動

自車の車速が約 5km/h 以上になるとフロントワイドビューカメラが前方の車両（二輪車含む）、歩行者および移動する自転車の検知を開始します。システムが衝突のおそれがあると判断したときに CMBS が作動します。

Q フロントワイドビューカメラ ▶P.195

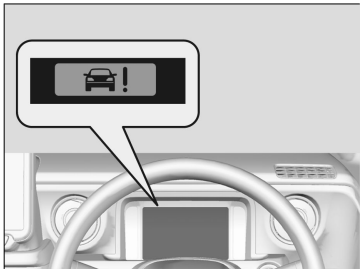
CMBS の作動には衝突の可能性に応じ 3 つの段階があります。

≫状況によっては途中段階から作動することがあります。

＜第 1 段階＞衝突のおそれがでてきた状況

警告表示が点滅します。さらに接近すると、警告表示およびブザーによる警報を行います。

＜第 2 段階＞衝突の危険が増し、衝突するまでの余裕が少なくなった状況
警告表示およびブザーによる警報を行い、軽いブレーキがかかります。
＜第 3 段階＞回避が困難な状況
警告表示およびブザーによる警報を行い、強いブレーキがかかります。



システムは警告表示や警告音で衝突のおそれがあることを運転者に知らせます。
≫ブレーキやハンドルを操作するなどの適切な行動で衝突を回避してください。

- CMBS によるブレーキが作動しているときは制動灯が点灯します。
- CMBS の作動により停車、または減速した後は、システムの判断により CMBS は解除されます。
- 衝突を回避しようとして、運転者がハンドル、ブレーキペダル、アクセルペダルを操作したときは、システムが解除されることがあります。
- アクセルペダルの踏み込み量が大きいときに、システムが作動しない場合があります。

CMBS の警報距離を遠め・標準・近めの 3 段階から選択することができます。
時計*/車両設定 ►P.266

作動条件

CMBS が作動する条件と作動対象は、以下の通りです。

直進時

自車の速度が約 5km/h 以上かつ、作動対象との速度差が約 5km/h 以上のとき
- 前走する車両（二輪車含む）

自車の速度が約 5～100km/h かつ、作動対象との速度差が約 5km/h 以上のとき
- 停止している車両（二輪車含む）
- 対向する車両
- 交差する車両
- 歩行者
- 移動する自転車

右左折時（正面で衝突する恐れがあるときのみ）

自車の速度が約 5～30km/h かつ、作動対象との速度差が約 5km/h 以上のとき

- 対向する車両（二輪車含む）※1
- 歩行者
- 移動する自転車

※1: 対向車線側に曲がる場合のみ作動

CMBS の自動停止

以下の場合、CMBS が自動的に停止し、警告灯が点灯することがあります。

- 悪路の走行や山岳路を長時間走行したとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- パーキングブレーキをかけて走行したとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- タイヤの異常を検出したとき

作動できる状態になると、CMBS は自動復帰します。

システムの ON/OFF

メーターでシステムの ON/OFF を切り換えることができます。

表示の切り換えかた ►P.259

安全支援情報 ►P.263

- システムを OFF にしても、パワーモードを ON にするたびにシステムは自動的に ON になります。
- 運転中は CMBS を OFF にすることはできません。

システムの制限

次のような場合、システムが作動対象や路面状況を正しく検知できず、CMBS が正常に作動しない場合があります。

環境によりシステムが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 作動対象と背景のコントラストが低いとき
- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が作動対象、または路面に反射しているとき
- 前方の車両（二輪車含む）による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、作動対象の全体が照らされていないとき

道路の状態によりシステムが正しく検知できない事例

- 不鮮明な車線、タイヤのあと、ライトの反射、水しぶき、高いコントラストなどがある雪道、または湿った路面のとき
- カーブ、うねった道路、坂道などのとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき

自車の状態によりシステムが正しく検知できない事例

- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- ウィンドウォッシャーからの水滴またはワイパーブレードによってカメラの視野が遮られているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- フロントガラスの内側が曇っているとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースや後席に大きな荷重がかかり、車が傾いているとき
- サスペンションを変更したとき
- パーキングブレーキがかかった状態で走行中のとき
- 滑りやすい路面などで車の動きが不安定なとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

作動対象の状態によりシステムが正しく検知できない事例

- 作動対象が急に割り込んできたり、飛び出してきたとき
- 作動対象が背景に紛れて検知できないとき
- 作動対象との距離が極端に短いとき
- 前方の車両（二輪車含む）、対向車両が横、または斜めを向いているとき
- 暗い場所で先行車の尾灯、または対向車のヘッドライトが片側点灯、または無灯火のとき
- 自転車が停止しているとき
- 移動する自転車が集団で前方にいるとき
- 歩行者が集団で前方にいるとき
- 歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、手を挙げたり、走っているとき
- 歩行者がベビーカーや自転車などを押しているとき

- 歩行者の一部（頭や手足など）が荷物などによりかくれているとき
- 歩行者の身長が約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者や移動する自転車の横断速度が速いとき
- 歩行者や移動する自転車が対向して接近してきたとき
- 車両（二輪車含む）が斜め横から接近してきたとき
- 特殊な形状の車両（タンクローリーなど）が側方から接近してきたとき
- カーブや坂を走行中の車両（二輪車含む）が側方から接近してきたとき

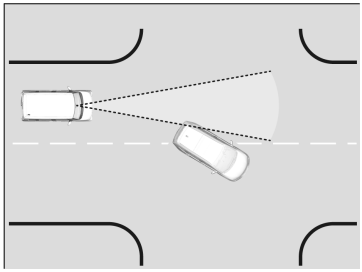
その他検知、作動できない事例

- 小さい二輪車やサイドカー付き二輪車、特殊な形状の車両および車いす
- 荷物を積んでいないトラックなど前側に対して後側の高さが低い、もしくは幅が狭い車両
- 作動対象が自車の正面にいないとき
- 作動対象と自車との速度差が大きいとき
- 作動対象と自車との速度差が小さく、距離が短いとき
- 側方から接近する作動対象と自車との速度差が大きいとき
- 側方から接近する作動対象と自車との速度差が小さく、距離が短いとき
- 前方の車両（二輪車含む）や移動する自転車が急減速したとき
- 運転者が衝突を回避しようとして、ブレーキやハンドルを操作したとき
- 運転者が急加速やハンドル操作（交差点などでの右折時を除く）※1 をしながら、作動対象に接近したとき
- 子供用自転車、折り畳み自転車、または三輪車などのタイヤ径が小さい自転車やタンデム自転車などの全長が長い自転車
- 作動対象の形状をシステムが正しく検知できないとき
- 前方または側方から接近する車両の最低地上高が極端に高いとき
- 右左折時に自車の進行方向と同方向に方向指示器（ウィンカー）を操作していないとき

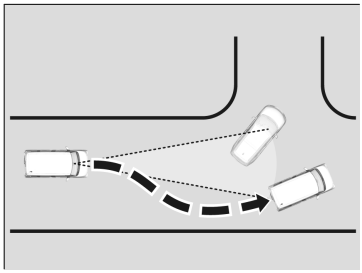
※1: 右折時に対向車両に対して正面で衝突のおそれがあるときに CMBS が作動しますが、急なハンドル操作などによっては作動できない場合があります。

衝突の可能性が高くない場合の作動について

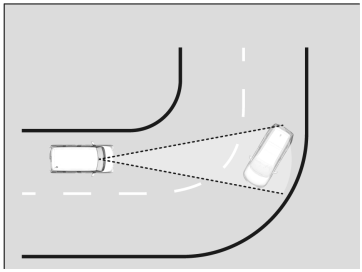
衝突の可能性が高くなくても、システムが衝突の可能性があると判断した場合には CMBS が作動することがあります。



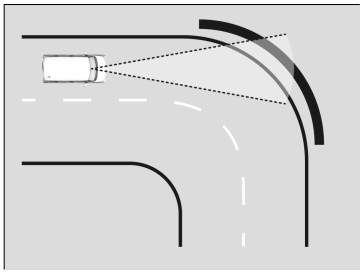
- 右左折する前方の車両（二輪車含む）に接近したとき



- 追い越しのために先行車（二輪車含む）に接近して走行するとき



- カーブ走行などで自車の正面に対向車両がいるとき



- カーブ周辺の道路付近に作動対象や構造物などがあるとき

- 作動対象と自車が接近したとき
- 作動対象が自車の前方を通過したとき
- 低い構造物の下や狭いゲートの間などを規制速度を超えるような速度で通過しようとするとき
- 駐車時など、停止している車両（二輪車含む）や壁に接近するとき
- カーブを走行中に側方から車両（二輪車含む）が接近するとき

- 前方の側方から近づいてくる作動対象の前を通過するとき
- 左折または右折中に前方の車両（二輪車含む）、または自転車の前を通過しようとしたとき
- 左折または右折中に車両（二輪車含む）、または自転車が自車の前方を通過しようとしているとき
- 作動対象が自車の進路に入る手前で止まったとき、または進路変更したとき
- 左折または右折中に横断中の歩行者が自車の進路に入る手前で止まったとき、または進路変更したとき
- 作動対象の付近を通過するとき
- 路上の設置物（ガードレール、電柱、木、駐車車両、建物、壁など）や、路面標示と車線表示を作動対象と誤って認識したとき

踏み間違い衝突軽減システム

踏み間違い衝突軽減システムについて

踏み間違い衝突軽減システムには近距離衝突軽減ブレーキ、誤発進抑制機能、後方誤発進抑制機能があります。ソナーセンサーが壁などの障害物を検知して衝突のおそれがあると判断した場合、駆動力の抑制やブレーキを作動させて衝突回避や被害の軽減を支援します。

ソナーセンサー ►P.197

- 踏切内に閉じ込められた場合など、意図しないタイミングでシステムが作動したときは、ブレーキペダルを踏み、システムが解除されてから運転を続けてください。
- 縁石・輪留め、道路上の段差によりシステムが作動し、駐車や段差を乗り越えることができない場合には機能を OFF にしてください。
- 不要な作動を防ぐために、車両の整備や船舶、トラックなどへの積載時、検査時にシャシーダイナモやフリーローラーを使用するときはシステムを OFF にしてください。
- システムが一度作動した後は、同じ障害物に近づいても作動しません。再作動させるには一定距離の走行が必要です。
- システムは、前進時と後退時にそれぞれ作動します。(例：前進時に作動し一定距離走行前でも、後退時には作動する)
- 近距離衝突軽減ブレーキが作動した場合、誤発進抑制機能および後方誤発進抑制機能の再作動には一定距離の走行が必要となります。

⚠警告

踏み間違い衝突軽減システムは、あらゆる状況で衝突を回避したり、衝突による被害を軽減できるものではありません。

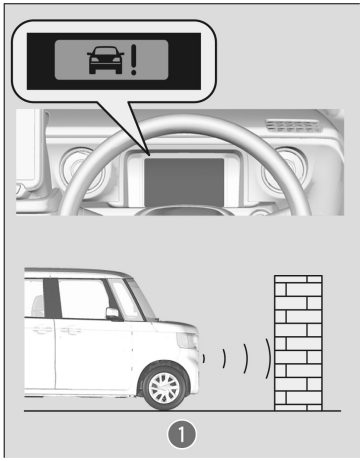
機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

運転者がシフトポジションやペダルの位置および周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ走行してください。

システムの作動

近距離衝突軽減ブレーキ

約 2km/h～約 10km/h で走行しているとき、壁などの障害物に衝突するおそれがあるとき運転者のブレーキ操作を支援し、警告表示と警告音でお知らせします。



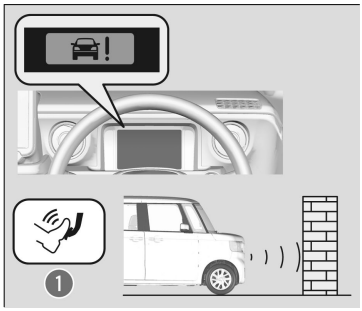
❶ 緊急ブレーキ作動開始
≫作動したらすぐにブレーキペダルを踏んでください。

システムが作動してから一定時間経過するとブレーキ操作の支援が解除されます。停車状態を保持するには、ブレーキペダルを踏み続けるか、シフトポジションを P にしてください。

リヤパーキングセンサーを OFF にして、後退時の近距離衝突軽減ブレーキの作動を OFF にすることができます。
時計*/車両設定 ►P.266

誤発進抑制機能、後方誤発進抑制機能

停車時や約 10km/h 以下で走行しているとき、自車のほぼ正面もしくは真後ろの近距離に壁などの障害物があるにもかかわらず、アクセルペダルを必要以上に強く踏み込んだ場合には、警告表示と警告音で知らせるとともに出力抑制をすることで急な前進・後退を防止します。



❶ アクセル誤踏み込み/エンジンの出力を抑制

システムが作動しないとき：
前進時：急な坂道やシフトポジションが、P、R、Nのとき

後退時：急な坂道やシフトポジションが R 以外のとき
システムは以下のいずれかの条件で解除されます。

- アクセルペダルを離したとき
- アクセルペダルを約 4 秒間踏み続けたとき
- ブレーキペダルを踏んだとき

リヤパーキングセンサーを OFF にして、後方誤発進抑制機能の作動を OFF にすることができます。

時計*/車両設定 ►P.266

システムの ON/OFF

メーターでシステムの ON/OFF を切り換えることができます。

表示の切り換えかた ►P.259

安全支援情報 ►P.263

- システムを OFF にしても、パワーモードを ON にするたびにシステムは自動的に ON になります。

システムの制限

次のような状態のときは、システムが正常に作動しない場合があります。

ソナーセンサーが検知しない障害物の事例

- 人・雪・布・スポンジなど音波を反射しにくい障害物のとき
- フェンス・自転車・標識の支柱など細い障害物のとき
- 背が低い・小さい障害物のとき
- バンパーのすぐ近くにある障害物のとき
- 地面に対して垂直でない壁などの障害物のとき
- 移動する物体など進路上に飛び出してきた障害物のとき

ソナーセンサーが障害物を正しく検知できない事例

- ソナーセンサーが汚れているとき（雪、氷、泥などで覆われているとき）
- 車両が高温または低温の状況にあるとき
- 障害物に対して斜めに接近する場合やハンドルを大きく切っているとき

その他システムが正しく作動しない事例

- カーゴスペースや後席に大きな荷重がかかり、車が傾いているとき

- 雨・霧・雪など悪天候のとき
- 気温・湿度が高いまたは低いとき
- 急勾配の坂道を走行するとき
- 未舗装路などの走行時に草や岩があるとき
- 他の車両のソナーセンサーなど、超音波を発するものが付近にあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- サスペンションを変更したとき

衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合

- 低いゲートや狭いゲートなどの間を通過しようとするとき
- 凸凹な路面や、草地、段差がある場所を走行するとき
- 高い位置に斜めの柱や壁などが突き出しているとき
- 道路脇に障害物があるとき
- 旗や幕、木の枝、踏切や ETC ゲートのバーなどに向かって走行するとき
- 冠水した道を走行するとき

センサーの近くにアクセサリーを取り付けないでください。
リヤセンサーや、その周囲にアクセサリー（自転車ラックなど）を取り付けた場合、アクセサリーを障害物として検知して踏み間違い衝突軽減システムが作動する恐れがありますので、リヤパーキングセンサーを OFF にしてください。
時計*/車両設定 ►P.266

急アクセル抑制機能✤

急アクセル抑制機能について

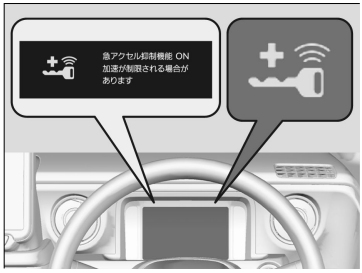
アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急加速を抑制するとともに、音と表示で知らせる運転支援機能です。

- 急アクセル抑制機能は Honda 販売店で機能が作動するように設定された Honda スマートキーが必要となります。設定については Honda 販売店にご相談ください。
- 急アクセル抑制機能が作動するように設定されていないキーと同時持ち込みをしないでください。
  同時持ち込みをすると急アクセル抑制機能が起動しないことがあります。起動のためには必ず設定されているキーで、内蔵キーを使わずに解錠するようにしてください。

⚠警告

急アクセル抑制機能は、運転者の運転を支援するためのシステムであり、あらゆる状況でアクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる衝突を回避したり、衝突による被害を軽減できるものではありません。
システムに頼った運転をすると衝突など思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。運転者はシフトポジションやペダルの位置や常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ走行してください。

システムを作動させるには



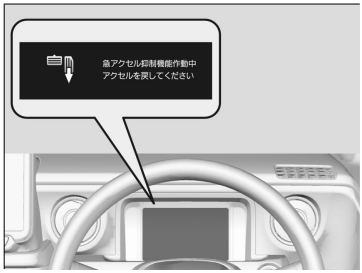
急アクセル抑制機能が作動するように設定された Honda スマートキーを携帯していることを確認し、内蔵キーを使わずに解錠する。

≫エンジンを始動したとき、急アクセル抑制機能の起動メッセージ、急アクセル抑制機能表示灯の点灯を確認してください。

❗ Honda スマートキーが電池切れの場合、急アクセル抑制機能が起動しない場合があります。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

システムの作動



車速が約 30km/h 以下のとき、踏み間違いや踏みすぎでアクセルペダルを素早く強く踏み込んだ場合には、警告表示と警告音で知らせるとともに急加速を抑制します。

加速抑制状態中に、アクセルペダルを数秒間踏み続けたときや、加速抑制状態になった後、すぐにアクセルペダルを早く強く踏み直したときは、一定の速度まで徐々に加速します。
次の場合、急アクセル抑制機能は作動しません。

- 方向指示器が点滅中、または、消灯後、約 2 秒間
- ブレーキペダルを踏んでいるとき、またはブレーキペダルを離したあと、約 2 秒間
  ≫オートマチックブレーキホールド作動時に急発進しようとすると、急アクセル抑制機能が作動する場合があります。
- 上り坂を走行しているとき

作動解除の条件

アクセルペダルを離したとき

システムの制限

次のような状態のときは、急アクセル抑制機能が正常に作動しない場合があります。また、加速したい場合に作動することがあります。

道路状況

- 坂道、凸凹道、砂利道など非舗装路の走行
- 雪道などスリップが発生するような道路の走行
- 坂道の出口など、車両姿勢が急激に変化したとき
- スピードブレーカー、縁石など、大きな段差を乗り越えたとき

自車の状態

カーゴスペースや後席に重い荷物を積んで、車が傾いているとき

その他

惰性走行から急いで加速したとき（たとえば、ETC レーン通過後の加速）

路外逸脱抑制機能

路外逸脱抑制機能について

システムにより車両の車線逸脱や、草、砂利などの道路境界、対向車両への接近の可能性を検知すると、路外逸脱を回避するように運転を支援し、警告で知らせます。

フロントワイドビューカメラ ▶P.195

⚠警告

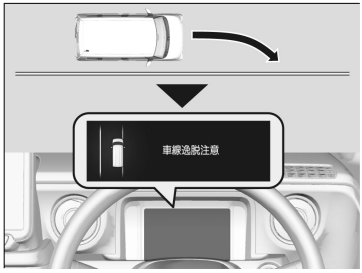
路外逸脱抑制機能は、補助システムとして使用してください。

路外逸脱抑制機能は、自動運転システムではなく、運転者のハンドル操作に代わるものではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

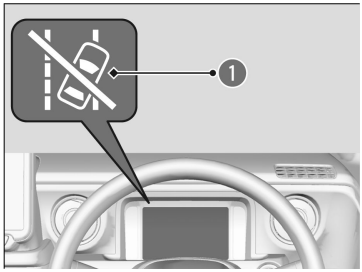
システムの作動



フロントワイドビューカメラによって左右の白線（黄線）、草、砂利などの道路境界や対向車両を検知し、方向指示器（ウィンカー）を使用せずに白線（黄線）を逸脱した、または草、砂利などの道路境界や対向車両へ接近したことを判断したとき作動します。

≫車線区画線（白線や黄線）を検出できない場合、対向車両への接近を回避する支援は行いません。

メーターの警告表示で運転者の操作を促し、車線逸脱を防ぐ方向にハンドル操作を支援します。



繰り返しシステムが作動しても、運転者の操作がない場合は警報音が鳴ります。その後、路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯（❶）が点灯し、操舵アシストが一時停止して警報音のみで警告します。

≫数分経過すると、警告灯が消灯しシステムが復帰します。

- 路外逸脱抑制機能が OFF になると、安全支援情報警告灯（オレンジ）、路外逸脱抑制機能警告灯（オレンジ）が点灯します。
Q 警告灯と表示灯一覧 ►P.248
- 運転者による操作が行われているときや、路面の状況によっては支援が感じられないことがあります。
- カーブ内側にはみ出して走行している、または車線幅が狭いときは、路外逸脱抑制機能の作動が抑制されます。



LKAS を作動させていない場合、車線逸脱、草、砂利などの道路境界や対向車両への接近の可能性を検知した場合にメッセージが表示される場合があります。

作動条件

以下の条件を満たすとき作動します。

- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- 方向指示器（ウィンカー）を使用していないとき
- システムがアクセル、ブレーキ、ハンドルの操作の量と頻度から運転意志がないと判断したとき
- 白線（黄線）の場合：車速が約 60～120km/h のとき
  ≫対向車両が走行している場合：車速が約 30～120km/h のとき
- 草、砂利などの道路境界の場合：車速が約 30～120km/h のとき

路外逸脱抑制機能のアシストタイミングの設定を変更することができます。
Q 時計*/車両設定 ►P.266

システムの ON/OFF

メーターでシステムの ON/OFF を切り換えることができます。

Q 表示の切り換えかた ►P.259

Q 安全支援情報 ►P.263

- システムを OFF にすると、システムを ON にするまで OFF の状態を保持します。

システムの制限

以下の条件下では、システムが正常に作動しない場合があります。

環境の状態によりシステムが正しく検知できない事例

- 白線（黄線）と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 白線（黄線）の付近に影が映っているとき（木々、建物、ガードレール、車両など）
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 強い光が道路に反射しているとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車線や路面、対向車両の全体が照らされていないとき
- 前方の車両との距離が極端に短く、車線や路面がかくれているとき
- 道路境界が草や砂利以外などのとき

道路の状態によりシステムが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や劣化などにより重複やかすれている白線（黄線）、タイヤ痕、さまざまな線が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線（黄線）の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの（縁石、ガードレール、パイロンなど）を白線（黄線）と認識したとき
- カーブ、うねった道路、起伏のある道など、道路状況により白線（黄線）を正しく認識できないとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき

- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき

自車の状態によりシステムが正しく検知できない事例

- 運転者がアクセル、ブレーキまたはステアリングを操作したとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- フロントガラスの内側が曇っているとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースや後席に大きな荷重がかかり、車が傾いているとき
- サスペンションを変更したとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

対向車両の状態により正しく検知できない事例

- 対向車両が横、または斜めを向いているとき
- 前方に対向車両が飛び出したとき
- 対向車両が背景に紛れて検知できないとき
- 暗がりで対向車両が片側点灯または無灯火のとき
- 対向車両との距離が極端に短いとき
- 対向車両の一部が前方の車両によりかくれているとき
- 対向車線が複数あるとき、または右左折専用車線があるとき
- 隣接車線に駐停車もしくは極端に遅い速度で移動している車両があるとき
- 対向車両が特殊な形状の車両
- 対向車両の形状をカメラが正しく検知できないとき

衝突の可能性のない場合の作動について

以下のとき、路外逸脱抑制機能が作動することがあります。

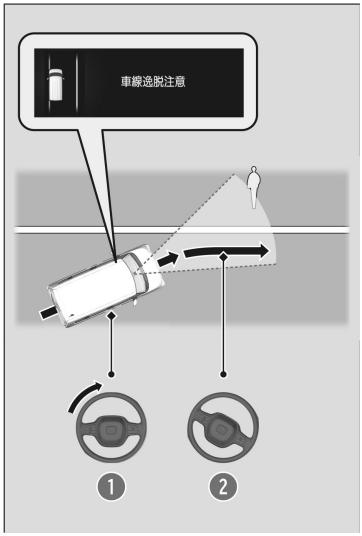
- カーブ走行などで自車の正面に対向車両がいるとき

歩行者事故低減ステアリング

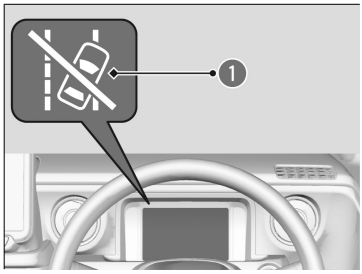
歩行者事故低減ステアリングについて

システムにより歩行者と白線（黄線）を検知し、路肩の歩行者と衝突のおそれがある場合、警告で知らせます。 さらに、ステアリング操作を支援して運転者の衝突回避操作を促します。

フロントワイドビューカメラ ►P.195



❶ 警報と支援
❷ 運転者の回避操作



繰り返しシステムが作動しても運転者の操作がない場合は警報音が鳴ります。その後、路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯（❶）が点灯し操舵アシストが一時停止して、警報音のみで警告します。

≫数分経過すると、警告灯が消灯しシステムが復帰します。

- 車両と歩行者の位置によっては CMBS の作動を優先する場合があります。
- 運転者が操作していたり、路面の状況により支援が感じられないことがあります。

路外逸脱抑制機能の設定で「操舵アシストなし警報のみ」を選択すると、歩行者事故低減ステアリングのステアリング支援が OFF になります。

時計*/車両設定 ►P.266

⚠警告

歩行者事故低減ステアリング機能は、運転者の運転操作を支援するシステムです。

あらゆる状況での歩行者事故を、軽減したり回避できるものではありません。

機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

運転者は周囲の状況を確認し、歩行者と適切な距離を保ち安全運転を行ってください。

作動条件

以下の条件を満たすとき作動します。

- 白線（黄線）が連続しているとき
- 車速が約 10～40km/h で走行しているとき
- 直線の道路を走行しているとき
- 方向指示器（ウィンカー）を使用していないとき
- システムがアクセル、ブレーキ、ハンドルの操作の量と頻度から運転意志がないと判断したとき

システムの ON/OFF

歩行者事故低減ステアリングは、路外逸脱抑制機能を ON にすると作動します。メーターで路外逸脱抑制機能の ON/OFF を切り替えてください。

Q 表示の切り換えかた ►P.259

Q 安全支援情報 ►P.263

- システムを OFF にすると、システムを ON にするまで OFF の状態を保持します。

システムの制限

以下の条件下では、システムの支援が遅れたり支援できない場合があります。

環境によりシステムが正しく検知できない事例

- 白線（黄線）と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき

- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 白線（黄線）の付近に影が映っているとき（木々、建物、ガードレール、車両など）
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 強い光が歩行者や路面に反射しているとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車線や路面、歩行者の全体が照らされていないとき
- 前方の車両との距離が極端に短く、車線や路面がかくれているとき
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

道路の状態によりシステムが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や劣化などにより重複やかすれている白線（黄線）、タイヤ痕、さまざまな線が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線（黄線）の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの（縁石、ガードレール、パイロンなど）を白線（黄線）と認識したとき
- カーブ、うねった道路、起伏のある道など、道路状況により白線（黄線）や歩行者を正しく認識できないとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき

自車の状態によりシステムが正しく検知できない事例

- 運転者がアクセル、ブレーキまたはステアリングを操作したとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- フロントガラスの内側が曇っているとき

- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースや後席に大きな荷重がかかり、車が傾いているとき
- サスペンションを変更したとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

歩行者の状態によりシステムが正しく検知できない事例

- 歩行者との距離が極端に短いとき
- 前方に歩行者が飛び出したとき
- 歩行者がベビーカーや自転車などを押しているとき
- 歩行者の一部（頭や手足など）が荷物などによりかくれているとき
- 歩行者が背景に紛れて検知できないとき
- 歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっていたり、手を挙げたり、走っているとき
- 歩行者の身長が約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者が集団で前方にいるとき

その他、作動できない事例

- 運転者が急加速やステアリング操作をしながら、前方の歩行者に接近したとき
- 歩行者の形状をシステムが正しく検知できないとき
- 自転車や二輪車、車いす、特殊な形状の車両などのとき

渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール(ACC)

渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール（ACC）について

高速道路走行時に設定した速度や車間距離を保つように加減速を行い、運転者がアクセルやブレーキを操作せずに定速走行、先行車への追従や停車ができるよう支援します。

フロントワイドビューカメラ ▶P.195

⚠警告

渋滞追従機能付 ACC は、補助システムとして高速道路や自動車専用道路でのみ使用してください。

渋滞追従機能付 ACC は、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

渋滞追従機能付 ACC で停車した車両から絶対に外に出ないでください。

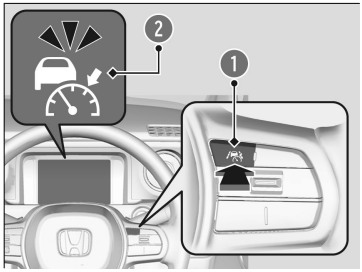
渋滞追従機能付 ACC の作動中に停車した車両から、適切な駐車操作無しで外に出ると車両が操作無しで動き出す可能性があり、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

渋滞追従機能付 ACC は、運転者を支援するシステムです。必要なときはブレーキペダルを使用し、常に安全な車間距離を保ってください。

! 以下の状況では、渋滞追従機能付 ACC を使用しないでください。

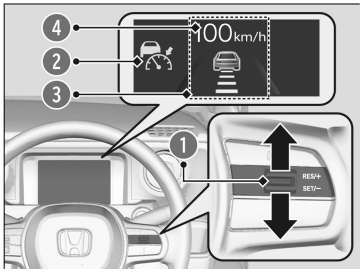
- 車線変更や急な加減速を繰り返すような交通状況
- 急カーブのある道
- 起伏のある坂道を走行しているとき
- 急な上り坂や急な下り坂を走行しているとき
- 高速道路などで、料金所、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアに進入するとき
- 凍結路や積雪路などの滑りやすい路面

渋滞追従機能付 ACC の作動方法



［1］シフトポジションが D 、 S のときに スイッチ（❶）を押す。

≫メーター内に、 表示灯（ホワイト）（❷）が点灯します。



［2］RES/+/SET/− スイッチ（❶）を上か下に押す。

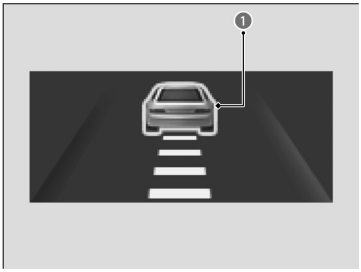
≫設定された車速で作動を開始します。

≫メーターにアイコンや設定車速が表示されます。

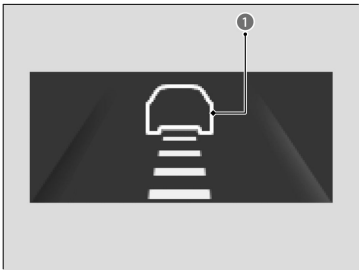
≫条件を満たせば、同時に LKAS が作動します。

❷ 表示灯（グリーン、ホワイト/グリーン）
❸ 渋滞追従機能付 ACC 開始時に点灯
❹ 設定車速（ホワイト）

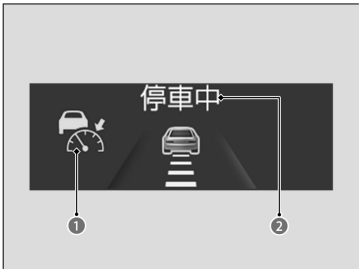
- ブレーキペダルを踏んでいるときは、システムは作動しません。
- 30km/h 以下で走行しているときは、設定車速が 30km/h にセットされます。車両が動いていない場合は、ブレーキペダルを踏んでいても作動することができます。



先行車が検知範囲に入ると、アイコン（❶）が表示され、先行車の車速変化に合わせ、設定車速の範囲内で車間距離を保ちながら追従走行します。



先行車がいないときは実線の車のアイコン（❶）が表示され、設定した車速で定速走行します。先行車が車線変更などでいなくなると、設定車速までゆるやかに加速してから定速走行します。



先行車が停車すると、自車も自動で停車して、メッセージ（❷）が表示されます。先行車の動きに合わせて、**RES/+/SET/−**スイッチを上か下に押すか、アクセルペダルを踏むことで発進し、以前の設定車速の範囲内で追従走行します。

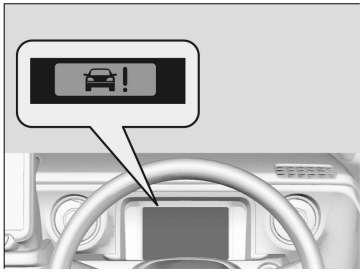
≫先行車がいなくなったあとはアクセルペダルを踏むと発進します。

≫先行車に追従して停車したときの車間距離は設定により変わります。

車間距離の設定方法 ▶P.226

❶ 表示灯（グリーン）

- 設定車速より遅い速度で走行する先行車や割り込み車が前方にあらわれた場合、システムは減速制御を行います。
- 先行車または割り込み車の車速が自車よりも速く、次第に離れていく場合、先行車との距離が短くても警報が出ず、そのまま追従することがあります。
- 先行車がインターチェンジやサービスエリアなどに入る際、自車の前から先行車がいなくなるときは、車間距離制御が少しの間継続する場合があります。
- システムによるブレーキが作動しているときは、制動灯が点灯します。
- カーブなどの走行時やハンドル操作、車線内の自車位置によっては、一時的に隣の車線の車や周囲の物に対して車間距離制御を行う場合があります。



先行車が急減速したり、遅い車両が割り込んできたときは、警告表示と警告音で衝突のおそれがあることを運転者に知らせます。
≫ブレーキを踏み、適切な車間距離を保ってください。

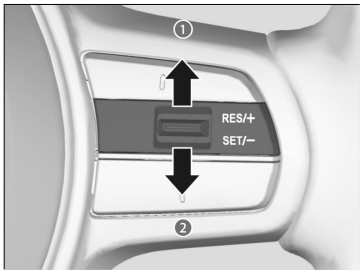
- システム作動中にアクセルペダルを踏み込むと、一時的に車速が上がります。このとき、先行車がいても警告音や警告表示は出ません。アクセルペダルを離すとシステムが復帰します。



加減速を多く繰り返す走行や長い下り坂の走行、重い荷物を積んで走行しているときなどにシステムが自動解除された後、条件が継続する場合は一時的にシステムが作動しない場合があります。

先行車検知音の有り/無しを設定することができます。
時計*/車両設定 ►P.266

車速の調整方法

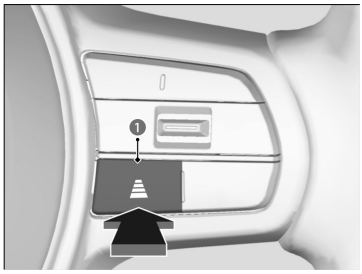


❶ **RES/+** 側
- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が上がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が上がり、手を離したときの設定車速に固定

❷ **SET/−** 側
- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が下がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が下がり、手を離したときの設定車速に固定

- 設定車速を上げても先行車の車速が遅い場合は、車間距離を維持するために加速させない場合があります。
- アクセルペダルを踏み、**RES/+/SET/−** スイッチを下に押すと、現在の車速が設定車速になります。

車間距離の設定方法

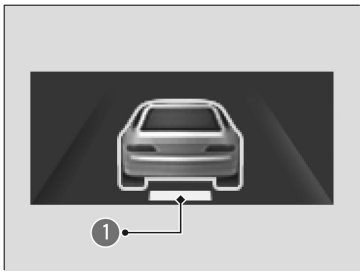


スイッチ（1）を押し、車間距離を設定する。

≫先行車との車間距離設定は、4 段階に切り換えることができます。

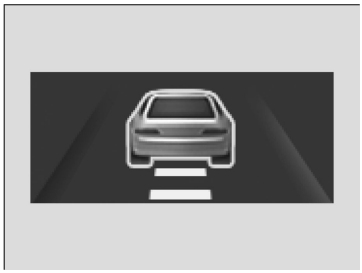
≫常に周囲の状況を確認し、交通状況に応じた車間距離の設定を選択してください。

≫車速が低くなるほど、車間距離は短くなります。

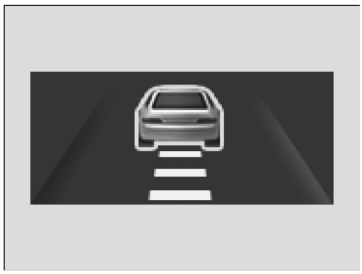


インジケーター（1）が示す車間距離：

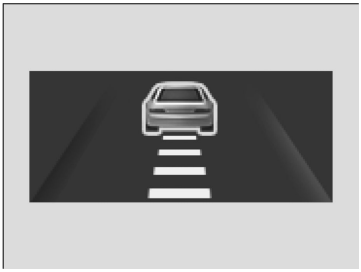
- 約 27m※1
- 約 33m※2



- 約 35m※1
- 約 43m※2



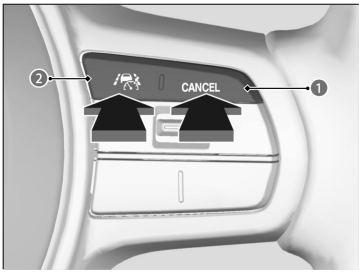
- 約 44m※1
- 約 55m※2



- 約 54m※1
- 約 67m※2

※1: 車速 80km/h のとき
※2: 車速 100km/h のとき

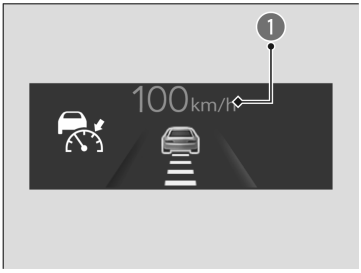
作動解除の方法



以下のいずれかの操作をすると、渋滞追従機能付 ACC が解除されます。このとき同時に LKAS が解除されます。

- **CANCEL** スイッチ（❶）を押すか、ブレーキペダルを踏む
  ≫ 表示灯がグリーン、ホワイト/グリーンからホワイトになります。
- スイッチ（❷）を押す
  ≫ 表示灯が消灯します。

解除前の設定車速での復帰



CANCEL スイッチまたは、ブレーキペダルでシステムの作動を解除すると、直前の設定車速がグレー（❶）で表示されます。

RES/+/SET/− スイッチを上に押すと解除前の設定車速で作動を再開することができます。

停車中の解除

自車が自動的に停車しているときに渋滞追従機能付 ACC が解除された場合は、警告音が鳴りメーターに警告が表示されることがあります。すみやかにブレーキを踏み、適切な車間距離を保ってください。

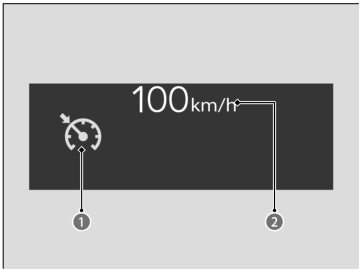
クルーズモードへの切換え

スイッチを約 1 秒間押し続ける。
≫メーター内の 表示灯（ホワイト）が、 表示灯（ホワイト）に変わり、クルーズモードに切り換わります。
≫再度 スイッチを約 1 秒間押し続けると、渋滞追従機能付 ACC に戻ります。

- 車速をセットしているとき、または スイッチでシステムを OFF にしているときはモードを切り換えられません。
- クルーズモードへ切り換えた状態でも スイッチを押して ON にし直すたびに、渋滞追従機能付 ACC に戻ります。

> 現在のモードがどちらなのかを常に意識して使用してください。
> クルーズモード中は先行車との車間距離を保持しません。

クルーズモードの作動方法



約 30km/h 以上で走行しているとき、**RES/+/SET/−** スイッチを上か下に押す。
≫設定された車速で自動定速走行を開始します。
≫メーターに設定車速やアイコンが表示されます。

❶ 表示灯（グリーン）
❷ 設定車速（ホワイト）

車速の調整方法

車速の調整方法は、渋滞追従機能付 ACC の操作と同じです。

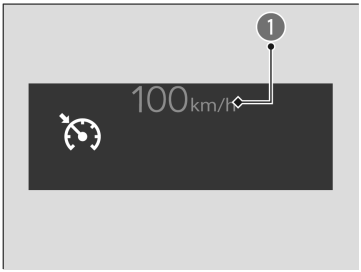
解除方法

次の操作をすると、自動定速走行が解除されます。また、車速が 25km/h 未満になると自動的に自動定速走行が解除になります。

- **CANCEL** スイッチを押すか、ブレーキペダルを踏む
  ≫ 表示灯がグリーンからホワイトになります。

- スイッチを押す
  ≫ 表示灯が消灯します。

解除前の設定車速での復帰



CANCEL スイッチまたは、ブレーキペダルで自動定速走行を解除すると、直前の設定車速がグレー（❶）で表示されます。

車速が 30km/h 以上の場合は、RES/+/SET/ー スイッチを上に押すと解除前の設定車速で作動を再開することができます。

システムの制限

以下の条件では、システムが正しく機能しなかったり自動解除する場合があります。

環境によりシステムが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 強い光が車両や路面に反射しているとき
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車両の全体が照らされていないとき
- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき

道路の状態によりシステムが正しく検知できない事例

- カーブ、うねった道路、坂道などのとき
- 雪道や未舗装路などわだちのある道路
- 路面に水溜まりや水膜があるとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき

自車の状態によりシステムが正しく検知できない事例

- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき

- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- フロントガラスの内側が曇っているとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースや後席に大きな荷重がかかり、車が傾いているとき
- サスペンションを変更したとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

前方の車両の状態によりシステムが正しく検知できない事例

- 前方に車両が急に割り込んだとき
- 前方の車両との距離が極端に短いとき
- 前方の車両が背景に紛れて検知できないとき
- 前方の車両の車高が低いとき
- 暗がりで前方の車両が片側点灯または無灯火のとき

その他、システムが正しく作動しない事例

- 前方の車両が駐停車していたり、自車との速度差が大きいとき
- 前方の車両が急減速したとき
- 前方の車両が特殊な形状の車両
- 荷物を積んでいないトラックなど前側に対して後側の高さが低い、もしくは幅が狭い車両
- 自車または前方の車両が、車線の片側にかたよって走行しているとき
- 前方の車両が二輪車など幅の狭い車両のとき
- 前方の車両の最低地上高が極端に高いとき
- 前方の車両の形状をカメラが正しく検知できないとき

システムの自動解除

次の場合は、メッセージが表示されてブザーが鳴り、システムが自動解除されます。

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき
- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところを走行したとき
- 悪路の走行や山岳路を長時間走行したとき
- 先行車を安定して検知できないとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- 検知した先行車との車間距離が短すぎるとき
- 急加速したとき

- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムによりカメラ前方が覆われているとき
- カーゴスペースや後席に大きな荷重がかかり、車が傾いているとき
- タイヤの異常を検知したとき
- ブレーキシステム警告灯（オレンジ）が点灯したとき
- VSA 警告灯が点灯したとき
- ABS、VSA、CMBS などのシステムによるブレーキ、または急アクセル抑制機能✤が作動したとき
- 急斜面で停車しているとき
- パーキングブレーキをかけたとき
- 長い下り坂などで減速を繰り返したとき
- LKAS が作動しているときに、システムが一定時間運転者の操作がないと判断したとき
- パワーモードを OFF モードにしたとき
- 停車中に運転席のシートベルトを外したとき
- 車両が 10 分以上停車しているとき

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

車線維持支援システム（LKAS）

車線維持支援システム（LKAS）について

車線の中央付近を走行しているときに、システムにより左右の白線（黄線）をとらえると、ステアリングの操作をアシストし、車線内走行を維持するよう補助します。

フロントワイドビューカメラ ▶P.195

⚠警告

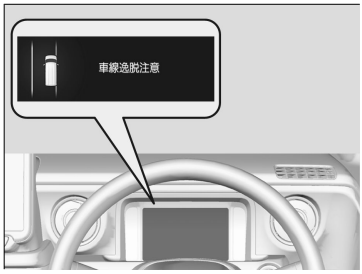
LKAS は補助システムとして使用してください。

LKAS は、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。また、高速道路や自動車専用道路を走行するときに使用してください。

システムが作動しているときに、左右の白線（黄線）に偏る場合は、システムを停止し Honda 販売店で点検を受けてください。

システムの作動

車が車線中央を走行するようにアシストします。白線（黄線）に近づくと電動パワーステアリングのアシストが強くなります。



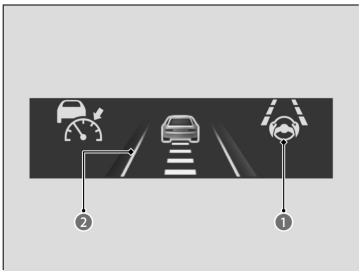
運転状況により、車が車線逸脱を検知すると車線逸脱の警報を音とメーター表示で行います。

作動条件

以下の条件を満たすとき作動します。

- 渋滞追従機能付 ACC が作動しているとき
- 左右に白線（黄線）が引かれている車線の中央付近を走行しているとき
- 直線、またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- 方向指示器（ウィンカー）を出していないとき
- 約 65～120km/h で走行しているとき

システムの作動方法



渋滞追従機能付 ACC を作動させる。

≫車線中央付近を走行中に車線を検知すると、表示灯（❶）と車線表示（❷）がホワイトからグリーンに切り替わり、LKAS が作動します。

渋滞追従機能付 ACC の作動方法 ▶P.223

≫渋滞追従機能付 ACC を作動させても LKAS が作動しない場合は、スイッチを押して LKAS を ON にしてください。



システムの作動中にハンドルから手を離したり、ハンドル操作量が少ない場合は警告を表示します。繰り返し表示されても操作がされない場合は警報音がなりシステムが解除されます。

解除方法

スイッチ、または CANCEL スイッチを押すと、LKAS が解除されます。また、ブレーキペダルを踏んだ場合も LKAS は解除されます。

自動的に一時解除される場合

次の場合、表示灯がホワイトに切り替わり、LKAS が自動解除されます。

- 白線（黄線）を検知できないとき
- ハンドル操作をしていないとき

- 急なハンドル操作をしたとき
- 急なカーブを走行したとき
- 作動車速を超えたとき
- ABS、VSA、またはシステムによるブレーキ（CMBS など）が作動したとき
- 車速が 50km/h 以下になったとき
  ≫車速が 65km/h 以上になると、LKAS は復帰します。

これらの条件が続かなければ、システムは自動的に再開されます。

LKAS の自動解除ブザーの ON/OFF を設定できます。
時計*/車両設定 ►P.266

システムの制限

以下の条件では、システムが正しく機能しない場合があります。

環境によりシステムが正しく検知できない事例

- 白線（黄線）と道路表面の区別ができないとき
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 白線（黄線）の付近に影が映っているとき（木々、建物、ガードレール、車両など）
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車線や路面が照らされていないとき
- 前方の車両との距離が極端に短く、車線や路面がかくれているとき
- 強い光が路面に反射しているとき

道路の状態によりシステムが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や劣化などにより重複やかすれている白線（黄線）、タイヤ痕、さまざまな線が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線（黄線）の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの（縁石、ガードレール、パイロンなど）を白線（黄線）と認識したとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき

- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 雪上路や路上の雪・水溜まりなどで舗装路が部分的に見えているとき
- 路面に水溜まりや水膜があるとき
- カーブ、うねった道路、起伏のある道など、道路状況により白線（黄線）を正しく認識できないとき
- 未舗装路やわだちのある道路を走行しているとき
- 分岐・合流路などを走行するとき

自車の状態によりシステムが正しく検知できない事例

- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- フロントガラスの内側が曇っているとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースや後席に大きな荷重がかかり、車が傾いているとき
- サスペンションを変更したとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

先行車発進お知らせ機能

先行車発進お知らせ機能について

信号待ちなど、先行車の発進に気づかず停止を続けると、音と表示で運転者にお知らせします。

⚠警告

先行車発進お知らせ機能は、運転者をアシストするための補助システムです。

安全に発進できる状況を知らせるシステムではありません。機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。発進するときは、運転者が目視で周囲と前方の安全を十分に確認し、適切な車間距離を保ち運転してください。

作動条件

先行車との車間距離が約 10m 以内で以下のいずれかにより停止しているとき、先行車の発進をお知らせします。

- ブレーキペダルを踏んでいるとき
- オートマチックブレーキホールドが作動しているとき
- 渋滞追従機能付 ACC により停止しているとき
- シフトポジションが N でパーキングブレーキをかけているとき

先行車発進お知らせ機能を OFF にしたり、作動のタイミングを変更することができます。

時計*/車両設定 ►P.266

システムの制限

以下の条件では、システムが正しく機能しない場合があります。

環境によりシステムが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで周囲の明るさが変化したとき
- 強い光が車両や路面に反射しているとき
- 夜間やトンネル内などで周囲が暗く、車両の全体が照らされていないとき
- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かっているとき

道路の状態によりシステムが正しく検知できない事例

- カーブ、うねった道路、右左折直後、坂道などのとき

自車の状態によりシステムが正しく検知できない事例

- 自車の停車している時間が短いとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- フロントガラスの内側が曇っているとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースや後席に大きな荷重がかかり、車が傾いているとき
- サスペンションを変更したとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

先行車の状態によりシステムが正しく検知できない事例

- 先行車の停車している時間が短いとき
- 先行車との距離が極端に短いとき
- 先行車が極端に遅い速度で移動しているとき
- 先行車が右左折や急旋回したとき
- 先行車が背景に紛れて検知できないとき
- 暗がりで先行車の尾灯が片側点灯または無灯火のとき

その他、システムが正しく検知できない事例

- 歩行者や自転車、二輪車、特殊な形状の車両など
- 自車と先行車の間に別の車両や歩行者、自転車などが割り込んできたとき
- 先行車が自車の正面にいないとき

その他、作動できない事例

- 先行車の形状をシステムが正しく検知できないとき
- 先行車の最低地上高が極端に高いとき
- 先行車が荷物を積んでいないトラックなど前側に対して後側の面積が小さい車両
- 渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール（ACC）警告灯が点灯しているとき

標識認識機能

標識認識機能について

走行中に、フロントワイドビューカメラで認識した道路標識のアイコンをメーターに表示して、運転者にお知らせします。

フロントワイドビューカメラ ▶P.195

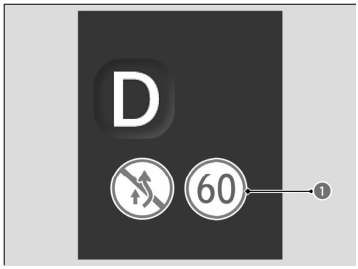
- すべての標識が表示されるわけではありません。また、表示される道路標識であっても新しいデザインの道路標識は表示されません。

⚠警告

標識認識機能は補助機能として使用する。

標識認識機能は、あらゆる状況で作動する機能ではありません。あくまでも、運転者をアシストするための機能です。常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

システムの作動



最高速度（❶）、はみ出し通行禁止、一時停止、車両進入禁止の道路標識アイコンを同時に二つまで表示します。

≫認識された最高速度の標識に対して、速度超過したときは表示された最高速度アイコンが点滅します。

≫車両進入禁止区域に進入すると車両進入禁止アイコンが 5 秒間点滅します。その後、アイコンは消えます。

≫一時停止、車両進入禁止は自車の速度が約 60km/h 以下のときに表示します。

道路標識の表示が別のものに切り替わるとき：

- 表示中の最高速度と異なる最高速度標識を認識したとき
- 一時停止標識または、車両進入禁止標識を認識したとき

道路標識の表示が消えるとき：

- 最高速度、はみ出し通行禁止：標識ごとに設定された距離を走行した、または制限終了の補助標識を認識したとき
- 一時停止：標識を通過したとき
- 車両進入禁止：進入せず標識を通過したとき

- 交差点で方向指示器（ウィンカー）を出しながら右左折したとき

標識認識機能表示の ON/OFF を設定できます。
時計*/車両設定 ►P.266

速度超過お知らせの ON/OFF や、お知らせを開始する速度超過量を設定できます。
時計*/車両設定 ►P.266

標識認識機能が故障した場合はメーターに ⊖ が表示されます。⊖ アイコンが消えないときは、Honda 販売店で点検を受けてください。

システムの制限

以下の場合などにおいては、標識を正しく認識できない場合や、標識の認識が遅れたり、認識できない場合があります。

環境によりシステムが正しく検知できない事例

- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が路面に反射しているとき
- 夜間やトンネル内などの暗いところ
- 雨、霧、雪などの悪天候のとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 先行車による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

道路の状態によりシステムが正しく検知できない事例

- 段差などにより車両が大きく揺れたとき

自車の状態によりシステムが正しく検知できない事例

- 夜間やトンネル内などの暗いところで、ヘッドライトが点灯していない状態で走行しているとき
- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれて、暗いところで前方が見にくいとき
- フロントガラスの汚れ、曇り、雨粒、泥、湿った雪、シール、アクセサリー、ステッカーやフィルムなどによりカメラ前方が覆われているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- フロントガラスの内側が曇っているとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき

- カーゴスペースや後席に重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- サスペンションを変更したとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

標識の位置や状態によりシステムが正しく検知できない事例

- 標識の周囲が煩雑で標識を見つけにくい場合
- 自車から遠く離れた位置にある標識
- 自車のヘッドライトの光が届きにくい位置にある標識
- 曲がり角やカーブの先に設置された標識
- 色あせた標識や折れ曲がった標識
- 向きが変えられた標識や破損した標識
- 泥、雪、又は、霜で覆われた標識
- 一部が樹木などで隠れていたり、車両などの陰になった標識
- 標識の表面上に光（街灯など）や影が映り込んでいる場合
- 明るすぎたり、暗い標識（電光式標識）
- 小さいサイズの標識（終了を示す補助標識など）

その他、システムが正しく検知できない事例

- 高い速度で走行しているとき

以下の場合などにおいては、標識認識が正しく作動せず、自車の走路に対する規制内容とは異なる表示をしたり、実際には対象となる標識が無いのに表示したりすることがあります。（最高速度標識においては、実際の規制速度よりも高い数値を表示したり、低い数値を表示したりすることがあります。）

- 標識の上や下に、規制の地点（始まり、終わりなど）や条件（曜日、時間帯など）を示す補助標識がある場合
- 数字の判別がつきにくい標識（電光式標識、数字がかすれた標識など）
- 自車の走路に対しての標識ではないが、自車の走路付近にあり、標識が自車の走路に向いている場合（側道が本線に合流する地点の一時停止標識など）
- 認識対象の標識の色、形、図形に似たものがある場合（類似の標識、電光掲示板、看板、のぼり旗、構造物など）

パーキングセンサーシステム

パーキングセンサーシステムについて

センサーが障害物を検知し、車両と障害物の距離を警報音と表示でお知らせします。
Q ソナーセンサー ►P.197

> ❗ 駐車する前に車両の周りに障害物がないことを確認してください。

システムの ON/OFF

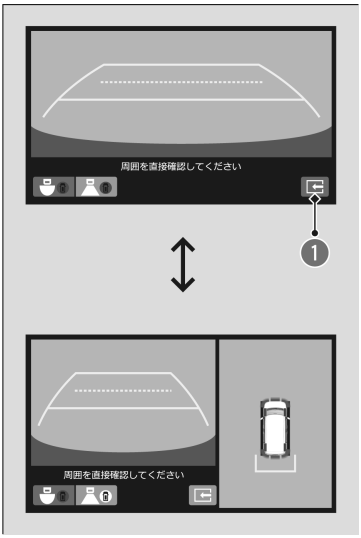
メーターでシステムの ON/OFF を切り換えることができます。
Q 表示の切り換えかた ►P.259
Q 安全支援情報 ►P.263

- システムを OFF にすると、システムを ON にするまで OFF の状態を保持します。

> ⚙ リヤパーキングセンサーだけを OFF にすることもできます。リヤパーキングセンサーを OFF にすると、後退中の踏み間違い衝突軽減システムは作動しません。
>
> Q 時計*/車両設定 ►P.266
>
> Q 踏み間違い衝突軽減システムについて ►P.207

▼ マルチビューカメラシステム装備車

画面操作



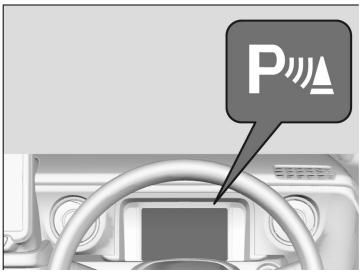
アイコン（❶）をタッチして、通常表示と分割表示に切り替えることができます。

障害物を検知したときの作動

シフトポジションが R で車速が 9km/h 未満のとき、フロントコーナーセンサー、リヤセンサーが作動します。
シフトポジションが P、R 以外で、車速が 9km/h 未満のときフロントセンサーが作動します。

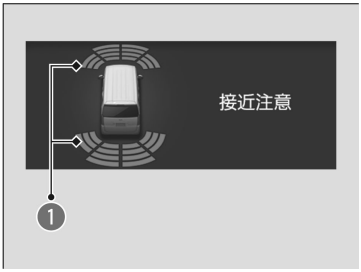
▼ マルチビューカメラシステム装備車

≫障害物との距離が近づくと前方のカメラ画像が画面に表示されます。障害物が検知されなくなくなると前の画面に戻ります。

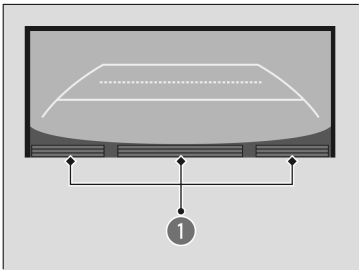


パーキングセンサー警告灯が点滅します。

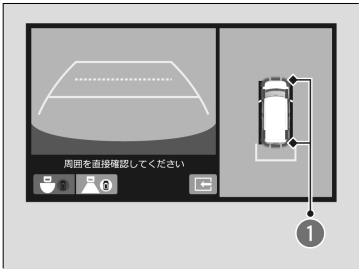
≫システムを OFF にしても障害物を検知するとパーキングセンサー警告灯のみが点滅します。



検知した場所をメーターのインジケーター（❶）でお知らせします。



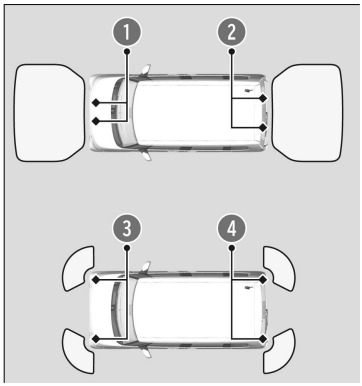
ナビゲーション、またはオーディオの画面✤でも検知した場所をインジケーター（❶）でお知らせします。





✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

インジケーター色による障害物と車両の距離



N-BOX、N-BOX JOY：

❶ フロントセンターセンサー

- イエロー：約 80-60cm※
- オレンジ：約 60-35cm
- レッド：約 35cm 以下

❷ リアセンターセンサー

- イエロー：約 110-75cm※
- オレンジ：約 75-50cm
- レッド：約 50cm 以下

❸ フロントコーナーセンサー

- オレンジ：約 60-35cm
- レッド：約 35cm 以下

❹ リアコーナーセンサー

- オレンジ：約 60-35cm
- レッド：約 35cm 以下

N-BOX CUSTOM：

❶ フロントセンターセンサー

- イエロー：約 85-55cm※
- オレンジ：約 55-35cm
- レッド：約 35cm 以下

❷ リアセンターセンサー

- イエロー：約 110-60cm※
- オレンジ：約 60-35cm
- レッド：約 35cm 以下

❸ フロントコーナーセンサー

- オレンジ：約 65-35cm
- レッド：約 35cm 以下

❹ リアコーナーセンサー

- オレンジ：約 60-35cm
- レッド：約 35cm 以下

車両と障害物の距離が近くなるにつれて警報音による警報間隔が早まります。

※: イエローのときは、センターセンサーのみが障害物を検知します。

警報音を一時的に OFF にするには、警報音がなっているときにレフトセレクターホイールを押してください。シフトポジションを P / R から D / N / S、またはその反対で切り替えるか 14km/h 以上で走行すると一時 OFF が解除されます。

システムの制限

次のようなときは、システムが正常に働かないことがあります。

- センサーが雪、氷、泥などで覆われているとき
- 車両が高温または低温の状況にあるとき
- 超音波や周波数の高い音を発するものが近くにあるとき
- 雨・霧・雪など悪天候のとき

次のようなときは、システムが障害物を検知できないことがあります。

- 障害物が細いとき、または低いとき
- 雪、布、スポンジなど吸音しやすい材質があるとき
- バンパーの真下に障害物があるとき

次のようなときは、システムが誤って障害物を検知することがあります。

- 凸凹な路面や、草地、段差があるとき
- 他の車両のソナーセンサーなど、超音波を発するものが付近にあるとき
- 大雨などによりセンサー付近に水しぶきがかかったとき

センサーの近くにアクセサリーを取り付けないでください。
リヤセンサーや、その周囲にアクセサリー（自転車ラックなど）を取り付けた場合、アクセサリーを障害物として検知して踏み間違い衝突軽減システムが作動する恐れがありますので、リヤパーキングセンサーを OFF にしてください。

時計*/車両設定 ►P.266

メーターについて

警告灯と表示灯

警告灯と表示灯一覧……248

警告灯が点灯/点滅したときは…… 249

メーター

メーターの種類…… 255

マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイについて
…… 259

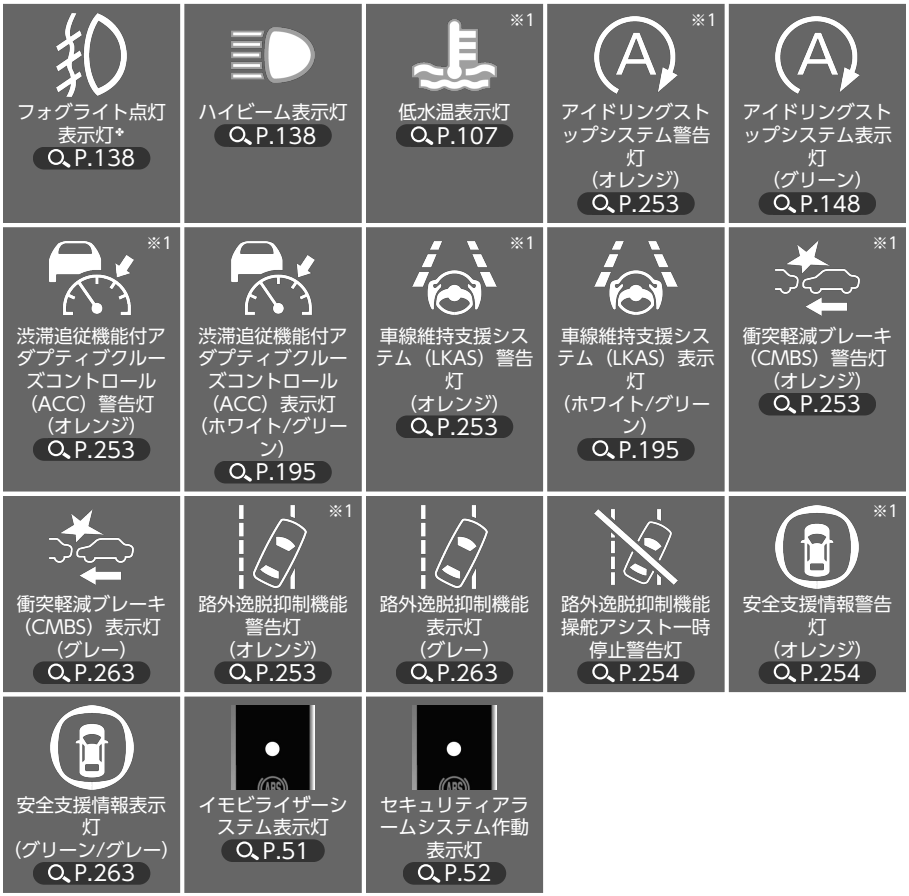
表示について……259

警告灯と表示灯

警告灯と表示灯一覧

 ※1 ブレーキ警告灯（レッド） Q P.250	 ※1 ブレーキシステム警告灯（オレンジ） Q P.250	 ※1 12V バッテリー充電警告灯 Q P.250	 シートベルト非着用警告灯 Q P.250	 ※1 エアバッグシステム警告灯 Q P.251
 ※1 PGM-FI 警告灯 Q P.251	 燃料残量警告灯（オレンジ） Q P.251	 ※1 ABS（アンチロックブレーキシステム）警告灯 Q P.251	 ※1 VSA（ビークルスタビリティアシスト）警告灯 Q P.252	 VSA OFF 警告灯 Q P.252
 ※1 EPS（電動パワーステアリング）システム警告灯 Q P.252	 パーキングセンサー警告灯 Q P.252	 インフォメーション表示灯 Q P.268	 トランスミッション警告灯 Q P.252	 シフトポジション表示灯 Q P.109
 シフトインジケーター/M（7速マニュアルシフトモード）表示灯✤ Q P.110	 オートマチックブレーキホールドシステム表示灯 Q P.115	 ※1 オートマチックブレーキホールド表示灯 Q P.115	 急アクセル抑制機能表示灯✤ Q P.211	 ECON モード表示灯 Q P.148
 クルーズコントロール表示灯（ホワイト/グリーン） Q P.228	 方向指示器表示灯 Q P.136	 非常点滅表示灯	 ライト点灯表示灯 Q P.136	 ※1 オートハイビーム表示灯 Q P.139

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。



※1: これらの警告灯と表示灯は、パワーモードを ON モードにしたときに点灯し、エンジン始動後または、数秒後に消灯します。点灯しない場合や消灯しないときは、システム異常のおそれがありますので、取扱説明書の指示に従い対処してください。

警告灯が点灯/点滅したときは

警告灯は、車両状態に応じて点灯/ 点滅します。 点灯/ 点滅と同時にメッセージが表示されることがあります。メッセージの内容に従い Honda 販売店で点検を受けてください。
走行できないメッセージが表示されている場合は、ただちに安全な場所に停車し、Honda 販売店にご連絡ください。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。



ブレーキ警告灯（レッド）

パーキングブレーキをかけると点灯
ブレーキフルード量が低下したときに点灯
≫ただちに安全な場所に車を停めてください。
Q ボンネット内のメンテナンス項目 ▶P.275
≫ブレーキペダルを軽く踏んで、ペダルの圧力を確認してください。ブレーキペダルに抵抗がない場合は、必要に応じてギヤを落とし、安全な場所に車を停めてください。

ブレーキシステムが異常のときに点灯
電子制御パーキングブレーキが異常のときに点滅
≫パーキングブレーキを使用しないでください。
≫パーキングブレーキが作動していない可能性があるため、車両が動き出さないように、シフトポジションを P にしてください。



ブレーキシステム警告灯 （オレンジ）

ブレーキに関係するシステムが異常のときに点灯
≫点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されています。

電子制御パーキングブレーキシステム、オートマチックブレーキホールドシステムが異常のときに点灯
≫パーキングブレーキを使用しないでください。



12V バッテリー充電警告灯

充電システムに異常があるときに点灯



シートベルト非着用警告灯

シートベルトを着用していないときに点灯もしくは点滅
≫すみやかにシートベルトを正しく着用してください。
Q シートベルトリマインダー ▶P.78

- リヤシートはシートベルトを外すと点灯もしくは点滅し、しばらくすると消灯します。

- シートベルトを正しく着用していても警告灯が点灯もしくは点滅する場合は、センサーの誤検知などの要因が考えられるため、Honda 販売店に修理を依頼してください。
- 各シートベルトの着用状況は、マルチインフォメーションディスプレイで確認することができます。

表示の切り換えかた ►P.259



エアバッグシステム警告灯

エアバッグシステム、シートベルトプリテンショナーシステムが異常のときに点灯

エアバッグについて ►P.39



PGM-FI 警告灯

エンジンの排気ガス制御システムに異常があると点灯

- PGM-FI 警告灯が点灯したまま運転すると、排気ガス制御システムとエンジンを損傷する場合があります。

エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅

≫枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10 分以上エンジンを停止して冷えるまでお待ちください。



燃料残量警告灯（オレンジ）

燃料の残量が少なくなった（2WD 車はおよそ 4.0 リットル以下、4WD 車はおよそ 3.7 リットル以下）ときに点灯

航続可能距離 ►P.260

燃料計に異常があるときに点滅



ABS（アンチロックブレーキシステム）警告灯

ABS が異常のときに点灯

- 点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されていますが、ABS は作動しません。 急ブレーキ時に車両が不安定になる可能性がありますので、高速走行や急ブレーキを避けてください。



VSA（ビークルスタビリティアシスト）警告灯

VSA が作動しているときは点滅
VSA システム、ヒルスタートアシストシステム、電子制御ブレーキアシスト、発進補助ブレーキ機能、アジャイルハンドリングアシストのいずれかが異常のときに点灯

- 点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されています。



VSA OFF 警告灯

VSA を OFF にしたときに点灯

VSA（ビークルスタビリティアシスト） ►P.151



EPS（電動パワーステアリング）システム警告灯

EPS システムが異常のときに点灯
≫安全な場所に停車し、エンジンを再始動してください。常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。



パーキングセンサー警告灯

パーキングセンサーが障害物を検知したときに点滅

パーキングセンサーシステムについて ►P.242



トランスミッション警告灯

トランスミッションが異常のときに点滅



アイドリングストップシステム警告灯（オレンジ）

アイドリングストップシステムに異常があるときに点滅



渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール（ACC）警告灯（オレンジ）

渋滞追従機能付 ACC システムが異常のときに点灯

- 車両の後部に重い荷物を積んで、車が傾いているときに点灯する場合があります。



車線維持支援システム（LKAS）警告灯（オレンジ）

LKAS が異常のときに点灯

- 車両の後部に重い荷物を積んで、車が傾いているときに点灯する場合があります。



衝突軽減ブレーキ（CMBS）警告灯（オレンジ）

CMBS が異常のときやカメラ付近のフロントガラスの汚れなどで機能停止しているときに点灯

- 安全支援情報警告灯（オレンジ）が同時に点灯します。

安全支援情報警告灯 （オレンジ） ►P.254



路外逸脱抑制機能警告灯（オレンジ）

路外逸脱抑制機能が異常のときやカメラ付近のフロントガラスの汚れなどで機能停止しているときに点灯

- 安全支援情報警告灯（オレンジ）が同時に点灯します。

安全支援情報警告灯 （オレンジ） ►P.254



路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯

路外逸脱抑制機能の操舵アシストが一時停止しているときに点灯

路外逸脱抑制機能について ►P.214



安全支援情報警告灯 （オレンジ）

安全支援システムが異常のときに点灯

安全支援情報 ►P.263

- 車両の後部に重い荷物を積んで、車が傾いているときに点灯する場合があります。

パーキングセンサーが異常のときに点灯

≫パーキングセンサー周辺に泥、氷、雪などの付着物がないか確認してください。

パーキングセンサーシステムについて ►P.242

カメラの温度が高温になり、運転支援システムの一部が使用できなくなると点灯

フロントワイドビューカメラ ►P.195

雨、霧、雪などの悪天候や、夜間やトンネル内、夜明け、夕暮れなど周囲が暗いときなどのカメラ視界不良により、運転支援システムの一部が使用できなくなると点灯

- カメラ付近に遮蔽物があるときにも点灯します。

フロントワイドビューカメラ ►P.195

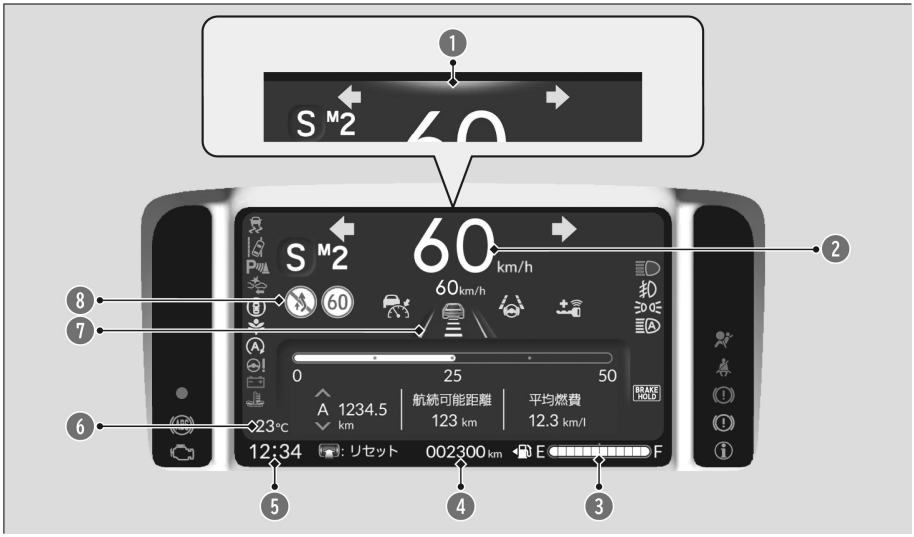
ソナーセンサーに遮蔽物があり、踏み間違い衝突軽減システムが使用できなくなると点灯

ソナーセンサー ►P.197

踏み間違い衝突軽減システムについて ►P.207

メーター

メーターの種類



❶ アンビエントメーター
❷ スピードメーター
❸ 燃料計
❹ オドメーター
❺ 時計
❻ 外気温表示
❼ 渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール（ACC）/車線維持支援システム（LKAS）表示
❽ 標識認識機能表示

スピードメーター

走行速度を表示します。

燃料計

燃料の残量を表示します。

- 燃料計が E に近づいたら、早めに給油してください。

- 燃料がなくなるとエンジンが点火しなくなり、触媒装置を損傷することがあります。
- 少量給油（約 5 リットル以下）を行ったときや車両の状況によっては、実際の燃料残量と、メータに表示される量は異なる場合があります。

アンビエントメーター

運転の状態を表示します。省燃費状態の時はアンビエントメーターの色が緑色に変化します。

- クルーズコントロール、もしくは渋滞追従機能付 ACC および LKAS の状態を表示しているときは、アンビエントメーターは表示されません。

メーターの表示 ►P.195

外気温表示

外気温を表示します。



パワーモードを ON モードにしたとき、外気温が 3℃以下の場合は、外気温低下メッセージがホワイトで表示されます。
運転中に外気温が 3℃以下に低下した場合は、外気温低下メッセージがオレンジで表示されます。

- 温度センサーはフロントバンパー付近に付いています。
- 速度がおよそ 30km/h 以下のときは、表示される温度が、自車、周囲の車、路面の熱の影響を受けることがあります。また、温度の読み取り値が安定するまで更新されないため、温度表示の更新に数分かかることがあります。

メーターに表示される温度を補正することができます。

時計*/車両設定 ►P.266

標識認識機能表示

走行中に認識した道路標識情報を表示します。
認識した最高速度の道路標識に対して、速度超過したときは点滅してお知らせします。

標識認識機能について ►P.239

渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール（ACC）/車線維持支援システム（LKAS）表示

渋滞追従機能付 ACC/LKAS の現在の状態を表示します。

渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール（ACC）について ►P.222

車線維持支援システム（LKAS）について ►P.232

オドメーター

走行距離の累計を表示します。
マルチインフォメーションディスプレイで「シンプル」を選択しているときはオドメーターは表示されません。

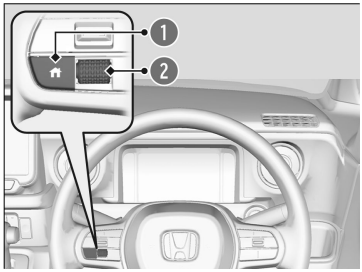
表示の切り換えかた ►P.259

時計

時刻を表示します。

時計設定

マルチインフォメーションディスプレイに「時計設定」が表示されない場合は、時計は人工衛星からの情報を利用していますので、時刻合わせは不要です。
その他の設定については、装備されているナビゲーションもしくはオーディオの取扱情報をご覧ください。



パワーモードが ON モードでシフトポジションが P のときに、スイッチを押します。
レフトセレクターホイールを回して表示を切り換え、レフトセレクターホイールを押して決定します。

❶ スイッチ
❷ レフトセレクターホイール

[1] マルチインフォメーションディスプレイの「時計/車両設定」を選択する。
時計*/車両設定 ►P.266
[2] レフトセレクターホイールで「時計設定」を表示させ、決定する。
[3] レフトセレクターホイールで「時刻調整」を表示させ、決定する。
≫「時」の調整ができます。
[4] レフトセレクターホイールで希望の数値を表示させ、決定する。
≫「時」が設定され、「分」の調整ができます。
[5] レフトセレクターホイールで希望の数値を表示させ、決定する。
≫「分」が設定されます。

- 手順 3 で「時計表示」を選択すると 12h/24h の切り替えができます。

マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイについて



❶ マルチインフォメーションディスプレイ

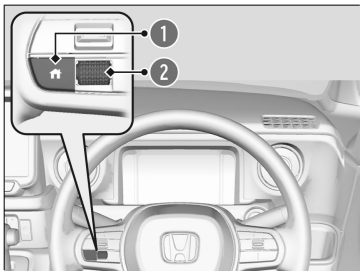
マルチインフォメーションディスプレイは、車両状態などの表示や、異常を検知すると警告メッセージが表示されます。
警告メッセージが表示された場合は、メッセージの内容を確認して必要に応じて Honda 販売店にご連絡し、点検を受けてください。
マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン油圧異常」または、「エンジン冷却水高温」が表示した場合は、下記を参照してください。

「エンジン油圧異常」の警告メッセージが表示された ►P.331

オーバーヒートしたときの対処方法 ►P.329

表示について

表示の切り換えかた



❶ スイッチ
❷ レフトセレクターホイール

スイッチを押し、レフトセレクターホイールを回すと表示が切り換わります。レフトセレクターホイールを押して決定してください。

- 機能の表示/ 非表示をお好みに合わせて設定変更することができます。

メーター表示設定 ►P.268

シンプル

シンプルモードを選ぶことで、メーター表示を必要最小限に設定することができます。

タコメーター

1 分間あたりのエンジン回転数を表示します。

- エンジン故障の原因となりますので限界回転数以上（レッドゾーン）に入らないよう運転してください。
- 特に、高速走行時にシフトダウンするときには、注意してください。
- シフトポジションが R のときや、空ぶかしをしたときは、エンジンの限界回転数より低い回転数でも、トランスミッション保護のため燃料供給が停止されます。

航続可能距離

燃料残量と平均燃費をもとに推定航続可能距離を表示します。

- 表示される航続可能距離は、実際に航続可能な距離とは異なる場合があります。

平均燃費

トリップメーター A、B と連動し、それぞれの平均燃費を一定時間ごとに更新して表示します。

- 表示される平均燃費は、実際に走行した燃費と異なる場合があります。
- 停車時または低速走行中にリセットした場合は、走行を始めてから燃費の計算を開始します。

瞬間燃費



瞬間燃費をバーグラフで表示します。

❶ 瞬間燃費

トリップメーター



リセットしてからの走行距離を表示します。
レフトセレクターホイールを回すと、トリップメーターの A、B が切り換わります。
トリップメーター A と、トリップメーター B があり、それぞれ独立して計測するため 2 つの走行距離を知ることができます。

❶ トリップメーター A
❷ トリップメーター B

- トリップメーターをリセットするには、リセットしたいトリップメーターが表示されている状態でレフトセレクターホイールを押し、「リセット」を選択してください。トリップメーターが 0.0 にリセットされます。 また、平均燃費、平均車速、経過時間も同時にリセットされます。
- トリップメーターは走行距離が 9999.9km を超えると、0.0km に戻ります。

トリップメーターを給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。
時計✤/車両設定 ►P.266

平均車速

トリップメーター A、B をリセットしてからの平均車速を表示します。

経過時間

トリップメーター A、B をリセットしてからの経過時間を表示します。

オーディオ✤

各種音楽メディアの表示を行います。

電話✤

ハンズフリー電話の表示を行います。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ナビゲーション✤

ナビゲーションシステムによるルート案内の状況に応じて、交差点や分岐点などでの進路案内や、コンパスを表示します。
ナビゲーションまたはオーディオの取扱情報をご覧ください。

- ナビゲーション機能は、一部のデバイスまたはアプリケーションによっては作動しないことがあります。

交差点案内表示の ON/OFF を設定することができます。
時計✤/車両設定 ►P.266

全席シートベルト

全席シートベルトの使用状況を表示します。
シートベルトリマインダー ►P.78

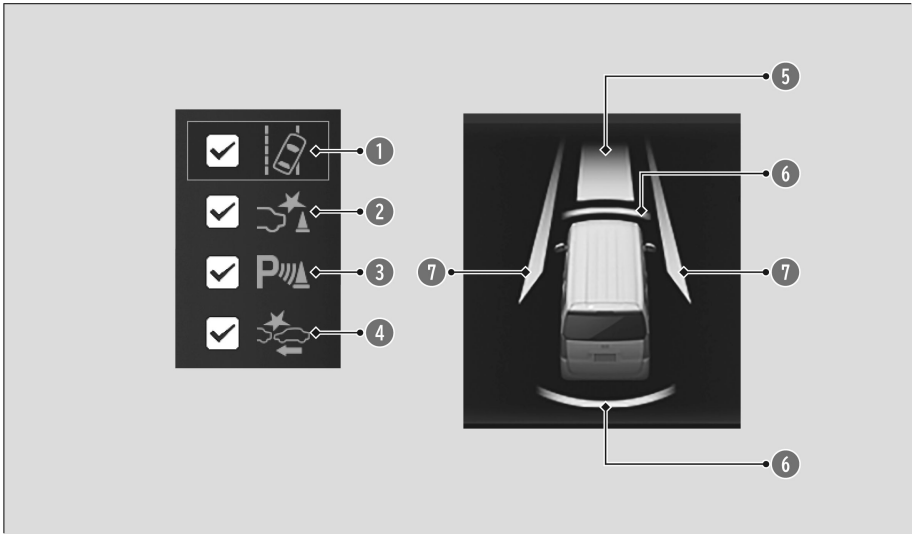
メンテナンス✤

エンジンオイルの交換までの距離を表示します。
オイルメンテナンス情報の表示 ►P.272

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

安全支援情報

安全支援情報は、以下のシステムの作動状態を表示します。



❶ 路外逸脱抑制機能
❷ 踏み間違い衝突軽減システム
❸ パーキングセンサー警報
❹ 衝突軽減ブレーキ
❺ 衝突軽減ブレーキ作動状態
❻ パーキングセンサー警報作動状態/踏み間違い衝突軽減システム作動状態
❼ 路外逸脱抑制機能作動状態

次の色は、上記システムの作動状態を示します。
- グリーン：作動中
- グレー：停止中
- オレンジ：システムが異常のとき

• 各機能の ON と OFF を切り換えるには、レフトセレクターホイールを回して機能を選択し、次にレフトセレクターホイールを押して ON/OFF を切り換えます。

Q 路外逸脱抑制機能について ►P.214
Q 衝突軽減ブレーキ（CMBS）について ►P.200
Q 踏み間違い衝突軽減システムについて ►P.207
Q 歩行者事故低減ステアリングについて ►P.218
Q パーキングセンサーシステムについて ►P.242

• 歩行者事故低減ステアリングは、路外逸脱抑制機能が ON のときに作動します。

- すべての機能が ON のとき、安全支援情報表示灯がグリーンで点灯します。いずれかが ON のときは、グリーン/グレーで点灯し、すべてが OFF のときはグレーで点灯します。
- 衝突軽減ブレーキが OFF のときは、衝突軽減ブレーキ（CMBS）表示灯（グレー）も点灯し、路外逸脱抑制機能が OFF のときは、路外逸脱抑制機能表示灯（グレー）も点灯します。
- オレンジで点灯したときは下記を参照してください。

衝突軽減ブレーキ（CMBS）警告灯（オレンジ） ►P.253
路外逸脱抑制機能警告灯（オレンジ） ►P.253
路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯 ►P.254
安全支援情報警告灯 （オレンジ） ►P.254

- 踏み間違い衝突軽減システムアイコンがグリーンのときでも、「リアパーキングセンサー警報設定」を OFF にしている場合は、後退時の踏み間違い衝突軽減システムは作動しません。

時計*/車両設定 ►P.266

- パーキングセンサー警報アイコンがグリーンのときでも、「リアパーキングセンサー警報設定」を OFF にしている場合は、後方のパーキングセンサーシステムは作動しません。

時計*/車両設定 ►P.266

カレンダー

日付、時刻を表示します。

時計 ►P.257

- カレンダーの背景はランダムに表示します。

背景の ON/OFF を選択することができます。

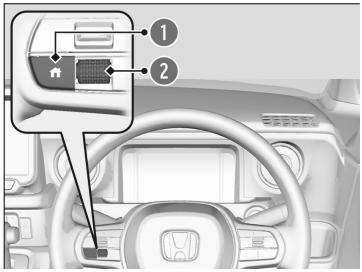
時計*/車両設定 ►P.266

誕生日や記念日を設定することができます。設定した日付にパワーモードを ON モードにするとメッセージを表示します。

時計*/車両設定 ►P.266

日付の調整

マルチインフォメーションディスプレイに「時計設定」が表示されない場合は、日付は人工衛星からの情報を利用していますので、日付合わせは不要です。



パワーモードが ON モードでシフトポジションが P のときに、 スイッチを押します。
レフトセレクターホイールを回して表示を切り換え、レフトセレクターホイールを押して決定します。

❶ スイッチ
❷ レフトセレクターホイール

[1] マルチインフォメーションディスプレイの「時計/車両設定」を選択する。
時計*/車両設定 ►P.266
[2] レフトセレクターホイールで「時計設定」を表示させ、決定する。
[3] レフトセレクターホイールで「日付調整」を表示させ、決定する。
≫「年」の調整ができます。
[4] レフトセレクターホイールで希望の数値を表示させ、決定する。
≫「年」が設定され、「月」の調整ができます。
[5] 手順 4 と同様の操作で「月」、「日」の調整をする。

明るさ設定

メーターの明るさ設定を表示します。
レフトセレクターホイールを回して明るさ調整を行います。
- **明るくする：**レフトセレクターホイールを上に回す
- **暗くする：**レフトセレクターホイールを下に回す

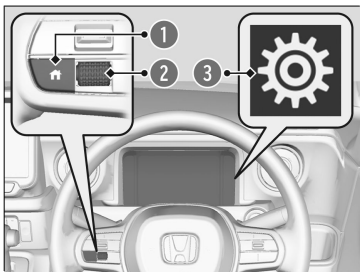
レフトセレクターホイールを押すと設定が完了します。
- 車外の明るさに応じて、メーター内の照明の明るさが自動で変化します。
≫周囲が暗いときは照明が暗くなる
≫周囲が明るいときは照明が明るくなる
- 周囲が明るいときも設定変更はできますが、画面の明るさが変わらないことがあります。

VSA モード設定

VSA の ON/OFF を選択することができます。
レフトセレクターホイールを回して「TCS 制限モード」を選択し、押して ON と OFF を切り換えます。
VSA（ビークルスタビリティアシスト） ►P.151

時計✤/車両設定

設定変更のしかた



パワーモードが ON モードでシフトポジションが P のときに、スイッチを押し、レフトセレクターホイールを回して、 を選択します。レフトセレクターホイールを押したあと、レフトセレクターホイールを回して、設定を変更したい項目を選択してください。

❶ スイッチ
❷ レフトセレクターホイール
❸ マルチインフォメーションディスプレイ

設定項目

時計設定 ✤

日付調整 ✤

年、月、日

時刻調整 ✤

時間、分

時計表示 ✤

24h、12h※1、非表示

運転支援システム設定

衝突軽減ブレーキ（CMBS）警報距離

遠め、標準※1、近め

ACC 先行車検知音

有り、無し※1

先行車発進お知らせ設定

標準※1、早め、OFF

路外逸脱抑制機能設定

アシストタイミング早め、 アシストタイミング標準※1、 アシストタイミング遅め、 操舵アシストなし警報のみ

LKAS（車線維持支援システム）制御解除警報音

ON、OFF※1

標識認識機能表示

ON※1、OFF

標識認識機能速度超過お知らせ

ON※1、OFF

標識認識機能速度超過量

+0km/h※1、 +5km/h、 +10km/h、 +15km/h

リアパーキングセンサー警報設定

ON※1、OFF

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

メーター設定

外気温表示補正

-3 ℃ ～ ±0 ℃※1 ～ +3 ℃

TRIP A 自動リセットタイミング

満タン給油時、IGN OFF 時、手動のみ※1

TRIP B 自動リセットタイミング

満タン給油時、IGN OFF 時、手動のみ※1

アラーム音量※2

大、中※1、小

アンビエントメーター照明色変化設定※2

ON※1、OFF

アイドリングストップ状態表示※2

ON※1、OFF

交差点案内表示 ✤※2

ON※1、OFF

リアシートリマインダー※2

ON※1、OFF

タイヤ角度モニター※2

ON※1、OFF

カレンダー背景※2

ON※1、OFF

誕生日設定 1※2

月、日

誕生日設定 2※2

月、日

記念日設定 1※2

月、日

記念日設定 2※2

月、日

記念日設定 3※2

月、日

Honda スマートキーシステム設定

アンサーバックブザー音量※2

大※1、小

ドアハンドル操作アンサーバックブザー※2

作動※1、非作動

ライティング設定

オートハイビーム

ON※1、OFF

インテリアライト点灯時間※2

60 秒、30 秒※1、15 秒

デイタイムランニングライト※2

ON※1、OFF

ワンタッチターンシグナル※2

ON※1、OFF

ドア設定

降車時オートドアロック※2

作動、非作動 ※1

キーレスアンサーバック※2

作動※1、非作動

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

オートリトラミラー格納※2

キーレス連動※1、手動のみ

予約ロック※2

ON※1、OFF

メンテナンスリセット ✤

キャンセル、リセット

初期化設定

中止、実行

※1: 工場出荷時の設定
※2: Honda スマートキーごとに設定を記憶することができます。

メーター表示設定

機能の表示/非表示をお好みに合わせて設定変更することができます。

[1]「メーター表示設定」の画面が表示されますので、 レフトセレクターホイールを回す。
[2] レフトセレクターホイールを回して表示または非表示にしたい機能を選択する。
[3] レフトセレクターホイールを押して決定する。
≫チェックマークが入っている項目は表示され、入っていない項目は非表示になります。

- グレーの機能を非表示にすることはできません。
- 設定変更するときはシフトポジションを P にしてください。

警告メッセージ

警告メッセージがある場合は、警告メッセージが表示されます。

- 複数のメッセージがある場合は、 レフトセレクターホイールを回すとその他のメッセージが表示されます。
- 警告メッセージがある場合は、 インフォメーション表示灯が点灯します。

タイヤ角度モニター

以下のとき、車速が約 15km/h になるまで、ハンドルの回転量とタイヤの角度に合わせ、タイヤの向きを 7 段階で表示します。

- ハンドル角度が左右 90 度以上で、パワーモードを ON モードにしたとき
- ハンドル角度が左右 90 度以上で、シフトポジションを D または S にしたとき
- シフトポジションを R にしたとき

タイヤ角度モニターの ON/OFF を選択することができます。
Q 時計✤/車両設定 ►P.266

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

メンテナンス

メンテナンスの前に

メンテナンスについて…… 270
メンテナンス時の備品や場所に関する注意事項…
…… 271
メンテナンス時の車に関する注意事項…… 271

オイルメンテナンス表示✤

オイルメンテナンス情報の表示…… 272
リセットのしかた…… 274

ボンネット内のメンテナンス

ボンネット内のメンテナンス項目…… 275
ボンネットの開閉方法…… 277
推奨エンジンオイル……278
ウィンドウォッシャー液の補給方法…… 280

ワイパー

フロントワイパーブレードラバーの交換方法…
…… 281
リヤワイパーブレードラバーの交換方法…… 283

タイヤ

タイヤのメンテナンスについて…… 285
タイヤとホイールの交換について…… 290
冬期のタイヤ……290
タイヤのローテーション…… 291

エアコンのお手入れ

エアクリーンフィルターの交換方法…… 293

清掃

車内の清掃方法…… 295
車外の清掃方法…… 297

車いす固定装置✤

車いす固定装置の点検…… 299

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

メンテナンスの前に

メンテナンスについて

道路運送車両法により、定期点検（法定点検）と日常点検が義務づけられています。正しい点検整備で、車を安全・快適にお使いください。
普段と違う点（音、におい、ブレーキフルードの不足、地面に油のあとが残っているなど）に気づいたら、Honda 販売店で点検を受けてください。
メンテナンスを行う際は、メンテナンスノートと下記の安全に関する注意事項をよくお読みのうえ、安全を確保して行ってください。
お客さま自身でメンテナンスを実施したときは、メンテナンス点検整備記録簿のメンテナンスレコードに記録してください。

定期点検（法定点検）

12 か月および 24 か月ごとに実施する点検です。法律で定められているものと、Honda が指定するものがあります。

日常点検

長距離走行前や洗車時などに、お客様自身の判断で行う点検です。

その他

新車時の無料点検や定期交換、厳しい使われかたをしたときの点検整備があります。

- 作業に不慣れな場合や難しい場合は、Honda 販売店にご相談ください。

⚠警告

適切なメンテナンスを行い、走行前に故障がないようにする。
走行時に故障がある状態や、適切なメンテナンスがなされていないと、重大な傷害や死亡に至る事故を引き起こす可能性があります。必ず、取扱説明書に記載されている点検とメンテナンスに関する注意事項や別冊のメンテナンスノートに記載の点検時期を守ってください。

メンテナンスは、指示と注意事項を守って行う。
メンテナンスの指示と注意事項を守らないと重大な傷害や死亡のおそれがあります。

メンテナンス時の備品や場所に関する注意事項

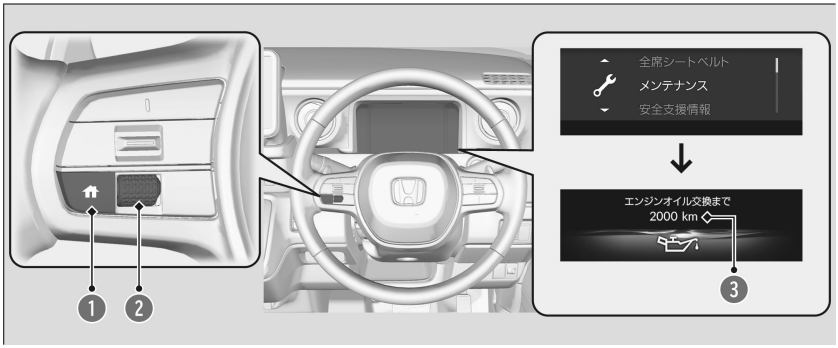
- タバコの火、火花、炎を引火性の液体やガスから遠ざけているか
- タオルや可燃物をボンネット内に置き忘れていないか
  ≫火災や爆発などの思わぬ事故につながるおそれがあります。
- エンジンを始動するときに十分な換気を行っているか
  ≫換気が十分でないと、排気ガスに含まれる一酸化炭素の毒作用で意識不明になったり、死亡するおそれがあります。

メンテナンス時の車に関する注意事項

- 冷却ファンが止まっているか
  ≫車両の状態によっては、パワーモードを OFF モードにしていても冷却ファンが作動することがあります。ボンネット内を点検するときは、冷却ファンに手や衣類が巻き込まれないように注意してください。
- エンジンと排気システムの各部が十分に冷えているか。
  ≫エンジンルーム内の部品には高温になるものがあり、やけどをするおそれがあります。
- パワーモードを OFF モードにしているか
  ≫パワーモードを ON モードにしていると、可動部品によってけがをするおそれがあります。
  ≫アイドリングストップ中は、ボンネットを開けないでください。
- メンテナンスサービスを受けるときは、Honda 純正部品やオイル類を使用することをおすすめします。Honda 純正部品は、車で使われている部品と同じ高品質の基準に基づいて製造されているため、性能と耐久性の面で安心です。

オイルメンテナンス表示✤

オイルメンテナンス情報の表示



❶ [home] スイッチ
❷ レフトセレクターホイール
❸ 次回メンテナンスまでの残距離

[1] パワーモードを ON モードにする。
[2] [home] スイッチを押し、[wrench] が表示されるまで、レフトセレクターホイールを回す。
[3] レフトセレクターホイールを押す。
≫マルチインフォメーションディスプレイにオイルメンテナンス画面が表示されます。

- オイルメンテナンス表示は、リセットしてからの距離に応じてエンジンオイル、エンジンオイルフィルターの交換時期の目安をマルチインフォメーションディスプレイにてお知らせします。
- メンテナンスが必要な場合は、表示されたメッセージと距離を目安に、Honda 販売店でメンテナンスを受けてください。

> ❗ 残距離表示が十分残っていても、前回のオイル交換からの経過時間に応じてメンテナンスが必要です。詳しくはメンテナンスノートを確認してください。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

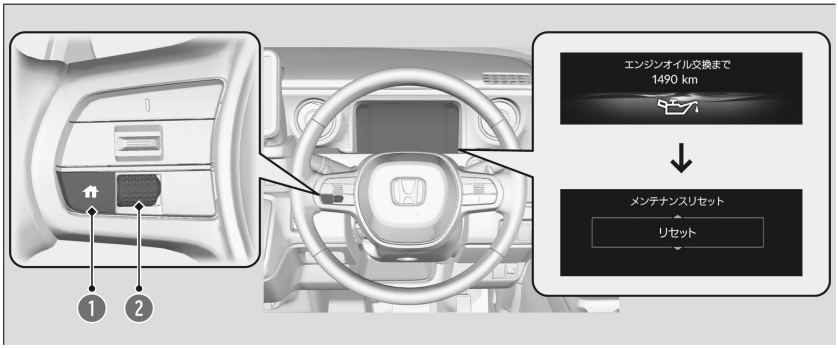
マルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージとオイルメンテナンス情報

メンテナンス時期までの走行距離や交換の推奨メッセージ、交換推奨時期が過ぎていることを表示します。

警告メッセージオイル	メンテナンス情報	説明	情報
–		マルチインフォメーションディスプレイでオイルメンテナンス画面を選択するとメンテナンス時期までの走行距離が表示されます。	–
		メンテナンス時期までの走行距離が750km 未満になったとき表示されます。	メンテナンス時期が近くなっています。
		メンテナンス時期までの走行距離が250km 未満になったとき表示されます。	できるだけ早めにメンテナンスを受けてください。
		メンテナンス時期を過ぎているとき表示されます。	メンテナンス時期を過ぎています。メンテナンスを受けたら、オイルメンテナンスをリセットしてください。

リセットのしかた

メンテナンスを行った後は、オイルメンテナンスの表示をリセットします。



❶ スイッチ
❷ レフトセレクターホイール

[1] パワーモードを ON モードにする。
[2] スイッチを押す。
[3] が表示されるまでレフトセレクターホイールを回す。
[4] 表示されたらレフトセレクターホイールを押す。
[5] レフトセレクターホイールを約 10 秒間押し続けるとリセットモードになる。
[6] レフトセレクターホイールを回し「リセット」を選択する。
[7] リセットが選択された状態でレフトセレクターホイールを押すとリセットされる。

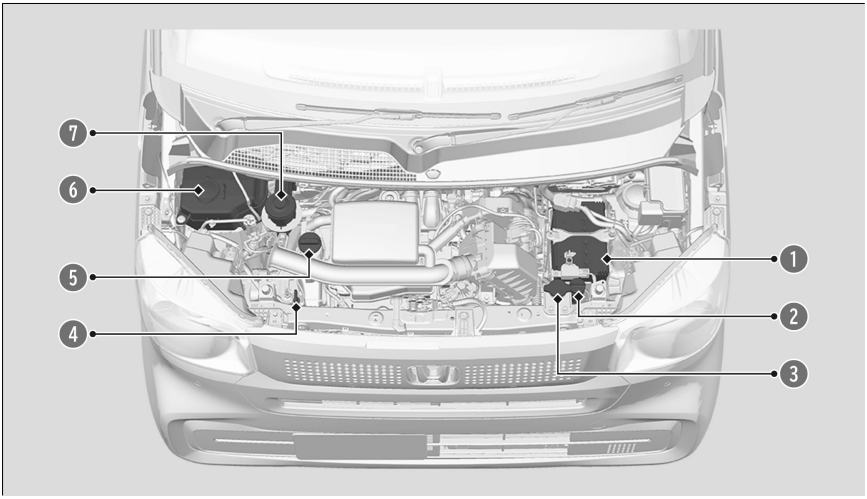
- メンテナンス後にオイルメンテナンスをリセットしないと、メンテナンス時期を正しくお知らせできないため、故障につながる可能性があります

カスタマイズ機能でもオイルメンテナンスの表示をリセットできます。
時計*/車両設定 ►P.266

ボンネット内のメンテナンス

ボンネット内のメンテナンス項目

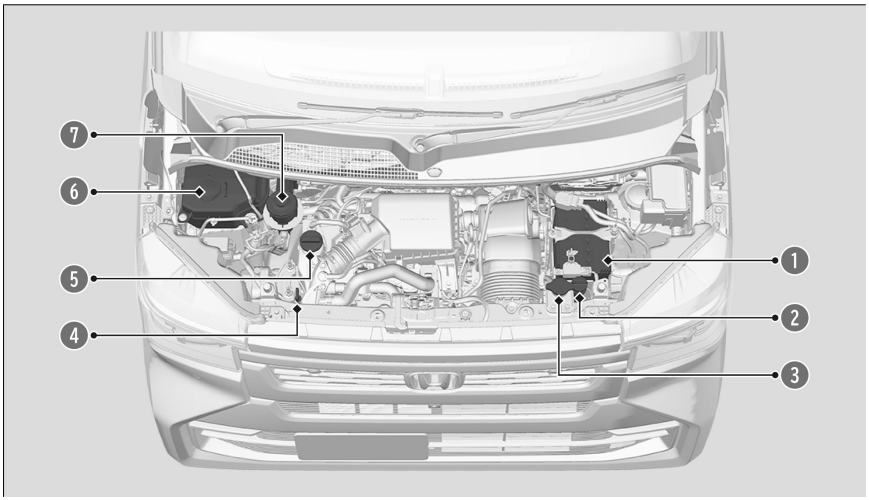
▼ ターボ非装備車



❶ 12V バッテリー※
❷ 冷却水リザーブタンク※
❸ ラジエーターキャップ※
❹ エンジンオイルレベルゲージ※
❺ エンジンオイル注入口※
❻ ウィンドウォッシャー液注入口
❼ ブレーキフルードリザーブタンク※

※: 点検整備については、メンテナンスノートをご覧ください。

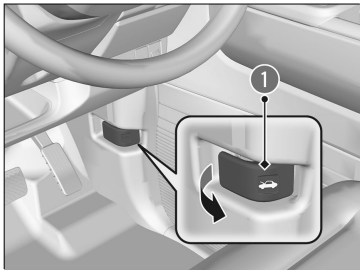
▼ ターボ装備車



❶ 12V バッテリー※
❷ 冷却水リザーブタンク※
❸ ラジエーターキャップ※
❹ エンジンオイルレベルゲージ※
❺ エンジンオイル注入口※
❻ ウィンドウォッシャー液注入口
❼ ブレーキフルードリザーブタンク※

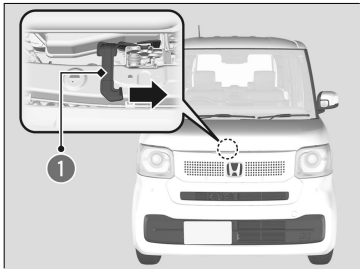
※: 点検整備については、メンテナンスノートをご覧ください。

ボンネットの開閉方法



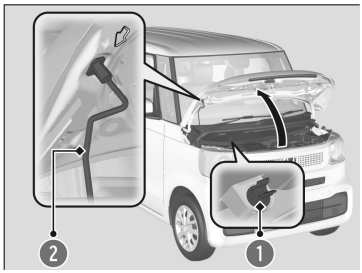
[1] ボンネット解除ノブを引く。
≫ボンネットが少し浮き上がります。

❶ ボンネット解除ノブ



[2] ボンネット中央のレバーを右に押し、ボンネットを開ける。

❶ レバー



[3] ステーをクランプから取り外し、ステーをボンネットにかける。

❶ クランプ
❷ ステー

- 車を停め、パーキングブレーキをかけた状態で作業してください。
- ボンネットを閉める場合は、約 30cm の高さから手を離して閉めてください。
- ボンネットを閉めたときは、ボンネットが確実にロックされていることを確認してください。

⚠警告

ステーの金属部分は、エンジンから発生する熱により非常に熱くなります。

やけどを負うおそれがあるので、冷めるまではステーの金属部分に触れないでください。

⚠注意

ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように注意する。

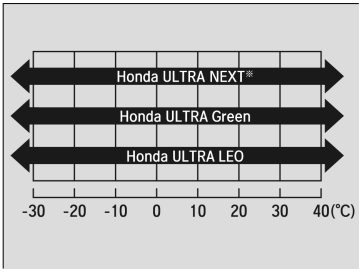
アイドリングストップ中は、ボンネットを開けないでください。

ワイパーアームを起こした状態で、ボンネットを開けないでください。
ボンネットがワイパーに当たり、ボンネットやワイパーが損傷するおそれがあります。

推奨エンジンオイル

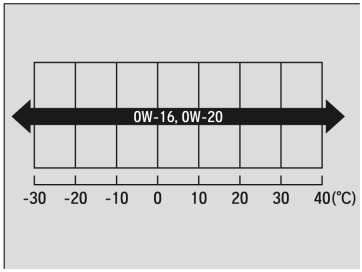
純正および市販のエンジンオイルは、種類と、（外気温に応じた）粘度について以下にもとづきお使いください。
エンジンオイルは、量が少なかったり劣化したものを使用していると、エンジンの不調や破損につながることがあります。

▼ ターボ非装備車



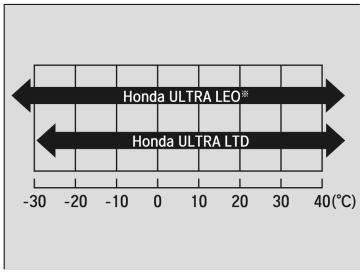
純正エンジンオイル
Honda 純正油
- Honda ULTRA NEXT※
- Honda ULTRA Green
- Honda ULTRA LEO

※: 最も省燃費性に優れた Honda 純正オイルです。



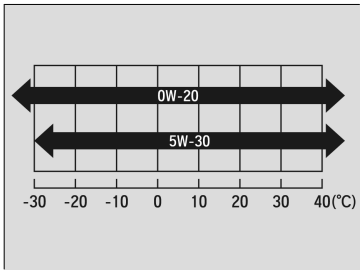
市販エンジンオイル
API SN 級以上かオイル缶に
API CERTIFICATION（エーピーアイサーティフィケーション）マークの入ったエンジンオイル

▼ターボ装備車



純正エンジンオイル
Honda 純正油
- Honda ULTRA LEO※
- Honda ULTRA LTD

※: 最も省燃費性に優れた Honda 純正オイルです。



市販エンジンオイル
API SN 級以上かオイル缶に
API CERTIFICATION（エーピーアイサーティフィケーション）マークの入ったエンジンオイル



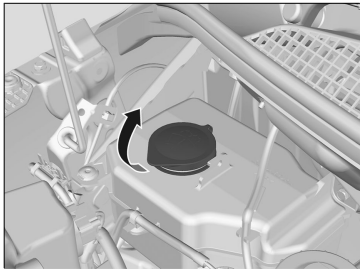
API CERTIFICATION（エーピーアイサ ーティフィケーション）マークは左記のとおりです。

▼ ターボ非装備車



- 冬期はエンジンオイルの劣化が激しくなります。冬期に主として短距離、市街地を運転する場合は、早めに交換してください。

ウィンドウォッシャー液の補給方法



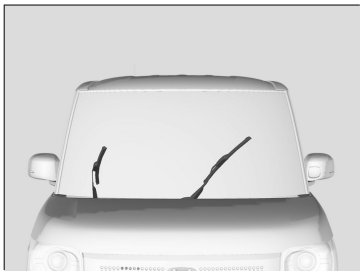
ウォッシャー液が減っていた場合は、ウォッシャー液を補給してください。

- ウォッシャー液以外の液体を、タンクに入れないでください。
- ウォッシャー液は必要に応じて水（軟水）で薄めてください。
- 冬期はウォッシャー液の凍結を防ぐため、ウォッシャー液の濃度を上げてください。

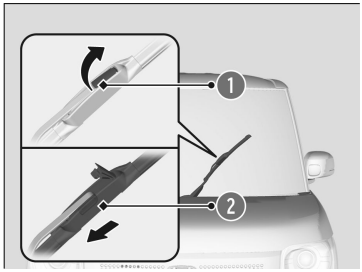
ワイパー

フロントワイパーブレードラバーの交換方法

ウィンドーガラスに拭きムラがでたり、傷ついたりする場合は、ワイパーブレードラバーを交換してください。

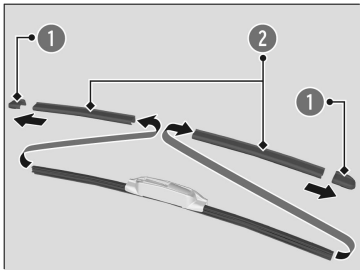


[1] 運転席側、助手席側の順にワイパーアームを起こす。



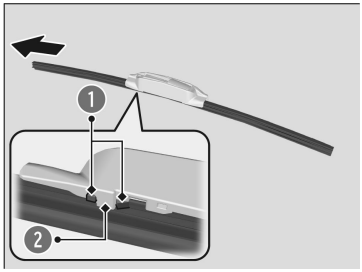
[2] ホルダーを起こす。
[3] ブレードをスライドさせ、ワイパーアームから取り外す。

❶ ホルダー
❷ ブレード



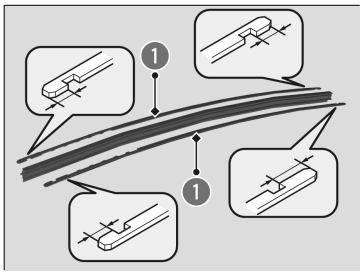
[4] ブレードの両端のキャップとカバーを取り外す。

❶ キャップ
❷ カバー



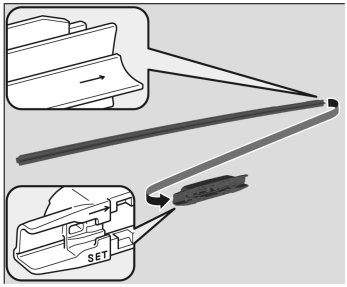
[5] ラバーのストッパーがブレードのツメから外れるまで引き、そのままラバーをブレードから引き抜く。

❶ ストッパー
❷ ツメ

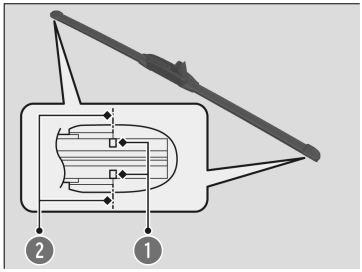


[6] 引き抜いたラバーからリテーナーを外し、新しいラバーに取り付ける。
≫リテーナーの切欠き部が、正しくラバーに取り付けられているか確認してください。

❶ リテーナー



[7] ラバーをブレードの端から差し込む。
≫正しく固定されているか確認してください。

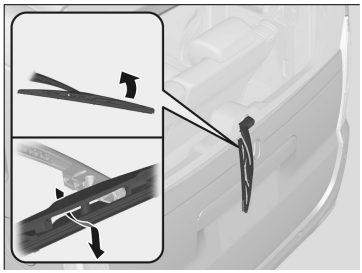


❶ 四角マーク
❷ 合わせ位置

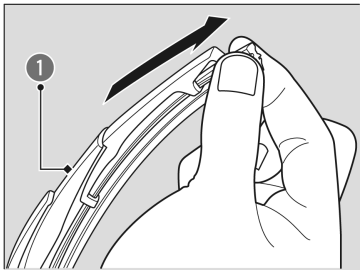
[8] ブレードの両端のカバーとキャップを取り付ける。
≫キャップの合わせ位置がラバーの四角マーク内に収まっているか確認してください。
[9] ブレードをワイパーアームに取り付けてホルダーを閉じる。
[10] 助手席側、運転席側の順にワイパーアームを戻す。

- ブレードをワイパーアームに取り付けた後、正しく固定されているか確認してください。
- ブレードを外した状態でワイパーアームが倒れると、ガラスが損傷するおそれがあります。
- ワイパーアームを起こした状態でボンネットを開けたりワイパーを作動させたりすると、ボンネットとワイパーアームを損傷します。

リヤワイパーブレードラバーの交換方法

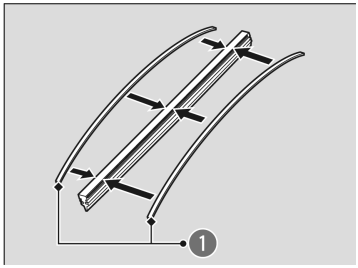


[1] ワイパーアームを起こす。
[2] ブレードを回転させ、アームのホルダー部からブレードを引き抜いて取り外す。



[3] ラバーを引いて先端部をブレードのツメから外す。
[4] ラバーをブレードから引き抜く。

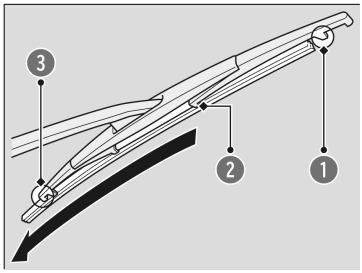
❶ ブレード



[5] 引き抜いたラバーからリテーナーを外し、新しいラバーに取り付ける。

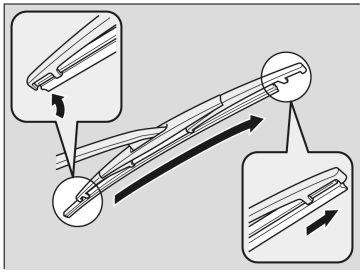
≫リテーナーには反りがあります。リテーナーを図の向きでラバーに取り付けてください。

❶ リテーナー



[6] ラバーをブレードの 2 番目のツメからブレードに沿って差し込み、ラバーをブレードのストッパーから約 2 cm 引き出す。

❶ 先端のツメ
❷ 2 番目のツメ
❸ ストッパー



[7] ブレードの先端のツメにラバーを通す。
[8] ブレードの先端のストッパーにラバーを戻して固定する。

- ブレードを外した状態でワイパーアームが倒れると、ガラスが損傷するおそれがあります。
- ワイパーアームを無理に持ち上げようとすると、ワイパーアームが破損するおそれがあります。

タイヤ

タイヤのメンテナンスについて

タイヤが摩耗・損傷していたり、適正な空気圧でないと、安全な走行ができないばかりか乗り心地も損なわれます。以下の条件を満たすために点検を行い、常にタイヤを最適な状態に保ってください。

- タイヤの空気圧は、タイヤ温度が低いときに測定してください。空気圧の調整が必要な場合は、指定空気圧になるまで空気を注入または排出してください。

⚠警告

摩耗が激しいタイヤ、空気圧が適正でないタイヤを使用しない。
不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

安全な走行のために求められるタイヤの条件

- 種類とサイズが適正であること
- 接地面の状態が良好であること
- 空気圧が適正であること
- 摩耗、傷、亀裂、異物などがないこと

日常点検

乗車前に必ず行う点検です。状況によってはメンテナンスをしてください。

- タイヤがつぶれているように見えないか
  ≫つぶれているように見えたら、すぐに空気圧をチェックしてください。
- 激しい摩耗、傷、亀裂、異物はないか
  ≫状況に応じて、タイヤを交換してください。

空気圧測定器による点検

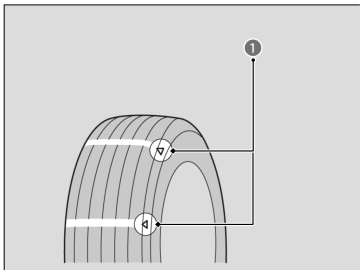
すべてのタイヤの空気圧を測定してください。空気圧が下がっている場合は、パンクを入念に調べます。
タイヤの指定空気圧は、運転席横の車体に貼ってあるラベル、もしくは下記を参照してください。

仕様について ►P.352

損傷、異物、摩耗の点検

- タイヤの接地面と側面の突起、膨らみが正常か
  ≫異常が見られた場合は、タイヤを交換する必要があります。
- タイヤ側面に、裂け目、亀裂がないか
  ≫裂け目や亀裂がある場合は、タイヤを交換する必要があります。
- 接地面とウェアインジケーター※ が同じ高さになっていないか
  ≫接地面が摩耗して、ウェアインジケーターと同じ高さになったら、タイヤを交換する必要があります。

※: ウェアインジケーター（摩耗限界表示）

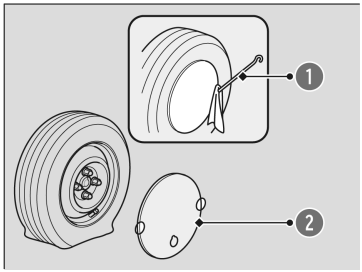


❶ ウェアインジケーターの位置を示すマークの代表例

ウェアインジケーターはタイヤの接地面にあり、他の部分より溝が 1.6mm 浅くなっています。

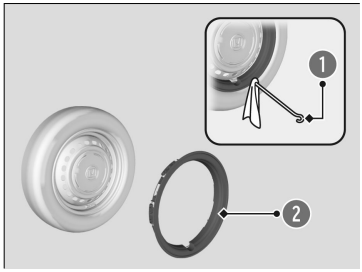
ホイールカバー*の脱着方法

▼N-BOX



❶ ジャッキハンドルバー（別売り）
❷ ホイールカバー

▼N-BOX JOY



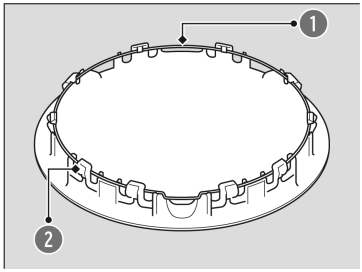
❶ ジャッキハンドルバー（別売り）
❷ ホイールカバー

ジャッキハンドルバー（別売り）または先端が平らな固い金属の棒の先を切り欠き溝に差し込み、タイヤ側にこじってホイールカバーを外す。

≫ホイールカバーが傷付かないよう、ジャッキハンドルバーまたは先端が平らな固い金属の棒に布などを巻き付けてください。

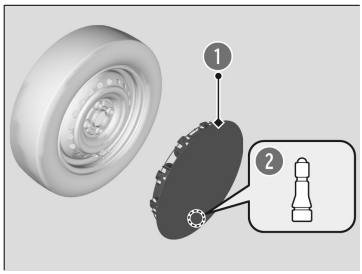
≫場所を変えて 2、3 カ所繰り返すと楽に外れます。

*: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。



ホイールカバーを取り付ける前に、裏面の爪がリングに正しく組み付いていることを確認してください。
正しく組み付いていないとホイールカバーが外れる原因となります。また、爪が折れているときはホイールカバーを取り付けないでください。

❶ リング
❷ 爪



ホイールカバーを取り付けるときは、ホイールにあるタイヤバルブの位置にホイールカバーのバルブマークを合わせてから取り付けてください。

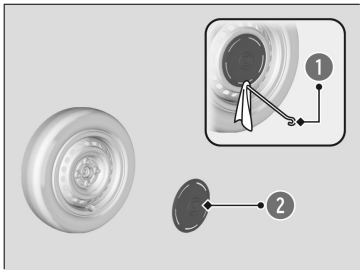
❶ ホイールカバー
❷ バルブマーク

⚠注意

ホイールカバーを取り外すときは、手などをはさまないように十分注意する。

▼N-BOX JOY

ホイールハーフキャップの脱着方法

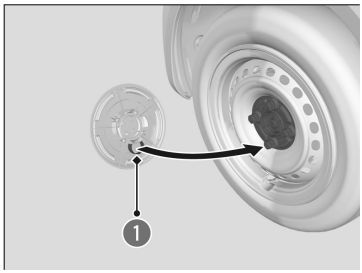


ジャッキハンドルバー（別売り）または先端が平らな固い金属の棒の先を切り欠き溝に差し込み、タイヤ側にこじってホイールハーフキャップを外す

≫ホイールハーフキャップが傷付かないよう、ジャッキハンドルバーまたは先端が平らな固い金属の棒に布などを巻き付けてください。

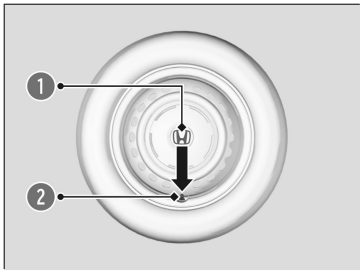
≫ホイールハーフキャップを取り外すときは、地面に落ちて傷が付かないよう、手で支えてください。

❶ ジャッキハンドルバー（別売り）
❷ ホイールハーフキャップ



ホイールハーフキャップを取り付けるときは、ホイールハーフキャップ裏側の位置決め部の中にホイールナットが収まるように合わせて押し込んで下さい。

❶ 位置決め部



ホイールハーフキャップのホンダマーク下にタイヤバルブがくるように組み付けると、位置決め部がホイールナットに収まる位置となります。

❶ マーク
❷ バルブ

⚠注意

ホイールハーフキャップを取り外すときは、手などをはさまないように十分注意する。

タイヤとホイールの交換について

タイヤは、四輪とも指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。
同時にすべての 4 つのタイヤを交換することをお勧めします。それができない場合は、前輪または後輪タイヤの左右を一緒に交換してください。
ホイールの仕様が純正ホイールと同一のものか確認してください。

⚠警告

必ず、サイズと種類が適切なタイヤを使用する。
不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

冬期のタイヤ

雪道や凍結した道路を走行する場合は、スノータイヤやタイヤチェーンを装着し、速度を落として十分に車間距離を取って運転してください。また、横滑りの原因となりますのでハンドルやブレーキの操作は、特に慎重に行ってください。
スノータイヤおよびタイヤチェーンは、走行条件や法令により装着が必要とされた場合に使用します。
装着する場合は、下記のポイントを参照してください。

スノータイヤを装着する場合

四輪とも同じ種類、指定サイズのタイヤを選び、四輪すべてにスノータイヤを装着してください。

タイヤチェーンの場合

Honda 純正スチールチェーンを付属の取扱説明書にしたがって前輪に装着し、ブレーキラインやサスペンションと接触していないか確認してください。
また、チェーン装着時は 30km/h 以下でゆっくりと走行してください。

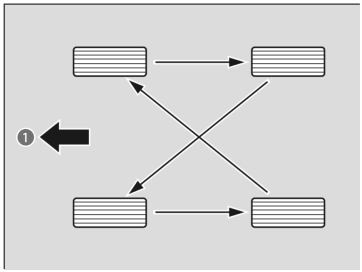
タイヤサイズに適合したチェーンを装着してください。
サイズが不適切なチェーンを装着したり、装着のしかたが不適切だと、車のブレーキライン、サスペンション、ボディー、ホイールを損傷するおそれがあります。

乾燥路面ではタイヤチェーンを装着したまま走行するのは避けてください。タイヤチェーンの摩耗を早めます。

タイヤのローテーション

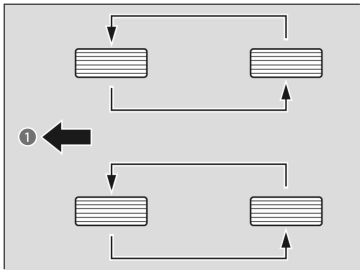
特定のタイヤが摩耗するのを防ぐために、5,000km 走行したときタイヤローテーションをしてください。

回転指示マークがないタイヤの場合



❶ 前

回転指示マークがあるタイヤの場合



❶ 前

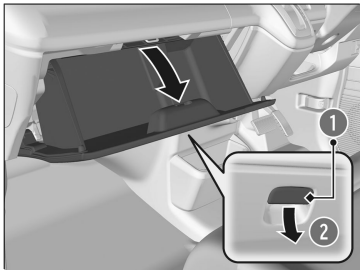
- 回転方向が指定されているタイヤは、回転指示マークが前へ向くようにタイヤをローテーションさせます。

標準で装着されているタイヤのホイールナット締め付けトルクは 108N･m (11kgf･m) です。

エアコンのお手入れ

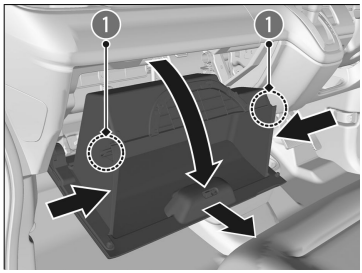
エアクリーンフィルターの交換方法

エアクリーンフィルターは、通常 1 年または 15,000 km ごとに交換してください。また、エアコンの風量が著しく減少したり、ガラスが曇りやすくなったと感じる場合は、フィルターを交換してください。



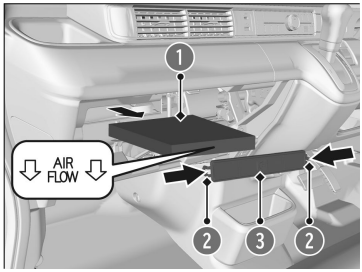
[1] グローブボックスを開ける。

❶ ノブ
❷ 引く



[2] グローブボックスの両側に付いているストッパーを内側に押し込み、グローブボックスを下ろす。
[3] グローブボックスを外す。

❶ ストッパー



❶ エアクリーンフィルター
❷ ツメ
❸ カバー

[4] 左右にあるツメを押しながら、エアクリーンフィルターケースのカバーを外す。
[5] エアクリーンフィルターを引き出す。
[6] 新品と交換する。
≫「AIR FLOW」マークの矢印が、下向きになるように取り付けてください。

清掃

車内の清掃方法

内装の清掃は、掃除機で塵やほこりを取り除いてから汚れを落としてください。ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものを柔らかい布に軽く含ませ、固く絞って汚れを落とします。その後、真水を含ませたきれいな布で、洗剤分をきれいに落としてください。

室内に水をかけないでください。
室内の部品に水がかかると故障や、さびの原因となります。

オーディオ、スイッチなどの電装品にシリコン系のスプレーを塗布しないでください。
故障や車両火災の原因となるおそれがあります。万一、電装品にシリコン系のスプレーを塗布したときは、Honda 販売店にご相談ください。

ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤、酸、アルカリ性の溶剤は使用しないでください。
ケミカル類、液体芳香剤は成分により、樹脂部品、布材の変色、しみ、ひび割れなどを起こすおそれがあります。

ケミカル類を使用したあとは、必ず乾いた布で軽く拭き取り、使用した布をそのまま樹脂部品、布材の上に長時間放置しないでください。

シートベルトの清掃

ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものをブラシにつけて清掃し、その後空気乾燥させます。

ガラスの清掃

ガラスクリーナーなどで拭いてください。
前席ウィンドー（ドアガラス）、フロントコーナーガラスの車内側に UV カット膜や IR カット膜がコーティングしてあります。水またはぬるま湯を含ませた布などで汚れを拭き取ってください。

リヤガラスは、ガラスの内側に電熱線が装着されています。傷付けないよう、これに沿って柔らかい布で拭いてください。

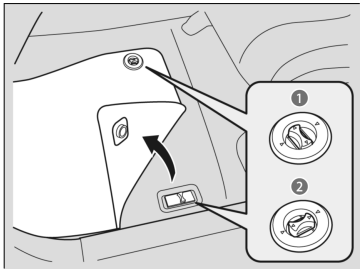
UV カット膜や IR カット膜を長持ちさせるために次のことをお守りください。

- 汚れがひどいときは、開閉をなるべく行わない
- みがき粉（コンパウンド）入りガラスクリーナーやワックス、洗剤等は使わない

ルームミラー周辺にある電子機器のカバーや周辺に水やガラスクリーナーなどの液体がかからないようにしてください。

フロアマット

フロアマット固定方法（例）



運転席のフロアマットが前方にずれるのを防止するため、フロアアンカーで確実に固定してください。フロアマットの上に、他のフロアマットを重ねないでください。

1 解除
2 固定

他のフロアマットをご使用の際は、フロアアンカーでしっかりと固定できるものをご使用ください。
後席のフロアマットを使用する際は、正しく取り付けてください。

車外の清掃方法

走行後は、塗装面に付着したほこりなどを毛はたきなどで払い落としてください。飛び石などによる塗装面の傷は錆の原因になります。見つけたら早めに補修してください。

洗車

月に一度は洗車をするようにしてください。以下の場合は、必ず洗車をしてください。

- 凍結防止剤を散布した道路を走行したとき
- 海岸地帯を走行したとき
- コールタール、ばい煙、鳥のふん、虫、樹液などが付いたとき
- フェンダー内側に泥、雪、氷などの汚れがたまりやすい道路状況で走行したとき

故障の原因になるため、故意に空気取り入れ口に水をかけないでください。
洗車時に水やケミカル類がブレーキに付着した際は、走行してブレーキを数回かけてから駐車してください。ブレーキが濡れたまま駐車しておくと、錆びて張り付くことがあります。
洗車するときは、運転席ドア（フューエルリッド）を施錠してください。フューエルリッド付近に水をかけるとフューエルリッドが勢いよく開いて、車体に傷を付けるおそれがあります。
塗装面に細かい傷が残ることがあるため、みがき粉（コンパウンド）入りのワックスは、使わないでください。ワックスは Honda 純正ケミカル用品をお使いください。
ホイールカバー/ホイールハーフキャップ装備車は、自動洗車機のホイール専用ブラシを使わないでください。
自動洗車機を使うときは、アンテナを取り外してください。
アンテナ ▶P.191

高圧洗浄機を使用する場合の注意点

- 洗車ノズルと車体の距離を十分に離す
- ドアガラスやドアまわりなど開閉部分を近づけすぎない
  ≫室内に水が入ることがあります。
- ボンネット内には水をかけない
- カメラやカメラ周辺には、直接水をかけない
  ≫レンズ内に水が入り、故障の原因となります。

バンパーなどの樹脂塗装部品の清掃

樹脂塗装部品に、ガソリン、オイル、ラジエーター液、12V バッテリー液などが付着するとしみや塗膜はがれの原因となります。付着した場合は、すぐに柔らかい布で拭き取ってください。

- 樹脂塗装部品の補修をする場合は、Honda 販売店にご相談ください。不適当な塗料を使うと塗膜を傷めます。

ガラスの清掃

ガラスクリーナーなどで拭いてください。

アルミホイール*の清掃

アルミは塩分や汚れを嫌います。道路凍結防止剤や海水が付いたときは、柔らかい布やスポンジに中性洗剤を含ませ汚れを早めに落としてください。洗車後は、水が乾かないうちに拭きとってください。

この車専用のホイールをお使いください。
専用以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。ホイール交換は、Honda 販売店にご相談ください。

硬いブラシやコンパウンド（研磨剤）の入った洗剤などは使わない。
変色やしみ、光沢の変化の原因になったり、傷をつけるおそれがあります。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

車いす固定装置✤

車いす固定装置の点検

車いす固定装置の使用状況に応じ、お客様の判断で適時点検を行ってください。異常を感じた場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

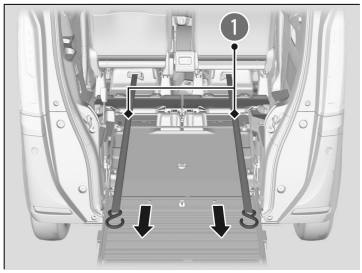
日常点検

作動のスムーズさ、異音の点検

リモコンの**電源**スイッチを押した後、**入**スイッチや**出**スイッチを押して装置がスムーズに作動するか、異音がないかを点検します。

電動ウインチのリモコンの使いかた ►P.167

ベルトの点検



ウインチベルトはベルトを引き出して点検してください。
以下の各ベルトにほつれ、すりきれ、破れなどがあるときは交換してください。

- ウインチベルト
- 固定ベルト
- 車いす用ベルト
- ストラップ

❶ ウインチベルト

- ベルトが汚れた場合は、中性洗剤を溶かしたぬるま湯に布をひたして拭き取り乾かしてください。薬剤を使ったり漂白や染色は絶対しないでください。ベルトを弱めます。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

万一の場合には

工具
工具の種類……301
発炎筒……302

電球が切れたとき
LED 車外灯について…… 304
電球の交換方法…… 304

キーの電池が切れたとき
スマートキーの電池交換方法…… 308
電動ウインチリモコンの電池交換方法……309

パンクしたとき
パンクしたときの対処方法……311
タイヤの応急修理方法…… 314
空気圧の補充方法……317

ジャッキの取り扱い
ジャッキのかけかた……320

エンジンが始動しない
確認事項…… 322
スマートキーの電池が切れたときの始動方法……
…… 323
緊急時のエンジン停止方法……323
緊急時のエンジン始動方法……324

12V バッテリーがあがったとき
ジャンプスタートの方法……325
ジャンプスタート後の作業……327

シフトレバーが動かない
ロックを解除する……328

オーバーヒートしたとき
オーバーヒートしたときの対処方法…… 329

異常がおきたとき
「エンジン油圧異常」の警告メッセージが表示され
た ……331

ヒューズが切れたとき
ヒューズの確認方法……332
ヒューズの点検と交換方法……336

けん引したいとき
けん引について…… 337

フューエルリッドが解錠できないとき
フューエルリッド応急処置……340

テールゲートが開かないとき
テールゲートが開かないときの対処方法…… 341

緊急時や車両トラブルのとき
緊急通報…… 345
トラブルサポート……346

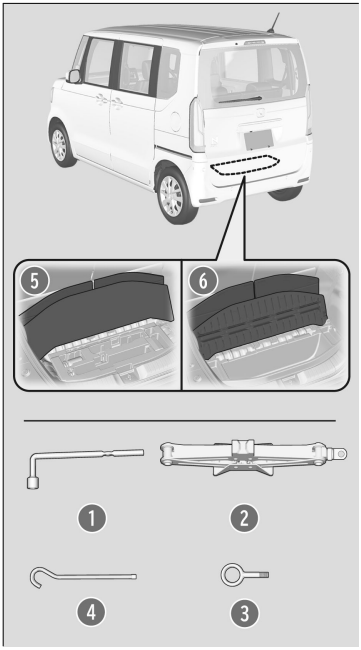
ウインチベルト*が作動しないとき
ウインチベルトが作動しないときの対処方法……
…… 347

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

工具

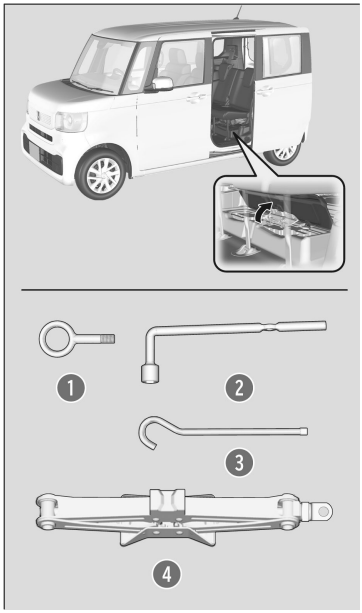
工具の種類

▼ スロープ非装備車



❶ ホイールナットレンチ（兼ジャッキハンドル）（別売り）
❷ ジャッキ（別売り）
❸ アイボルト
❹ ジャッキハンドルバー（別売り）
❺ N-BOX、N-BOX CUSTOM
❻ N-BOX JOY

▼ スロープ装備車



❶ アイボルト
❷ ホイールナットレンチ（兼ジャッキハンドル）（別売り）
❸ ジャッキハンドルバー（別売り）
❹ ジャッキ（別売り）

発炎筒

高速道路や踏切などの危険な場所で故障したときに使います。発炎筒に記載されている次のことをよく読んであらかじめ確認しておいてください。

- 使い方
- 使用上の注意
- 発炎時間
- 有効期限

⚠警告

ガソリンなどの燃えやすいもののそばで使わない。
火災や爆発のおそれがあります。

⚠注意

発炎筒を使うときは、以下のことに注意する。

- お子さまにさわらせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火して思わぬ事故ややけどの原因になります。
- 顔や身体に向けないでください。思わぬ事故ややけどの原因になります。
- トンネル内では視界を悪くするので使用しないでください。トンネル内では非常点滅表示灯を使ってください。

電球が切れたとき

LED 車外灯について

下記のライトは LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

- ヘッドライト
- 前面方向指示器/ 前面非常点滅表示灯
- デイタイムランニングライト/ 車幅灯
- アクセサリーライト✤
- フォグライト✤
- 側面方向指示器/ 側面非常点滅表示灯
- 制動灯
- 尾灯
- ハイマウントストップランプ
- 後面方向指示器/ 後面非常点滅表示灯
- 後退灯

▼ スロープ非装備車

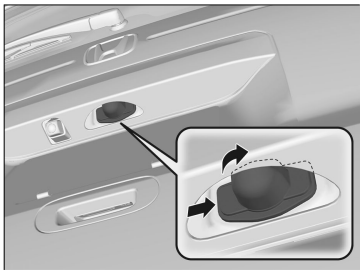
- 番号灯

電球の交換方法

▼ スロープ装備車

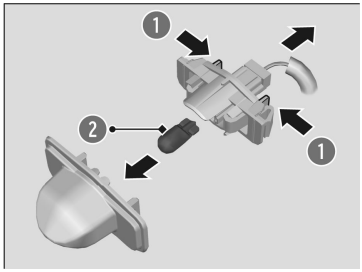
番号灯電球

交換する場合は、**「12V ー 5W（W5W)」**の電球をご使用ください。



［1］レンズの側面を押してランプ本体を外す。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。



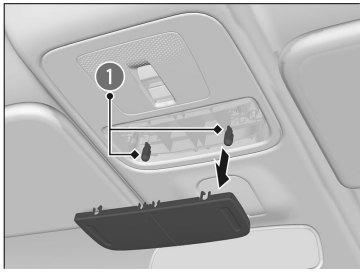
［2］ツメ（❶）を押してカバーを外す。
［3］古い電球（❷）を抜き取る。
［4］新しい電球を差し込む。

■ マップランプ電球*

交換する場合は、**「12V ー 8W」**の電球をご使用ください。



［1］ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。
≫ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。

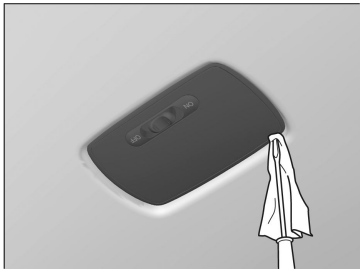


［2］古い電球（❶）を抜き取る。
［3］新しい電球を差し込む。

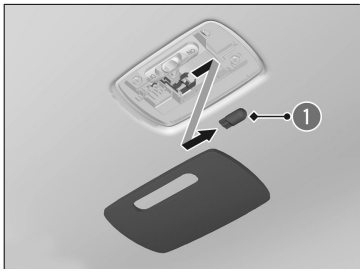
■ 室内灯電球*

交換する場合は、**「12V ー 8W」**の電球をご使用ください。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。



[1] ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。
≫ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。

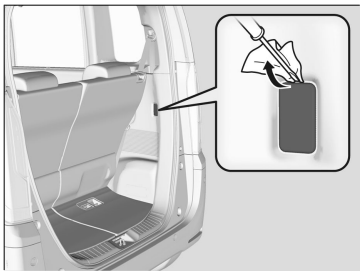


[2] 古い電球（❶）を抜き取る。
[3] 新しい電球を差し込む。

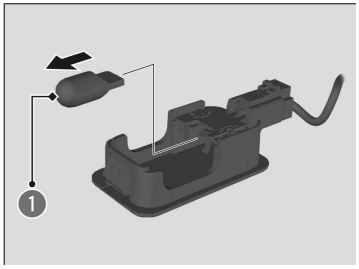
▼ スロープ非装備車

▌カーゴスペース照明灯電球✤

交換する場合は、**「12V ー 5W」**の電球をご使用ください。



[1] ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。
≫ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。



[2] 古い電球（❶）を抜き取る。
[3] 新しい電球を差し込む。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

▼ スロープ装備車

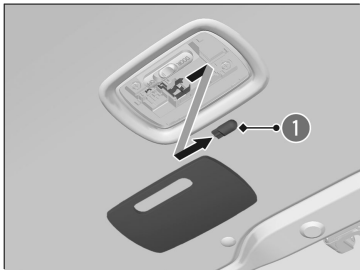
スロープライト電球*

交換する場合は、**「12V ー 8W」**の電球をご使用ください。



［1］ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。

≫ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。



［2］古い電球（❶）を抜き取る。

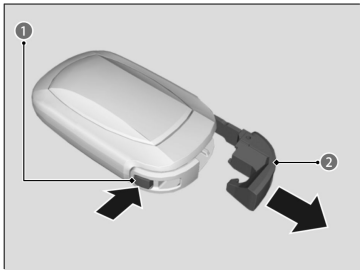
［3］新しい電球を差し込む。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

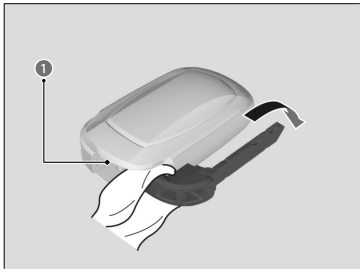
キーの電池が切れたとき

スマートキーの電池交換方法

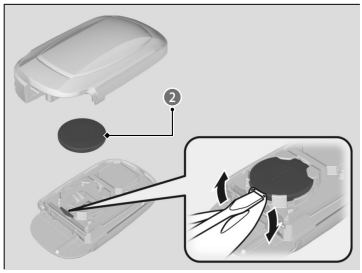
ボタンを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池を交換してください。
電池切れの場合、急アクセル抑制機能✤が起動しない場合があります。



[1] ボタン（❶）を押しながら、内蔵キー（❷）を取り出す。



[2] ボタンを下にしてカバー（❶）を外す。
≫内蔵キーのグリップを差し込んで回します。



[3] ⊕ と ⊖ を間違えないよう、電池※（❷）を交換する。

※: 電池は「ボタン電池：CR2032」をご使用ください。

- 電池交換の際は、破損などのおそれがあるため、Honda 販売店での交換をおすすめします。
- カバーに傷が付かないように、内蔵キーのグリップに布などを巻いてカバーを取り外してください。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

- 電池交換の際は、カバーを確実に取り付けてください。確実に取り付けられていないと、耐水性能の低下や故障の原因となります。
- 電池は Honda 販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。

⚠警告

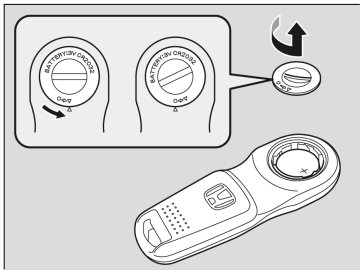
ボタン電池は、お子さまが飲み込まないように注意する。

重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。飲み込んだ時は、ただちに医師の診察を受けてください。

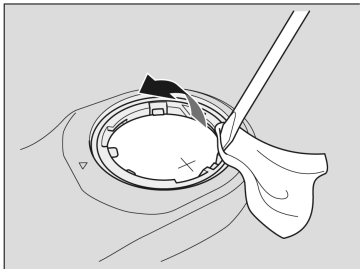
▼ スロープ装備車

電動ウインチリモコンの電池交換方法

電源スイッチを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。電池を交換してください。



[1] コインなどを使い、電池カバーを矢印の方向に回して外す。



[2] 電池固定部の隙間にマイナスドライバーの先端を差し込み、電池を取り外す。

≫ショートさせないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。

[3] ⊕ と ⊖ を間違えないよう、電池※を交換する。

≫交換後、元のように電池カバーを取り付けます。

※: 電池は「ボタン電池：CR2032」をご使用ください。

- 電動ウインチリモコンをなくした場合は、Honda 販売店へご連絡ください。
- 電池交換の際は、カバーを確実に取り付けてください。確実に取り付けられていないと、耐水性能の低下や故障の原因となります。
- 電池は Honda 販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。

⚠警告

ボタン電池は、お子さまが飲み込まないように注意する。

重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。 飲み込んだ時は、ただちに医師の診察を受けてください。

パンクしたとき

パンクしたときの対処方法

スペアタイヤの装備はありません。タイヤの損傷が激しい場合は、乗り物をけん引する必要があります。単にタイヤに小さな穴がある場合、永久的な修理をするために最寄りの販売店へ運転することができるよう、損傷を一時的に補修するタイヤパンク応急修理キットで応急修理ができます。

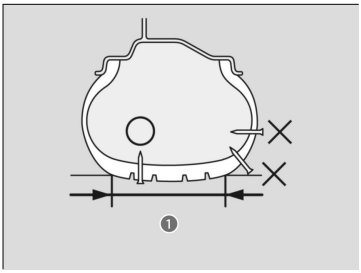
車の停車方法

パンクしたときは、ハンドルをしっかり握り徐々にブレーキをかけてスピードを落とし安全な場所に停車してください。

[1] 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
[2] パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P に入れる。
[3] 非常点滅表示灯を点滅させ、パワーモードを OFF モードにする。

! 以下のような場合、タイヤパンク応急修理キットは使用できません。Honda 販売店またはロードサービスにご連絡ください。

- 応急修理剤の有効期限が切れているとき
- タイヤが 2 本以上パンクしているとき
- 約 4mm 以上の切り傷や刺し傷によるパンクのとき
- 路面接地部以外が損傷を受けパンクしたとき
- ほとんど空気が抜けた状態で走行したとき
- ホイールが破損または外れているとき



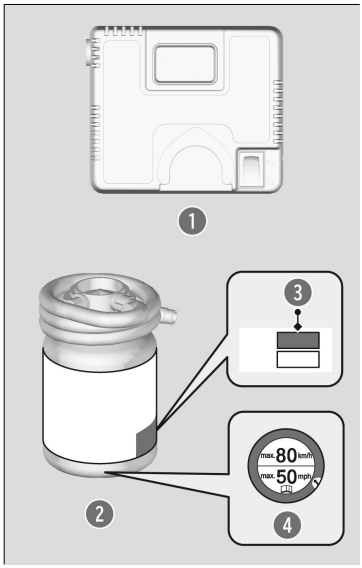
❶ 接地面

タイヤに刺さったクギなどは抜かないでください。
抜いてしまうと、タイヤパンクの応急修理キットでは応急修理が不可能になるおそれがあります。

応急修理したタイヤで走行し続けないでください。
応急修理は、最寄りの販売店で本格的な修理をするために車両を移動する目的以外では使用しないでください。

タイヤ応急修理の事前準備

タイヤパンク応急修理キット



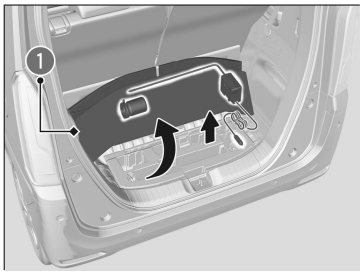
❶ エアコンプレッサー
❷ タイヤパンク応急修理剤
❸ 有効期限年月 MM／YYYY
(M：月、Y：年)

❹ 速度制限シール

エアコンプレッサーを使用する際は、以下の点に注意してください。
- 降雨時などは水がかからないようにしてください。
- 砂埃などを吸い込むと故障の原因になるため砂地など砂埃の多い場所に直接置いて使用しないでください。
- オイルや潤滑油などを注油しないでください。
- 分解、改造などは絶対にしないでください。また、衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

タイヤパンク応急修理キットの取り出し方

▼N-BOX、N-BOX CUSTOM



［1］カーゴリッド（❶）を開ける。
［2］タイヤパンク応急修理キットを取り出す。

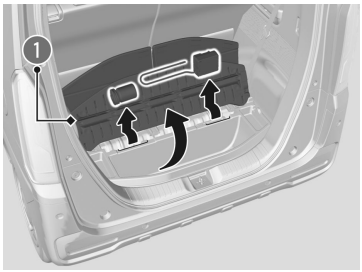
▼N-BOX JOY

≫リヤシートを前方いっぱいにスライドさせないとタイヤパンク応急修理キットを取り出すことができません。

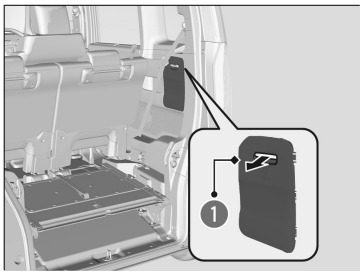
リヤシートの調整方法（スロープ非装備車）
▶P.69

［3］交通から遠ざけ、パンクしたタイヤ付近にキットを水平に置く。

▼N-BOX JOY

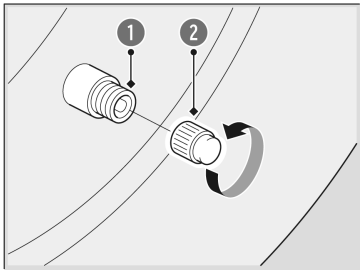


▌スロープ装備車

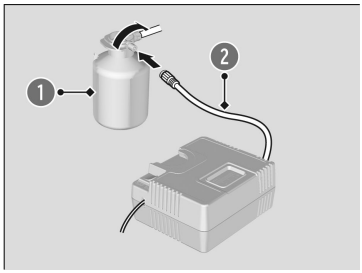


［1］カーゴスペース運転席側のリッド（❶）を開ける。
［2］タイヤパンク応急修理キットを取り出す。
［3］交通から遠ざけ、パンクしたタイヤ付近にキットを水平に置く。

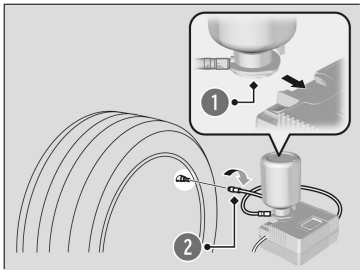
タイヤの応急修理方法



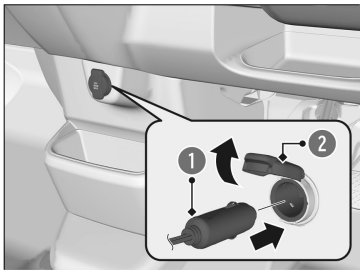
[1] バルブ（❶）からバルブキャップ（❷）を取り外す。
[2] 応急修理剤のボトルをよく振る。



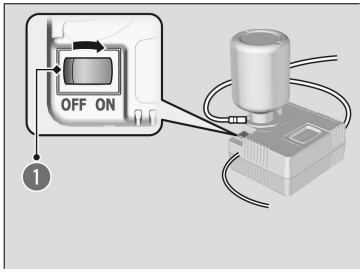
[3] ボトル（❶）にエアコンプレッサーホース（❷）をきつく締め付ける。



[4] エアコンプレッサーにボトルキャップ（❶）を取り付ける。
[5] バルブにボトルホース（❷）をきつく締め付ける。



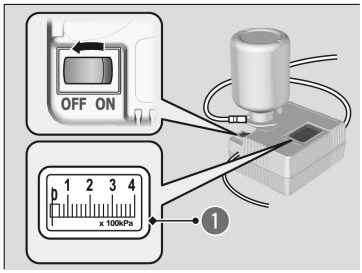
[6] エアコンプレッサーの電源コードのプラグ（❶）を、アクセサリーソケット（❷）に差し込む。
≫ドアや窓にコードをはさまないように注意してください。
アクセサリーソケット ►P.158
[7] エンジンを始動する。
一酸化炭素について ►P.20



[8] エアコンプレッサーのスイッチ（❶）を ON にして、空気圧を、運転席横の車体に貼ってあるラベルに記載されている指定空気圧まで高める。

≫エアコンプレッサーはタイヤに応急修理剤とエアを注入し始めます。

≫応急修理剤の注入が完了すると、エアのみ注入されます。

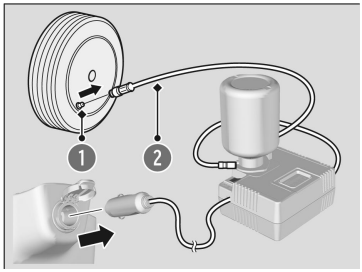


[9] 指定の空気圧に達したら、エアコンプレッサーのスイッチを OFF にする。

≫エアコンプレッサーの空気圧計（❶）を確認してください。

[10] エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリーソケットから外す。

≫使用直後は電源プラグ先端が熱くなるため、素手で触らないように注意してください。



[11] タイヤバルブ（❶）からボトルホース（❷）を外しバルブキャップを取り付ける。

≫ボトルホースを外すときは応急修理剤のふきこぼれに注意してください。ふきこぼれた修理剤は、布などで拭き取ってください。

[12] エアコンプレッサーからボトルを外す。

[13] キットを車両に戻す。

- 応急修理剤を注入しているときはエンジンを停止しないでください。
- 応急修理剤が注入されている間、圧力は一時的に高くなります。注入が完了すると圧力は落ちますが、再度上昇します。
- 正しい空気圧を測定するためには、応急修理剤が注入された後にエアコンプレッサーのスイッチを OFF にしてください。
- 10 分以内に指定空気圧にならないときは、応急修理剤による応急修理はできません。Honda 販売店やロードサービスに連絡してください。
- タイヤパンク応急修理剤の購入および空きボトルの適切な処分については販売店にお尋ねください
- エアコンプレッサーホースを取り付けるときは、エアコンプレッサーのスイッチを OFF にしてください。
- エアコンプレッサーのスイッチを ON にすると、振動して音が聞こえます。
- Honda 販売店やロードサービスにタイヤ交換または修理を依頼する際には、タイヤパンク応急修理剤を使用したことを知らせてください。

15 分以上エアコンプレッサーを使用しないでください。
エアコンプレッサーは過熱し、破損するおそれがあります。

応急修理剤の保管、取り扱いに注意してください。
お子さまが誤って手を触れないようにしてください。また、衣類などに付着すると、落ちないおそれがあります。

⚠警告

応急用修理剤は、飲用すると有害で、致命的になりうる物質を含んでいます。

誤って飲用した場合、できるだけたくさんの水を飲んで、ただちに医師の診察を受けてください。目に入ったり皮膚に付いた場合、水でよく洗い流してください。異常を感じたときはただちに医師の診察を受けてください。

⚠警告

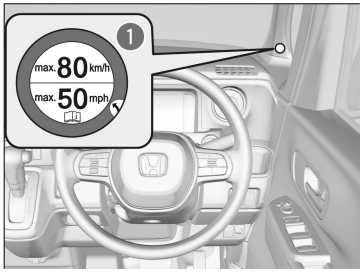
一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。

一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

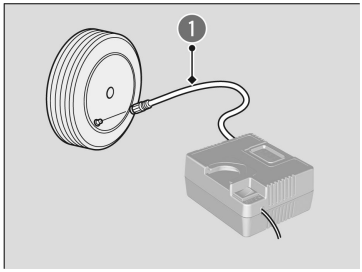
降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。

周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

点検走行



[1] 速度制限シール（❶）を、運転者のよく見える位置に貼る。
[2] 点検走行を開始する。
[3] 10 分または 5km 走行したあと安全な場所に車を停める。



[4] タイヤのバルブにエアコンプレッサーホース（❶）をきつく締め付ける。
[5] 空気圧計で空気圧を測定する。
【空気圧が 130kPa 未満の場合】
運転を中止して Honda 販売店またはロードサービスに連絡してください。
【空気圧が 130kPa 以上、指定空気圧以下の場合】
エアコンプレッサーを使って指定空気圧まで高めてください。Honda 販売店または専門修理工場に到着するまで、ステップ 2 から 5 までを繰り返してください。
【空気圧が指定空気圧の場合】
応急修理は完了です。
[6] タイヤバルブからエアコンプレッサーホースを外しバルブキャップを取り付ける。
[7] キットを車両に戻す。

- 走行点検で高速道路を走行する場合は、80km/h 以下で走行してください。
- 急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け通常より注意深く慎重に運転してください。
- 速やかに Honda 販売店または専門修理工場でタイヤの修理、交換を行ってください。
- 走行前に、エアコンプレッサーなどの積み忘れがないか、しっかりと確認してください。

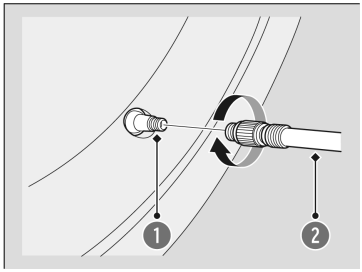
⚠注意

ハンドルのパッドにシールを貼らない。
SRS エアバッグが正常に機能しなくなります。

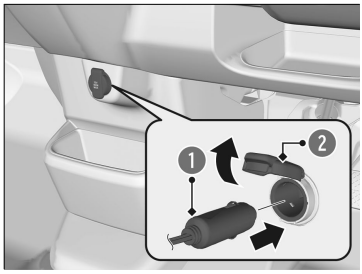
警告灯やスピードメーターが見えない位置に貼らない。
安全運転の妨げとなります。

空気圧の補充方法

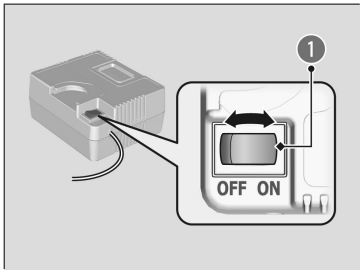
装備されているエアコンプレッサーを使用して、パンクしていないタイヤの空気圧を補充することができます。



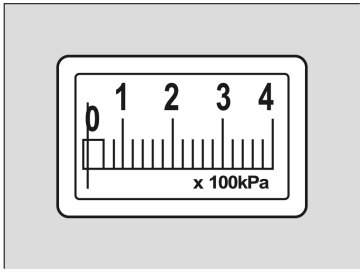
[1] エアコンプレッサーを準備する。
[2] 交通から遠ざけ、空気を補充するタイヤ付近にキットを水平に置く。
[3] バルブ（❶）からバルブキャップを取り外す。
[4] バルブにエアコンプレッサーホース（❷）を確実に取り付ける。



[5] エアコンプレッサーの電源コードのプラグ（❶）を、アクセサリーソケット（❷）に差し込む。
≫ドアや窓にコードをはさまないように注意してください。
アクセサリーソケット ▶P.158
[6] エンジンを始動する。
一酸化炭素について ▶P.20



[7] エアコンプレッサーのスイッチ（❶）を ON にして、空気圧を、運転席横の車体に貼ってあるラベルに記載されている指定空気圧まで高める。



[8] エアコンプレッサーのスイッチを OFF にする。
≫エアコンプレッサーの空気圧計を確認し、空気圧が高ければ、エアコンプレッサーホースを少し緩めて減圧してください。
[9] エンジンを停め、エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリーソケットから外す。
≫使用直後は電源プラグ先端が熱くなるため、素手で触らないように注意してください。
[10] タイヤバルブからエアコンプレッサーホースを外しバルブキャップを取り付ける。
[11] キットを車両に戻す。

- エアを注入しているときはエンジンを停止しないでください。

- タイヤの空気圧を空気圧計で確認するときは、エアコンプレッサーの電源を OFF にしてください。
- エアコンプレッサーのスイッチを ON にすると、振動して音が聞こえます。

エアコンプレッサーの電源は自動車用 12V 専用です。他の電源は使用しないでください。

15 分以上エアコンプレッサーを使用しないでください。
エアコンプレッサーは過熱し、破損するおそれがあります。

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。

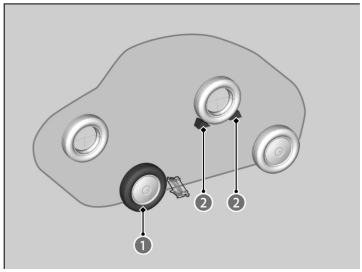
一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。 密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。

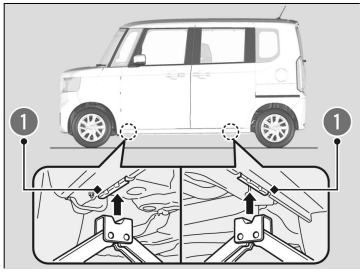
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

ジャッキの取り扱い

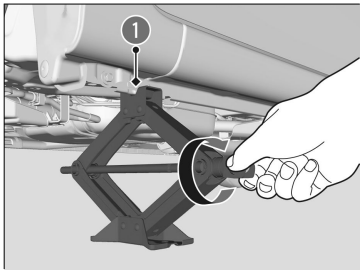
ジャッキのかけかた



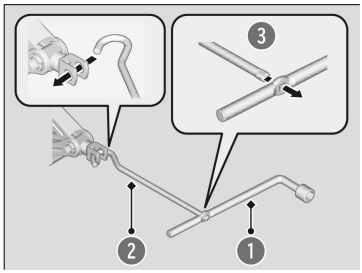
[1] 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
[2] パーキングブレーキをかける。
[3] シフトポジションを P にする。
[4] パワーモードを OFF モードにする。
[5] 交換するタイヤ（❶）の対角線上にあるタイヤの前後に、石などで輪留め（❷）をする。



[6] 交換するタイヤにもっとも近いジャッキポイント（❶）の下にジャッキ（別売り）を置く。



[7] ジャッキの上部がジャッキポイント（❶）に接触するまで図の部分を矢印の方向に回す。
≫ジャッキの溝にジャッキポイントがはまったことを確認してください。



[8] ジャッキハンドル（別売り）（❶）とジャッキハンドルバー（別売り）（❷）を使って、タイヤが地面から離れるまで車体を上げる。
≫ジャッキハンドルバーはジャッキハンドルに奥まで差し込んでください。（❸）

この車には、ジャッキが標準で搭載されていません。ジャッキアップをする場合は、この車専用のジャッキをお使いください。詳しくはHonda 販売店にご相談ください。
他のジャッキでは支えられる重量（呼荷重）が不足したり、形状が合わないことがあります。

⚠警告

車がジャッキだけで支えられているときは、車の下に入らない。
車がジャッキから外れて、車の下にいる人が重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠注意

ジャッキを使うときは安全のため、次のことを必ず守る。
- エンジンをかけたままにしない
- 地面が固い平らなところ以外では使用しない
- ジャッキポイント以外にかけない
- 人や荷物を乗せたままにしない
- ジャッキ使用中に車内に入らない
- ジャッキの上や下にものを入れたりしない

⚠注意

後輪タイヤを交換するときは、パワースライドドアのメインスイッチを OFF にする。
誤ってスイッチに触れたりしてドアが開き、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

エンジンが始動しない

確認事項

エンジンが始動しない場合、以下のことが考えられます。項目を確認し、適切な処置を行ってください。以下の確認をしてもエンジンが始動しない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

スターターが全く回らないか回転が非常に遅いとき

バッテリーがあがっていることなどが考えられます。下記の項目をチェックして適切な対応をしてください。

- マルチインフォメーションディスプレイの表示を確認する
「キーの Honda エンブレムでスイッチに触れてください」のメッセージが表示されているとき
スマートキーの電池が切れたときの始動方法 ►P.323
ボタンを押してもキーのインジケーターが点灯しないとき
スマートキーの電池交換方法 ►P.308
- ヒューズを点検する
全てのヒューズを確認してください。
ヒューズの点検と交換方法 ►P.336

スターターが正常に回るがエンジンが始動しないとき

ヒューズに問題があることなどが考えられます。下記の項目をチェックして適切な対応をしてください。

- エンジン始動の手順を実行する
もう一度、正しいエンジン始動操作をしてみてください。
エンジンの始動 ►P.107
- イモビライザーシステム表示灯を確認する
イモビライザーシステム表示灯が点滅しているときは、エンジンの始動ができません。
イモビライザーシステム ►P.51
警告灯と表示灯一覧 ►P.248
- 燃料の量を点検する
燃料が入っているか確認してください。
燃料計 ►P.255
- ヒューズを点検する
全てのヒューズを確認してください。
ヒューズの点検と交換方法 ►P.336

すぐに車を動かす必要がある場合は、ブースターバッテリーを利用してジャンプスタートさせます。

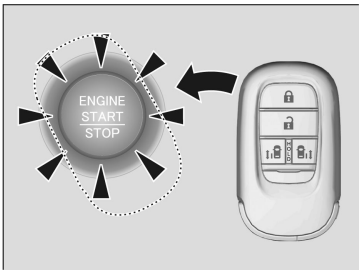
Q ジャンプスタートの方法 ►P.325

状況によっては、緊急時のエンジン始動方法を行うことで、一時的にエンジンを始動することができます。

Q 緊急時のエンジン始動方法 ►P.324

スマートキーの電池が切れたときの始動方法

ENGINE START/STOP によるパワーモードの操作やエンジンの始動ができない場合、以下の手順を行ってください。



[1] **ENGINE START/STOP** を押す。

[2] 30 秒以内に、Honda スマートキーをキーレスボタンを手前に向けて **ENGINE START/STOP** に接触させる。

[3] 10 秒以内に、ブレーキペダルを踏みながら **ENGINE START/STOP** を押す。

≫ペダルを踏んでいないときは、アクセサリーモードになります。

緊急時のエンジン停止方法

走行中、緊急事態の場合にエンジンを停止することができます。エンジンを停止しなければならない場合は、以下のいずれかを行ってください。

- **ENGINE START/STOP** を長押しする
- **ENGINE START/STOP** を連続して 3 回押す
- この操作を行った場合は、ハンドルはロックしません。

緊急時など必要な場合以外は、走行中にエンジンを停止しないでください。下記のような状態になり危険です。

- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効きが悪くなる。
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる。

緊急時のエンジン始動方法

通常のエンジンの始動方法で、エンジンが始動しない場合は、次の操作でエンジンが始動する場合があります。
緊急時など必要な場合以外は、この操作をしないでください。

[1] パーキングブレーキがかかっていることを確認する。
[2] シフトポジションが P であることを確認し、パワーモードをアクセサリーモードにする。
[3] ブレーキペダルをしっかり踏んだまま、ENGINE START/STOP を 15 秒以上押し続ける。

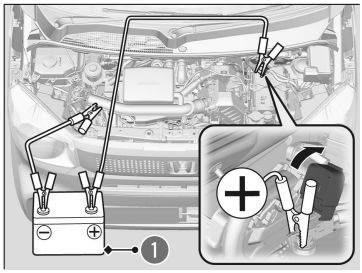
上記の操作でエンジンが始動できてもシステムの異常が考えられます。
ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
シフトポジションが、P の位置でロックされて動かなくなったら、下記を参照してください。

ロックを解除する ►P.328

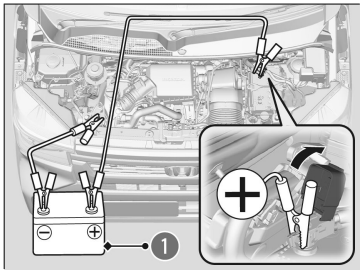
12V バッテリーがあがったとき

ジャンプスタートの方法

▼ ターボ非装備車



▼ ターボ装備車



[1] ボンネットを開け、12V バッテリー液の状態を確認する。

≫バッテリー液が凍っている場合はバッテリー液が溶けるまでジャンプスタートはできません。

[2] オーディオやライトなどの電源を OFF にする。

[3] 自車と救援車のパワーモードを OFF モードにする。

[4] ブースターケーブルを、自車の 12V バッテリーの ⊕ 端子に接続する。

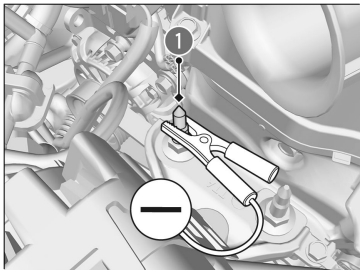
[5] ケーブルの反対側を、救援車のバッテリー（❶）の ⊕ 端子に接続する。

≫救援車には、12V のバッテリーを装着している車を使用してください。

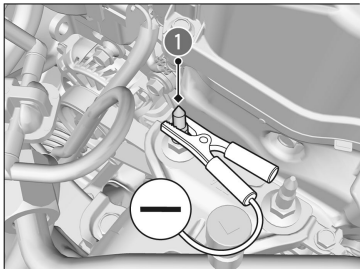
≫自動車用充電器を使用する場合は、電圧を 15V 以下に設定してください。

[6] もう 1 本のブースターケーブルを、救援車のバッテリーの ⊖ 端子に接続する。

▼ ターボ非装備車



▼ ターボ装備車



[7] ケーブルの反対側を、自車のエンジンのスタッドボルト（❶）に接続する。
[8] 救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにする。
[9] 自車のエンジンを始動する。

- 金属どうしがきちんと接続されているか確認してください。
- ケーブルをエンジンのスタッドボルト以外に接続しないでください。

⚠警告

ジャンプスタートは、正しい手順で慎重に行う。

ジャンプスタートの操作を間違えると、12V バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けるおそれがあります。タバコの火、火花、炎を 12V バッテリーから遠ざけ、正しい手順で行ってください。

❗ 気温が極端に低い場所に 12V バッテリーを長時間にわたって置かないでください。
内部のバッテリー液が凍結するおそれがあります。バッテリー液が凍結した 12V バッテリーでジャンプスタートすると、12V バッテリーが壊れることがあります。

寒冷時は、12V バッテリーの液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や補充電をしてください。
12V バッテリーの性能が低下し、エンジン始動に支障をきたすおそれがあります。

12V バッテリー液が不足しているときは、使用しないでください。
12V バッテリー内部の劣化が進むおそれがあります。

ジャンプスタート後の作業

自車のエンジンが始動したら、下記の手順でブースターケーブルを取り外し、Honda 販売店で点検を受けてください。

[1] 自車のエンジンのスタッドボルトからケーブルを外す。
[2] ケーブルの反対側を、救援車の 12V バッテリーの ⊖ 端子から外す。
[3] 自車の 12V バッテリーの ⊕ 端子からケーブルを外す。
[4] ケーブルの反対側を、救援車の 12V バッテリーの ⊕ 端子から外す。

- ブレーキ、ブレーキシステム、ABS、VSA の警告灯が点灯し消灯しない場合は、エンジンを停止し、再度、自車のエンジンを始動してください。警告灯が消灯しない場合は、異常が考えられますので、販売店で点検してください。
- エンジンが始動しないときは、ジャンプスタートを繰り返してください。
- ブースターケーブルの端子どうしが接触しないよう注意してください。

⚠警告

12V バッテリーを扱うときは、火気を近づけない。

12V バッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると、12V バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。
12V バッテリーを扱うときは、保護衣・保護面を着用するか、Honda 販売店で 12V バッテリーのメンテナンスを受けてください。

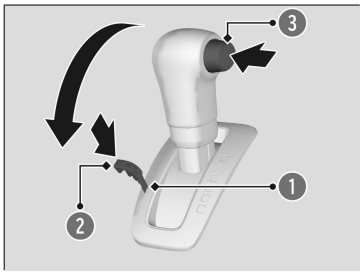
バッテリー液の取り扱いに注意する。

バッテリー液は希硫酸です。目や皮ふに付くとその部分が侵されますので十分注意してください。万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも 5 分間以上洗浄してください。飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲んでください。応急処置後は、専門医の診察を受けてください。

シフトレバーが動かない

ロックを解除する

シフトレバーが、P の位置でロックされて動かなくなったら、下記の方法で解除してください。



[1] パーキングブレーキをかける。
[2] パワーモードを OFF モードにする。
[3] シフトロック解除穴（❶）に内蔵キー（❷）を差し込む。
[4] キーを押しながらシフトレバーのボタン（❸）を押し、シフトレバーを N に入れる。

≫ロックが解除されました。Honda 販売店で、早めに点検を受けてください。

オーバーヒートしたとき

オーバーヒートしたときの対処方法

次のようなときは、オーバーヒートです。

- エンジンの力が急に落ちる
- マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車し運転を停止してください」とメッセージが表示される
- ボンネット内から蒸気が立ちのぼっている

⚠警告

蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けない。

ラジエーターから噴き出る蒸気や熱湯に触れると、重大な傷害を受けるおそれがあります。

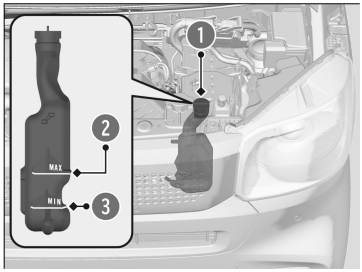
エンジンが熱いうちにラジエーターキャップを外さない。

冷却水が噴き出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずラジエーターが十分に冷えてからキャップを外してください。

! マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車し運転を停止してください」とメッセージが表示された状態で運転すると、エンジンを著しく損傷するおそれがあります。

マルチインフォメーションディスプレイに「エンジン冷却水高温 安全な場所に停車し運転を停止してください」と表示しているとき

[1] ただちに車を安全な場所に停める。
[2] シフトポジションを P にして、パーキングブレーキをかける。
[3] すべてのアクセサリーの電源を切り、非常点滅表示灯を点滅させる。
≫蒸気が出ていない場合は、エンジンをかけたままボンネットを開ける。
≫蒸気が出ている場合は、エンジンを停止し、蒸気が出なくなってからボンネットを開ける。



❶ リザーブタンク
❷ 上限
❸ 下限

[4] 冷却ファンの作動を確認し、メッセージが表示されなくなったらエンジンを停止する。
≫冷却ファンが作動していない場合は、すぐにエンジンを停止してください。

[5] エンジンが冷えてから冷却水量、ホースなどからの水漏れを点検する。
≫冷却水量が不足していたら、ラジエーターとリザーブタンクに冷却水を補給してください。冷却水がない場合は、応急的に水を補給してください。

[6] 十分にエンジンが冷えたら、エンジンを始動する。

- 警告メッセージが消えない場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
- 冷却水がもれている場合は、Honda 販売店に修理を依頼してください。

異常がおきたとき

「エンジン油圧異常」の警告メッセージが表示された



油圧が低い状態でエンジンを回転させると、エンジンが破損するおそれがあります。

表示の理由

エンジン内部を潤滑しているオイルの油圧が低下すると表示されます。

表示されたらすぐにすること

[1] ただちに車を水平で安全な場所に停車する。
[2] 非常点滅表示灯を点滅させる。

車を停車してからすること

[1] エンジンを停止し、3 分間ほど放置する。
[2] ボンネットを開け、エンジンオイルの量を確認する。
≫必要に応じて、エンジンオイルを補給してください。
[3] エンジンを始動する。
≫「エンジン油圧異常」の警告メッセージが消えた：運転を再開してください。
≫「エンジン油圧異常」の警告メッセージが消えない：エンジンを止めて、ただちに Honda 販売店に修理を依頼してください。

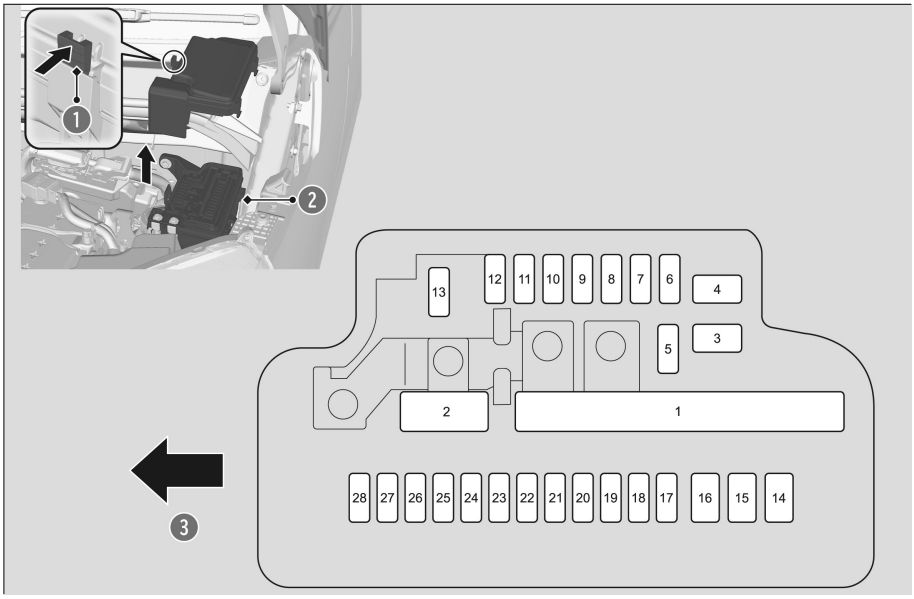
ヒューズが切れたとき

ヒューズの確認方法

電気装置が作動しない場合、パワーモードを OFF モードにして、ヒューズが切れていないか確認します。ヒューズは、ボンネット内と室内のヒューズボックスに入っています。

ボンネット内のヒューズボックス

ボンネット内の助手席側に付いている 12V バッテリーのそばにあります。タブを押して開けてください。
ヒューズの場所は次のイラストに示しています。
表のヒューズ番号とイラストで、該当するヒューズの位置を確認してください。



❶ タブ
❷ ヒューズボックス
❸ 前

ボンネット内のヒューズボックスの装備と容量

	表示	装備	容量
1	–	ヒューズボックスメイン 2	40A
	–	DC/DC 2	30A
	–	ABS/VSA FSR	40A
	–	EPS	40A
	–	DC/DC 1	30A
	–	ABS/VSA モーター	40A
	–	MAIN	100A
2	–	IG MAIN	50A
	–	ヒューズボックスメイン 1	60A
3	–	車いす VMP 1✤	40A
4	–	車いす VMP 2✤	40A
5	–	ホーン・制動灯	10A
6	–	助手席側パワースライドドア	30A
7	–	リレーモジュール 1	10A
8	–	運転席側パワースライドドア✤	30A
9	–	非常点滅表示灯	10A
10	–	リレーモジュール 2	10A
11	–	フォグライト✤	7.5A

	表示	装備	容量
12	–	バックアップ	10A
13	–	バックアップ（VST）	15A
14	–	サブヒューズボックスメイン（EPB）✤	30A
15	–	スターター	30A
16	–	冷却ファン	30A
17	–	ワイパー	20A
18	–	MG クラッチ	7.5A
19	–	VBACT✤	10A
20	–	LAF	7.5A
21	–	ライトコントロールモジュール L	10A
22	–	ライトコントロールモジュール R	10A
23	–	ドライブバイワイヤ	15A※1 20A※2
24	–	バッテリーセンサー	10A
25	–	イグニッションコイル	15A
26	–	IGP	15A
27	–	–	–
28	–	ステアリングヒーター✤	10A

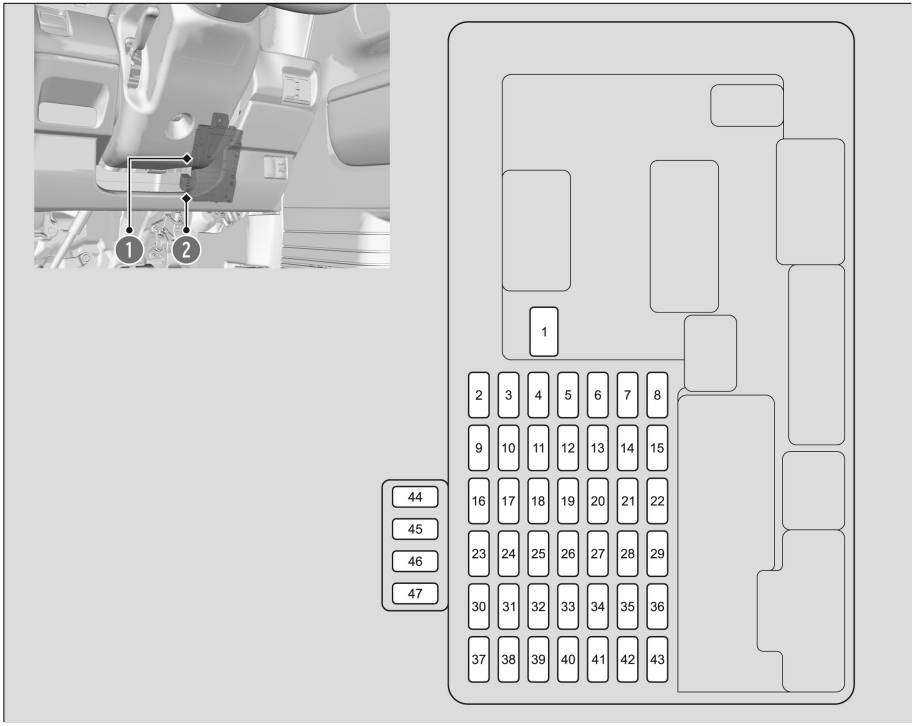
※1: ターボ非装備車
※2: ターボ装備車

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

室内のヒューズボックス

インストルメントパネルの奥にあります。
≫下から確認できます。

ヒューズの場所は次のイラストに示しています。
表のヒューズ番号とイラストで、該当するヒューズの位置を確認してください。



❶ ヒューズボックス
❷ 44～47 番ヒューズ✤

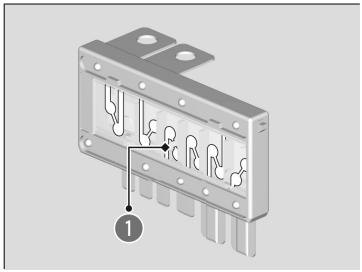
✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

室内のヒューズボックスの装備と容量

	表示	装備	容量
1	–	ヒーターモーター	30A
2	–	–	–
3	–	ウォッシャー	10A
4	–	SRS エアバッグシステム	10A
5	–	運転席側リヤパワーウィンドー	15A
6	–	助手席側リヤパワーウィンドー	15A
7	–	助手席パワーウィンドー	15A
8	–	オーディオ（VST）	10A
9	–	USB チャージャー	7.5A
10	–	–	–
11	–	E-LATCH	7.5A
12	–	バックアップ 2	10A
13	–	VSA（VST）	5A
14	–	アクセサリーソケット	20A
15	–	アクセサリー	5A
16	–	Honda スマートキーシステム	10A
17	–	IMG	7.5A
18	–	運転席パワーウィンドー	20A
19	–	運転席側イージードアクローザー	20A
20	–	SRS エアバッグシステム	5A
21	–	リヤワイパー	10A
22	–	後退灯	5A
23	–	シートヒーター✤	10A
24	–	オプション	7.5A
25	–	ヒーテッドドアミラー✤	10A
26	–	助手席側イージードアクローザー	20A
27	–	電動ドアミラー	7.5A
28	–	エアコン	5A
29	–	リヤデフロスター	20A
30	–	運転席側ドアロックモーター（アンロック）	10A
31	–	–	–
32	–	助手席側ドアロックモーター（アンロック）	15A
33	–	メーター（VST）	7.5A
34	–	ACC（VST）	5A
35	–	助手席側ドアロックモーター（ロック）	15A
36	–	運転席側ドアロックモーター（ロック）	10A
37	–	フューエルポンプ	15A
38	–	スターターカットコイル	5A
39	–	FI（EM）	10A
40	–	フロントワイパー	5A
41	–	メーター	7.5A
42	–	オーディオ サブ（VST）	10A
43	–	–	–
44	–	リヤアクセサリーソケット✤	20A
45	–	車いす VMP 3✤	10A
46	–	車いす VMP 4✤	7.5A
47	–	–	–

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

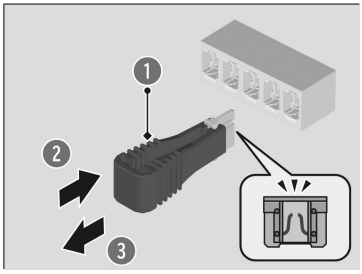
ヒューズの点検と交換方法



[1] パワーモードを OFF モードにし、ヘッドライトとすべてのアクセサリーを OFF にする。

[2] ボンネット内のヒューズボックスのフタを取り外し、大きいヒューズを点検する。

≫ヒューズが切れている（❶）場合、プラスドライバーでネジを外し、新しいものと交換してください。



[3] ボンネット内と、室内の小さいヒューズを点検する。

≫小さいヒューズが切れている場合、市販のヒューズプラーで引き抜き、新しいものと交換してください。

❶ ヒューズプラー
❷ 取り付ける
❸ 外す

- 規定容量より大きいヒューズに交換すると、電気系統を損傷する危険性が高くなります。 交換したあと、すぐにヒューズが切れるような場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。
- ヒューズは同じ規定容量のヒューズと交換してください。規定容量はヒューズの設置場所に記載している一覧で確認してください。

けん引したいとき

けん引について

けん引するときは、Honda 販売店またはロードサービスにご連絡ください。
2WD 車は四輪または前輪、4WD 車は四輪を持ち上げてけん引してください。

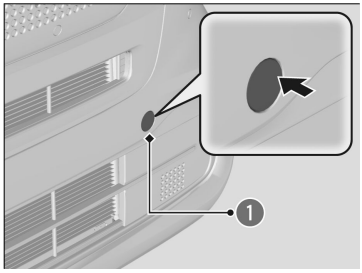
- バンパーで車を持ち上げたり、けん引すると、バンパーがいちじるしく損傷します。バンパーは車の重量を支えるようにはできていません。
- パーキングブレーキが解除されていることを確認してください。パーキングブレーキが解除できないときは、必ず四輪を持ち上げてけん引してください。

パーキングブレーキ ▶P.112

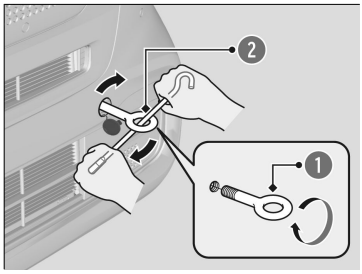
> ! ロープやチェーンなどを使ってけん引されるときは、車体に当たる部分に布を巻いてください。
> そのままけん引されると、車体に傷が付くことがあります。

やむをえずけん引される場合

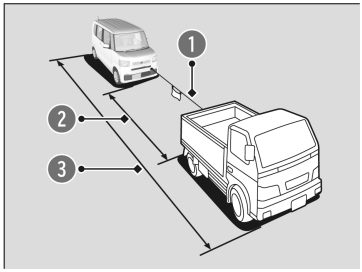
[1] エンジンルームの下からトランスミッションフルード（オイル）などが漏れていないことを確認する。
≫異常がある場合は、四輪または前輪を接地させてのけん引は行わないでください。



[2] リッド（❶）の右側を押し込んで外す。



[3] アイボルト（❶）がガタつかない程度まで手で締めつけてから、ジャッキハンドルバー（別売り）（❷）や固い金属の棒などを使用し確実に締め付ける。



❶ できるだけ同じ側
❷ 5m 以内
❸ 25m 以内

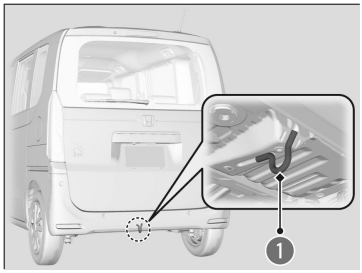
[4] ロープをアイボルトにかけ、ロープ中央部に白い布（0.3m 平方以上）を付ける。
[5] エンジンをかけてシフトポジションを D にし、約 5 秒間保持する。
≫エンジンが始動しないときは、パワーモードをアクセサリーモードまたは ON モードにします。
[6] シフトポジションを N にする。
[7] パーキングブレーキを解除する。
[8] 速度 30km/h 以下、走行距離 80km 以内でけん引する。
≫けん引中は、前の車の制動灯に注意してロープをたるませないようにしてください。

アイボルト以外のところにロープをかけないでください。車体が破損、変形する場合があります。
エンジンが停止している状態でのけん引は、以下のことに注意してください。

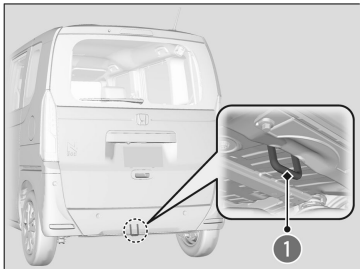
- ハンドルがロックしていないか確認する
- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効きが悪くなる
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる
- 無段変速オートマチック車は、トランスミッションが破損するおそれがある

長い下り坂では、ブレーキの温度が上がりブレーキが効かなくなるおそれがありますので、レッカー車にけん引してもらってください。

▼ スロープ非装備車



▼ スロープ装備車



車両後方についているフック（❶）を他車のけん引や緊急時の脱出に使用することはできません。フックが破損するおそれがあります。後方からけん引する必要がある場合は、Honda 販売店やロードサービスに連絡してください。

フューエルリッドが解錠できないとき

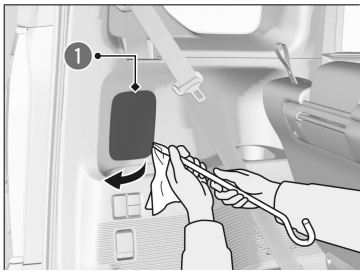
フューエルリッド応急処置

▼スロープ非装備車

Honda 販売店にご連絡ください。

▼スロープ装備車

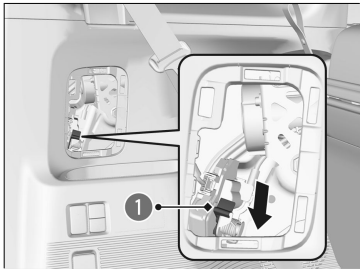
万一、フューエルリッドが解錠できなくなったときは、応急処置として次の方法で解錠してください。



[1] テールゲートを開ける。

[2] ジャッキハンドルバー（別売り）または先端が平らな固い金属の棒の先でカーゴスペース助手席側にあるリッド（❶）を開ける。

≫リッドが傷付かないよう、ジャッキハンドルバーまたは先端が平らな固い金属の棒の先に布などを巻き付けてください。



[3] 解錠レバー（❶）を下げる。

≫解錠レバーを下げるとフューエルリッドが解錠されます。

[4] フューエルリッドを開ける。

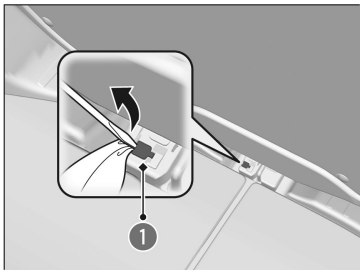
給油のしかた ►P.132

応急処置後は、Honda 販売店で点検を受けてください。

テールゲートが開かないとき

テールゲートが開かないときの対処方法

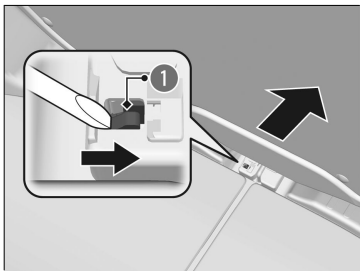
スロープ非装備車



▼N-BOX、N-BOX CUSTOM

[1] テールゲートのロック部分のリッド（❶）に、マイナスドライバーの先端を差し込み、リッドを開ける。

≫リッドが傷つかないよう、マイナスドライバーに布などを巻き付けてください。



[2] マイナスドライバーを使ってレバー（❶）を右に動かしたままの状態で、テールゲートを押し開ける。

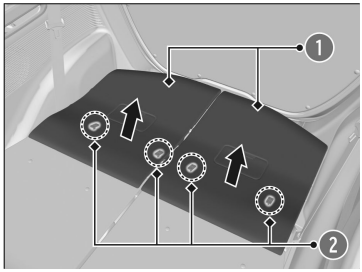


▼N-BOX JOY

[1] リヤシートの外側にあるストラップ（❶）を引きながら、リヤシートを前方いっぱいにスライドさせる。

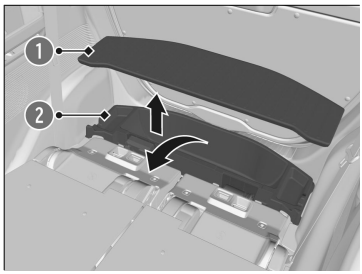
[2] リヤシートの背もたれを倒す。

リヤシートの調整方法（スロープ非装備車）▶P.69

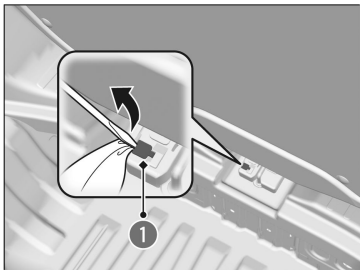


❶ スライドボード
❷ ピン

[3] スライドボードを取り外す。

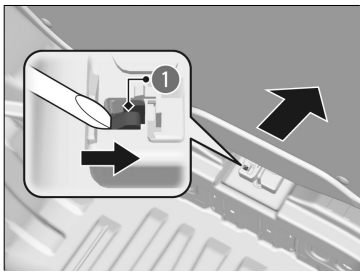


[4] カーゴリッド（❶）とカーゴフロアボックス（❷）を取り外す。



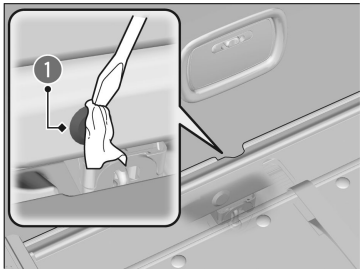
[5] テールゲートのロック部分のリッド（❶）に、マイナスドライバーの先端を差し込み、リッドを開ける。

≫リッドが傷つかないよう、マイナスドライバーに布などを巻き付けてください。



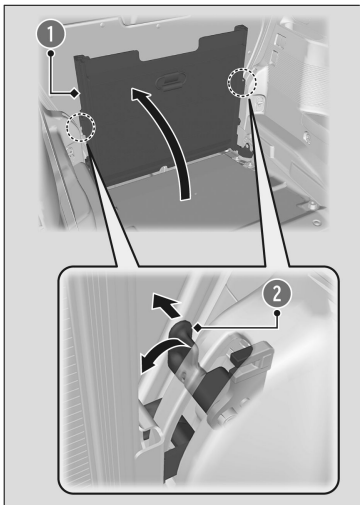
[6] マイナスドライバーを使ってレバー（❶）を右に動かしたままの状態で、テールゲートを押し開ける。

スロープ装備車



[1] スロープが室内側に格納された状態で、テールゲートのキャップ（❶）に、細長いマイナスドライバーの先端を差し込み、取り外す。

≫キャップが傷付かないよう、マイナスドライバーに布などを巻き付けてください。

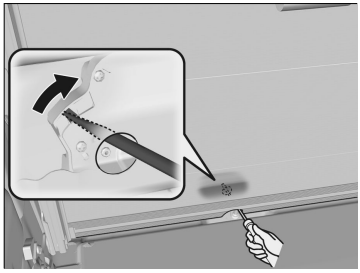


[2] スロープ（❶）をゆっくりと持ち上げて、ノブ（❷）を引き、左右のスロープロックを回転させて固定する。

≫スロープは確実に固定してください。

≫ノブの穴が赤くなっていないことを確認してください。

スロープの扱いかた ►P.170



[3] スロープの切欠きから、マイナスドライバーを使ってレバーを右に動かしたままの状態で、テールゲートを押し開ける。

▼ 共通

- 応急処置後は、Honda 販売店で点検を受けてください。

⚠注意

テールゲートを内側から開けるときは、周囲の安全と車の上方や後方に十分なスペースがあることを確認する。

思わぬけがをするおそれがあります。

▼ スロープ装備車

⚠注意

スロープは確実にスロープロックで固定する。

スロープロックが確実に固定されていない状態でテールゲートを開けると、スロープが車外に倒れて人やものにぶつかり思わぬけがをするおそれがあります。

緊急時や車両トラブルのとき

緊急通報

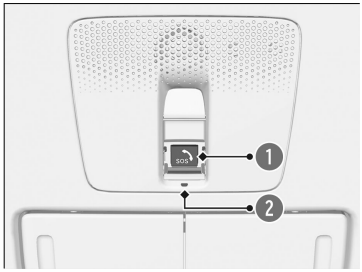
緊急通報とは、事故発生時や急病などの緊急時に、オペレーターがお客様のかわりに警察や消防へ通報するサービスです。

自動通報機能

車両のエアバッグが展開した場合、車両は自動的にオペレーターへの接続を開始します。接続時には車両に関する情報（場所、車両の状態など）がオペレーターに送信されます。

手動通報機能

事故発生時や急病などの緊急時に、緊急通報ボタンを押すことで手動でオペレーターに接続することが可能です。



[1] 緊急通報ボタン（❶）のカバーを開ける。
[2] 緊急通報ボタンを押す。
≫オペレーターに接続されます。
≫オペレーターに接続中はインジケーター（❷）が緑色に点滅します。

- ご利用には、Honda Total Care プレミアムのお申込みが必要です。詳しくは Honda Total Care プレミアムのホームページをご確認ください。 https://www.honda.co.jp/hondatotalcare/premium/
- 緊急通報はパワーモードが ON モードのときに利用可能です。
- オペレーターとの接続は、車両側から終了させることはできません。オペレーターのみが車両との接続を終了することができます。
- エアバッグが展開しなくても、車両に一定以上の衝撃が加わった場合、車両は自動的にオペレーターへの接続を開始します。

次の場合にはインジケーターが赤色に点滅し、オペレーターに接続できない可能性があります。

- バックアップバッテリーの電圧が低いとき
- トンネル内や地下駐車場など電波環境が悪いとき

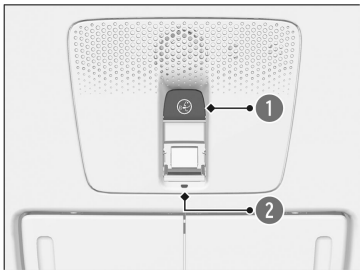
次の場合にはインジケーターが赤色に点灯し、オペレーターに接続できない可能性があります。

- システム、またはマイクやスピーカーなどの機器に問題があるとき
- インジケーターが赤色で点灯を続ける場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

> **!** インストルメントパネル上部に物を置かないでください。
> 通信用のアンテナが内蔵されているため、オペレーターとの通話が繋がりにくくなったり、車両の位置情報がずれる場合があります。

トラブルサポート

トラブルサポートとは、警告灯が点灯した場合や車両トラブルなど、乗車中の困ったときに Honda Total Care 緊急サポートセンターへ接続して、車の使い方やロードサービスの手配をサポートするサービスです。



パワーモードが ON モードのときにトラブルサポートボタン（❶）を押すと、Honda Total Care 緊急サポートセンターに接続します。

≫接続中はインジケーターが緑色（❷）に点滅します。

≫再度トラブルサポートボタンを押すと接続が終了します。

- ご利用には、Honda Total Care プレミアムのお申込みが必要です。詳しくは Honda Total Care プレミアムのホームページをご確認ください。 https://www.honda.co.jp/hondatotalcare/premium/

次の場合にはインジケーターが赤色に点滅し、 Honda Total Care 緊急サポートセンターに接続できない可能性があります。

- バックアップバッテリーの電圧が低いとき
- トンネル内や地下駐車場など電波環境が悪いとき

次の場合にはインジケーターが赤色に点灯し、 Honda Total Care 緊急サポートセンターに接続できない可能性があります。

- システム、またはマイクやスピーカーなどの機器に問題があるとき
- インジケーターが赤色で点灯を続ける場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

> **!** インストルメントパネル上部に物を置かないでください。
> 通信用のアンテナが内蔵されているため、オペレーターとの通話が繋がりにくくなったり、車両の位置情報がずれる場合があります。

ウインチベルト✤が作動しないとき

ウインチベルトが作動しないときの対処方法

ウインチベルトが作動しないときは、車の 12V バッテリーを点検してください。バッテリーがあがっていないときは、パワーモードを OFF モードにして、ヒューズが切れていないか確認します。

ヒューズの点検と交換方法 ►P.336

- 車の 12V バッテリーを再接続したときやヒューズを交換したときに **ベルトフリー** スイッチが使えないことがあります。

  ベルトフリースイッチを押してもベルトが引き出せないとき ►P.349
- 規定容量より大きいヒューズに交換すると、電気系統を損傷する危険性が高くなります。交換した後、すぐにヒューズが切れるような場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。
- ヒューズは同じ規定容量の予備ヒューズと交換してください。
- リモコンの電波状態、車両の 12V バッテリーの状態やウインチに異常があると作動が停止することがあります。

⚠注意

装置が故障したときは、車いすでの乗車はしない。

車いすの固定が確実にできないので、ブレーキや衝突のときなどに車いすが動いたり、倒れたりして傷害を受けるおそれがあります。

ウインチベルトが作動しないときは以下のことが考えられます。

ブザー	主電源表示灯	ベルトフリー表示灯	状態	確認内容
ピーピーピー (3 回吹鳴)	交互に点滅	交互に点滅	ウインチの部品が故障しているとき	• 販売店で点検を受けてください。
ピーピーピー (3 回吹鳴)	点滅	消灯	車両の 12V バッテリー電圧が低下しているとき	• 12V バッテリーを点検してください。 12V バッテリーに問題が無い場合は、販売店で点検を受けてください。

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

ブザー	主電源表示灯	ベルトフリー表示灯	状態	確認内容
ピーピーピー(3 回吹鳴)	点滅	消灯	パワーモードが ON モードでシフトポジションを P 以外にしたとき	• シフトポジションを P にしてからリモコンの電源を再度 ON にしてください。その後、入または出スイッチを押してください。
ピーピーピー(3 回吹鳴)	点灯	消灯	リモコンの通信状況が悪かったとき	• リモコンの電源を再度 ON にしてください。その後、入または出スイッチを押してください。 • 何度も同様な事象が発生する場合は、リモコンの電池が消耗している可能性があります。 • 電池を交換しても改善しない場合は、販売店で点検を受けてください。
ピーピーピー(3 回吹鳴)	点灯	消灯	ウインチベルトにかかる負荷が大きいとき	• 傾斜地であれば、平坦な路面で使用してください。 • ウインチベルト、車いす付近に引掛りが無いか確認し、異物がある場合は取り除いてください。 • 被介護者と車いす合わせて 120kg を超えている場合はウインチ性能を満足できません。上記以外で何度も同様な事象が発生する場合は、販売店で点検を受けてください。

リモコンの操作途中でウインチが止まったとき

「ピーピーピー」と 3 回音がしてウインチが停止したときは、以下の手順に従って操作してください。

[1] リモコンの**電源**スイッチを押し直す。

≫リモコンのインジケーターが赤く点灯していても押してください。

[2] 再度出または入スイッチを押す。

• ウインチが作動しない場合は、装置の故障が考えられます。

乗降の途中で停止したとき ►P.349

乗降の途中で停止したとき

リモコンを紛失した場合や電池が切れた場合、乗降の途中で停止した場合は、介護する人が、車いすをそのまま押し上げて車内に乗せた後、車いす乗車の方を車いすから降ろしてください。Honda 販売店にご連絡ください。

車いす乗車の方のみ車外に降ろすときには

車いす乗車の方を車外に降ろすときは、次の方法で降ろしてください。

[1] スライドドアを全開にする。
[2] 車いす乗車の方を降ろす。

- 車いす乗車の方を車外へ降ろすときは、車いす乗車の方を降ろしやすい側のスライドドアを全開にします。

スライドドアの開閉について ►P.98

⚠注意

装置が故障したときは、車いすでの乗車はしない。

車いすの固定が確実にできないので、ブレーキや衝突のときなどに車いすが動いたり、倒れたりして傷害を受けるおそれがあります。

ベルトフリースイッチを押してもベルトが引き出せないとき

ベルトフリースイッチの表示灯が点灯し、「ピッピッ・・・ピッピッ・・・」と音が続いているとき

以下の手順にしたがって操作してください。

[1] リモコンの**電源**スイッチを押しインジケーターが点灯後、**出**スイッチを押しながらウインチベルトを少し引き出す。
[2] **ベルトフリー**スイッチを押してベルトを引き出す。

ベルトフリースイッチの表示灯が点滅し、「ピッピッ・・・ピッピッ・・・」と音が続かないとき

以下の手順にしたがって操作してください。

[1] ウインチベルトを一度収納する。
[2] リモコンの**電源**スイッチを押しインジケーターが点灯後、**出**スイッチを押しながらベルトをすべて引き出す。
[3] リモコンを使わずに、ゆっくりとベルトを巻き取らせる。
≫**ベルトフリー**スイッチを押してベルトが引き出せるようになります。

上記の操作を行ってもベルトを引き出すことができない場合は、装置の故障が考えられますので、Honda 販売店にご連絡ください。

- ウインチベルトを収納するときは、リモコンを使わずに収納してください。
  リモコンを使うと、電動ウインチシステムが車いすが乗っていると認識し、**ベルトフリー**スイッチを押してもベルトが引き出せなくなります。
- **ベルトフリー**スイッチの表示灯が点滅するのは以下の場合です。
  - リモコンを使ってウインチベルトを収納したとき
  - 車の 12V バッテリーを再接続したとき
  - ヒューズを交換したとき
  - リモコンを使用せずに車いすを降ろしたとき

⚠注意

装置が故障したときは、車いすでの乗車はしない。

車いすの固定が確実にできないので、ブレーキや衝突のときなどに車いすが動いたり、倒れたりして傷害を受けるおそれがあります。

車内に固定された状態で停止したとき

すみやかに Honda 販売店で点検を受けてください。
修理が完了するまで、絶対に車いすを乗せないでください。

車いす乗車の方のみ車外に降ろすときには

万が一、車いすが固定された状態で停止し、車いすを車外に降ろすことができなくなったときは、次の方法で車いす乗車の方のみ降ろしてください。

[1] スライドドアを全開にする。
[2] 車いす乗車の方を降ろす。

- 車いす乗車の方を車外へ降ろすときは、車いす乗車の方を降ろしやすい側のスライドドアを全開にします。

Q スライドドアの開閉について ►P.98

⚠注意

装置が故障したときは、車いすでの乗車はしない。

車いすの固定が確実にできないので、ブレーキや衝突のときなどに車いすが動いたり、倒れたりして傷害を受けるおそれがあります。

車両情報

仕様：N-BOX
仕様について……352

仕様：N-BOX CUSTOM
仕様について……354

仕様：N-BOX JOY
仕様について……356

オープンソースライセンス
一覧……358

仕様：N-BOX

仕様について

基本情報	
名称	N-BOX
排気量	658 cm³
車体形状	4 ドアステーションワゴン
乗車定員	▼ スロープ非装備車
	4 名
	▼ スロープ装備車
	3 名※1
	4 名※2

※1: 車いすご利用の方が乗車される場合（車いすご利用の方も含む）

※2: 車いすご利用の方が乗車されない場合

点火プラグ	
NGK	DILMAR7A11S

ブレーキペダル	
遊び	3.5-10.2mm
床板とのすき間	139mm 以上 {約 196N（20kgf）の力}

燃料	
燃料種類	無鉛レギュラーガソリン レギュラーバイオ混合ガソリン（E10/ETBE22）
燃料タンク容量	27L※1
	25L※2

※1: 2WD 車

※2: 4WD 車

エアクリーナーエレメント	
タイプ	湿式

12V バッテリー	
容量/タイプ	32AH (5)、40AH (20) /M-42R※1

※1: アイドリングストップシステム専用バッテリー

ウォッシャー液	
タンク容量	1.5L

電球	
ヘッドライト（ハイ/ロービーム）	LED
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯/車幅灯/デイタイムランニングライト	LED
側面方向指示器/側面非常点滅表示灯	LED
制動灯	LED
尾灯	LED
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯	LED
後退灯	LED
ハイマウントストップランプ	LED
番号灯	LED✤
	12V-5W (W5W) ✤
マップランプ	12V-8W
室内灯	12V-8W
カーゴスペース照明灯✤	12V-5W
スロープライト✤	12V-8W

ブレーキフルード	
指定液	Honda 純正ブレーキフルード DOT3 または DOT4

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

トランスミッションフルード	
指定液	Honda 純正ウルトラ HCF-2
規定量	2.5L※1（交換時）
	2.55L※2（交換時）

※1: 2WD 車
※2: 4WD 車

▼ 4WD 車のみ

デファレンシャルオイル	
指定液	Honda 純正ウルトラ HGO-μ
規定量	0.33L（交換時）

▼ 4WD 車のみ

トランスファーフルード	
指定液	Honda 純正ウルトラ DPSF- Ⅱ
規定量	0.43L（交換時）

エンジンオイル	
推奨	・Honda ULTRA NEXT※1 ・Honda ULTRA Green ・Honda ULTRA LEO ・API SN 級以上 0W-16, 0W-20
規定量	2.4L（オイル交換時）2.8L（オイル、オイルフィルター同時交換時）

※1: 最も省燃費性に優れたオイルです。

冷却水	
指定液	Honda 純正ウルトラ e クーラント
規定濃度	50%
規定量	2.81L（交換時：リザーブタンク 0.31L 含む）

タイヤ	
サイズ	155/65R14 75S
空気圧 (kPa[kgf/cm²])	前輪 240 (2.4) 後輪 230 (2.3)
リムサイズ	14×4 1/2J

▼ スロープ装備車

スロープ	
耐荷重	200kg

▼ スロープ装備車

ウインチ	
最大引上げ重量	120kg

▼ スロープ装備車

最大積載時の車輌重量（車輌重量＋乗車定員＋荷物）
1234kg※1
1304kg※2

※1: 2WD 車
※2: 4WD 車

▼ スロープ装備車

最大積載量
140kg（2 名乗車時）

※ 目安ですので、最大積載時の車輌重量を超えないでください。

仕様：N-BOX CUSTOM

仕様について

基本情報	
名称	N-BOX CUSTOM
排気量	658 cm³
車体形状	4 ドアステーションワゴン
乗車定員	▼ スロープ非装備車
	4 名
	▼ スロープ装備車
	3 名※1
	4 名※2

※1: 車いすご利用の方が乗車される場合（車いすご利用の方も含む）
※2: 車いすご利用の方が乗車されない場合

点火プラグ	
NGK	DILMAR7A11S※1
	ILMAR8D8S※2

※1: ターボ非装備車
※2: ターボ装備車

ブレーキペダル	
遊び	3.5-10.2mm
床板とのすき間	139mm 以上 {約 196N (20kgf) の力}

燃料	
燃料種類	無鉛レギュラーガソリン レギュラーバイオ混合ガソリン（E10/ETBE22）
燃料タンク容量	27L※1
	25L※2

※1: 2WD 車
※2: 4WD 車

エアクリーナーエレメント	
タイプ	湿式

12V バッテリー	
容量/タイプ	32AH (5)、40AH (20) /M-42R※1

※1: アイドリングストップシステム専用バッテリー

ウォッシャー液	
タンク容量	1.5L

電球	
ヘッドライト（ロービーム）	LED
ヘッドライト（ハイビーム）	LED
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯	LED
車幅灯/デイタイムランニングライト	LED
アクセサリーランプ	LED
フォグライト	LED
側面方向指示器/側面非常点滅表示灯	LED
制動灯	LED
尾灯	LED
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯	LED
後退灯	LED
ハイマウントストップランプ	LED
番号灯	LED✤
	12V-5W (W5W) ✤
マップランプ	LED
室内灯	LED
カーゴスペース照明灯✤	LED
前席フットランプ	LED
ドリンクホルダーランプ	LED
スロープライト✤	LED

ブレーキフルード	
指定液	Honda 純正ブレーキフルード DOT3 または DOT4

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

トランスミッションフルード	
指定液	Honda 純正ウルトラ HCF-2
規定量	2.5L※1（交換時）
	2.55L※2（交換時）

※1: 2WD 車
※2: 4WD 車

▼ 4WD 車のみ

デファレンシャルオイル	
指定液	Honda 純正ウルトラ HGO-μ
規定量	0.33L（交換時）

▼ 4WD 車のみ

トランスファーフルード	
指定液	Honda 純正ウルトラ DPSF- Ⅱ
規定量	0.43L（交換時）

エンジンオイル	
推奨	▼ ターボ非装備車 ・Honda ULTRA NEXT※1 ・Honda ULTRA Green ・Honda ULTRA LEO ・API SN 級以上 0W-16, 0W-20 ▼ ターボ装備車 ・Honda ULTRA LEO※1 ・Honda ULTRA LTD ・API SN 級以上 0W-20, 5W-30
規定量	2.4L（オイル交換時）2.8L（オイル、オイルフィルター同時交換時）

※1: 最も省燃費性に優れたオイルです。

冷却水	
指定液	Honda 純正ウルトラ e クーラント
規定濃度	50%
規定量	2.81L（交換時：リザーブタンク 0.31L 含む）

タイヤ	
サイズ※1	155/65R14 75S
	165/55R15 75V
空気圧（kPa[kgf/cm²]）	前輪 240（2.4）後輪 230（2.3）※2
	前輪 220（2.2）後輪 220（2.2）※3
リムサイズ	14×4 1/2J※2
	15×4 1/2J※3

※1: タイヤの指定サイズは、運転席横の車体に貼ってあるラベルをご覧ください。
※2: 155/65R14 75S タイヤ装備車
※3: 165/55R15 75V タイヤ装備車

▼ スロープ装備車

スロープ	
耐荷重	200kg

▼ スロープ装備車

ウインチ	
最大引上げ重量	120kg

▼ スロープ装備車

最大積載時の車輌重量（車輌重量＋乗車定員＋荷物）
1234kg※1
1304kg※2

※1: 2WD 車
※2: 4WD 車

▼ スロープ装備車

最大積載量
140kg（2 名乗車時）

※ 目安ですので、最大積載時の車輌重量を超えないでください。

仕様：N-BOX JOY

仕様について

基本情報	
名称	N-BOX JOY
排気量	658 cm³
車体形状	4 ドアステーションワゴン
乗車定員	4 名

点火プラグ	
NGK	DILMAR7A11S※1
	ILMAR8D8S※2

※1: ターボ非装備車
※2: ターボ装備車

ブレーキペダル	
遊び	3.5-10.2mm
床板とのすき間	139mm 以上 {約 196N (20kgf) の力}

燃料	
燃料種類	無鉛レギュラーガソリン レギュラーバイオ混合ガソリン（E10/ETBE22）
燃料タンク容量	27L※1
	25L※2

※1: 2WD 車
※2: 4WD 車

エアクリーナーエレメント	
タイプ	湿式

12V バッテリー	
容量/タイプ	32AH (5)、40AH (20) /M-42R※1

※1: アイドリングストップシステム専用バッテリー

ウォッシャー液	
タンク容量	1.5L

電球	
ヘッドライト（ハイ/ロービーム）	LED
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯/車幅灯/デイタイムランニングライト	LED
フォグライト	LED
側面方向指示器/側面非常点滅表示灯	LED
制動灯	LED
尾灯	LED
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯	LED
後退灯	LED
ハイマウントストップランプ	LED
番号灯	LED
マップランプ	LED✤
	12V-8W✤
室内灯	LED✤
	12V-8W✤
カーゴスペース照明灯	LED✤
	12V-5W✤
前席フットランプ✤	LED
ドリンクホルダーランプ✤	LED

ブレーキフルード	
指定液	Honda 純正ブレーキフルード DOT3 または DOT4

トランスミッションフルード	
指定液	Honda 純正ウルトラ HCF-2
規定量	2.5L※1（交換時）
	2.55L※2（交換時）

※1: 2WD 車
※2: 4WD 車

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

▼ 4WD 車のみ

デファレンシャルオイル	
指定液	Honda 純正ウルトラ HGO-μ
規定量	0.33L（交換時）

▼ 4WD 車のみ

トランスファーフルード	
指定液	Honda 純正ウルトラ DPSF-Ⅱ
規定量	0.43L（交換時）

エンジンオイル	
推奨	▼ ターボ非装備車 ・Honda ULTRA NEXT※1 ・Honda ULTRA Green ・Honda ULTRA LEO ・API SN 級以上 0W-16, 0W-20 ▼ ターボ装備車 ・Honda ULTRA LEO※1 ・Honda ULTRA LTD ・API SN 級以上 0W-20, 5W-30
規定量	2.4L（オイル交換時）2.8L（オイル、オイルフィルター同時交換時）

※1: 最も省燃費性に優れたオイルです。

冷却水	
指定液	Honda 純正ウルトラ e クーラント
規定濃度	50%
規定量	2.81L（交換時：リザーブタンク 0.31L 含む）

タイヤ	
サイズ	155/65R14 75S
空気圧（kPa[kgf/cm²]）	前輪 240（2.4）後輪 230（2.3）
リムサイズ	14×4 1/2J

オープンソースライセンス

一覧

メーター オープンソースライセンス

本製品に組み込まれたソフトウェアは、オープンソースソフトウェアを含みます。
オープンソースソフトウェアの詳細に関しては、以下のウェブサイトをご覧ください。
https://www.nippon-seiki.co.jp/business_ic_meter/

TCU オープンソースライセンス

Free/Open Source Software 情報
この製品は、Free/Open Source Software(FOSS)を含みます。
FOSS のライセンス情報及びソースコードは下記 URL を参照ください。
https://www.denso.com/global/en/opensource/tcu/honda/

マルチビューカメラ オープンソースライセンス✤

Free/Open Source Software 情報
この製品は、Free/Open Source Software(FOSS)を含みます。
FOSS のライセンス情報及びソースコードは下記 URL を参照ください。
http://car.panasonic.jp/oss/n03pkdl6

✤: タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

索引

数字

12V バッテリー
12V バッテリー充電警告灯…… 250

A

A/C(エアコン)……187
ABS（アンチロックブレーキシステム）……117
ABS 警告灯……114, 251
ACC（アダプティブクルーズコントロール）
ACC 警告灯…… 253
ACC 表示灯…… 223

C

CMBS（衝突軽減ブレーキ）…… 200
CMBS 警告灯…… 253
CMBS 表示灯…… 263

E

ECON モード……148
ENGINE START/STOP スイッチ…… 106
EPS（電動パワーステアリング）システム警告灯‥
…… 252

H

Honda SENSING……193
Honda スマートキー……52

I

ISOFIX/i-Size……31

L

LKAS（車線維持支援システム）……232
LKAS 警告灯……253
LKAS 表示灯……233

P

PGM-FI 警告灯…… 251

S

SRS エアバッグ……40
エアバッグシステム警告灯…… 45, 251

V

VSA OFF 警告灯…… 252
VSA（ビークルスタビリティアシスト）…… 151
VSA OFF 警告灯……252
VSA 警告灯…… 152, 252
VSA モード設定…… 265

W

W（ワット）数……352, 354, 356

ア

アイドリングストップシステム警告灯（オレンジ）
…… 253
アイボルト……301
明るさ設定……265
アクセサリー…… 22
アクセサリーソケット…… 158
アクセサリーライト……304
アジャイルハンドリングアシスト…… 153
安全支援情報……263
安全支援情報警告灯（オレンジ）……254
安全支援情報表示灯（グリーン/グレー）‥264
衝突軽減ブレーキ（CMBS）警告灯（オレンジ）
……253
衝突軽減ブレーキ（CMBS）表示灯（グレー）
……263
路外逸脱抑制機能警告灯（オレンジ）…… 253
路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯
……254
路外逸脱抑制機能表示灯（グレー）…… 263
安全に関する表示について……1
アンチロックブレーキシステム（ABS）……117
ABS 警告灯……114, 251
アンテナ…… 191

イ

イモビライザーシステム…… 51
イモビライザーシステム表示灯……51
イージードアクローザー……104

ウ

ウィンカー・ライト
ウィンカー（方向指示器）……136

オートハイビーム…… 139
デイタイムランニングライト……138
ハイビーム…… 138
ヘッドライト・車幅灯……136
ヘッドライトオートオフ機能……138
ウィンカー（方向指示器）……136
ウィンドウォッシャー…… 143
ウィンドウォッシャー液の補給……280
ウィンドー…… 91
くもり止め…… 146
ウェアインジケーター…… 286
運転
エンジンの始動……107
シフト操作…… 109
ブレーキ……112
運転時の注意事項…… 19
運転の準備…… 17

エ

エアクリーナーエレメント…… 352, 354, 356
エアコン…… 187
オートエアコンセンサー…… 190
オートエアコンの使用方法……189
エアバッグ
SRS エアバッグ…… 40
エアバッグシステム警告灯…… 45, 251
エアバッグについて…… 39
エアバッグのお手入れ…… 46
サイドエアバッグ……41
サイドカーテンエアバッグ…… 44
エマージェンシーストップシグナル…… 118
エンジンオイル
推奨エンジンオイル…… 278, 353, 355, 357
エンジンスイッチ
パワーモード警告ブザー…… 106
エンジンの始動…… 107, 322, 325
エンジンが始動しない……322
ジャンプスタート…… 325

オ

応急修理剤（タイヤパンク）…… 311
温度センサー……256
オーディオ……191, 261
オートハイビーム……139
オートハイビーム表示灯…… 139
オートマチックブレーキホールド…… 115
オートマチックブレーキホールドシステム表示灯……117
オートリトラミラー…… 88
オーバーヒート…… 329
オープンソースライセンス……358

カ

外気温表示……256
鍵(かぎ)…… 48
ガソリン…… 352, 354, 356
カレンダー……264
カーゴスペース照明灯…… 156
カーゴフロアボックス…… 163

キ

急アクセル抑制機能……211
急アクセル抑制機能表示灯……211
給油…… 132
指定燃料……352, 354, 356
緊急通報…… 345
キー……48
Honda スマートキー…… 48
キー閉じ込み防止装置…… 60
キーナンバータグ……53
キーレスエントリー…… 54
スマートキーの電池が切れたとき……323
スマートキーの電池が切れたときの始動方法……323
電池交換方法……308
内蔵キー…… 52
キーレスエントリー……308
電池交換方法……308

ク

空気圧…… 353, 355, 357
空気圧測定器による点検……285
グラブレール…… 10
車いすの乗せかた、降ろしかた……175
クルーズコントロール表示灯（ホワイト/グリーン）…… 228

グローブボックス……158

ケ

経過時間…… 261
警告灯
12V バッテリー充電警告灯…… 250
ABS（アンチロック ブレーキシステム）警告灯
……114, 251
EPS（電動パワーステアリング）システム警告灯
……252
PGM-FI 警告灯……251
VSA OFF 警告灯……252
VSA（ビークルスタビリティアシスト）警告灯
……252
アイドリングストップシステム警告灯（オレンジ）……253
安全支援情報警告灯（オレンジ）……254
エアバッグシステム警告灯…… 45, 251
シートベルト非着用警告灯…… 78, 250
車線維持支援システム（LKAS）警告灯（オレンジ）……253
渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール（ACC）警告灯（オレンジ）……253
衝突軽減ブレーキ（CMBS）警告灯（オレンジ）
……253
トランスミッション警告灯……252
燃料残量警告灯（オレンジ）……251
パーキングセンサー警告灯……252
ブレーキ警告灯（レッド）……250
ブレーキシステム警告灯 （オレンジ）…. 250
路外逸脱抑制機能警告灯（オレンジ）….. 253
路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯
……254
警告メッセージ…… 268, 331
けん引……337

コ

交換 交換
ヒューズ……336
ワイパーブレードラバー…… 281
工具…… 301
航続可能距離……260
後退灯……304
後方誤発進抑制機能……208
固定ベルト…… 169
誤発進抑制機能…… 208
コンビニフック…… 161

サ

サイドエアバッグ…… 41
サイドカーテンエアバッグ…… 44
座席……65
サンバイザー…… 10

シ

室内装備品
アクセサリーソケット……158
カーゴフロアボックス……163
グローブボックス…… 158
コンビニフック……161
シートバックテーブル……162
充電専用 USB ジャック…… 159
スライドドアウィンドウサンシェード…. 164
タイダウンフック…… 163
電動ウインチリモコン……167
ドリンクホルダー…… 165
室内灯……155
シフト操作…… 109
シフトポジション…… 109
シフトポジション表示灯……110
シフトレバー
シフトレバーが動かない…… 328
車外の清掃…… 297
車線維持支援システム（LKAS）…… 232
車線維持支援システム（LKAS）警告灯（オレンジ）…… 253
ジャッキ…… 301, 320
ジャッキハンドルバー…… 301
ジャッキハンドル（ホイールナットレンチ）..301
車内の清掃…… 295
車内の施錠/解錠方法……61
車幅灯……136
車両データの記録について……3
ジャンプスタート……325
渋滞追従機能付 ACC（アダプティブクルーズコントロール）……222

渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール（ACC）…… 222
渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール（ACC）警告灯（オレンジ）…… 253
渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール（ACC）表示灯（ホワイト/グリーン）‥223
渋滞追従機能付アダプティブクルーズコンロール（ACC）/車線維持支援システム（LKAS）表示‥257
充電専用 USB ジャック…… 159
瞬間燃費…… 260
衝突軽減ブレーキ（CMBS）…… 200
衝突軽減ブレーキ（CMBS）警告灯（オレンジ）…… 253
仕様……352, 354, 356
シンプル…… 260
シート…… 65
フロントシート…… 68
リアシートリマインダー……76
リヤシート…… 69, 72
シートバックテーブル…… 162
シートヒーター…… 185
シートベルト…… 77
アンカーポイント……87
シートベルトの点検方法……86
シートベルト非着用警告灯…… 78, 250
シートベルトプリテンショナー……78
シートベルトリマインダー…… 78
正しい着用法…… 79
妊娠中のかたの着用法…… 80

ス

スイッチ
ENGINE START/STOP スイッチ……106
ウィンカー（方向指示器）……136
エアコン……188
室内灯……155
ステアリングスイッチ……194
スロープライトスイッチ…… 157
デフロスター（くもり止め）……146
パーキングブレーキスイッチ……112, 113
パワーウィンドー……91
パワーウィンドーロックボタン……93
ヘッドライト・車幅灯……136
マップランプ……156
ワイパー・ウォッシャー…… 143
ステアリング…… 64
ステアリングスイッチ…… 194
ステアリングヒーター…… 186
スノータイヤ……290
スピードメーター…… 255
スマートキー…… 48, 308
電池交換方法…… 308
スライドドア…… 97
スライドドアウィンドウサンシェード……164
スロープ…… 170
スロープライトスイッチ……157

セ

セキュリティアラームシステム
イモビライザーシステム……51
セキュリティアラームシステム……52
セキュリティアラームシステム作動表示灯‥ 52
施錠と解錠…… 54
先行車発進お知らせ機能……236
全席シートベルト……262
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯…… 304

ソ

側面方向指示器/側面非常点滅表示灯…… 304
ソナーセンサー…… 197

タ

タイダウンフック……163
タイヤ
指定空気圧…… 353, 355, 357
タイヤの点検……285
タイヤのローテーション…… 291
タイヤパンク応急修理キット……312
冬期のタイヤ……290
パンク……311
タイヤ角度モニター……268
タイヤチェーン…… 290
タコメーター……260
暖房…… 187

チ

チェーン…… 290

チャイルドシート…… 23
ジュニアシート…… 37
取り付けかた…… 31
乳児のチャイルドシート……24
幼児のチャイルドシート……25
チャイルドプルーフ…… 62
駐停車の操作……121

テ

デイタイムランニングライト…… 138
デイタイムランニングライト/車幅灯…… 304
デファレンシャルオイル……353, 355, 357
デフロスター（くもり止め）…… 146
点火プラグ……352, 354, 356
電子制御パーキングブレーキ…… 112
電池交換…… 308
電動ウインチリモコン…… 167
電話…… 261
データの取り扱いについて……4
テールゲート…… 94
開閉方法…… 95
テールゲートが開かないとき……341

ト

ドアの施錠と解錠…… 54
Honda スマートキーを使わない施錠方法… 60
Honda スマートキー…… 54
Honda スマートキーを携帯した施錠/解錠方法
…… 55
キー閉じ込み防止装置…… 60
キーナンバータグ……53
キーレスエントリー…… 54
降車時オートドアロック機能を用いた施錠方法
…… 58
車内の施錠/解錠方法…… 61
衝撃感知ドアロック解除システム…… 62
チャイルドプルーフ…… 62
内蔵キーを使った施錠/解錠…… 59
予約ロック機能…… 59
ドアミラー…… 88
冬期のタイヤ
スノータイヤ……290
タイヤチェーン……290
時計/車両設定…… 266
トラブルサポート……346
トラブルシューティング……328
警告灯が点灯/点滅した…… 331
けん引してもらいたい……337
シフトレバーが動かない…… 328
ジャンプスタートしたい…… 325
パンクした…… 311
ヒューズが切れた…… 336
トランスファーフルード……353, 355, 357
トランスミッション警告灯……252
トランスミッションフルード…… 353, 355, 356
トリップメーター……261
ドリンクホルダー……165

ナ

内蔵キーを使った施錠/解錠……59
ナビゲーション…… 262

ネ

燃料……352, 354, 356
燃料残量警告灯（オレンジ）…… 251

ハ

ハイビーム……138
バッテリー
ジャンプスタート…… 325
容量/タイプ…… 352, 354, 356
発炎筒…… 11, 302
バニティミラー……10
パワーウィンドー…… 91
ロックボタン…… 93
パワースライドドアの開閉…… 99
キーレスエントリーシステムで開閉する… 103
自動開閉と手動開閉の切り換え…… 102
自動で開閉するときの条件…… 99
ドアハンドルで開閉する…… 103
パワースライドドアスイッチで開閉する… 102
パワーモード……106
パワーモードオートオフ機能……106
パワーモード警告ブザー…… 106
パワーモードの切り替え…… 106
パンク……311
番号灯……304

索引

ハンドル……64
パーキングセンサー警告灯……252
パーキングセンサーシステム…… 242
パーキングブレーキ……112

ヒ

非常点滅表示灯（ハザードスイッチ）…… 12
ヒューズ…… 332
　各ヒューズの装備と容量…… 332, 333, 334
　ヒューズの点検と交換……336
標識認識機能……239
標識認識機能表示……256
表示灯
　アイドリングストップシステム表示灯（グリーン）……249
　安全支援情報表示灯（グリーン/グレー）……249, 264
　ECON モード表示灯…… 248
　イモビライザーシステム表示灯……51, 249
　インフォメーション表示灯……248
　オートハイビーム表示灯…… 139, 248
　オートマチックブレーキホールドシステム表示灯…… 117, 248
　オートマチックブレーキホールド表示灯… 248
　急アクセル抑制機能表示灯……211, 248
　クルーズコントロール表示灯（ホワイト/グリーン）…… 228, 248
　シフトインジケーター/M（7速マニュアルシフトモード）表示灯……248
　シフトポジション表示灯…… 110, 248
　車線維持支援システム（LKAS）表示灯（ホワイト/グリーン）…… 195, 249
　渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール（ACC）表示灯（ホワイト/グリーン）……223, 249
　衝突軽減ブレーキ（CMBS）表示灯（グレー）……249, 263
　セキュリティアラームシステム作動表示灯…… 52, 249
　低水温表示灯……249
　ハイビーム表示灯…… 138, 249
　非常点滅表示灯……248
　フォグライト点灯表示灯…… 249
　方向指示器表示灯…… 136, 248
　ライト点灯表示灯…… 136, 248
　路外逸脱抑制機能表示灯（グレー）‥249, 263
表示の切り換えかた……259
ビークルスタビリティアシスト（VSA）…… 151

フ

フォグライト……138, 304
踏み間違い衝突軽減システム…… 207
ブレーキ警告灯（レッド）……250
ブレーキシステム……112
　ABS（アンチロックブレーキシステム）… 117
　エマージェンシーストップシグナル…… 118
　オートマチックブレーキホールド……115
　電子制御パーキングブレーキ……112
　フットブレーキ……112
　ブレーキ警告灯（レッド）……250
　ブレーキシステム警告灯（オレンジ）…… 250
ブレーキシステム警告灯（オレンジ）……250
ブレーキフルード……352, 354, 356
　ブレーキ警告灯（レッド）……250
フロントワイドビューカメラ…… 195
ブースターケーブル……325

ヘ

平均車速…… 261
平均燃費…… 260
ヘッドライト……136, 304
ヘッドライトオートオフ機能…… 138
ヘッドライトレベリングダイヤル…… 139
ヘッドライト・車幅灯…… 136
　ライト点灯表示灯…… 136

ホ

ホイールカバー…… 287
ホイールサイズ…… 353, 355, 357
ホイールナットレンチ（ジャッキハンドル）‥301
ホイールハーフキャップ……289
方向指示器表示灯……136
補給……329
歩行者事故低減ステアリング…… 218
ボンネット内のメンテナンス
　ウィンドウォッシャー液の補給…… 280
　推奨エンジンオイル……278, 353, 355, 357

ボンネット内のメンテナンス項目……275
ボンネットの開閉方法……277
ホーンスイッチ……14

マ

マップランプ……156
窓……91
くもり止め……146
ロックボタン……93
マルチインフォメーションディスプレイ……259
VSA モード設定……265
明るさ設定……265
安全支援情報……263
オーディオ……261
カレンダー……264
経過時間……261
警告メッセージ……268
航続可能距離……260
瞬間燃費……260
シンプル……260
全席シートベルト……262
タイヤ角度モニター……268
タコメーター……260
電話……261
時計/車両設定……266
トリップメーター……261
ナビゲーション……262
表示の切り換えかた……259
平均車速……261
平均燃費……260
メーター表示設定……268
メンテナンス……262
マルチビューカメラシステム……124

ミ

ミラー
オートリトラミラー……88
ドアミラー……88
バニティミラー……10
ルームミラー……88

メ

メンテナンス……262
オイルメンテナンス表示……272
スマートキー……308
タイヤ……285
ボンネット内のメンテナンス……275
メンテナンスに関する注意事項……271
ライト類の点検と整備……304
ワイパー……281
メーター……255
外気温表示……256
渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール（ACC）/車線維持支援システム（LKAS）表示……257
スピードメーター……255
標識認識機能表示……256
メーター表示設定……268

ヨ

予約ロック機能……59

ラ

ライト……136, 155
ライト点灯表示灯……136
ライト類の点検と整備
アクセサリーライト……304
後退灯……304
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯……304
制動灯……304
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯……304
側面方向指示器/側面非常点滅表示灯……304
デイタイムランニングライト/車幅灯……304
ハイマウントストップランプ……304
番号灯……304
尾灯……304
フォグライト……304
ヘッドライト……304
ラジエーター……329
ランプ……155

リ

リアシートリマインダー……76
リアワイドカメラ……123

リザーブタンク…… 329
リムサイズ……353, 355, 357

ル

ルームミラー…… 88

レ

冷却水…… 329, 353, 355, 357
冷房……187

ロ

路外逸脱抑制機能……214
　路外逸脱抑制機能警告灯（オレンジ）…… 253

ワ

ワイパーブレードラバー……281
ワイパー・ウォッシャー
　フロントワイパー・ウォッシャー……143